

# 令和4年度洋野町 海洋教育「ひろの学」 実践記録集



洋野町教育委員会

# 目 次

令和4年度 海洋教育「ひろの学」実践記録集

1 洋野町における海洋教育「ひろの学」について .....	1
・海洋教育「ひろの学」の取組	
・海洋教育「ひろの学」年間実施スケジュール	
2 洋野町立各小中学校海洋教育の位置付け（年間指導計画、全体計画等） および学習指導案等（単元計画及び授業案） .....	13
・洋野町立種市小学校 .....	14
・洋野町立角浜小学校 .....	22
・洋野町立宿戸小学校 .....	37
・洋野町立中野小学校 .....	61
・洋野町立大野小学校 .....	101
・洋野町立林郷小学校 .....	109
・洋野町立帯島小学校 .....	122
・洋野町立向田小学校 .....	132
・洋野町立種市中学校 .....	144
・洋野町立中野中学校 .....	156
・洋野町立大野中学校 .....	183

# **1 洋野町における 海洋教育「ひろの学」に ついて**

# 1 洋野町における海洋教育「ひろの学」について

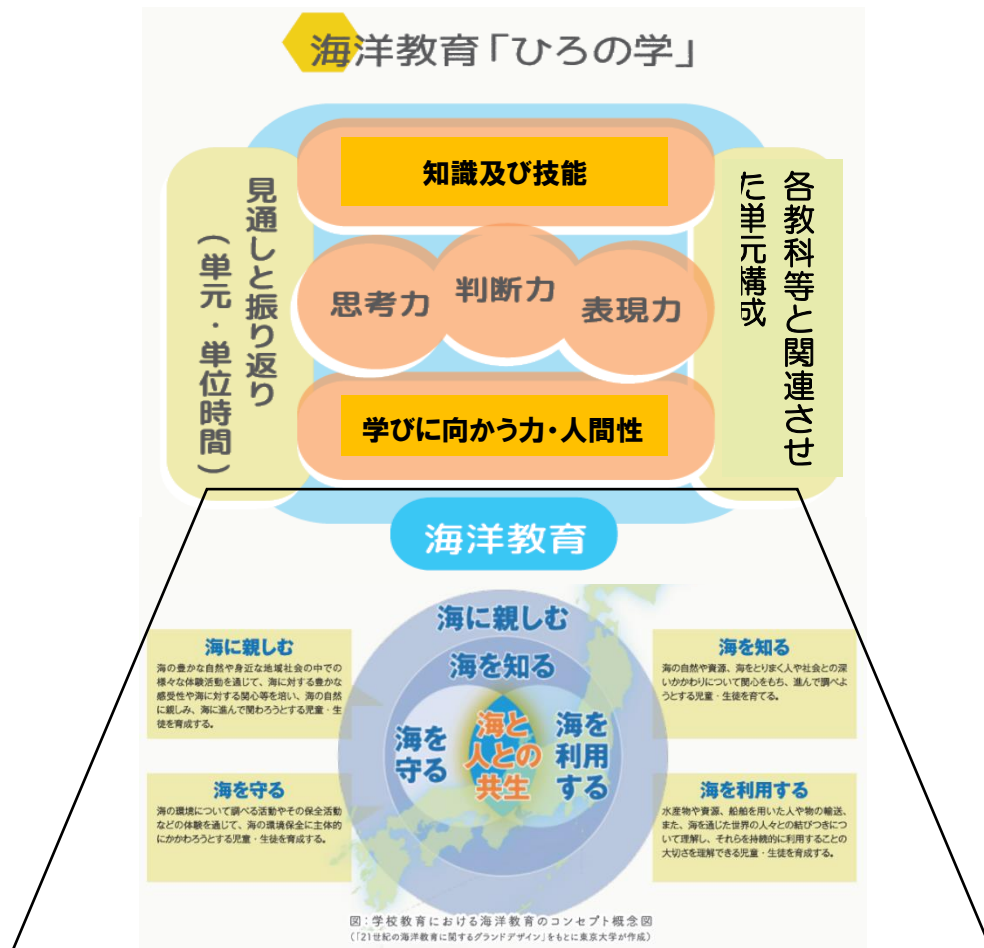
## 「海洋教育『ひろの学』」のめざすところ

「自分たちの生まれ育ってきた地域に愛情と誇りをもち、たくましく生き抜くことができる子どもを育てること」です。

「海洋教育『ひろの学』」はこれまで各学校で行われてきた教育課程を、「海・海洋」を切り口に見直すことから始まります。各教科・領域で「海・海洋」（＝身の回りの出来事）と関連させることで、実生活を意識し、より主体的な学習が期待できます。また、海洋汚染や海洋ごみ、地球温暖化による豪雨災害や海水温の変化、気候変動などの問題を取り上げることを通して、自然とのつながり、人とのつながり、自然と人とのつながりを意識しながら、海と人との共生について考えていくこともできます。

## 「海洋教育『ひろの学』」のめざすところ

海の豊かな自然と親しむ活動や身近な地域社会の中で海とのつながりを感じることができるような体験活動、海や地域について調べる活動、その保全活動などの体験を通して、海や地域に対する関心を高めるとともに、海洋環境、水産資源、船舶運輸など海洋と人間の関係及び海を通じた世界の人々との結び付きについて理解させ、洋野町の海や地域を愛する心情や、社会の形成者としての資質・能力を養う。





### 【洋野町の海洋教育「ひろの学」の目標】

令和2年度より（中学校においては令和3年度より）、学習指導要領が全面実施となることを考慮し、学習指導要領の理念をふまえ、海洋今教育「ひろの学」で育成する資質・能力を次の3つの柱でとらえていきます。

- (1) 知識及び技能 → 「何を理解しているか、何ができるか」
- (2) 思考力、判断力、表現力等 → 「理解していることやできることをどう使うか」
- (3) 学びに向かう力、人間性等 → 「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」

このように、海洋教育「ひろの学」では各学年の目標を3つの柱で整理していきます。小学校は3・4年、5・6年、中学校は1年～3年で共通の目標を設定します。（少額1・2年は、生活科での目標設定）

### 海洋教育「ひろの学」全体目標

海の豊かな自然と親しむ活動や身近な地域社会の中で、海や地域の自然とのつながりを感じるような体験活動、海や地域社会について調べる活動、その保全活動などの体験を通して、海や地域に対する関心を高めるとともに、海洋環境、水産資源、船舶運輸など海洋と人間の関係及び海を通じた世界の人々との結び付きについて理解させ、洋野町の海や地域を愛する心情や、社会の形成者としての資質・能力を養う。

【小学校第1学年及び第2学年】生活科での目標設定をする。

【小学校第3年生及び第4学年】

- (1) 自然環境の状況や自分たちの生活が自然環境に及ぼす影響を理解し、進んで海の自然を守ることができる。
- (2) 海や自分の住んでいる地域に関わる歴史や文化に関心をもち、比較しながら調べることができる。
- (3) 地域の特徴を活かした海の産業や地域と海とのつながりを知ることや生き物の生育環境や海に関わる人々に関心をもち、進んで海に関わることができる。

【小学校第5学年及び第6学年】

- (1) 地球規模の環境問題や国際的な取り組みを調べ、海の環境保全のためにできることを考え、人々の豊かな生活を支えてきた海の様々な役割やきまりを理解する。
- (2) 海の生き物の多様性や生態系、海や地域の歴史や文化に関心をもち、関連付けたり推測したりして調べることができる。
- (3) 海や地域に関わる仕事の体験や施設の見学を通して、海や地域の自然や文化に親しんだり、海や地域に関わる人々の仕事にふれたりして、進んで海に関わることができる。

【中学校】

- (1) 海洋環境を保全し生態系のバランスなどについて考え、直面している危機を回避し、発展させていくために、地域や社会とともに取り組むことができるようにする。
- (2) 海洋生物の形態的、機能的な特徴や海洋の機能と役割、海の歴史や民族に関心をもち、自分なりに分析したり解釈したりして表現することができる。
- (3) 海や地域のもつ魅力を実感するとともに、進んで海や地域に関わることができる。

## 「海洋教育 『ひろの学』」で育成する資質・能力

先述のように、海洋教育「ひろの学」では、育成する資質・能力を（１）知識及び技能、（２）思考力、判断力、表現力等、（３）学びに向かう力、人間性等の、３つの柱で整理していきます。

また、海洋教育「ひろの学」では、教科等を越えたすべての学習の基盤となる資質・能力として、「言葉に力があり伝え合える子ども（言語能力）を育成することを重点において指導をしてきました。

言語能力は、話すこと、聞くこと、読むこと、書くこと、言葉を正しく使うことにとどまらず、論理的な思考・判断・表現、よりよい人間関係を構築するためのコミュニケーション能力、想像力、仲間と励まし合うこと、お互いに高め合うこと、思いをもって自分の考えを発信すること等を包含するものです。

### 「言葉に説得力がある子ども」

- 洋野町の歴史・文化を尊重し、洋野町、岩手の次代を担う人材としての自覚をもつ子ども
- 温かい言葉で心を通い合わせる子ども
- 自分の考えを進んで発信することができる子ども
- 各教科等で身に付けた知識・技能を積極的に活用・応用し、自分たちの生活や生き方を向上させていくことができる子ども
- 友達の考え、思いを肯定的に受け止め、自分の考えを再構築したり、進化させたりし合える子ども
- 聞く・話す・読む・書くができる子ども
- 学習したことを自分の言葉で発信することができる子ども



海洋教育「ひろの学」で言語能力を育成するためには、他教科や領域での言語活動の充実が必要となります。また、海洋教育「ひろの学」で育成された言語能力が、他教科や領域における学習活動を充実させることが期待されます。

### 洋野町の海洋教育「ひろの学」の評価の観点

子どもたちの学びの姿を次の観点で評価していくこととします。（学習評価の在り方ハンドブック参照）

- （１） 海に関する知識・技能 （知識及び技能に関すること）
- （２） 海を通じた思考・判断・表現（思考力・判断力・表現力等に関すること）
- （３） 主体的に学習に向かう態度 （学びに向かう力に関すること）

評価については、子供自身の各資質・能力の伸びについて着目し、記述式で評価をすることとします。なお、評価した内容については、指導要録への記載もしていきます。

### 海洋教育「ひろの学」 4つの視点

海洋教育「ひろの学」の学習活動を進めていく際には、以下の4つの視点を意識していくこととします。この4つの視点は、それぞれが独立したり分断したりするものではなく、相互に関連づいて海や地域社会に対する理解を深めるための視点となります。

海に親しむ	海を知る	海を守る	海を利用する
海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通して、海や地域に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い、海の自然に親しみ、海に進んでかかわる。	海や地域の自然や資源、海や地域をとりまく人や社会との深いかかわりについて関心を持ち、進んで調べようとする。	海や地域の環境について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて、海や地域の環境保全に主体的にかかわろうとする。	水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また、海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解し、自分なりの考えをもつ。

### 海洋教育「ひろの学」 リテラシー

洋野町海洋教育推進委員会では、洋野町課内小・中学校で取り組んできた海洋教育「ひろの学」の実践を集集し、これから先も海洋教育「ひろの学」で大切にしていきたい学習内容を、8つの項目に整理してきました。各学校の海洋教育推進においては、海洋教育ひろの学リテラシーとしてこの8項目の内容に取り組んでいくこととします。(資料 別紙1-②)

## 「海洋教育『ひろの学』」の指導構想

「海洋教育『ひろの学』」の展開にあたって「子どもたちにどんな力を身に付けさせるために、いつ（どの単元で）、どれだけの時数で、何を行うのか」、「その学習を展開することで、子どもたちに力が身についたのか」という指導の構想をもって取り組みます。

「海・海洋」とどのように関連させるかも大事な視点です。

### 単元構想…

- ・学校目標、学年目標とのかかわりは…
- ・単元を通してどんな力を身に付けさせるのか
- ・そのための題材は…
- ・前の学習、その後の学習とのつながりは…

身に付いた  
力は？

どのように

どの単元で

### 手立ては…

- ・導入では見学を…、地域の方のお話を聞かな…
- ・単元の半ばでは発表を位置付けて、
- ・単元の後半では、意見交流と振り返りを
- ・子どもたちの探究の様子はどうか…改善点



小学校・中学校 7 年間（生活科を含めて 9 年間）の探究テーマ 【種市地区】

学 年	探究テーマ	各学校の学習内容
1 年生	【生活科】 海（地域）のすばらしさに気付く	<p>各学校で行われている海洋学習の内容を探究テーマに合わせて位置付ける。 子どもたちの学習の状況に合わせて、柔軟に単元を構成したり、学習活動を位置付けたりする。 海洋科は小学校三年生から六年生は三〇時間（総合的な学習の時間の時数より削減）、中学校は一年生四十時間、二年生四十五時間、三年生四十時間（総合的な学習の時間及び特別活動の時数を削減）とする。</p>
2 年生	海への親しみ ・楽しい海、地域 ・海や地域での遊び	
3 年生 総 30 時間	【海洋科・総合的な学習の時間】 海（地域）のすばらしさと、暮らしとの かかわりに気付く	
4 年生 総 30 時間	海への親しみ ・海や地域にあるもの ・生命尊重	
5 年生 総 30 時間	【海洋科・総合的な学習の時間】 地球規模で海洋環境を考え、実 行しようとする	
6 年生 総 30 時間	海洋生物と環境 ・地域の海や川にすむ 生き物 ・地域の特産	
中 1 年生 総 30 時間 特活 10 時間 計 40 時間	【海洋科・総合的な学習の時間】 発展を目指す洋野町の一員とし て、自己の役割の自覚とよりよ い自己実現を目指し、自立して 生きていこうとする態度を育て る。	
中 2 年生 総 30 時間 特活 15 時間 計 45 時間	水の循環と環境 ・防災 ・安全 ・環境保全	
中 3 年生 総 30 時間 特活 10 時間 計 40 時間	【海洋科・総合的な学習の時間】 発展を目指す洋野町の一員とし て、自己の役割の自覚とよりよ い自己実現を目指し、自立して 生きていこうとする態度を育て る。	
	水産業と環境 ・特産物と水産業 ・洋野町の海洋環境、地 域の環境	
	環境問題と未来 ・環境問題の実態 ・保全の方法 ・自分にできること	
	小学校の学習を基に地 域を考える ・地域の企業 ・自然を活用した様々 な活動	
	洋野町の未来の姿を考え る ・洋野町の課題やよさ ・他地域との比較 ・世界とのつながり	
	自己実現を目指す ・キャリアアップ ・未来の洋野町と自分	

小学校・中学校 7 年間（生活科を含めて 9 年間）の探究テーマ 【大野地区】

学 年	探究テーマ	各学校の学習内容
1 年生	【生活科】 地域（海）のすばらしさに気付く	<p>各学校で行われている海洋学習の内容を探究テーマに合わせて位置付ける。 子どもたちの学習の状況に合わせて、柔軟に単元を構成したり、学習活動を位置付けたりする。 海洋科は小学校三年生から六年生は三〇時間（総合的な学習の時間の時数より削減）、中学校は一年生四十時間、二年生四十五時間、三年生四十時間（総合的な学習の時間及び特別活動の時数を削減）とする。</p>
2 年生	地域（海）への親しみ ・ 楽しい地域 ・ 地域や海での遊び	
3 年生 総 30 時間	【海洋科・総合的な学習の時間】 地域（海）のすばらしさと、暮らしとのかかわりに気付く	
4 年生 総 30 時間	地域（海）への親しみ ・ 自分の住む地域にあるもの ・ 生命尊重	
5 年生 総 30 時間	【海洋科・総合的な学習の時間】 地球規模で海洋環境を考え、実行しようとする	
6 年生 総 30 時間	地域（海）の環境 ・ 地域の特産 ・ 川にすむ生き物	
中 1 年生 総 30 時間 特活 10 時間 計 40 時間	【海洋科・総合的な学習の時間】 発展を目指す洋野町の一員として、自己の役割の自覚とよりよい自己実現を目指し、自立して生きていこうとする態度を育てる。	
中 2 年生 総 30 時間 特活 15 時間 計 45 時間	水の循環と環境 ・ 防災 ・ 安全 ・ 環境保全	
中 3 年生 総 30 時間 特活 10 時間 計 40 時間	水産業と環境 ・ 農林水産業と海洋の関係 ・ 地域の環境、洋野の海洋環境	
	環境問題と未来 ・ 環境問題の実態 ・ 保全の方法 ・ 自分にできること	
	小学校の学習を基に地域を考える ・ 地域の企業 ・ 自然を活用した様々な活動	
	洋野町の未来の姿を考える ・ 洋野町の課題やよさ ・ 他地域との比較 ・ 世界とのつながり	
	自己実現を目指す ・ キャリアアップ ・ 未来の洋野町と自分	

【資料：各教科の学習との関連】

◇小学校◇

学 年	社会	理科
3 年生	・もっとしりたいみんなの町	・春のしぜんにとびだそう ・こん虫を調べよう
4 年生	・地震にそなえる ・水はどこから	・物の体積と温度 ・水のすがたとゆくえ ・物のあたたまり方
5 年生	・私たちの暮らしと国土 ・日本にはなぜ四季があるのか ・水産業に生きる ・水産資源を守るために	・天気の変化 ・魚のたんじょう ・台風と天気の変化 ・物の溶け方 ・流れる水のはたらき
6 年生	・大陸に学んだ国づくり ・幕府の政治と人々の成長 ・近代国家への歩み ・新しい時代の夜明け	・動物のからだのはたらき ・生き物の暮らしと環境 ・大地のつくりと変化 ・人と環境

◇中学校◇

	社会	理科	国語	他教科等
中 1	・世界の姿 ・世界各地の人々の生活と環境 ・日本の姿	・火山の姿 ・地震と災害 ・地層のでき方 ・地層がかかわる災害 ・水中ではたらく力	・話し方はどうか な ・鮮やかに表現する ・質問する ・意見文を書く ・順序立てて説明する ・案内や報告文章を書こう ・グループディスカッション	【英語】 The Wonderful Ocean 【美術】 レシピ本づくり 【家庭科】 レシピづくり 【技術】 パソコン操作
中 2	・世界から見た日本の自然環境 ・日本の諸地域 ・北海道地方	・水の循環 ・脊椎動物の出現と進化 ・天気の変化を予想しよう ・気象災害への備え	・問題意識を持って聞こう ・要約する ・説明する ・レポート ・意見文 ・プレゼンテーション ・話合い	【技術】 パソコン操作 【家庭科】 地域の恵みを使った調理実習 【家庭科】 接続可能な社会を考える。
中 3	・現代の日本と世界 ・私たちの暮らしと経済 ・地球社会と私たち	・水溶液とイオン ・炭素の循環 ・自然環境の調査と環境保全 ・地球と私たちの未来のために ・自然の恵みと災害 ・接続可能な社会をつくるために	・評価しながら機構 ・絶滅の意味 ・素材を生かして表現する ・説明する ・条件スピーチ ・メディアと東日本大震災	【技術】 パソコン操作 【家庭科】 地域貢献活動 【家庭科】 保険体験学習 【英語】 Clean Energy Sources

## 参考資料

# 令和3年度 海洋教育副読本編集方針

海洋教育副読本編集委員会では、これまでの経緯を踏まえつつ、海洋教育副読本作成方針について、以下のように検討しました。

## 1 編集方針

- (1) 洋野町の海洋教育副読本の編集・作成をする。
- (2) 洋野町の海洋教育全体を示すものとなる海洋教育副読本を作成する。
- (3) 副読本を使って海洋教育「ひろの学」の学習活動を充実させたり、副読本を通して町内の海洋教育の様子について知ったりすることができる資料になるように編集する。
- (4) 指導する先生が、より使いやすいような構成や内容にする。
- (5) 児童生徒にとって、わかりやすい副読本となるよう、児童生徒の視点に立った表現にする。

## 2 編集の視点

- (1) 問題解決的な学習の流れとなるよう、構成を検討する。

◇合本形式で構成する。

- ・「海洋教育ひろの学リテラシー」に応じてテーマごとにページを作成する。
- ・合本にすることで、海洋教育の全体像を理解できるようにする。

### ① 全体の流れ（1つの話題について）

- 内容を象徴するタイトル→
- 概要（3文～4文で）→
- 資料や体験、情報などを項目ごとに→
- 学習の観点を示す「調べてみよう・考えてみよう」  
（見開き、あるいは1ページで完結するように）

- (2) どの学年でも使うことができるように配慮する。

### ① 平易な表現※児童が自力で読んである程度意味がつかめるように。

### ② ルビ

### ③ グラフ表現の吟味

### ④ 育てたい三つの資質・能力を意識した構成

（児童生徒の表現した例や、考えを書き込めるスペースを設けるなど）

※三つの資質・能力をそれぞれ分離して編集していくことは不可能なので、あくまでも意識してページを作成していく。

- (3) 写真や資料をできるだけ最新のものにする。

### ① 写真にはできるだけ人を掲載する

### ② 資料のねらいをより明らかに

- (4) テーマに基づいた内容を掲載する

例 自然の恵み（サケ、ウニ、ホヤ）

※海洋教育ひろの学リテラシーと海洋教育副読本のページ構成（案）



海洋教育ひろの学リテラシー	副読本として扱いたい内容	各校から提出いただいている資料	key word
洋野の海が生み出す生命	海の生態系、海の生き物、微生物	海となかよし（角浜小） 海の生き物図鑑作り（中野小）	つ二 サケ ホヤ 森林
洋野の海が作り出す大地	海成段丘、ジオパーク	酪農がさかんな大野地区（帯島小）	海成段丘 沿岸部 内陸部 天文台
洋野の海と森の循環	海と森とのつながり、水の循環	バックテストによる川の水質調査（帯島小） 森は巡る（委員会）	植樹活動 サケ放流 バックテスト 森は巡る
洋野の海と気候	気候変動、熱対流	酪農がさかんな大野地区（帯島小）	やませ 潮目 海流
洋野の海と防災	津波、高潮のメカニズム	安心して海とくらそう（中野小）	大野の気候 津波避難訓練 防災タワー 海成段丘
洋野の海と歴史、伝統芸能	海とともに生まれてきた文化	ふるさと大野大発見（大野小）	海鳴り太鼓 たどたど
洋野の自然と結びつく産業	海や自然を生かした産業	ウニの牧場 増殖溝（委員会） 洋野町の海に広がる「増殖溝」（角浜小） 地域の産業を知る（種市中） 地域の良さを知り・伝える（種市中） おかえりなさい、また来てね！（中野小）	つ二牧場 サケ加工 大野木工 大野キャンパス
洋野の海と未来	海洋ごみ、海洋汚染、水産資源	角浜地域で長くから続く「磯そうじ」（角浜小） 考えよう！洋野の海と未来のこと（委員会）	海岸清掃 子供サミット 全国サミット

### 3 編集の方法

- (1) 写真には必ず説明を入れる。
- (2) 見開き、1 ページで内容が完結するようにする。
- (3) 内容を一文で示す。（話題の提示）
- (4) 写真は各校で実践したものを使用する。
- (5) イラスト等は、印刷会社委託。趣旨やイメージをメモする。

海洋教育ひろの学リテラシーと海洋教育副読本観点について・・・資料 別紙1-①

### 令和4年度海洋教育推進重点事項

- (1) 大野小、林郷小、帯島小、大野中の教育課程特例校制度承認により、全町体制で推進
- (2) 副読本完成、配布により、各学校での活用推進、活用事例の収集・整理
- (3) 各中学校区での年間指導計画の検証（9年間を見通したストーリーマップの作製・改善）
- (4) 新学習指導要領の理念に基づいた評価計画の改善

## 令和4年度 洋野町海洋教育「ひろの学」年間スケジュール

### 1 洋野町海洋教育事業

#### (1) 第1回海洋教育推進委員会

- ① 日 時 令和4年5月12日(木)
- ② 場 所 種市庁舎
- ③ 内 容 令和4年度洋野町海洋教育の取組について、副読本配布
- ④ 参加者 各校海洋教育推進委員(1名悉皆)

#### (2) 海洋教育事業「海はともだち」

- ① 日 時 令和4年7月28日(木)
- ② 場 所 洋野町沿岸部、洋野町民文化会館セシリアホール
- ③ 内 容 磯遊び、種市高校実習船乗船体験、講演
- ④ 対 象 洋野町内希望児童及び引率教員

#### (3) 第2回海洋教育推進委員会

- ① 日 時 令和4年10月11日(月)
- ② 場 所 洋野町種市庁舎
- ③ 内 容 教育課程特例校制度、海洋教育海洋教育こどもサミット in 東北等について
- ④ 参加者 各校海洋教育推進委員(1名悉皆)

#### (4) 第10回海洋教育こどもサミット in 東北

- ① 日 時 令和4年11月25日(金)
- ② 場 所 未定
- ③ 内 容 各校の研究成果の発表
- ④ 参加者 各校発表児童生徒

#### (5) 第10回全国海洋教育サミット

- ① 日 時 令和5年2月11日(祝・土)
- ② 場 所 未定
- ③ 内 容 海洋教育成果発表、全国海洋教育実践校との交流
- ④ 参加者 希望校児童生徒(洋野町立中野中学校)

#### (6) 第3回海洋教育推進委員会

- ① 日 時 令和5年2月27日(月)
- ② 場 所 種市庁舎
- ③ 内 容 各校の実践交流、次年度の事業計画についてについて
- ④ 参加者 各校海洋教育推進委員(1名悉皆)

## **2 洋野町立各小中学校の 海洋教育の位置付け および学習指導案等**

- ・洋野町立種市小学校
- ・洋野町立角浜小学校
- ・洋野町立宿戸小学校
- ・洋野町立中野小学校
- ・洋野町立大野小学校
- ・洋野町立林郷小学校
- ・洋野町立帯島小学校
- ・洋野町立向田小学校
- ・洋野町立種市中学校
- ・洋野町立中野中学校
- ・洋野町立大野中学校

# 洋野町立種市小学校

## 令和4年度「ひろの学」(海洋教育)指導計画

### 1 目標

「いわての復興教育 生きる かかわる そなえる」の理念を根底に、海に生き、海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に、「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の4つの観点で目を向け、自分たちの生まれ育ってきた地域に喜びと誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもをはぐくむ。

### 2 重点

- (1) これまでの生活科、総合的な学習の時間を中心に、教育課程を見直し、指導の充実に努める。
- (2) 復興教育の理念をさらに発展させ、海洋教育の推進に努める。
- (3) キャリア教育、環境教育、ボランティア教育のねらいと関連付け、計画を統合していく。

### 3 内容

- (1) 各教科・領域
  - ・海洋教育に関わる単元のねらいを確認する。
- (2) 特別の教科 道徳
  - ・指導項目(郷土愛,自然愛護,生命尊重)との関わりを確認する。
- (3) 特別活動
  - ・学校行事(海浜清掃、防災訓練)、児童会活動(ボランティア活動)、学級活動(自然愛護,生命尊重等)で児童の主体的な活動を仕組んでいく。

### 4 計画

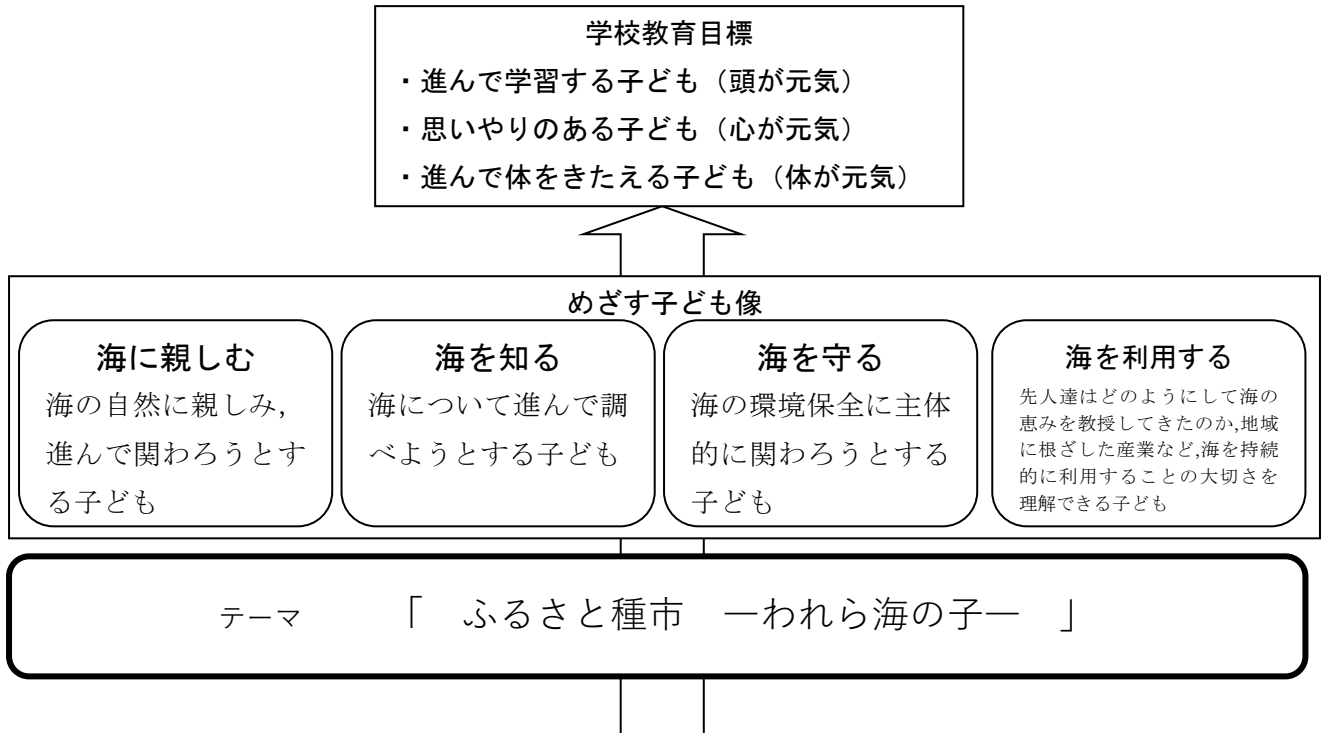
テーマ「ふるさと種市～われら海の子～」

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・磯遊び</li> <li>・海浜清掃</li> <li>・磯遊びで見つけたものを描こう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・磯遊び</li> <li>・海浜清掃</li> <li>・磯遊びで見つけたものを描こう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種市の海辺の探検をしよう</li> <li>・磯遊び</li> <li>・種市の海の生き物を調べよう</li> <li>・海の生き物図鑑を作ろう</li> <li>・種市の名物じまん</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海浜清掃</li> <li>・漂着ごみ調査</li> <li>・水生生物調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海浜清掃</li> <li>・海洋施設の見学</li> <li>・水質調査</li> <li>・森と海つながり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海浜清掃</li> <li>・環境問題について調べる</li> <li>・海洋学習についてまとめる</li> <li>・発信(海洋サミット)</li> </ul>

### 5 その他(留意点等)

- (1) 令和4年度「海洋教育子どもサミット」への参加体制を整えていく。
  - ①課題解決学習と発信・発表活動を計画的に仕組んでいく。
  - ②コミュニケーション能力の育成をめざし、様々な学習活動を仕組む。
  - ③学習環境整備にあたっては、洋野町教育委員会や東大海洋アライアンスの協力を積極的に仰ぐ。

## 「ひろの学」全体構想図



	海に親しむ	海を知る	海を守る	海を利用する
1年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・磯遊び</li> <li>・磯遊びで見つけたものを描こう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・磯遊び</li> <li>・磯遊びで見つけたものを描こう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋環境紙芝居</li> </ul>	
2年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・磯遊び</li> <li>・磯遊びで見つけたものを描こう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・磯遊び</li> <li>・磯遊びで見つけたものを描こう</li> </ul>		
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海辺の探検</li> <li>・磯遊び</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・磯遊び</li> <li>・生き物図鑑</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・名物じまん</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海浜清掃</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水生生物調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漂着ゴミ問題</li> <li>・水生生物調査</li> </ul>	
5年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海浜清掃</li> <li>・海洋施設見学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋施設の見学</li> <li>・水質調査</li> <li>・森と海のつながり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海浜清掃</li> <li>・水質調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋施設の見学</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海浜清掃</li> </ul>		<p>海を取り巻く環境問題の調査</p>	

**1 全学年共通目標**

「いわての復興教育 いきる かかわる そなえる」の理念を根底にしながら、海に生き、海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の4つの観点で目を向け「ひろの学」として統合することで、自分たちの生まれ育ってきた地域に誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育む。

**2 重点目標**

「たねいちのたからもの」をテーマに身近な地域の自然、社会、文化の様子やそこに住む人々の良さを知る。

学期	1 学 期				2 学 期			3 学 期			備考	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1		2
単元名	<p>「ふるさと種市—われら海の子—」 学年テーマ「ぼくらは種市たんけんたい」 (30時間)</p>											
親しむ	<p>・ 種市の海を見学する予定を立てる</p> <p>・ 海を散策し、海の様子を知る</p>											
知る	<p>・ 散策を振り返り、見つけたものを全体で共有する</p>											
守る	<p>・ 浜の生き物を紹介する。</p>											
活用する	<p>・ 図鑑を作る計画を立てる。</p> <p>・ 地域にある浜などで生き物を探す。(磯遊び・漁協・栽培センター・産直など)</p> <p>・ 調べたことを整理し、図鑑にまとめる。</p> <p>・ 海の名物じまん(発表会)をする。</p> <p>・ 学習をふりかえる。</p>											
オリエンテーション(1)	<p>・ 学習の計画を立てる。</p> <p>・ 種市の海の名物について調べる。(取材・GTによる出前授業等)</p> <p>・ 調べたことを整理し、話し合っ決定した方法でまとめる。</p> <p>・ 1年間の学習をまとめよう(1)</p> <p>・ 学習したことをふりかえり、思いや願い・新たな問い・生かしたことなどについてまとめ、発表し合い、次年度以降の活動に生かす。</p>											

**1 全学年共通目標**

「いわての復興教育 いきる かかわる そなえる」の理念を根底にしながら、海に生き、海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の4つの観点で目を向け「ひろの学」として統合することで、自分たちの生まれ育ってきた地域に誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育む。

**2 重点目標**

「すみよい町 種市」をテーマに自分たちができる町づくりについて考える。

学期	1 学 期				2 学 期			3 学 期			備考	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1		2
単元名	「ふるさと種市—われら海の子—」 学年テーマ「すみよい町 種市」 (30時間)											
親しむ	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>①すみよいまち 種市の海</b> (11)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海にあるごみの種類や量について課題を持ち、学習計画を立てる。</li> <li>・海浜清掃を行う。</li> </ul> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>②すみよいまち 種市の川</b> (11)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浄水場の見学を通し、川の環境について課題をもつ。</li> <li>・水生生物調査の計画を立てる。</li> </ul> </div> </div>											
知る												
守る												
活用する												
オリエンテーション (1)												
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>①すみよいまち 種市の海</b> (11)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漂着ゴミ調査を行う。</li> <li>・調査結果を分析する。</li> <li>・海のゴミの種類や量についてまとめ、相手意識をもって表現する。</li> <li>・課題に対する思いや願い、実行可能な行動について交流し、自分の考えを広げる。</li> </ul> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>②すみよいまち 種市の川</b> (11)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水生生物調査を行う。</li> <li>・見つけた生き物についてまとめ、相手意識をもって表現する。</li> <li>・課題に対する思いや願い、実行可能な行動について交流し、自分の考えを広げる。</li> </ul> </div> </div>											
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>1年間の学習をまとめよう (7)</b></p> <p style="font-size: small;">・学習したことをふりかえり、まとめる。思いや願い・新たな問い・生かしたことなどについてまとめ、どのような町にしていきたいか、発表し合い、次年度以降の活動に生かす。</p> </div> </div>											



**1 全学年共通目標**

「いわての復興教育 いきる かかわる そなえる」の理念を根底にしながら、海に生き、海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の4つの観点で目を向け「ひろの学」として統合することで、自分たちの生まれ育ってきた地域に誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育む。

**2 重点目標**

「森と海の恵み」をテーマに、地形、気候等の自然環境との関りで海を捉えななおし、洋野町の種市地域（海側）と大野地域（山側）をつながりとして学習する。

学期	1 学期				2 学期			3 学期			備考	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1		2
<b>「ふるさと種市—われら海の子—」 学年テーマ「森と海の恵み」 (30時間)</b>												
単元名	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 10%; background-color: yellow; padding: 5px;">                     ・海洋学習について知る <b>オリエンテーション (1)</b> </div> <div style="width: 20%; background-color: #fce4ec; padding: 5px;"> <b>①種市の海について調べよう (12)</b>                      ・学習計画を立てる。                      ・種市の海の環境とウニを育てる環境・施設について学習していくことを確かめる。                      ・海浜清掃を行い、種市の海の環境について知る。                      ・増殖溝とウニ栽培センターの見学を行う。                      ・学習したことをまとめ、ふりかえりを行う。                 </div> <div style="width: 20%; background-color: #fce4ec; padding: 5px;"> <b>②種市の川について調べよう (10)</b>                      ・水生生物の調査結果から、川の水質について興味をもち、課題解決の方法を考える。                      ・水質や周りの環境について調べる。(パックテスト)                      ・川的环境状況をまとめ、相手意識をもって表現する。                      ・課題に対する思いや願い、実行可能な行動について交流し、自分の考えを広げる。                 </div> <div style="width: 20%; background-color: #fce4ec; padding: 5px;"> <b>③種市の森について調べよう (6)</b>                      ・種市の海と川の実態を確かめる。また、海産物が豊富なのは、山からの水が豊かであるからではないかと考え、問いをもち、解決の方法を考える。                      ・森からの栄養のある水が、海産物にとってよい環境をつくることを知る。(You Tube「森は海の恋人」・阿部台長さん等)                      ・学習したことをまとめ、ふり返る。                 </div> <div style="width: 10%; background-color: #fce4ec; padding: 5px;">                     ・学習したことをふりかえり、思いや願い・新たな問い・生かしたことなどについてまとめ、発表し合い、次年度以降の活動に生かす。  <b>1年間の学習をまとめよう (1)</b> </div> </div>											
親しむ												
知る												
守る												
活用する												

**1 全学年共通目標**

「いわての復興教育 いきる かかわる そなえる」の理念を根底にしながら、海に生き、海とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の4つの観点で目を向け「ひろの学」として統合することで、自分たちの生まれ育ってきた地域に誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育む。

**2 重点目標**

「ふるさと種市 再発見」をテーマに、これまでの学習をふまえ、ふるさと種市を見つめ直す学習をするとともに、学習のまとめとして自分ができる活動を計画・実践する。

学期	1 学 期				2 学 期			3 学 期			備考		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1		2	3
単元名	<b>「ふるさと種市 —われら海の子—」 学年テーマ 「ふるさと種市 再発見」 (30時間)</b>												
親しむ	・海洋学習について知る <b>オリエンテーション (1)</b>	<b>①環境について見直そう (9)</b> ・学習計画を立てる ・磯掃除をし、種市の浜について見直す ・地球規模で海洋の環境問題について調べる ・調べて分かったことをまとめ、ふり返る (海洋サミット参加を意識して)				<b>②海洋学習についてまとめよう (19)</b> ・学習したことをまとめ、深める。(再調査・インタビュー) ・発信準備、海の旗づくり ・海洋サミット参加 ・学習のふりかえりを行う。				<b>1年間の学習をまとめよう (1)</b> ・学習したことをふりかえり、思いや願い・新たな問い・新たな問い・生かしたことなどについてまとめ、発表し合い、次年度以降の活動に生かす。			
知る													
守る													
活用する													

# 「海洋科（ひろの学）」の評価（3～6年）

## 目標

海の豊かな自然と親しむ活動や身近な地域社会の中で海とのつながりを感じることができるような体験活動、海や地域について調べる活動、その保全活動などの体験を通して、海や地域に対する関心を高めるとともに、海洋環境、水産資源、船舶運輸など海洋と人間の関係及び海を通じた世界の人々との結び付きについて理解させ、社会の形成者としての資質・能力を養う。

## 【海洋教育「ひろの学」 4つの視点】

海に親しむ	海を知る	海を守る	海を利用する
海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通して、海や地域に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い、海の自然に親しみ、海に進んでかかわる。	海や地域の自然や資源、海や地域をとりまく人や社会との深いかかわりについて関心をもち、進んで調べようとする。	海や地域の環境について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて、海や地域の環境保全に主体的にかかわろうとする。	水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また、海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解し、自分なりの考えをもつ。

## 【育成を目指す資質・能力】

学年	探求課題	知識・技能	思考・判断・表現				学びに向かう力・人間性
			課題設定	情報収集	整理・分析	まとめ・表現	
3・4年	自然環境と防災	地域には豊かな自然環境があることや自分たちの生活と大きく関わっていることに気づく。	身近な地域の環境や防災に関して、問いをもち解決方法を考える。	既習の方法を生かして、自分の知りたい情報を収集する。	情報を整理・分析して自分の考えをもつ。	目的や相手に応じて分かりやすく表現する。	主体的・協働的に学ぶ。地域に愛情と誇りをもつ
5・6年	ふるさと種市	身近な自然環境や地球規模で起きている環境問題について理解し、持続可能な開発と自分たちの生き方との関わりにつづいていく。	自然環境のつながりや環境保全、未来の町づくりに関して問いをもち、解決方法の見通しをもつ。	適切な方法を考え調査し、得た情報の中から必要なものを取捨選択する。	情報を整理・分析して必要な情報を選びながら自分の考えをもつとともに、実行可能な方法を考える。	目的や相手に応じて、調査・分析をもとにした根拠をもち、自分の考えが伝わるように表現する。	主体的・協働的に学ぶ。未来の種市や地球のために、自分たちができることや地域に広めていきたいことを考えたり実際に行動したりする。

## 【単元計画（4つの視点：海に親しむ・海を知る・海を守る・海を利用する）】

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
視点	海に親しむ 海を知る	海に親しむ 海を知る	海に親しむ 海を知る	海を知る 海を守る	海を知る 海を守る	海を守る 海を利用する
単元名	磯遊び 環境紙芝居	磯遊び 海の絵	○ぼくらは種市たんけんたい ・磯遊び ・海の生物図鑑 ・海の絵をかこう	○私たちの海 ・海浜清掃 ・漂着ごみ調査 ・海洋環境教室 ○すみよい町種市 ・防災マップで調べよう ・津波防災教室	○種市の森と海 ・海浜清掃 ・水生生物調査（水質調査） （植林体験） ・海、山、川のがつながり	○ふるさと種市再発見 ・環境について見直そう ○海洋サミットに参加しよう ・未来の町づくり ・環境によい生活

## 【指導方法】

指導方法	指導体制
○体験的活動の重視	○担当者や学年会における連絡調整と支援体制の確立 ○地域の関係機関、保護者・地域の方との連携（地域CO）
評価計画	
○観点別学習状況を把握するための評価 〈評価の観点〉 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に取り組む態度	
○作成資料・ノートを活用した評価 ○年間指導計画の改善と実施	
家庭・地域との連携	
○海洋関係施設への見学等の要請	○地域の方や団体への協力要請
○体験活動や移動の際の保護者の協力	○教育委員会、その他専門の知識をもつ方の授業援助
教科との関連	
○海と関わる学習内容、技能を横断的総合的に関連させていく〈カリキュラムマネジメント〉	

# 洋野町立角浜小学校

日本国憲法  
教育基本法  
学校教育法  
学習指導要領  
岩手県教育指導指針  
洋野町学校教育目標

【児童の実態】  
○明るく素直な児童が多く、物事に対して真面目に取り組む  
○地域を素材とした体験活動には興味をもって取り組む  
○少人数のため、学年を超えてお互いをよく知る  
●自分の思いを表現することを苦手としている  
●自分で決定することや判断することを苦手としている

【本校の教育目標】  
心豊かにたくましく生きる子どもの育成  
徳：心豊かで思いやりのある子  
知：進んで学び考える子  
体：健康でたくましい子

【校訓】**地域即学校 大人即教師**  
・地域との連携を保ちながら子ども達の人格形成に努める

【地域の実態】  
○三世同居の割合が高い  
○地域としてのつながりや連携性が高い  
○学校教育に対する理解があり、協力的である  
○地理的環境や指導者となる人材が豊富である

【地域との連携】  
○地域住民及び関係機関の協力による体験活動の実施

【保護者・地域の願い】  
○思いやりのある人間関係をつくる  
○基礎的・基本的な知識及び技能の定着  
○思考力、判断力、表現力の育成  
○健康で安全な生活  
○豊かな人間性を身に付けている  
・豊かな体験を通して、郷土を愛する心を持つ  
・自分たちの地域や文化、歴史等に誇りをもつ  
・地域と積極的に関わり、行事等にすすんで参加する

【海洋教育「ひろの学」目標】  
海の豊かな自然と親しむ活動や、身近な地域社会の中で海とのつながりを感じ取れるような体験活動、海について調べる活動、その保全活動等の体験を通して、海に対する豊かな感受性を培い海に対する関心を高めるとともに、海洋環境、水産資源、船舶運輸など海洋と人間の関係及び海を通じた世界の人々との結びつきについて理解させ、持続可能な社会の形成者としての資質、能力、態度を養う。

海洋教育「ひろの学」で目指す子どもの姿  
○洋野町の歴史・文化・自然環境をよく理解し、尊重できる子ども  
【知識及び技能】  
○洋野町について学んだことや考えたことを伝え合える子ども  
【思考力、判断力、表現力等】  
○次代を担う人材としての自覚をもち、洋野の学習材に主体的に関わろうとする子ども  
【学びに向かう力、人間性等】

目標	知識・技能	思考力 判断力 表現力等	学びに向かう力 人間性等
低学年 (1・2年)	探究的な学習の過程において、角浜地区について興味関心をもち、角浜地区にある自然や社会、人々と触れ合いから、大切な情報に気付くなど、探究の過程に応じた技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解することができる。	角浜地区にある自然や社会、人々の生き方の中から自己の課題(問い)を見出し、その追求過程において、自分に必要な情報を収集選択し、自分の思いや考えを絵や文章でまとめ・表現することができる。	地域の方々とふれあう楽しさや地域を見直し大切にしていこうとする気持ち高め、自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を育てる。
中学年 (3・4年)	探究的な学習の過程において、自己の課題の解決に必要な角浜地区にある自然や社会、人々の工夫や努力を理解しながら、情報を比較・分類するなど、探究の過程に応じた技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解することができる。	角浜地区にある自然や社会、人々の生き方の中から自己の課題(問い)を見出し、その追求過程において、自分に必要な情報を収集選択し、集めた情報の事実や関係を、事象を比較したり分類したり、数量などで客観的に比較したりして問題状況における特徴を見付け、まとめ・表現することができる。	地域の方々とふれあう楽しさや地域の環境を見直し大切にしていこうとする気持ち高め、角浜地区が人々の努力や工夫によって支えられていることに気付きながら、自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を育てる。
高学年 (5・6年)	角浜の産業の良さや課題、地域の願い、自分たちの生活との関わりを理解しながら、情報を比較、分類する・関連付けする、多面的・多角的にみるなど、探究の過程に応じた技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解することができる。	角浜地区の人々の「思い」をふまえて自己の課題(問い)を見出し、見通しを持った追求過程において、目的に応じて手段や情報を収集選択し、集めた情報の視点を明確にして整理し、問題状況と事実を関連付けたり、多面的に考察したりして情報の中にある特徴を見付け、相手や目的、意図に応じ、まとめ・表現することができる。	地域の方々とふれあう楽しさや地域の環境を見直し大切にしていこうとする気持ち高め、角浜地区が人々の努力や工夫によって支えられていることに気付きながら、自ら進んで地域社会に関わり、自分と実生活・実社会の問題の解決に取り組もうとする態度を育てる。

<<目標を実現するにふさわしい探究課題と探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については、総合的な学習の時間の全体計画に準ずる>>

学年	教科・領域/ねらい	大単元名	学習テーマ	視点	内容 <<今年度までの実績>>	共通
1年	【生活科】	海と仲よし ～角浜の よさを伝えよう～	海への親しみ ・楽しい海、地域 ・海や地域での遊び	親しむ 知る	・磯遊び ・海の生き物と触れ合う ・海の作品作り	校内 海洋 発表会 (7月) (2月)
2年	海のすばらしさに 気づく		海への親しみ ・海や地域にあるもの ・生命尊重	親しむ 知る	・絵や文章でまとめる ・海産物販売商店見学 ・気になることを調べる	
3年 30h	【ひろの学】 【海洋科】	角浜調査隊 ～角浜に ついて知ろう～	海洋生物と環境 ・地域の海や川にすむ生き物 ・地域の特産	親しむ 知る	・防災(避難所)について知る。・小子内漁港散策 ・エモーション活動 ・海岸マップ ・角浜を探索する。(生物調査・景観)	
4年 30h	海のすばらしさと暮らし とのかかわりに気づく		水の循環と環境 ・防災 ・安全 ・環境保全	知る 守る	・角浜の文献等を調べる ・課題探究活動	
5年 30h	【ひろの学】 【海洋科】	ふるさと角浜 ～角浜の未来に ついて考えよう～	水産業と環境 ・特産物と水産業 ・洋野町の海洋環境 ・地域の環境	知る 守る	・地域の未来について考える ・南部潜り見学 ・小子内漁港散策 ・増殖溝見学 ・ウニ栽培センター見学 ・乗船体験 ・北三陸ファクトリー見学	
6年 30h	地球規模で海洋環境を考 え、実行しようとする		環境問題と未来 ・環境問題の実際 ・保全の方法 ・自分にできること	知る 守る	・角浜の文献等を調べる ・課題研究活動 ※□は個人・グループによる探究的学習	
海洋教育 ひろの学 4つの視点	海に「親しむ」 海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通して、海や地域に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い、海の自然に親しみ、海に進んでかわる。	海を「知る」 海や地域の自然や資源、海や地域をとりまく人や社会との深いかかわりについて関心をもち、進んでしらべようとする。	海を「守る」 海や地域の環境について調べる活動やその保全活動の体験を通じて、海や地域の環境保全に主体的にかかわろうとする。	海を「利用する」 水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解し、自分なりの考えをもつ。		

【学習活動】  
・地域の実態、児童の実態を踏まえ、探究課題を設定する。  
・地域の自然や社会、人々の生き方を生かした学習活動を行う。  
・学習成果を全校や地域に表現する場を設定する。  
・地域学習の取り組みを基本とする。  
※情報活用に関わる活動は主に総合的な学習の時間で行う。

【指導方法】  
・児童の課題意識を連続、発展させる支援と工夫を行う。  
・個に応じた指導の工夫を行う。  
・体験活動を重視する。  
・各教科等との関連を重視した指導を行う。  
・言語により整理、分析したり、まとめ、表現したりする学習を重視する。  
・協働的な学習を充実させるため、思考ツールを積極的に活用する。

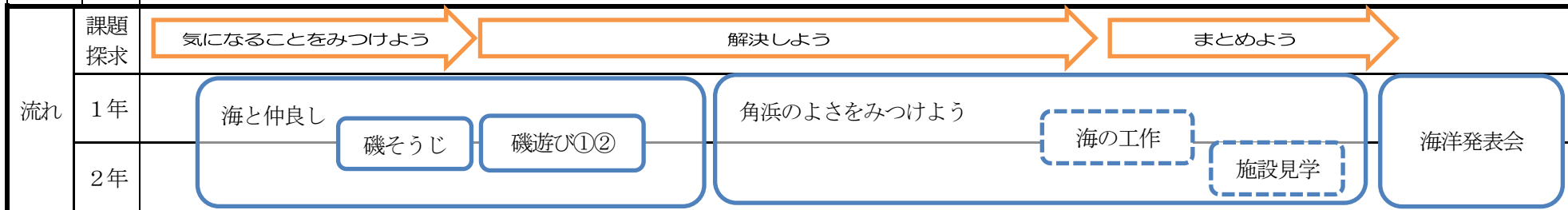
【指導体制】  
・全校指導体制を組織する。  
・校内の連絡調整と指導体制を確立する。  
・メディアセンターとしての余裕教室及び学校図書館の整備・充実を図る。  
・地域の教育資源をデータ化するとともに、日常的な関わりを行う。  
・海洋教育パイオニアスクールプログラムの講師派遣等を利用し、専門的な知識を得る機会の充実を図る。  
・地域人材の活用を行う。

【学習評価】 ※別紙詳細  
・ポートフォリオを活用した評価の充実を図る。  
・観点別学習状況を把握するための評価規準を設定する。  
・個人内評価、パフォーマンス評価を重視するため基準となる可視化された課題を設定する。  
・指導と評価の一体化を充実する。  
・期末、学年末には指導計画を評価・改善し、次年度の計画に生かす。



大単元名	角海と仲よし ～角浜のよさを伝えよう～				
学年 目標	(1) 探究的な学習の過程において、角浜地区について興味関心を持ち、角浜地区にある自然や社会、人々と触れ合いから、大切な情報に気付くなど、探究の過程に応じた技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解することができる。 (2) 角浜地区にある自然や社会、人々の生き方の中から自己の課題（問い）を見出し、その追究過程において、自分に必要な情報を収集選択し、自分の思いや考えを絵や文章でまとめ・表現することができる。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組む中で、地域の方々とふれあう楽しさや地域を見直し大切にしていこうとする気持ち高め、自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を育てる。				
学習 テーマ	1年 [海への親しみ]	・楽しい海、地域	・海や地域での遊び	ねらい	海(角浜地域)のすばらしさに気づく
	2年 [海への親しみ]	・海や地域にあるもの	・生命尊重		

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
角浜の自然	畑作業【通年】		磯掃除【行事】		海の絵を描こう						
地域の伝統	駒踊り				角小まつり					駒踊り	
生活科 関連	1年	学校大好き きれいにさいてね 夏だ遊ぼう 生き物となかよし 楽しい秋いっぱい 作ろう遊ぼう 自分でできるよ 冬を楽しもう もうすぐ2年生									
	2年	春だ今日から2年生 大きくなあれわたしの野菜 どきどきわくわく町探検 生き物なかよし大作戦 うごくうごくわたしのおもちゃ みんなでつかう町の施設 もっとなかよしまちたんけん 伝わる広がるわたしの生活 あしたへジャンプ									



計画 (実施内容)	夏だ 海であそぼう	つくろうあそぼう 海のたからで
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海で遊ぶ計画を立てる。</li> <li>・海で遊ぶ。</li> <li>・活動を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海のたからものを使ってどんなおもちゃができそうか考える</li> <li>・集めた自然物を使っておもちゃ作りをする。</li> <li>・作ったおもちゃの遊び方を工夫する。</li> <li>・おもちゃ大会をする。</li> <li>・活動を振り返る。</li> </ul> ※海に関わる人・もの・こと

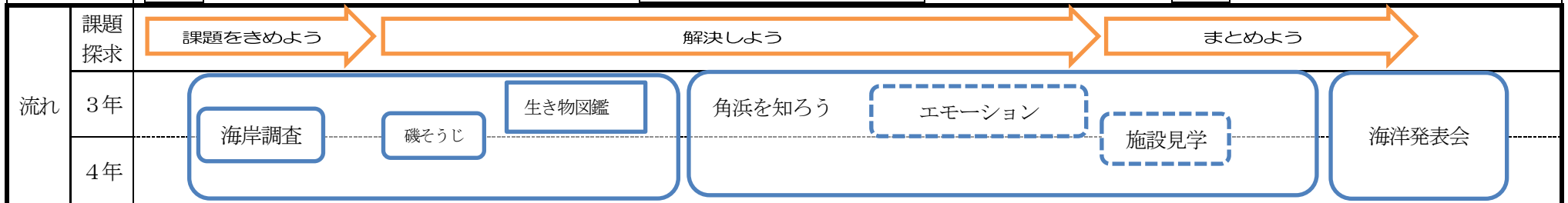
関連教科	
------	--

大単元名	角海と仲よし ～角浜のよさを伝えよう～			
学年 目標	(1) 探究的な学習の過程において、角浜地区について興味関心を持ち、角浜地区にある自然や社会、人々と触れ合いから、大切な情報に気付くなど、探究の過程に応じた技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解することができる。 (2) 角浜地区にある自然や社会、人々の生き方の中から自己の課題（問い）を見出し、その追究過程において、自分に必要な情報を収集選択し、自分の思いや考えを絵や文章でまとめ・表現することができる。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組む中で、地域の方々とふれあう楽しさや地域を見直し大切にしていこうとする気持ち高め、自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を育てる。			
学習 テーマ	1年 [海への親しみ]	・楽しい海、地域	・海や地域での遊び	ねらい 海(角浜地域)のすばらしさに気づく
	2年 [海への親しみ]	・海や地域にあるもの	・生命尊重	

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
角浜の自然	畑作業【通年】		磯掃除【行事】		海の絵を描こう								
地域の伝統	駒踊り				角小まつり				駒踊り				
生活科 関連	1年	学校大好き きれいにさいてね 夏だ遊ぼう 生き物となかよし 楽しい秋いっぱい 作ろう遊ぼう 自分でできるよ 冬を楽しもう もうすぐ2年生											
	2年	春だ今日から2年生 大きくなあれわたしの野菜 うごくうごくわたしのおもちゃ どきどきわくわく町探検 生き物なかよし大作戦 もっとなかよしまちたんけん みんなでつかう町の施設 伝わる広がるわたしの生活 あしたへジャンプ											
流れ	課題 探求	気になることをみつけよう		解決しよう					まとめよう				
	1年	海と仲よし			角浜のよさをみつけよう					海洋発表会			
	2年	磯そうじ 磯遊び①②			施設見学		海の工作						
計画 (実施内容)	<b>どきどきわくわく角浜探検</b> ・町探検の計画を立てる。 ・町探検をする。 ・			<b>もっとなかよし角浜探検</b> ・町探検の計画を立てる。 ・町探検をする。 ・体験したこと、見つけたことから「すてきな角浜」を伝える準備をする。 ・「すてきな角浜」を伝え合う。 ・学習を振り返る。  ※海に関わる人・もの・こと									
関連教科													

大単元名	角浜調査隊 ～角浜について知ろう～			
学年 目標	(1) 探究的な学習の過程において、自己の課題の解決に必要な角浜地区にある自然や社会、人々の工夫や努力を理解しながら、情報を比較・分類するなど、探究の過程に応じた技能身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解することができる。 (2) 角浜地区にある自然や社会、人々の生き方の中から自己の課題（問い）を見出し、その追求過程において、自分に必要な情報を収集選択し、集めた情報の事実や関係を、事象を比較したり分類したり、数量などで客観的に比較したりして問題状況における特徴を見つけ、まとめ・表現することができる。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組む中で、地域の方々とふれあう楽しさや地域の環境を見直し大切にしていこうとする気持ち高め、角浜地区が人々の努力や工夫によって支えられていることに気付きながら、自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を育てる。			
学習 テーマ	3年 [海洋生物と環境]	・地域の海や川にすむ生き物	・地域の特産	ねらい 海のすばらしさと暮らしとのかかわりに気づく
	4年 [水の循環と環境]	・防災 ・安全 ・環境保全		

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
角浜の自然	畑作業【通年】	田植え	磯そうじ【行事】		稲刈り						
地域の伝統	駒踊り				角小まつり				駒踊り		

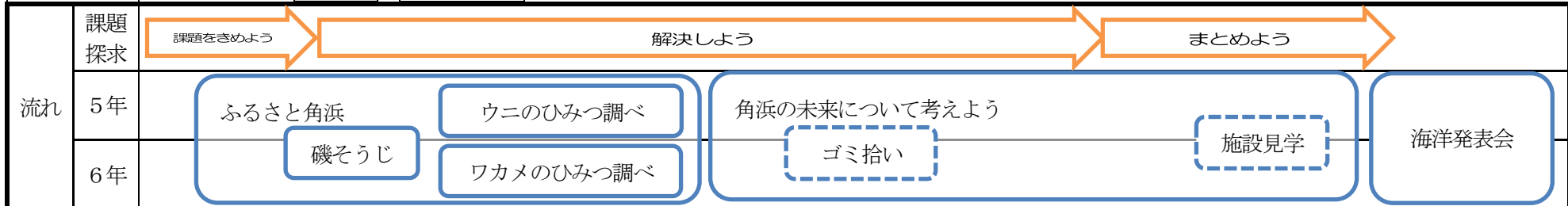


学習活動	<b>角浜調査隊 ～角浜について知ろう～ (30時間)</b>			
	オリエンテーション(1) ・前学年の海洋学習をふりかえる。 ・今年度の学習内容を知り、見通しをも	<b>①「角浜レストラン」(8)</b> ・海岸散策の計画を立てる。 ・小子内地区の海を散策し、海や海岸の様子を知る。 ・海岸散策を振り返り、見つけた不思議を共有する。 ・磯掃除(ツブの駆除)をする。 ・ツブ貝を使ったメニューを考える。 ・作ったメニューを発表する。 ・学習を振り返る。 ※4年生は防災施設の学習も含む。	<b>②「角浜生き物図鑑」(8)</b> ・図鑑を作る計画を立てる。 ・磯掃除で見つけた生き物や、植物(シイタケ)について詳しく調べる。 ・調べたことを整理し、図鑑にまとめる。 ・学習を振り返る。	<b>③「角浜エモーション」(8)</b> ・洋野エモーションが生まれた理由について調べる。 ・角浜のアピールしたいところを入れた旗のデザインを考え、制作する。 ・角浜エモーションをする。 ・学習を振り返る。
関連教科				



大単元名	ふるさと角浜 ～角浜の未来について考えよう～		
学年 目標	(1) 角浜の産業の良さや課題、地域の願い、自分たちの生活との関わりを理解しながら、情報を比較、分類する・関連付けする、多面的・多角的にみるなど、探究の過程に応じた技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解することができる。 (2) 角浜地区の人々の「思い」をふまえて自己の課題（問い）を見出し、見通しを持った追求過程において、目的に応じて手段や情報を収集選択し、集めた情報の視点を明確にして整理し、問題状況と事実を関連付けたり、多面的に考察したりして情報の中にある特徴を見つけ、相手や目的、意図に応じ、まとめ・表現することができる。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組む中で、地域の方々とうれあう楽しさや地域の環境を見直し大切にしていこうとする気持ち高め、角浜地区が人々の努力や工夫によって支えられていることに気付きながら、自ら進んで地域社会に関わり、自分と実生活・実社会の問題の解決に取り組もうとする態度を育てる。		
学習 テーマ	5年 [水産業と環境]	・特産物と水産業 ・洋野町の海洋環境・地域の環境	ねらい 地球規模で海洋環境を考え、実行しようとする
	6年 [環境問題と未来]	・環境問題の実際 ・保全の方法 ・自分にできること	

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
角浜の自然	畑作業【通年】	田植え	磯そうじ【行事】			稲刈り					
地域の伝統	駒踊り					棒舞い	角小まつり			駒踊り	
学年		修学旅行	ヒーローの旅	《隔年》							



**ふるさと角浜 ～角浜の未来について考えよう～ (30時間) (ウニ・ワカメは隔年で実施)**

<p><b>オリエンテーション①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前学年の海洋学習をふりかえる。</li> <li>・今年度の学習内容を知り、見通しをもつ。</li> </ul>	<p><b>① 「発見！角浜のウニ・ワカメのひみつ」 (12)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洋野町(角浜)の海産物の美味しさについて問いをもち、学習計画を立てる。</li> <li>・潮風トレイルで地域の海を散策する。</li> <li>・ウニ栽培センター、地域のワカメ漁師の話、本、インターネット等で海産物の秘密を調べる</li> <li>・伝えたいテーマを中心に新聞を作り、発表す</li> </ul>	<p><b>② 「ウニ・ワカメの未来・角浜の未来」(12)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウニ・ワカメが置かれている問題について課題意識をもち学習計画を立てる。</li> <li>・北三陸ファクトリー・地域のわかめ業者を見学し、海産物を取り巻く環境の変化を調べる。</li> <li>・ウニ・ワカメを守るために、自分たちができることを考える。</li> <li>・学習をまとめ、発信する。</li> </ul>	<p><b>海洋発表会に向けて(5)</b></p> <p><b>1年間の学習をまとめよう</b></p>
---	---	--	---

関連教科	5年生…国語「環境問題について報告しよう」 社会「水産業のさかんな地域」 6年生…国語「町の未来をえがこう」
------	--

令和4年度 第3・4学年 単元計画 「角浜調査隊～角浜について知ろう～」

<p>○海洋科の主な学習活動  <b>学習課題</b> 【学習段階】</p>	<p>・指導上の留意点  <b>◆評価規準&lt;観点・方法&gt;</b></p>
<p><b>オリエンテーション</b>                      ○海洋学習について知る。(3年)                      ○今年度の内容を知り、学習の見通しをもつ。                      (1)</p>	<p>・海洋学習の概要を知らせ、今後の学習への期待感をもたせる。                      ◆海洋学習に関心をもち、学習の見通しをもっている。                      &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [観察]</p>
<p><b>1. 「角浜レストラン」</b>  <b>海の不思議を見つけよう。</b>                      ○海岸散策の計画を立てる。(1)                      【課題の設定】                      ○地域の海を散策し、海の様子を知る。(2)                      (○磯掃除(ツブの駆除)をする。(学校行事))                      【情報の収集】                      (○防災施設を知る。(4年))</p>	<p>・海の生き物を探したことを想起させる。                      ◆主体的に計画を立てている。                      &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [発言・記述]                      ・小子内漁港付近を散策し、様々な視点から海を眺め、海への関心を高めさせる。                      ・磯掃除の目的を確認し、駆除ではあるが特産物にもなることを意識して作業させる。また今後の学習につなげられるよう、磯掃除をしながら生き物を探させる。                      ◆見つけたことを整理して記録している。                      &lt;知識・技能&gt; [観察・記述]</p>
<p><b>レストランのメニューを考えよう。</b>                      ○クボ貝(ツブ)を使ったメニューを考える。(2)                      【整理・分析】</p>	<p>・グループ毎にテーマを決め、クボ貝と洋野町の特産品を取り入れた料理を考え、メニュー表にまとめさせる。                      ◆必要な情報を選び、整理してまとめている。                      &lt;思考・判断・表現&gt; [記述]</p>
<p><b>角浜レストランを発表しよう。</b>                      ○クボ貝メニューの発表をする。(1)                      【まとめ・表現】</p>	<p>・クボ貝の美味しさを伝えるための発表の仕方を考えさせ、発表させる。                      ◆クボ貝と洋野町の特産品のよさを伝えたいという思いをもって発表している。                      &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [観察]                      ◆相手意識をもって、学習したことをまとめたり発表したりしている。                      &lt;思考・判断・表現&gt; [観察・記述]</p>
<p>○学習を振り返る。(1)                      【振り返り】</p>	<p>◆洋野町の海のよさに気付き、大切にしている。                      &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [記述]</p>

<p><b>2. 「角浜生き物図鑑」</b></p> <p><b>角浜生き物図鑑を作ろう</b></p> <p>○図鑑を作る計画を立てる。 (1) 【課題設定】</p> <p>○見つけた生き物について詳しく調べる。 (3) 【情報収集】</p> <p>○調べたことを整理し、図鑑にまとめる。 (3) 【整理・分析】</p>	<p>◆主体的に学習計画を立てている。 ＜思考・判断・表現＞[観察・記述]</p> <p>・観点を決め、磯掃除で見つけた生き物について詳しく調べさせる。</p> <p>◆角浜漁港の生き物について、自分なりの方法で調べている。 ＜思考・判断・表現＞[観察・記述]</p> <p>・調べたことの中から、図鑑に必要な情報を選び、整理してまとめさせる。</p> <p>◆必要な情報を選び、整理してまとめている。 ＜思考・判断・表現＞[観察・記述]</p>
<p>○学習を振り返る。 (1) 【振り返り】</p>	<p>◆洋野町の海のよさに気づき、大切にしていこうとしている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞[記述・発言]</p>
<p><b>3. 「角浜エモーション」</b></p> <p><b>エモーションはなぜ生まれたのだろう。</b></p> <p>○洋野エモーションが生まれた理由や歴史について調べる。 (1) 【情報収集】</p>	<p>・エモーション活動についての映像や資料を、提示し、関心を高めるとともに、復興とつながっていることも理解させる。</p> <p>◆エモーションについて調べ、復興との関わりがあることに気付いている。 ＜知識・技能＞ [発言・記述]</p>
<p><b>角浜の旗を作ろう。</b></p> <p>○角浜のアピールしたいところを取り入れた旗のデザインを考え、制作する。 (4) 【整理・分析】</p>	<p>・洋野町の特産物や角浜生き物図鑑に入れた生き物を、列車のお客さんへアピールできるような旗を制作させる。</p> <p>◆相手意識をもち、旗を制作している。 ＜思考・判断・表現＞[観察・記述]</p>
<p><b>角浜エモーションをしよう。</b></p> <p>○エモーション活動をする。 (2) 【まとめ・表現】</p>	<p>◆相手意識をもち、活動をしている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞[発言・記述]</p>
<p>○学習を振り返る (1) 【振り返り】</p>	<p>◆洋野町の海のよさに気づき、大切にしていこうとしている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞[発言・記述]</p>
<p><b>海洋発表会</b></p> <p>○海洋教育発表会に向けて、発表内容を整理し、練習して発表する。 (4)</p>	<p>・小単元の学習内容をまとめ、他学年、保護者に向けて発表させる。</p>
<p><b>1年間のまとめ</b></p> <p>○学習したことを振り返り、思いや願い・新たな問い・生かしたいことなどについてまとめ、発表し合う。 (1)</p>	<p>◆1年間の学習を振り返り、次学年での海洋学習への意欲をもっている。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞[記述・発言]</p>

令和4年度 第5・6学年 単元計画 「ふるさと角浜～角浜の未来について考えよう～」

<p>○海洋科の主な学習活動  <b>学習課題</b> 【学習段階】</p>	<p>・指導上の留意点  <b>◆評価規準&lt;観点・方法&gt;</b></p>
<p><b>オリエンテーション</b>                      ○前学年の海洋学習を振り返る。                      ○今年度の内容を知り、学習の見通しをもつ。                      (1)</p>	<p>・前年度の学習との関連づけを明確にしてストーリー性のある計画を立てさせる。                      ◆前学年との関連に気づき、今年度の海洋科学習への問いをもつことができる。                      &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [観察・記述]</p>
<p><b>1. 「発見！角浜のワカメのひみつ」</b>  <b>角浜のワカメにはどんなひみつがあるのだろう。</b>                      ○洋野町角浜のワカメの漁獲量の多さや美味しさについて問いをもち、学習計画を立てる。                      (1)                      【課題の設定】</p>	<p>・洋野町のガイドブック等を参考に、特産品であるワカメ・コンブに関心をもたせる。                      ◆洋野町角浜のワカメの秘密について問いをもち、進んで海や地域に関わろうとしている。                      &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [発言・記述]</p>
<p><b>洋野町のワカメのひみつを調べよう。</b>                      ○小子内漁港付近の海岸を散策する。 (2)                      ○乗船体験、地域のワカメ漁師の話、本、インターネット等でワカメの秘密を調べる。                      (ワカメの一生、天然ワカメと養殖ワカメの生育)                      (4)                      【情報の収集】</p>	<p>・地形や砂が海岸によって違うことを知り、海への関心をさらに高めさせる。                      ・ワカメの生態や水産業、流通など、視点をもって調べさせる。                      ◆調べ学習を通してワカメの生態や成長に適した海洋環境、働く人々の工夫や努力に気付いている。                      &lt;知識・技能&gt; [発言・記述]</p>
<p><b>ワカメのひみつを伝えよう。</b>                      ○学んだことを振り返り、何をどのように伝えるのか考える。                      (1)                      【整理・分析】                      ○伝えたいテーマを中心に、新聞やプレゼンテーションを作り、発表する。                      (3)                      【まとめ・表現】</p>	<p>・今まで学習したことを整理し、どのようにまとめるのか考えさせる。                      ◆学んだことを振り返り、何をどのように伝えるのか考えている。                      &lt;思考・判断・表現&gt; [発言・記述]                      ・相手意識をもち、写真や図を用いて分かりやすく新聞やポスター等にまとめさせる。                      ◆相手意識をもって、学習したことをまとめたり発表したりしている。                      &lt;思考・判断・表現&gt; [観察・記述]</p>
<p>○学習を振り返る。                      (1)                      【振り返り】</p>	<p>・小単元での学びを自覚させ、次の学びに活用させる。                      ◆学びを振り返り、進んで海や地域に関わろうとしている。                      &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [記述]</p>

<p><b>2. 「ワカメの未来・角浜の未来」</b></p> <p><b>ワカメが直面している問題とは？</b></p> <p>○ワカメが置かれている問題について課題意識を持ち、学習計画を立てる。 (1)</p> <p><b>【課題設定】</b></p>	<p>・最近のワカメの課題について知らせ、課題意識をもたせる。</p> <p>◆主体的に学習計画を立てる。 ＜思考・判断・表現＞[観察・記述]</p>
<p><b>最近の海の環境を調べよう</b></p> <p>○ワカメを取り巻く環境の変化を調べ、様々な問題があることを知る。 (3)</p> <p><b>【情報収集】</b></p>	<p>・梨忠商店の見学や調べ学習をし、海の環境問題について学ばせる。 (ゴミ問題、温暖化、生態系の乱れ等)</p> <p>◆環境問題について知る。 ＜知識・技能＞ [発言・記述]</p>
<p><b>わたしたちができることは何だろう</b></p> <p>○ワカメを守るために、自分たちができることを考える。 (3)</p> <p><b>【整理・分析】</b></p>	<p>・ワカメの成長に適した環境を守るために自分でもできることについて考え整理する。</p> <p>◆海洋環境を守り、洋野町のワカメを守るために自分たちができることを考える。 ＜思考・判断・表現＞[発言・記述]</p> <p>◆洋野町のよりよい海洋環境について自分の考えをもつ。＜主体的に学習に取り組む態度＞ [発言・記述]</p>
<p><b>わたしたちの思いを伝えよう。</b></p> <p>○ワカメを守るために、自分たちができることを考え発信する。 (4)</p> <p><b>【まとめ・表現】</b></p>	<p>・これまでの学習を振り返り、テーマを決めて海洋サミットに向けた内容を作成し、発表させる。</p> <p>◆海を活用し発展してきたふるさとへの誇りをもち、海との共生共存のために自分たちにできることを実践しようとする。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞[発言・記述]</p>
<p><b>学習したことを振り返ろう</b></p> <p>○洋野町の海洋環境を守ろうという意識をもつ。 (1)</p> <p><b>【振り返り】</b></p>	<p>・これから自分たちが取り組んでいけそうなことを確認し、意識を高めさせる。</p> <p>◆環境を守るために実行できそうなことを考える。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞[発言・記述]</p>
<p><b>海洋発表会</b></p> <p>○海洋教育発表会に向けて、発表内容を整理し、練習して発表する。 (4)</p>	<p>・海洋サミットでまとめた内容をさらに精査し他学年、保護者に向けて発表させる。</p>
<p><b>1年間のまとめ</b></p> <p>○学習したことを振り返り、思いや願い・新たな問い・生かしたいことなどについてまとめ、発表し合う。 (1)</p>	<p>◆海を守るためにこれから自分たちができていることを考えている。 ＜思考・判断・表現＞[観察・発言]</p>

# 令和4年度 磯掃除〔ツブ拾い〕実施計画

教務部

## 1. 目的

- (1) 海藻の害になるヒトデやツブの除去や磯のゴミ拾いをするこゝで、地域産業への理解や環境教育の推進を図る。
- (2) 作業を通して、海に生き物を観察させ、自然への関心を高める。
- (3) ボランティア活動を通して、奉仕の心や地域環境美化の意識を高める。

2. 期日 令和4年6月29日(水)【行3】 ※予備日 7月14日(木)
3. 場所 角浜漁港の北側の磯
4. 対象学年 全学年
5. 日程並びに内容

6月29日(水) 【干潮 9:35(-75cm)】  
7月14日(木) 【干潮 9:42(-90cm)】

◇始めの式(司会:教務)  
場所:漁協前  
(1)始めの言葉  
(2)校長先生のお話  
(3)作業の説明[教務]  
※漁協さん紹介含む  
(4)漁協さんからの諸注意  
(5)作業開始(教務指示)

実働40分間

集合し、ツブを学年ごと置く。  
ごみ拾い15分間程度

◇終わりの式(司会:教務)  
場所:漁協前  
(1)校長先生のお話  
(2)漁協さんから  
(3)お礼の言葉(児童会長)  
(4)終わりの言葉

内容	時程
朝の会	8:20～ 8:35
1校時【教科】	8:35～ 9:20
2校時【総合・生活】	9:25～ 10:10
はつらつタイム	休憩 10分
集合・出発(バス)	10:20
漁協前集合	10:30
始めの式(事前指導)	10:35～10:45
移動・準備	10:45～11:00
ツブ拾い	11:00～11:50
集合・人員確認	11:50
ごみ拾い	11:55～12:10
昼食	12:15～12:45
自由遊び	12:45～13:15
集合・人員確認 漁協へ移動	13:20
終わりの式	13:25～13:35
解散	13:40

## 6. 事前・事後指導について

《主に始めの会で行うこと》(教務)

- ・グループで行動するようにする。(単独行動をしない。)
- ・波打ち際に近寄らない。(立っている先生より後ろへ行かない。)
- ・足元に注意する。(コケ等で滑りやすい。)
- ・石やツブ等生き物を投げたりしない。
- ・アワビやウニは採らない。
- ・回収したごみは分別し、学校へ持ち帰る。

《主に担任が行うこと》

- ・目的を学年に応じて指導する。  
(地域産業への理解、勤労生産・ボランティア教育、環境教育との関わり)
- ・事後指導として、体験作文等、発表・発信(掲示)を計画する。

## 7. 服装及び持ち物

長そで、長ズボン、半そで、短パン、濡れても良いズック、バケツ、手袋、タオル等、弁当、水筒（水かお茶）、レジャーシート

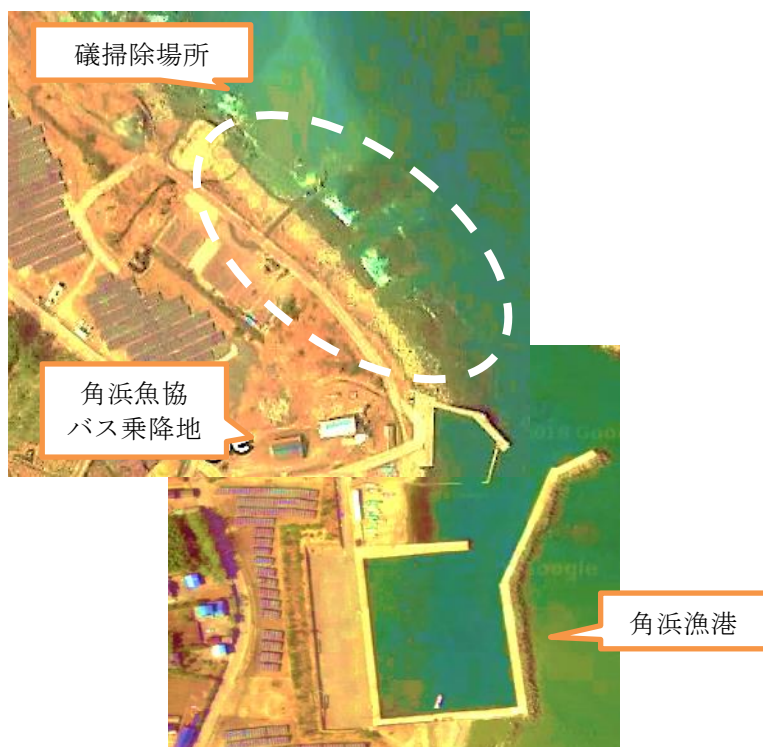
地区	担当
渋谷上	加藤
渋谷下	梅内
浜通り	工藤
横丁	岩脇
学童・伝吉	貴田

## 8. 下校について

- (1) 各地区ごとに整列する。
- (2) 各地区担当を先導に漁協を出発する。
- (3) 途中家が近い子から帰宅する。

## 9. その他

- (1) 磯掃除当日、予備日とも給食なしで、弁当持参とする。
- (2) 当日は、持ち物が多くなるので、学習用具は前日に学校に置いて帰らせるか、プリントやドリルなど、教科書などを使わない学習を行う。
- (3) 時数は【1校時：教科】【2校時：海洋・生活】【3～5校時：学校行事】とする。
- (4) 漁協への依頼は貴田、バス予約は副校長が行う。〔文書・電話連絡〕
- (5) 緊急車両として副校長号、物品運搬車両として下芋坪号を用意する。



## 第5・6学年 海洋学習見学実施計画

第5・6年生 担任

### 1 ねらい

- ・乗船体験をすることで、郷土角浜への愛着を高め、海で働く人々の仕事について理解を深める。
- ・集団行動、公衆道徳、安全教育などについて、望ましい態度の育成を図る。
- ・ワカメやコンブの漁場を実際に見ることで、地域の漁業への関心を高める。

### 2 期日 令和4年8月23日(火)～31日(水)

※大村さんと相談しながら、天候と海の様子ができるとき実施

### 3 見学場所 角浜漁港

(見学のお願いは 種市漁業協同組合 角浜生産部長 大村 文雄さんに連絡・承諾済み)

### 4 参加児童 5年生 男子1名 女子2名 計3名

6年生 男子4名 計4名

合計 男子5名 女子2名 計7名

### 5 引率者 5・6年担任 梅内 貴博 (児童指導 安全指導 渉外)

副校長 安保 学 (児童指導 写真撮影)

用務員 下葦坪 知子 (児童支援 渉外)

### 6 日程

≪3・4校時(海洋)≫

10:15～	学校出発(タクシー)
～10:25	角浜漁港 到着
10:30～11:40	乗船体験・角浜近海見学
11:50～	角浜漁港 出発
～12:00	学校到着

### 7 内容

- ・乗船体験 ・角浜近海見学(ウニ増殖溝、県境、海から見た角浜) ・質問

### 8 持ち物 水筒・ハンカチ(タオル)・ちり紙・探検バック・筆記用具・ビニール袋

### 9 服装 帽子 角小の運動着 履き慣れたズック

### 10 安全指導等

- ・安全に関する指導(船の歩き方、タクシーの乗り方など)を十分に行う。
- ・保健衛生面の指導を行う。(消毒指導等を特に行う)
- ・事前に、見学のねらいや見学時のマナーについて指導をする。
- ・緊急時は学校へ連絡をし、指示を仰ぐ。角小 0194-65-4622

### 11 種市タクシー

〒028-7914 岩手県九戸郡洋野町 岩手県九戸郡洋野町種市第23地割97-1

Tel0120-652-330

※費用は海洋教育補助金から使う



## 第3・4・5・6学年 海洋科見学 実施計画書

洋野町立角浜小学校

### 1 目的

- (1) 地域の海岸を歩き、海岸付近の地形等を観察し、これからの海洋学習への意欲を高める。【3年】
  - ・地域の海岸を歩き、海岸付近の地形等や防災設備等を観察し、海洋学習への意欲を高める。【4年】
  - ・地域の海岸を歩き、海岸付近の地形や水による地形の変化等を観察し、海洋学習への意欲を高める。【5・6年】
- (2) 異学年との関わりを通して、互いの交流を深める。
- (3) 集団行動のきまりや乗り物の乗り方のマナーを守って行動する態度を育てる。

### 2 教育課程における位置づけ及び時数

3・4年 単元名 「角浜レストラン」(全8時間)

- ・海岸散策の計画を立てる。
- ・地域の海を散策し、海や海岸の様子を知る。
- ・海岸散策を振り返り、見つけた不思議、防災設備について共有する。
- ・磯掃除をする。
- ・海のメニューを考え、発表する。
- ・学習を振り返る。

5・6年 単元名 「発見!角浜のワカメのひみつ」(全12時間)

- ・学習計画を立てる。
- ・地域の海の散策し、海や地形の様子を知る。
- ・ワカメの秘密を調べる。
- ・伝えたいテーマを中心にまとめ、発表する。
- ・学習を振り返る。

### 3 期日

令和4年6月20日(月)

### 4 見学箇所

- ・洋野町小子内付近、角浜駅(エモーション活動)

### 5 日程等

- 9:30 学校発(小子内まで海岸の道路を通り、海岸の様子を観察)
- 10:00 竜の口(小子内)で児童下車→バスは漁協空き地で待機  
防潮堤見学  
海岸散策(ひろのまきば天文台台長 阿部俊夫先生より実地指導をしていただく)
- 11:20 小子内漁協駐車場発
- 11:45 角浜駅着 エモーション活動
- 12:10 学校着

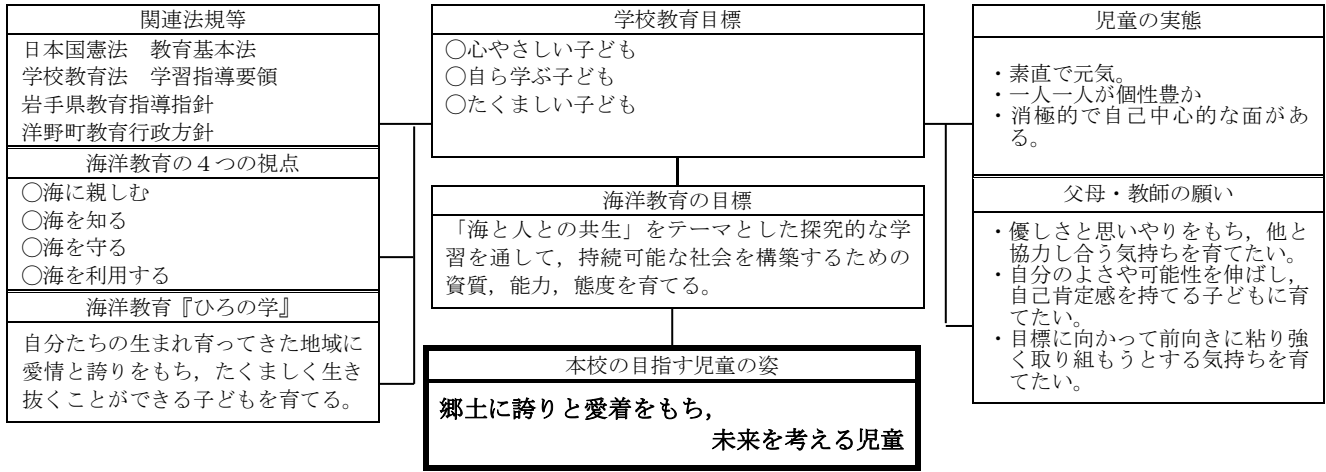
### 6 参加学年人員、参加率

- 3年児童8名(男3名 女5名)
- 4年児童3名(男1名 女2名)
- 5年児童3名(男1名 女2名)
- 6年児童4名(男4名) 100%

- 7 引率者の職、指名、事務分担  
教諭 貴田 靖子（3・4年担任 児童引率・安全指導・渉外）  
教諭 梅内 貴博（5・6年担任 児童引率・安全指導）
- 8 幹旋業者（交通手段等）及びその連絡先  
町バスを利用
- 9 所要経費と拠出方法  
（1）経費 0円  
（2）拠出方法 なし
- 10 服装、持ち物  
（1）動きやすい服装、紅白帽子  
（2）探検バッグ、筆記用具、水筒
- 11 実施のための安全計画  
（1）朝の健康観察の際、具合の悪い児童がいた場合、家庭に連絡し、参加・不参加の相談をする。  
（2）救急薬品、児童名簿、笛、携帯電話を携帯する。  
（3）事故などの緊急の場合は、学校に連絡し、適切な対応をする。  
（4）感染症予防のため、マスクを着用して行動する。
- 12 事前、事後指導  
（1）集団行動の規律を守って安全に行動できるように事前指導する。  
（2）実施後、学習のまとめができるよう指導する。

# 洋野町立宿戸小学校

# 海洋教育全体計画

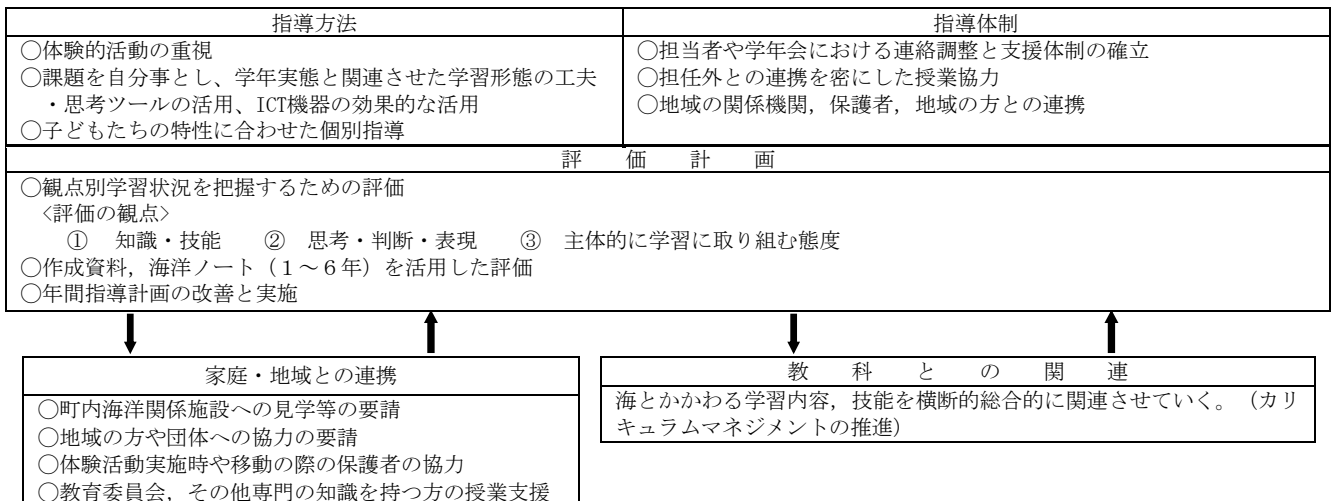


## ◎ 育成を目指す資質・能力

探究課題	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等			学びに向かう力・人間性等
		思いや願い	かかわる	ふりかえる	
生活科 〈1, 2年〉 身近な海のすばらしさ	身近な海のすばらしさに気づいたり親しみをもったりする。	対象との関わりをもとに思いや願いをもつ。	対話を通じて気づきの質を高める。気づきや思いを表現する。	対象との関わり方や自分の成長、よさに気づく。	進んで対象に関わる。自分の成長やよさを自覚し意欲や自信をもつ。
海洋科 〈3, 4年〉 海のすばらしさと暮らしとの関わり	地域が豊かな自然環境に支えられていることや自分たちの生活と大きな関わりがあることに気づく。	課題設定の力	情報収集の力	整理・分析の力	主体的・協働的に学ぶ。地域に愛情と誇りをもち。
		問いをもち、解決方法を考える。	既習の方法を活かして情報を収集する。	情報を整理・分析し自分の考えをもつ。	
海洋科 〈5, 6年〉 海洋環境と自分の生き方	身近な自然環境とそこに起きている環境問題を理解し持続可能な開発と自分たちの生き方との関わりに気づく。	問いをもち、解決の見通しをもつ。	適切な方法を考え、情報を収集する。	情報を整理・分析し自分の考えをもつとともに、実行可能な方法を考える。	主体的・協働的に学ぶ。持続可能な開発のために、考えたり行動したりする。

## ◎ 単元計画

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
視点	海に親しむ・海を知る	海に親しむ・海を知る ・海を守る	海に親しむ・海を知る	海を知る・海を守る	海を知る・海を守る	海を知る・海を守る
単元名	・ごみゼロ運動 ・八木・宿戸 浜遠足 ○うみであそぼう	・ごみゼロ運動 ・稚ウニ放流 ・八木・宿戸 浜遠足 ○なかよしまちたんけん ○宿戸のすてきを見つけよう	・ごみゼロ運動 ・種市海浜公園 徒歩遠足 ○宿戸の自慢探検 (ウニ、岡谷神社、しいたけ)	・ごみゼロ運動 ・ウニの森植樹祭 ・種市海浜公園 徒歩遠足 ・海の生き物探検 ○森と海のつながり調査隊!	・ごみゼロ運動 ・ウニの森植樹祭 ・海の生き物探検 ○洋野町の水産業調査隊～洋野町のウニのひみつとは?～	・ごみゼロ運動 ・ウニの森植樹祭 ・海の生き物探検 ○宿戸の海を守る!～私たちにできること～



# 宿戸うみプロジェクト 全体ストーリーマップ 2023

	種市中学校	3年 販売、PR 2年 荒巻鮭づくり、鮭とぼづくり、ウニ染め販売、PR 1年 ウニとり、塩ウニづくり、内間木洞見学	自己実現を目指す 洋野町の未来の姿を考える 小学校の学習をもとに地域を考える
	テーマ	地域の願い：宿戸の海を知り、大切にし、共存しながら活かして欲しい。	
6年	地球規模で海洋環境を考え、実行しようとする 環境問題と未来 ・海と共に生きる ・環境問題の実態	ウニの森植樹祭 530ゴミゼロ運動 海岸清掃	<p><b>洋野の海は世界とつながっている</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋環境、マイクロプラスチック、温暖化、SDGS、海との共生</li> <li>・生活排水と海の世界（川崎光博さん）</li> <li>・水の循環と海洋（海洋子どもサミット）</li> </ul> <p>まとめ、発信 「海洋子どもサミット」</p> <p>夢をもって生きる（南部ダイバー）</p>
5年	水産業と環境 ・洋野の海洋環境 ・海産物と水産業		<p><b>海と生きる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水産教室（吹切守さん）</li> <li>・洋野の水産会社（株）北三陸ファクトリー、増殖溝（栽培漁業センター）</li> <li>・ウニの年齢（川崎光博さん）</li> <li>・サケの採卵見学（さけますふ化場）</li> </ul> <p>まとめ、発信</p>
4年	水の循環と環境 ・防災・安全・歴史 ・森と海の環境		<p><b>森と川と海</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウニの森植樹祭りでの植林体験（阿部俊夫先生）</li> <li>・海の恵みを味わう</li> <li>・森と海の関係→理科「水の循環」</li> </ul> <p><b>宿戸への防災探検隊</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防潮堤見学（県北広域振興局土木部）</li> <li>・津波防災教室（宇部義治さん）</li> <li>・津波出前授業（種市高校海洋開発科の皆さん）</li> </ul> <p>まとめ、発信</p>
3年	宿戸の自慢 ・地域の特産物 ・海洋生物と環境		<p><b>宿戸の自慢探検隊</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウニ漁、荷捌き場見学（種市南漁協）</li> <li>・岡谷稲荷神社見学（上岡谷ユミ子さん）</li> <li>・シイタケ栽培場見学（高屋敷幸雄さん、喜朗さん）</li> </ul> <p>まとめ、発信</p> <p>3・4年徒歩遠足：種市海浜公園 ・ごみ拾い ・海浜公園で遊ぶ 3・4年校外学習 ：ひろのまきば天文台</p>
2年	海に出よう ・海の生き物 ・船で稚ウニ放流		<p><b>宿戸のすてきを見つけよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・船に乗って、沖で稚ウニ放流（吹切守さん）</li> <li>・磯遊び（種市南漁協 吹切安蔵さん）</li> </ul> <p>まとめ、発表</p> <p>1・2年徒歩遠足：八木漁港 ・製氷工場見学 ・ごみ拾い ・八木漁港の砂浜で遊ぶ 1・2年校外学習 ：おおのキャンパス</p>
1年	楽しい海 ・磯遊び ・水槽の世話		<p><b>うみであそぼう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・磯遊び（種市南漁協 吹切安蔵さん）</li> </ul> <p>絵などで表現</p> <p>水槽の生き物に餌やりの世話をを行う・生き物の観察をする</p>
<p>○宿戸小学校の伝統（「宿小音頭」「ソーラン節」「四季の海」「宿小マーチ」）</p> <p>○町事業「海はともだち」（8月 5・6年）</p> <p>○地域事業「海辺の生き物探検」（8月）</p> <p>○子ども会でのゴミゼロ運動、海岸清掃</p> <p>○子ども会でのB&amp;G体験</p>			

※単元名・内容は、実態に合わせて年度ごとに修正・変更を加えていくものとする。

【テーマ】海に親しむ ・海の生き物 ・海での遊び

【目標】海で遊ぶことを通して、海のすばらしさに気づくことができる。

	生活科（うみプロジェクト）の活動の流れ	関連
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○がっこうだいすき（20）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活を支えている人々や友達</li> <li>・安心安全で楽しい遊びや生活、登下校</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語「ひととつながることば」 挨拶・返事</li> <li>○国語「こえをとどけよう」 声のものさし</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○きれいにさいてね（8）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・植物の種まき、世話、観察、種をとる</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語「みんなにはなそう」 クイズ</li> <li>○ゴミゼロ運動</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○なつがやってきた（8）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・校庭で草花や虫探し</li> <li>・（みんなの公園で遊ぶ）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語「きいてつたえよう」</li> <li>○国語「こんなことしたよ」</li> <li>○徒歩遠足：八木漁港</li> </ul>
7月～8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水で遊ぶ</li> <li>・楽しかったことを伝える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域事業 海辺の生き物探検</li> <li>○国語「えにっきをかこう」 絵日記</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いきものとなかよし（6）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・虫さがし、観察、世話</li> <li>・おおのキャンパスで動物と触れ合い活動</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図工「うみのえをかこう」（海の子絵画展）</li> <li>○国語「かいがら」</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○たのしいあきいっぱい（21）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋探し</li> <li>・葉っぱや実で遊ぶ</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語「はなしたいな ききたいな」 スピーチ、感想・質問</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋のことを伝える</li> <li>・おもちゃ作り</li> <li>・一緒に遊ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語「なにに見えるかな」</li> <li>○国語「はっけんしたよ」 発見メモ</li> <li>○国語「いろいろなふね」</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○じぶんでできるよ（12）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の一日を見つめる</li> <li>・できることをする</li> <li>・これからも続ける</li> <li>・昔から伝わる遊びを楽しむ</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語「すきなきょうかはなあに」 わけ</li> <li>○国語「おもい出してかこう」 順序を表す言葉</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ふゆをたのしもう（9）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬探し</li> </ul> </li> </ul>	
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雪や氷で、外で遊ぶ</li> <li>・冬のことを伝える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語「小学校のことをしょうかいしよう」 時間を表す言葉</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○もうすぐ2ねんせい（18）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい1年生を招待し、話し合う</li> <li>・1年間でふりかえる</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語「1年かんをふりかえろう」 よみかえす</li> </ul>

**「うみであそぼう」**  
**（生活科の中から全8時間）**  
 ○磯遊びの計画を立てる（1）  
 ・写真などを見ながら海の生き物のことを話し合う。  
 ○海の生き物となかよしになろう（3）  
 ・磯遊びをする。  
 ・感想を話し合う。  
 ○作品にあらわそう（図工から4時間）  
 ・「うみのいきものをつくろう」（2）  
 ・「うみのえをかこう」（2）  
 ※絵画指導ゲストティーチャー  
 ：小室圭稔さん  
 ○海の学習についてしらせよう（3）  
 ・海の学習について話し合う。  
 ・絵日記にかく。  
 ○学習をふりかえろう（1）

【テーマ】海に親しむ ・海の生き物 ・海での遊び

【目標】磯遊びや稚ウニ放流、乗船体験を通して、海のすばらしさに気づくことができる。

	生活科（うみプロジェクト）の活動の流れ	関連
4月	○春だ 今日から2年生（6） ・春探し ・春のまちを歩く	○国語「すきなこと、なあに」 対話 ○国語「いくつあつめられるかな」 メモ ○国語「こんなことをしているよ」
5月	○ぐんぐんそだて わたしの野さい（10） ・野菜の種まき、苗植え、世話、観察、収穫	はじめ・中・おわり ○国語「外国の小学校について聞こう」
6月	○どきどきわくわく まちたんけん（10） ・町探検 ・見つけたことを伝え合う	聞き取る ○国語「かんさつしたことを書こう」 メモ・観察
7月～8月	○生きもの なかよし 大作せん（10） ・生き物探し、観察、世話 ・生き物のことを伝え合う	○国語「ことばで絵をつたえよう」 説明 ○ゴミゼロ運動 ○国語「サツマイモのそだて方」 ○徒歩遠足：八木漁港 ○図工「たのしかったよ ドキドキしたよ」 （海の子絵画展） ○地域事業 海辺の生き物探検
9月	○うごくうごく わたしのおもちゃ（12） ・動くおもちゃを作る ・遊び方を工夫する	○国語「うれしくなることばをあつめよう」 話をつなぐ
10月～12月	○みんなでつかう まちのしせつ（6） ・図書館利用 ○もっとなかよし まちたんけん（12） ・町探検 ・おおのキャンパス見学 ・分かったことを話し合う	○国語「ビーバーの大工事」 ○国語「あそび方をせつ明しよう」 メモ、カード、説明する文章 ○国語「たからものをしょうかいしよう」 発表 ○国語「同じところ、ちがうところ」 比べる ○国語「「ありがとう」をつたえよう」 手紙
1月	○つながる広がる わたしの生活（12） ・もっと詳しく調べる ・まちのすてきを伝える	○国語「おばあちゃんに聞いたよ」 ○国語「この人をしょうかいします」 組み立てカード
2月	○あしたへ ジャンプ（27） ・自分の成長をまとめる ・感謝の気持ちを伝える	○国語「すきな場しよを教えよう」 声の大きさ、話す速さ ○国語「「ことばのアルバム」を作ろう」
3月		○道徳「わたしの学校」 ○道徳「絵がすき 海がすき」 ○道徳「見つけたよ」

**「宿戸のすてきを見つけよう！」**  
**（生活科の中から全11時間）**

○稚ウニ放流の計画を立てる（1）  
・稚ウニ放流について知り、活動の見通しを持つ。

○稚ウニ放流、乗船体験をしよう（3）  
・稚ウニ放流、乗船体験をする。  
※ゲストティーチャー：吹切守さん

○磯遊びに行こう（4）  
・磯遊びで生き物探しをする。  
※ゲストティーチャー：吹切安蔵さん

○体験したことをふりかえろう（3）  
・気付いたことを整理してまとめる。

【テーマ】海と地域 ・地域の特産

【目標】海と宿戸の人たちの関わりを調べ、地域の良さを理解し、ふるさとに対する誇りと愛情をもつことができる。

【海洋教育の視点】 海に親しむ・海を知る

	海プロジェクトの活動の流れ	関連
4月	○オリエンテーション ・海について知っていることをイメージマップに書き出してみる。海洋学習についての見通しを持つ。 ・宿戸にはどんな自慢があるのかを知り、学習の見通しを持つ。	○社会「わたしたちのまち みんなのまち」 土地の様子・使い方・地図 ○国語「メモを取りながら話を聞こう」 メモ
5月	(ウニ、アワビ、シイタケ、岡谷稲荷神社など)	○国語「調べて書こう、わたしのレポート」 レポート
6月	○自慢探検 その1：ウニ、アワビ ・知っていることを話し合い、問いを持つ。 ・自分の課題を持ち、調べる。 (本、インターネット、人に聞く) ・調べて分かったことを交流する。 ・見学に行き取材する。(6月-7月 馬場等さん)	○ゴミゼロ運動 ○徒歩遠足：種市海浜公園
7月	・分かったことをまとめる。 ・表す。→国語と関連させる。	○国語「ローマ字」 ローマ字入力 ○社会「はたらく人とわたしたちの暮らし」 農家の仕事
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     ウニの自慢ポイント                      ・甘くておいしい品質のよいウニがたくさんとれる。                      ・ウニのエサとなる天然コンブがたくさんある。                      ・ウニを育てる工夫（増殖溝）がある。                      →特産になるように努力してきた宿戸の人たちは、すごい。                      地元の先人 岡本正雄さんは増殖溝を工夫し、ウニ・アワビを増やすことに貢献した。                 </div>	
8月	※以降、問いを持つ、調べる、交流する、見学に行き取材する、まとめる、表す、を繰り返すことで学び方を身につける。 ※インターネットで調べるには、漢字が読めること、言葉の意味を知っていること、ローマ字入力が便利なこと等、やってみてうまくいかない経験をさせながら、国語の力が必要であることを実感させる。	
9月	○自慢探検 その2：岡谷稲荷神社（8月 上岡谷ユミ子さん）	
10月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     岡谷稲荷神社の自慢ポイント                      ・古くから海の安全と大漁を祈願し、遠方からもお参りに来る。                      ・病気や災いから皆を守ってくれている。                      ・静かで穏やかな気持ちになれる場所。(神様の木、石)                      →毎年の例大祭に児童も参加。この神社を守り続ける宿戸の人たちは、すごい。                 </div>	○国語「パラリンピックについて調べよう」 事典や図鑑
11月	○自慢探検 その3：シイタケ（10月-11月 高屋敷幸雄さん・喜朗さん）	○国語「話したいな、わたしのすきな時間」 ○国語「案内の手紙を書こう」 手紙
12月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     シイタケの自慢ポイント                      ・「どんこ」品質の良さで何度も岩手県1位。                      ・地域の特性、やませ（冷涼な気候）を生かしている。                      ・シイタケを育てるよい環境がある。                      （豊かな山林、コナラ・アカマツが多く自生）                      →特産になるように試行錯誤してきた宿戸の人は、すごい。                 </div>	○国語「外国のことをしょうかいしよう」 ポスター ○国語「自分の考えをつたえよう」 図や表
12月～3月	○学びのふりかえり	○国語「言葉でつたえ合う」 ○社会「市のうつつりかわり」 ○道徳「ふるさと いいとこさがし」



洋野町立宿戸小学校 海プロジェクト 第4学年 ストーリーマップ

【テーマ】海と環境 ・津波と防災 ・水の循環

【目標】海と森の関係、津波と防災について調べ、地域での取り組みを理解し、自分たちに何ができるかを考えることができる。

【海洋教育の視点】 海を知る・海を守る

	海プロジェクトの活動の流れ	関連
4月	○オリエンテーション ・これまでの学びを振り返る。	
5月	・宿戸の海でどうして天然コンブが豊富なのか、海の水はどこから流れ込んでいるのか問いを持ち、学習の見通しを持つ。	○社会「水はどこから」 浄水場見学
6月	□ウニの森植樹祭（5月中旬 4・5・6年が参加） ・植林の目的、場所、方法、木の種類などを体験から学ぶ。 ・洋野の自然の恵みを味わう。	○社会「ごみのしよりと利用」 ゴミ処理見学
7月	○自分たちの課題を持ち、調べる。 ・森と川と海の間隔を調べる。	○国語「ヤドカリとイソギンチャク」 ○ウニの森植樹祭 ○ゴミゼロ運動 ○徒歩遠足：種市海浜公園
8月	ポイント ・植林によって森の環境が整う。 ・落ち葉が栄養となって、栄養のある水が海へ流れ込み、海産物にとってよい環境をつくる。 ・海を守るために森を育て守ることが大切。	○国語「たしかめながら話を聞こう」 メモ ○国語「みんなで新聞を作ろう」 新聞 ○国語「お願いやお礼の手紙を書こう」 手紙
9月	→理科の学習へつなぐ。	
10月	○オリエンテーション（社会の学習から） ・地震、津波の備えについての問いを持ち、学習の見通しを持つ。 ○自分たちの課題を持ち、調べる。 ・復興教育副読本、町防災マップ、DVD、本、インターネットから ・家の人や地域の人への取材活動	○地域事業 海辺の生き物探検 ○社会「地震からくらしを守る」 防災・減災 自助、公助、共助
11月	□防潮堤見学（宇部義治さん、県北広域振興局土木部） ・小子内防潮堤のしくみ、役割と限界を知る。 ・津波供養塔を調べる。 ・避難路を調べたり、実際に歩いたりする。	○国語「学校についてしょうかいすることを考えよう」 ○理科「自然の中の水のすがた」 水の循環 ○社会「きょう土の伝統・文化と先人たち」 南部もぐりの開祖 磯崎定吉
12月～3月	ポイント ・明治、昭和にも大津波があった。 ・防潮堤の高さ 12mは過去の津波の高さをもとに。 ・水門と陸こう。遠隔操作で安全を確保。 ・防潮堤は、避難する時間を稼ぐためのものなので、避難が大事。	○国語「聞いてほしいな、心に残っている出来事」 ○国語「「ふるさとの食」を伝えよう」 リーフレット
	□津波防災教室（宇部義治さん） ・津波の歴史、東日本大震災の被害状況 ・自主防災組織、津波防災施設と避難の大切さ など	○国語「言葉で考えを伝える」 ○国語「調べたことをほうこくしよう」 アンケート
	□津波出前授業（10月 種市高等学校 海洋開発科の皆さん） ・津波がおこるしくみ、津波の速度実験、避難の大切さ など	○理科「水のすがたと温度」 地球温暖化 ○道徳「「もっこ」をせおって」 復興
	○学びのふりかえり	

※3年生以上は、弾力的な単元構成をしていく。

【テーマ】海と産業 ・水産業 ・海で働く人々

【目標】海と仕事の関わりを調べ、地域でつなげている取り組みを理解し、ふるさとに誇りをもつことができる。

【海洋教育の視点】 海を知る・海を利用する

	海プロジェクトの活動の流れ	関連
4月	○オリエンテーション ・これまでの学びを振り返る。 ・地域の水産業についての問いを持ち、学習の見直しを持つ。	○社会「わたしたちの国土」 海洋
5月	□水産教室（6月 吹切守さん）@宿戸漁港 ・海の生き物観察 ・増殖溝でのウニとり体験 （地元の先人 岡本正雄さんの功績について触れる） ・荷捌き場でのウニの殻むき体験	○国語「知りたいことを聞き出そう」 インタビュー ○国語「動物たちが教えてくれる海の中のくらし」 ○ウニの森植樹祭 ○ゴミゼロ運動 ○移動教室：県北青少年の家
6月	○自分の課題を持ち、調べる。	○国語「環境問題について報告しよう」 資料活用・報告文
7月	・本、インターネットから ・町パンフレットから ・海に携わる人へのインタビュー	○理科「魚のたんじょう」 ○国語「問題を解決するために話し合おう」 原因と結果・意図
8月	ポイント ・宿戸にある海に携わる仕事は大きく5つ 漁業者、漁協、市場、種苗生産、販売者 ・宿戸で行われている漁業 漁船漁業、定置網漁業、採介藻漁業 ・インタビュー	○地域事業 海辺の生き物探検 ○町事業 海はともだち
9月	漁業者、漁協、市場、栽培漁業協会、地元水産企業 など （仕事内容、仕事に対する思い、仕事に就いた理由、工夫や努力、苦労していること など）	○社会「水産業のさかんな地域」 水産業 ○国語「和の文化について調べよう」 パンフレット
10月	□南部ダイバー見学（種市高等学校 海洋開発科） ・南部ダイバーの歴史 ・先人「磯崎定吉」 ・ひきつがれる思いや願い □サケの採卵見学（10月 さけますふ化場） ・サケの一生 ・さけますふ化場の役割	○国語「伝えたい、心に残る言葉」 ○国語「反対の立場を考えて意見文を書こう」 意見文 ○国語「資料を見て考えたことを話そう」 事実と感想
11月	○「海洋教育サミット」へ向けての校内発表会に参加する。	○社会「わたしたちの生活と環境」 環境
12月	・6年生の発表を聞いて、今後の学習に生かす。	○道徳「一ふみ十年」 ○道徳「そういうものにわたしはなりたい～宮澤賢治」 ○道徳「親から子へ、そして孫へと」 ○道徳「イルカの海を守ろう」
3月	○学びのふりかえり ・修学旅行での洋野紹介に向けて、これまでの学びをふりかえる。	

※3年生以上は、弾力的な単元構成をしていく。

【テーマ】海と世界 ・海流 ・環境

【目標】地球規模で海洋環境を考えることを通して、海を守るために自分たちができることを考えることができる。

【海洋教育の視点】 海を知る・海を守る・海を利用する

	海プロジェクトの活動の流れ	関連
4月	○オリエンテーション ・これまでの学びを振り返る。	○理科「地球と私たちの暮らし」 環境 ○国語「イースター島にはなぜ森林がないのか」 ○国語「友達の意見を聞いて考えよう」
5月	・学習の見直しを持つ。	
6月	□サケの放流（さけますふ化場） ・サケの習性 ・サケや海流、海洋環境についての問いを持つ。 世界規模でみた海洋…海流、プラスチックごみ、消えゆく島、生き物への影響、漁業の未来 等	○ウニの森植樹祭 ○ゴミゼロ運動 ○修学旅行：仙台・松島方面 ○国語「防災ポスターを作ろう」 図表やグラフ・ポスター
7月	○自分の課題を持ち、調べる。 ・本、新聞から ・町パンフレットから	○理科「生き物の暮らしと環境」 生命・環境 ○地域事業 海辺の生き物探検隊 ○町事業 海はともだち
8月	・家の人や地域の人へのイタインタビュー	○国語「話し合って考えを深めよう」 ○国語「海の命」
9月	□環境教室（岩手県さけ・ます増殖協会 川崎光博さん） ・宿戸の海の現状 ・直面している環境問題 ・これまでの取り組み ・これから私たちができること	○理科「大地のつくりと変化」 土地のつくり・ジオパーク
10月	○調べてわかったことをまとめ、発信する。（視点のある程度しぼる。） ・海洋教育こどもサミットに向けての取り組み →国語等と関連	○国語「町の未来をえがこう」 プレゼンテーション ○国語「世界に目を向けて意見文を書こう」 意見文・説得力
11月	□サケの採卵体験（さけますふ化場） ・サケやサケを取り巻く海洋環境、これまでの学びの理解を深める。	○国語「言葉の学習をふり返る」 ○国語「聞いてほしい、この思い」 スピーチ
12月	□荒巻サケづくり	○社会「世界の中の日本」 ○理科「地球に生きる」 環境
3月	○学びのふりかえり	○道徳「白神山地」 ○道徳「愛華さんからのメッセージ」 ○道徳「土石流の中で救われた命」 ○道徳「命の重さはみな同じ」 ○道徳「エンザロ村のかまど」 ○道徳「夜空～光の旅」 ○道徳「タマゾン川」

※3年生以上は、弾力的な単元構成をしていく。



1 単元名 「うみで あそぼう」

2 単元の目標

- 地域の海と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見つけ、自然の様子や面白さに気づくとともに、地域の海への親しみを感じ、遊びや生活を楽しむことができるようにする。

3 単元でつきたい力

- 地域の海と関わる活動をとおして、身近な自然の様子や面白さに気づく力
- 地域の海と関わる活動をとおし、身近な海への親しみを感じ、遊びを楽しもうとする態度

4 単元計画（全12時数）

- 海について知っていることイメージマップで整理し、単元の計画を立てる。（1）
- 遠足のめあてときまりを考える。（1）
- 海ではたらく人の話を聞き、磯遊びを楽しむ。（行事4）
- 遠足・磯遊びを振り返る。（1）
- 磯遊びで心に残ったことを絵画に表す。（図工2）
- 海の生き物を粘土で表現する。（図工2）
- 海の学習について振り返る。（1）

5 指導上の留意点

- 道路を歩く際の交通ルールや、海で安全に遊ぶためのきまりについて、事前指導をする。
- バスの運転手さんやお世話になる地域の方への挨拶、話の聞き方の指導をする。
- 海での活動の際には、見守りの人員を確保する。  
（担任+担任外2人以上。保護者の協力を得る。）
- その場に合わせた服装をする声かけを臨機応変に行う。
- 雨天時の対応について、事前に打ち合わせる。

**地域コーディネーターとの連携・確認**

- 関係各所との連絡・交渉
- 写真記録
- 緊急車両対応
- 写真記録
- 磯遊びの見守り

5 実践記録



- 八木漁港へバスで移動し、魚市場を見学した。かごいっぱいに入っている魚を見て、子どもたちは歓声をあげていた。知っている魚の名前を話したり、説明をしてくれた玉澤さんに質問をしたりして、積極的に水揚げされた魚のことを知ろうとする姿が見られた。見るだけでなく、実際に魚に触って感触を確かめることもできた。



○徒歩で移動し、製氷工場を見学した。室内の温度の低さに驚きながら、氷がどのように作られ、管理されているのかを知ることができた。見慣れている氷に比べてとても大きく、興味をもって話を聞いていた。



○バスで宿戸漁港へ移動し、磯遊びをした。磯遊びをする上での注意点を確認し、グループごとに海の生き物を探した。リーダーを中心に、グループでまとまって行動することができた。カニや魚を見つけると大喜びし、捕まえ方を教え合う場面も見られた。また、ヒトデは、岩の陰に隠れていることに気づき、岩をひっくり返したり覗いたりして、様々な色のヒトデを見つけることができた児童もいた。実際に海の生き物に触れる楽しさを感じることができた体験だった。



○元宿戸小職員の小室圭稔先生をお招きし、磯遊びで心に残ったことを絵に表した。タンポを用いて絵の具での色付けに挑戦し、色をつける場所や重ね方を工夫することができた。また、見つけた海の生き物を思い出しながら、細部まで丁寧に粘土で表現することができた。



## 6 成果と課題

○2年生をリーダーとしたグループ行動ができた。それぞれが声を掛け合いながら、安全に気をつけて活動することができた。

○地域の方の協力のもと、海の生き物に実際に触れたり、質問をしたりしながら、理解を深めることができた。

○宿戸のよさを知り、「もっと知りたい」という意欲をもつことができた。

△魚市場で働く方々の動線を妨げないように、見学する位置について事前に指導が必要だった。

△急な天気の変化も予測し、雨天時の対応や児童の持ち物をあらかじめ確認しておく必要がある。

1 単元名 「宿戸のすてきをみつけよう！」

2 単元の目標

- 稚ウニの放流・乗船体験を通して、自分たちの地域ではウニを育てていることを学び、地域の自慢であるウニの成長を楽しむ気持ちを育てるとともに、この活動にかかわる地域の人々とのふれあいをおして、海に親しみや愛着をもち、宿戸のよさに気づく力を育てる。

3 単元でつきたい力

- 地域の海と関わる活動をおして、身近な自然の様子や面白さに気づく力
- 地域の海と関わる活動をおし、身近な海への親しみを感じ、遊びを楽しもうとする態度

4 単元計画（全12時間）

- 稚ウニ放流の計画を立てる。（1）
- 国語科「外国の小学校について聞こう」をおして、話を聞くときに気をつけることや聞きたいことをおとさずに聞くための学習をする。（国語2）
- 稚ウニの放流や乗船体験をする。（3）（5/16）
- インタビューしたことをまとめる。（稚ウニ放流のふりかえりをする。お礼の手紙を書く。）
- 体験をもとに、分かったことを絵や文でまとめる。
- ごみ0運動を行う（行事1）
- 遠足・磯遊びのめあてときまりを考える。（学活1）
- 遠足を楽しむ。（行事4）
- 海の生き物を絵画に表す。（図工2）
- 国語科「かんさつしたことを書こう」の学習をおして、海の学習について語と語の続き方について気をつけてお礼の文章を書く。（国語2）
- 遠足を振り返る。（1）
- 海の学習について振り返る。（2）

5 指導上の留意点

- 遠足や、磯遊びは徒歩移動であるため、交通ルールを守ることや、海で安全に遊ぶためのきまりの事前指導をしっかりと行う。
- 集団行動の規律を守って安全に行動できるように事前指導をする。
- 見学して学んだことを交流し合うことで学習のまとめにつながるよう指導する。

**地域コーディネーターとの連携・確認**

- 見学先との連絡・交渉（漁協・ゲストティーチャー）
- 見学の写真による記録

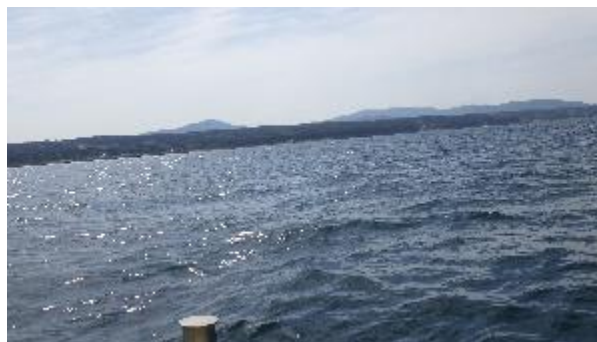
6 実践記録

- 2年生のテーマを提示  
「宿戸のすてきなところは？」とイメージマップを広げることから活動をスタートさせた。自分たちのすぐ近くに海がある環境や1年生の時に体験した海での活動から、すぐに「海」、そして「ウニ」が挙がり、2年生恒例の稚ウニ放流の活動へとつなげることができた。
- 稚ウニ放流・乗船体験の様子





○乗船体験をさせてもらうことで、海で仕事をすることを味わい、「楽しい」「たいへんそう」とつぶやいていた。また、沖へ連れて行ってもらうことでいつもと逆の景色を見せていただき、自分たちの住む地域への愛着をもつ機会となった。



○遠足の様子

○磯遊びの様子（漁協の方の見守り）

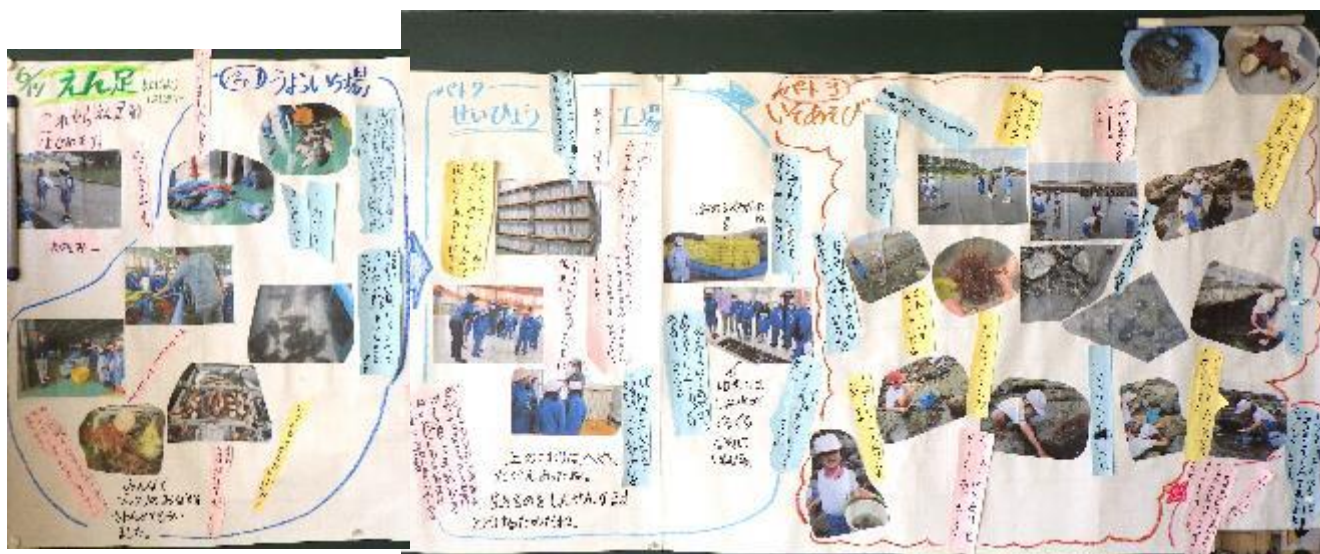


・見たこともない魚もたくさん獲れることを知った。  
 ・製氷工場は、このような魚が獲れることで必要なものだと分かった。

・漁協の方が見守ってくださるので、知りたいことをすぐに教えてもらえる環境である。

○まとめる・振り返る

時系列ごとにどんな活動をしたか、どんなことが新しい発見となったかを書き込むとともに、一人一人のノートにも思いを記した。廊下に掲示し、他学年にもみてもらえるようにした。





地域コーディネーターから、稚ウニを使った飾りをいただき、大きくなることを楽しみしている様子がかがえた。また、自分たちが5年生になったとき、放流したウニが大きく育ち、おいしいウニとなることを聞き、未来の活動の見通しをもつことができた。



## 6 成果と課題

- 体験活動や人とのかかわりから、自分たちの住む地域の特徴を感じ、親しみをもって学習することができた。
- 地域の方の協力のもと、海の生き物に実際に触れたり、地域で働く人に質問をしたりしながら、理解を深めることができた。
- 国語科や図工科と関連させながら、生活科のねらいにそった単元づくりを行うことができた。  
△伝え合う活動を十分に行うことができるようしっかりした計画が必要であった。  
△遠足では、雨天の場合の計画も立案する必要がある。

1 単元名 「発見！宿戸」

2 単元の目標

- 地域の特産品である「ウニ」の栽培を支える環境や関わる人々の努力や工夫を知ることから、自分たちが生活している地域には様々な魅力や恵まれた自然環境があることを知り、地域に対する誇りや愛情をもつことができる。

3 単元でつけたい力

- 地域の特産品について知り、豊かな自然環境と自分たちの生活が結びついていることに気づく力
- 地域のすばらしさを見つける活動を通して、地域に対する誇りと愛情をもつとともに、自分の学びや生活に生かしていこうとする態度

4 単元計画（全20時間）

- 生活科で行った「海の学習」について振り返る。（1）
- ウニについて知っていることを話し合い、学習の計画を立てる。（2）
- ウニ採り、増殖溝や荷捌き場の見学をする。（3）
- インタビューしたことをまとめる。（2）
- 体験をもとに、分かったことを絵や文でまとめる。（5）
- まとめの交流をする。（1）
- ごみ0運動を行う（行事1）
- ごみ0運動を振り返り、海の環境について考える。（2）
- 徒歩遠足の目標やきまりを確認する。（1）
- 徒歩遠足に行く。（行事4）
- 徒歩遠足を振り返る。（1）
- 単元を通して学んだこと、考えたことについて振り返る。（2）

5 指導上の留意点

- 集団行動の規律を守って安全に行動できるように事前指導をする。
- 見学して学んだことを交流し合うことで学習のまとめにつながるよう指導する。

**地域コーディネーターとの関連**

- 見学先との連絡・交渉
- 見学の記録

6 実践記録

○活動の見直し

前学年で学習したウニについて振り返る中で、ごみ0運動をした際に海の環境を大切にしていることや宿戸の特産品としてウニが有名なことを確かめ「発見！宿戸」として、宿戸の自慢できるものとしてウニについて調べてまとめていくことにした。

○ウニ採り見学（宿戸漁港、増殖溝）

増殖溝を実際に見学しながら、ウニ採りの仕方、種類、天気や自然とともにあるため年間に数回しかできないこと、干潮の今は陸地も見えるが、満潮時になるとすべて海水で満たされること、宿戸の美味しいウニを安定して収穫できるように増殖溝が作られたことや、美味しいワカメや昆布が育つ海だからおいしいウニが育つことを知ることができた。



増殖溝を見ながら、漁協の方にウニについての説明をしていただく。



説明を聞いた後に、ウニについての質問に答えていただく。



カギがついた棒を使いながら、ウニ採りの実演と説明をしていただく。



宿戸の美味しいウニを育てる増殖溝の様子。おいしさの秘密を知ることができました。



収穫したウニを軽トラックに積み、荷捌き場へと運んでいく様子を見学する。



○宿戸漁協荷捌き場見学



手早い作業で次々に殻割されていくウニ。

殺菌された海水でおいしさが保たれます。

殺菌された海水。

○まとめる・振り返る

見学とインタビューを通して知ることができたことや分かったことなどを基に、自分の調べたことや発見したことの中から3つに絞り、絵と文でまとめた。



6 成果と課題

- ウニ漁見学で、宿戸のウニ漁の様子やおいしいウニになるわけを学ぶことができた。
- 地域の人達がウニ漁に携わっていることや大切にしていることを知り、海の環境を守り、いつまでもウニを自慢できるものとしていきたい意識が高まった。
- △単元計画の中で、伝え合う活動の時間を十分に保証することが必要である。

7 今後の活動

地域の他の特産品として、10月にしいたけ栽培について学習するが、その際に、地域の気候を利用しているという共通点や山と海のつながりについても気づかせていく。

1 単元名 「種市海浜公園徒歩遠足」

2 単元の目標

- 長い距離を歩くことや自然に親しむことを通して、ふるさとの海のよさを体験から学ぶとともに集団の一員として、責任、協力など望ましい集団行動ができるようにする。

3 単元でつきたい力

- 徒歩遠足を通して、地域が豊かな自然環境に支えられていることや自分たちの生活と大きな関わりがあることに気づく力。
- 徒歩遠足を通して、問いをもち、解決方法を考える課題設定の力。

4 単元計画（全6時数）

- 徒歩遠足の目標やきまりを確認する。（海洋1）
- 徒歩遠足に行く。（行事4）
- 徒歩遠足を振り返る。（海洋1）

5 指導上の留意点

- 1列を基本として、自動車や自転車に注意をし、職員が適宜、列に混ざりながら安全確保する。
- 朝の健康観察の際、具合の悪い児童がいた場合、家庭に連絡し、参加・不参加の相談をする。
- 救急薬品、児童名簿、笛、携帯電話を携帯する。
- 事故などの緊急の場合は、学校に連絡し、適切な対応をする。
- カラス対策として、人の配置、若しくは施設の中を借用する。
- 集めたゴミは、緊急車両に乗せて運ぶ。
- 着替えの際には、更衣室を借用することができるように事前に連絡をしておく。
- 生き物を捕まえた際は、持ち帰らない。

6 実践記録

- 3年生と4年生が混ざるような班構成にし、しりとりをしたり好きなアニメの話をしたりしながら5.3キロを歩いた。途中には川が流れており「あっ、魚がいるよ！」と川の中の様子を観察する場面も見られた。長い距離にも関わらず子どもたちは疲れた様子を見せることなく目的地の種市海浜公園を目指した。





○種市海浜公園のゴミ拾いを行った。宿戸浜のゴミ拾いをしたときのゴミの様子と比べて、「こっちにも外国のゴミが落ちている！」「宿戸浜と同じくらいゴミが落ちている。なんでこんなにゴミが多いの？」「注射器が落ちている。なんで注射器が？」「コロナが関係しているんじゃない？」とゴミ拾いをとおして様々なことに気が付く様子が見られた。自分たちの地域の海が汚れていることに関心をもち、「これからもゴミ拾いをしていく必要がある。」と、これからの生活についても考えることができた。子どもの中には、「ゴミ拾いをしててもゴミが出続けるなら意味がないから、ゴミを出さないようにしないとダメなような気がする。」と話す子もあり、来年以降の海洋の学習にもつながる視点をもつことができていた。



○自由時間として砂浜で遊んだり、川で魚を捕まえたりした。海水は冷たかったが、各々で遊び方を考えて仲良く遊ぶことができた。前半は、砂浜で遊ぶ子が多かったが、後半は多くの子が川へ行き、魚を探したりカニを探したりと生き物と触れ合う時間が中心となった。



## 6 成果と課題

- 種市海浜公園へ向かう途中の植物や川の様子，ゴミ拾いを通して感じた感想など，各活動を通して地域の自然環境の豊かさや生活の関わりについては気づくことができた。
- ゴミ拾いを通して，ゴミ拾いをするのではなく，ゴミを出さないようにすることが大切なことに気づき，新たな課題を設定することができた。
- 中学年として，一つのグループに3・4年生が混在する編成にしたことで異年齢による交流をすることができた。
- △これからの活動に向けた課題をもつことはできたが，その課題を解決していく活動が高学年の活動内容と重なる部分がある。そのため，子どもが見出した課題を1年間の中の探究サイクルで解決していくことはできなかった。海に親しむ中で，子どもが見出す様々な課題に対し，どのように進めていくべきなのか考えていく必要がある。

- 1 単元名 「洋野町の水産業調査隊～宿戸がほこる極上のウニをもとめて海の旅～」
- 2 単元の目標
  - 洋野町の特産であるウニがおいしくたくさん育つひみつを調査する活動を通して、ウニの成長を支える恵まれた自然環境や関わる人々の努力や工夫を知り、地域に対する誇りや愛情をもち、自己の生き方について考えることができる。
- 3 単元でつけたい力
  - 洋野町のウニについて調べた情報を整理・分析し自分の考えをもち、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力。
  - 洋野町のウニについて調べ、持続可能な開発のために、考えたり、行動したりする力。
- 4 単元計画（全20時数）
  - 学習の概要を知り、1年間の活動の見通しをもつ。（1）
  - 洋野町のウニのおいしさやたくさんとれる理由について問いをもつ。（1）
  - 増殖溝やウニ漁業栽培センターを見学したり、インタビューをしたりして、ウニが品質よく育つひみつを調べる。
    - 水産教室（増殖溝見学・殻割り体験）（3）
    - 漁協荷捌き場見学（3）
    - ウニ栽培漁業センター見学（3）
    - 増殖溝について学ぶ。（1）
  - 洋野町のウニがおいしくたくさん育つひみつをどのように発信するか考える。（1）
  - 考えた方法でまとめる。（2）
  - まとめを交流し、次の課題を考える。（1）
  - ウニの養殖・加工について調べる。
    - 北三陸ファクトリー見学（2）
  - 単元を通して学んだこと、考えたことを振り返る。（2）
- 5 指導上の留意点
  - 集団行動の規律を守って、安全に行動できるように事前指導をする。
  - 体験を通して学んだことから課題を設定し、学習のまとめができるよう指導する。

**地域コーディネーターとの連携・確認**

- 見学先との連絡・交渉。
- 見学の記録。

6 実践記録

- 1年間の活動の見通し

学習の導入では、前学年までの既習の内容を子ども達と確認しながら、「何を」「何のために」「どのように」探求していきたいのかについて話し合いをした。話し合う中で、『洋野町のウニがなぜ「極上のウニ」と呼ばれているのか』という疑問が生まれ、その疑問を解決するために調べる方法やまとめる方法について考えを整理していった。「洋野町の極上のウニについて知らない人に知ってもらい、洋野町の水産業をもっと活性化させたい」という考えから、「洋野町をPRしよう」というゴールが決まり、1年間の学習の見通しをたてることができた。



○水産教室（増殖溝見学、殻割り体験）

実際に増殖溝の様子を見学したり、ウニの殻割りをさせてもらったりした。洋野町のウニが増殖溝でどのように育っているのかについて体験を通して学習を進めることができた。また、殻割り体験をしたことで、ウニの体の特徴や、食べるえさのちがいで味や見た目が変わることを学ぶことができた。



○漁協荷捌き場見学

2日間に分けて見学を行った。1日目は実際に荷捌き場でウニの殻割りをしている様子を見学した。ウニの殻を割り、きれいなウニの身だけを選別している様子から、たくさんの人が「極上のウニ」に関わっていることを知ることができた。2日目は、1日目に選別したウニの身を、商品として発送するために瓶詰めしている様子を見学した。きれいに詰める方法や、美味しいウニを売るための工夫などを教えていただいた。



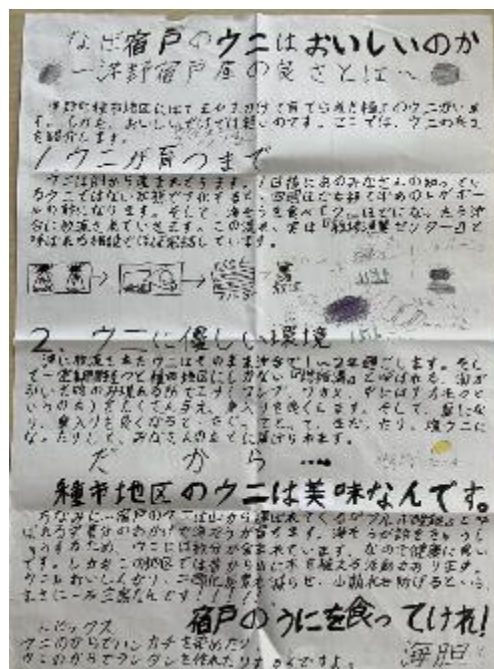
○考えた方法でまとめる

「極上のウニ」について学校のみみんなに知ってもらいたいという子ども達の考えから、大きな模造紙にグループごとにまとめる活動をした。ウニの生態や宿戸のウニがどうして美味しいのかについて、実際に体験したことをもとにまとめることができた。

7 成果と課題

○ 地域の人材や施設を生かして学習を進めることができた。様々な場所に見学に行くことで、洋野町のウニには多くの人に関わっていることや地域の人の思いを感じることもでき、貴重な学習となった。

△ 自然状況が関わってくる見学先が多く、予定通りに学習を進めることができないことがあった。余裕を持った計画が必要である。





1 単元名 「わたしの卒業論文」

2 単元の目標

- これまでの海洋学習での学びを振り返ってまとめたり、海洋環境について考えたり調べたりしたことを卒業論文にまとめることを通して、海を守るために自分たちができることを考えることができるようにする。

3 単元でつきたい力

- さけの稚魚放流やこれまでの海洋学習を通して、問いをもち、解決方法を考える課題設定の力。
- 目的に応じて根拠をもって表現する力。
- 持続可能な海について考えたり行動したりする力。

4 単元計画（全30時数）

- 学習の概要を知り、1年間の活動の見通しをもつ。（1）
- さけの稚魚放流を体験し、海洋環境について問いをもつ。（4）
- 課題について調べる。（5）
- ごみゼロ運動を行い、自分の問いとの関連を考え、新たに問いをもつ。（4）
- 課題について調べる。（5）
- 海洋サミットに参加する。（総合2）
- 海洋サミットを受けて、新たに考えたことについて調べたり、まとめたりする。（4）
- 課題について調べたことを、卒業論文にまとめる。（4）
- 卒業論文を交流する。（2）
- 単元のふりかえりをする。（1）

5 指導上の留意点

- 体験活動では、児童の安全に気をつける。
- 1～5年生までの探求的な学習や、6年生での学習を通して学んできたことをいかして問いをもち、卒業論文にまとめていくよう指導する。

6 実践記録

- さけの稚魚放流を体験する。

昨年（5年生時）の秋に、さけの採卵体験をした。その際、洋野町の海に帰ってくるさけが減ってきていることを知り、それには環境問題が関わっていることを学んだ。そして、洋野町の海のために「わたしたちにできること」として、さけの稚魚を放流することにしていた。

さけの稚魚を放流する際も、いつもよりも少ない採卵だったため、少ない量の稚魚の放流になっていることや、あまりにもさけの漁獲が少ないと、さけますふ化場の継続が難しいことなどの話を聞いた。この体験後、これまでの学びと関連させて、分かったことを整理分析した際のふりかえりには、環境問題について考えていく必要があること、改めて安定しておいしいウニがとれる洋野町の増殖溝の素晴らしさを感じたということが書かれていた。



### ○ごみゼロ運動から海洋環境を考える。

昨年に引き続き、宿戸の浜のゴミ拾いを行った。改めて、ごみの多さに驚く子どもたち。中でもプラスチックごみが多かった。プラスチックごみが問題になっていることは知っていたが、身近な海にもプラスチックごみがあり、世界規模の問題は、身近な問題でもあることに気づくことができた。また、ごみを減らすためにできることは何だろう、という問いなど、海洋環境への視点をもつことができた。



### ○卒業論文への取組

これまでの探求学習を通して学んできたことを卒業論文にまとめることで、海洋学習での学びの集大成といえるものとなり、自分たちが学んできた成果や成長を実感することができた。また、そのふりかえりでは、新たな問いが生まれたり、これから実践していかなければならないことについて気づいたりする児童がおり、これからも探求的な活動を進めていくことが必要だということも考えることもできた。



## 7 成果と課題

○1年生から5年生までの探求的学習を通して学んできたことを生かすことができた。

○6年間の海洋学習の集大成といえるまとめをすることで、自分たちの学びや成長を実感することができた。

△それぞれの問いについて探求する段階で、教師側が地域の人材や施設とつなぐことができなかった。本やインターネット、これまでの体験だけでなく、一人一人の調べる方法を吟味し、人とつなぐことや、施設とつなぐことができるとよい。

# 洋野町立中野小学校

# 洋野町立中野小学校 第1学年 ストーリーマップ

主な関連機関	内容
地域ボランティア	児童の安全・見守り

【テーマ】海への親しみ ・楽しい海 ・海での遊び

【目標】・身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気付き、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。

【海洋教育の視点】 「海に親しむ」 「海を知る」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1・2・3月
活動の流れ	<b>単元名 「つくろう あそぼう なかのの たからで」 (28時間)</b>									
			<p><b>A(体験)</b>  <b>〇うげはまに いこう</b>                      ・有家浜の砂浜で遊び、砂遊びを楽しむ。(2)</p> <p><b>D(表現・活動)</b>  <b>〇たのしかったことをつたえよう</b>                      ・楽しさや知ったことを絵やクイズにする。(4)</p>		<p><b>A(体験)</b>  <b>〇がっこうのまわりで あきをさがそう</b>                      ・秋の自然の様子に気づく。(4)</p> <p><b>A(体験)</b>  <b>〇はっぱやみであそぼう</b>                      ・学校の周りで見つけた木の実や葉っぱをつかって遊ぶ。(2)</p>	<p><b>A(体験)</b>  <b>〇うげはまに またいこう</b>                      ・流木、シーグラス、貝殻など遊びの道具になりそうな物をさがす。(2)</p> <p><b>B(思い・願い)</b>  <b>〇どんなあそびができるかな</b>                      ・学校の周りや有家浜で見つけた物を使って、どんな遊びができるか考える。(1)</p>		<p><b>D(表現・活動)</b>  <b>〇つくってみよう</b>                      ・学校の周りでとれた物や有家浜で見つけた物を使って、遊ぶ道具を作る。(4)</p> <p><b>D(表現・活動)</b>  <b>〇あそんでみよう</b>                      ・遊びを交流し、更に楽しい遊びになるために意見の交換し、改善する。(3)</p> <p><b>B(思い・願い)</b>  <b>〇こどもえんのみんなとあそぼう</b>                      ・園児が楽しく遊べるように工夫する。(4)</p> <p><b>E(振り返り)</b>  <b>〇学習をふりかえる</b>                      ・活動を通して、楽しかったことや中野の自然について感じたことをまとめる。(2)</p>		
関連			・「さらさら だるだるいい気持ち」(図工)	・「えにつきを かこう」(国語) ・「うきうきボックス」(図工) ・「元気でね、あげはくん」(道徳)	・はってかさねて(図工) ・うみ(音楽)	・「はなしたいな ききたいな」(国語)	・「おしらせします！にっこりニュース」(図工) ・なににみえるかな(国語) ・発見したよ(国語)	・「おもい出してかこう」(国語)		・おにぎりの日 ・おもい出してかこう(国語)

洋野町立中野小学校 第2学年 ストーリーマップ

○主な関連機関	・内容
○種市南漁協組合	・海や川の生き物の取り方や自然のことについて教えてもらう。

【テーマ】 地域の自然や生き物

- 【目標】
- ・生き物を探して捕まえる活動を通して、生物が育つ場所に関心をもって働きかけることができ、自分たちと同じように生命をもっていることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとするすることができる。(1、2学期)
  - ・海・川などへ行き、生き物や水、砂などを見たり、触ったりする活動を通して、それぞれの場所の違いや特徴を見付けたり考えたりすることができ、自分たちの住んでいる地域は豊かな自然が多くあることに気付くとともに、自然や地域への愛着をもつことができる。(1、2学期)
  - ・体験したことを伝え合う活動を通して、それらを伝える相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさが分かるとともに、進んで伝える相手と触れ合い、交流することができる。(2学期)

【海洋教育の視点】 「海に親しむ」「海を知る」「海を利用する」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12・1・2・3月
海洋科へつなげる生活科の学習の流れ	<b>単元名「しぜんと なかよし たんけんたい」(20時間)</b>							<b>単元名「はっぴょうします わたしのお気に入り～海・川との触れ合いを通して～」(9時間)</b>	
	<b>A(体験)</b> <b>○春の有家川に行こう</b> ・鮭の稚魚を放流する(1) ・春の有家川の様子を見に行く(2)		<b>A(体験)</b> <b>○有家浜へ行こう</b> ・有家浜へ行き、海の生き物を探したり、捕まえたりする(2)		<b>A(体験)</b> <b>○夏の有家川で、自然と触れ合おう</b> ・前単元「しぜんと なかよし たんけんたい」を振り返る(1) ・有家川へ行き、川遊びをしながら、春の様子との違いを見つめる。(3)		<b>A(体験)</b> <b>○秋の有家川へ行こう</b> ・秋の有家川の様子を見に行く(2)		<b>D(表現・活動)</b> <b>○わたしのお気に入り伝えよう</b> ・海と川の中から1番のお気に入りを決める(1) ・お気に入りを、誰に、どのように伝えるのか考える(2) ・相手意識をもちながら、発表の準備をする(4) ・相手意識をもちながら、グループごとに発表をする(1)
<b>B(思い・願い・気付き)</b> <b>○春の有家川で気付いたことを整理しよう</b> ・春の有家川の様子を振り返る(2)		<b>B(思い・願い・気付き)</b> <b>○有家浜で気付いたことを整理しよう</b> ・海にはどんな生き物がいたのか振り返る(2) <b>○有家川と有家浜のすてきを整理しよう</b> ・海と川の様子を比べながら気付いたことを整理する(3)		<b>B(思い・願い・気付き)</b> <b>○夏の有家川で、気付いたことを整理しよう</b> ・夏の有家川へ行って、気付いたことを整理する(1)		<b>B(思い・願い・気付き)</b> <b>○秋の有家川で、気付いたことを整理しよう</b> ・秋の有家川へ行って、気付いたことを整理する(1)		<b>E(振り返り)</b> ・学習したことを振り返り、自然に対する思いや願い・新たな問いなどについて考え、発表し合う。(1)	
関連	・国語科 「すきなこと、なあに」 「いくつあつめられるかな」 ・生活科 「春だ今日から2年生」	・国語科 「としよかんへ行こう」 「たんぼぼ」 「こんなことしているよ」 ・道徳科「しぜんのいのち」 「見つけたよ」	・国語科 「かんさつしたことを書こう」 「ことばで絵をつたえよう」 ・生活科 「どきどき わくわく まちたんけん」	・国語科 「サツマイモのそだて方」 ・音楽科 「ぶっかりくじら」	・国語科 「うれしくなることばをあつめよう」	・音楽科 「虫のこえ」 「いるかはざんぶらこ」 「山のボルカ」 ・生活科 「みんなでつかうまちのしせつ」	・国語科 「ビーバーの大工事」 「あそび方をせつ明しよう」 ・生活科 「もっと なかよし まちたんけん」 「つながる 広がる わたしの生活」		



洋野町立中野小学校 第3学年 ストーリーマップ

主な関連機関	内容
種市南漁協	地域の海の生き物を調べる。
県北広域振興局 水産部	地域の海の生き物を調べる。

【テーマ】 海洋生物と環境 ・地域の海洋生物 ・地域の特産

【目標】 潮風トレイルを散策する活動を通して、地域の海が豊かな自然環境に支えられていることや自分たちの生活と大きな関わりがあることに気づき、見つけた課題について探究するとともに、地域の海に誇りと愛情をもって大切にしようと考えられるようにする。

(ア) 地域が豊かな自然環境に支えられていることや自分たちの生活と大きく関わりがあることに気付く。【知識・技能】

(イ) 地域の海に対する問いをもち、それらを解決する方法を考え、学んだことを分かりやすく伝えることができる。【思考・判断・表現】

(ウ) 探究活動に進んで取り組み、地域の海の豊かさに気付いて大切にしていこうとしている。【学びに向かう力・人間性】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1・2・3月	
海洋科の活動の流れ	<b>単元名「海のふしぎを調べてまとめよう」 (30時間)</b>										
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション(1)</li> <li>・海洋学習について知る。</li> <li>・学習の見通しをもつ。</li> </ul>	<b>【A 体験】</b> <b>潮風トレイルで海のふしぎを見つけよう。</b> ○潮風トレイルの計画を立てる。(1) ○地域の海を散策し、海の様子を知る。(2) ○潮風トレイルをふりかえり、見つけた不思議を全体で共有し、調べる大きなテーマを設定する。(1) ○本やインターネットを使って自分の興味のあることについて調べる。(3) ○本やインターネットで分からなかったことを共有し、もう一度潮風トレイルに行き行って調べることを確かめる。(1) ○もう一度地域の海を散策し、視点に沿って調べる。(2) ○2回目の潮風トレイルを振り返り、視点に沿って調べたことを全体で共有する。(1)			<b>【B 疑問・問題】</b> <b>見つけたふしぎから詳しく調べることを選ぼう。</b> ○課題を設定し、調べる項目を選ぶ。(1)		<b>【C 探究】</b> <b>見つけたふしぎについて詳しく調べよう。</b> ○課題について調べる計画を立てる。(1) ○情報収集。(8) ・インターネットで調べる。 ・図書室で調べる。 ・詳しい人に尋ねる。		<b>【D 表現・活動】</b> <b>調べたことをまとめよう。</b> ○調べたことを整理し、まとめる。(4) <b>調べたふしぎについて発表しよう。</b> ○調べた不思議について発表する。(3)		<b>【E 振り返り】</b> ・学習を振り返る(1)
関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科「わたしたちのまちと市」</li> <li>・おにぎりの日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科「こん虫を調べよう」</li> <li>・国語「インタビューをしてメモを取るう」</li> <li>・道徳「ひきがえるとらば」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報教育 ◎インターネットにアクセスすることができる。</li> <li>◎プリンターを使って印刷できる。</li> <li>○キーボードで文字入力ができる。</li> <li>・海はともだち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語「文字やさくいを活用しよう」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語「調べて書こう、わたしのレポート」</li> <li>・社会科「働く人とわたしたちの暮らし」</li> <li>・道徳「心をつないだ合言葉」</li> <li>・総合「シイタケを育てよう」</li> <li>・わたしたちの洋野 p34～37, p64, 65</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おにぎりの日</li> <li>・海洋教育子どもサミット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おにぎりの日</li> <li>・東大サミット</li> </ul>				

【海洋教育の視点】 「海に親しむ」「海を知る」

洋野町立中野小学校 第4学年 ストーリーマップ

【テーマ】 水の循環と環境 ・安全 ・環境保全

【目標】

・地域の自然環境について問いを持ち、体験活動を通して山―

川―海をつながり調べること、水の循環の仕組みを理解したり、洋野町で海産物が豊富にとれる理由を考えたりすることができる。

・地域の自然環境への誇りと愛情を持ち、それらを守るために自分にできることを具体的に考え、行動することができる。

(ア) 地域の自然の様子を知り、具体的な行動をしようとする。【知識・技能】

(イ) 地域の自然について、体験活動を通して情報を整理・分析したり、分かりやすく伝えようとしていたりしている。【思考・判断・表現】

(ウ) 地域の自然について意欲的に学び、自分たちができることを考え、行動しようとしている。【学びに向かう力・人間性】

【海洋教育の視点】 「海を知る」「海を守る」

主な関連機関	内容
県北広域振興局	水生生物調査をして有家川の水質を調べる。
大野の自然を守る会 松橋栄さん	源流探索を通して源流が川や海へ影響を与えることを知る。
久慈地域森林組合	植林体験を通して山の環境が源流、川、海へ影響を与えることを知る。
ひろのまきば天文台 阿部俊夫さん	森の役割と山―川―海をつながりについて知る。

4, 5月	6月, 7月	8月	9月	10月	11月	12~3月
				主な関連機関 岩手県栽培漁業協会	内容 ウーの生態や海洋環境、育てる人々の工夫や努力を知る。	

単元名「水の旅～山から川へ、そして海へ～」 (30時間)

海洋科の活動の流れ  ○水はどこからどこへ行くのか考え、問いをもつ。 ○前学年の海洋学習を振り返る。 <b>オリエンテーション(1時間)</b>	<b>A(体験)(15)</b>			<b>B(疑問・問題)(1)</b>		<b>D(表現・活動)(7)</b>		<b>E(振り返り)(1)</b>			
	<b>有家川の水質調査に出かけよう</b> ○有家川の水質調査の計画を立てる。(1) ○水質調査(2回目)をする。(1) ○ゲストティーチャー(GT)の話を聞く。(1) ○有家川の水質について分かったことや思ったこと、疑問等をまとめる。(1)			<b>源流探索に出かけよう</b> ○源流探索の計画を立てる。(1) ○源流探索をする。(2) ○GTの話を聞く。(1) ○源流探索を通して分かったことや思ったこと、疑問等をまとめ、振り返る。(1)		<b>植林体験に出かけよう</b> ○植林体験の計画を立てる。(1) ○植林体験をする。(1) ○GTの話を聞く。(1) ○植林体験を通して分かったことや思ったこと、疑問等をまとめ、振り返る。(1)		<b>山―川―海をつながりについて調べる課題を立てよう</b> ○有家川の水質調査の結果やGTの話から疑問をもち、課題を設定する。予想を立てるとともに、マップを使いながら予想したり、調べることや調べる方法について計画を立てたりする。		<b>分かったことや調べたことをまとめよう</b> ○整理・分析したことについて資料(ポスター、紙芝居等)を作成し、友達や他学年に伝える。(6)	
	<b>C(探究)(5)</b>			<b>設定した課題について調べよう</b> ○自身の設定した課題について、マップを使いながら今までの学習で学んだことや、足りない部分について調べ、整理・分析する。		<b>自然を守るために、自分達にできることについて取り組もう</b> ○洋野町の自然に対する思いや願いを交流し合う。また、実行可能な行動を考え、実践する。(1)					

関連 ・算数「折れ線グラフ」 ・国語「確かめながら話を聞こう」 ・社会科「水はどこから」 ・理科「自然の中の水の姿」「雨水のゆくえ」 ・海はともだち ・学活「災害時の行動」	・おにぎりの日 ・海洋教育子どもサミット	・国語「調べたことを報告しよう」 ・国語「言葉で考えを伝える」
--	-------------------------	------------------------------------

# 洋野町立中野小学校 第5学年 ストーリーマップ

【テーマ】 水産業と環境

【目標】 ・ウニやサケについて問いをもち、探究的な活動を通して、ウニやサケの成長を支える環境や関わる人々の工夫に気付くことができる。

・ウニやサケについて、自ら課題を見つけ、疑問の解決のために情報を収集、分析・整理して、まとめることができる。

(ア) 洋野町のウニやサケは地域の海洋環境と関わって育っていることを理解している。【知識・技能】

(イ) ウニやサケの生態や、地域の環境について、自ら課題を見つけている。【思考・判断・表現】

(ウ) 洋野町のウニやサケの良さに気付き、それらを大切にしようという思いをもち、学んだことを身近な人々に発信しようとしている。【学びに向かう力、人間性】

【海洋教育の視点】 「海を知る」「海を守る」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1・2・3月	
<b>単元名「洋野の海のひみつを探ろう」 (30時間)</b>											
海洋科の活動の流れ	<p>オリエンテーション(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前学年の海洋学習を振り返る。</li> <li>洋野町の特産物調べをする。</li> <li>5年生の学習内容を知り、見通しをもつ。</li> </ul>	<p><b>A(体験)-①</b></p> <p>○ウニを知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ウニ栽培センター、宿戸増殖溝を見学し、ウニについて知る(理科「魚のたんじょう」4時間)</li> </ul>	<p><b>C(探究)-①</b></p> <p>○洋野町でおいしいウニがとれる理由を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人の課題について調べる。(8)</li> <li>調べたことを整理し、まとめる。(1)</li> <li>まとめたことを交流する。(1)</li> </ul>	<p>海洋自由研究(夏休み)</p>	<p><b>A(体験)-②</b></p> <p>○洋野町のサケを知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>八木漁港、さけますふ化場を見学し、サケについて知る。(社会「水産業のさかんな地域」4時間)</li> </ul>	<p><b>C(探究)-②</b></p> <p>○洋野町のサケがよくとれる理由とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人の課題について調べる。(7)</li> <li>調べたことを整理し、まとめる。(1)</li> <li>まとめたことを交流する。(1)</li> </ul>	<p><b>D(表現・活動)</b></p> <p>○洋野のウニやサケを伝えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>洋野のウニやサケのよさや、漁獲量が多い理由等をグループでまとめる。(4)</li> <li>グループでまとめたものを発表する。(2)</li> </ul>	<p><b>E ふり返し(1時間)</b></p> <p>・学習したことをふり返し、新たな問いや生かしたいことについて考え、思いや願いを持つ。</p>	<p>海洋自由研究(冬休み)</p>	<p>サケの飼育</p>	
		<p><b>B(疑問・問題)-①</b></p> <p>○洋野町でおいしいウニがとれる理由とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験で知ったことを分類し、個人の課題を設定する。(1)</li> </ul>	<p><b>B(疑問・問題)-②</b></p> <p>○洋野町でサケがよくとれる理由とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験で知ったことを分類し、個人の課題を設定する。(1)</li> </ul>	<p><b>B(疑問・問題)-①</b></p> <p>○洋野町でサケがよくとれる理由とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験で知ったことを分類し、個人の課題を設定する。(1)</li> </ul>	<p><b>B(疑問・問題)-②</b></p> <p>○洋野町でサケがよくとれる理由とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験で知ったことを分類し、個人の課題を設定する。(1)</li> </ul>	<p><b>B(疑問・問題)-①</b></p> <p>○洋野町でサケがよくとれる理由とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験で知ったことを分類し、個人の課題を設定する。(1)</li> </ul>	<p><b>B(疑問・問題)-②</b></p> <p>○洋野町でサケがよくとれる理由とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験で知ったことを分類し、個人の課題を設定する。(1)</li> </ul>	<p><b>B(疑問・問題)-①</b></p> <p>○洋野町でサケがよくとれる理由とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験で知ったことを分類し、個人の課題を設定する。(1)</li> </ul>	<p><b>B(疑問・問題)-②</b></p> <p>○洋野町でサケがよくとれる理由とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験で知ったことを分類し、個人の課題を設定する。(1)</li> </ul>	<p><b>B(疑問・問題)-①</b></p> <p>○洋野町でサケがよくとれる理由とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験で知ったことを分類し、個人の課題を設定する。(1)</li> </ul>	<p><b>B(疑問・問題)-②</b></p> <p>○洋野町でサケがよくとれる理由とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験で知ったことを分類し、個人の課題を設定する。(1)</li> </ul>
関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語「事実と考えを区別しよう」</li> <li>国語「動物たちが教えてくれる海の中のくらし」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語「知りたいことを聞きだそう」</li> <li>社会「自然条件と人々のくらし」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語「環境問題について報告しよう」</li> <li>理科「魚のたんじょう」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語「新聞記事を読み比べよう」</li> <li>社会「水産業のさかんな地域」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有家浜清掃</li> <li>海はともだち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会「水産業のさかんな地域」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理科「魚のたんじょう」</li> <li>算数「算数で読みとこう」</li> <li>理科「流れる水のはたらき」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語「伝えたい、心に残る言葉」</li> <li>理科「流れる水のはたらき」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語「地域のおすすめを紹介しよう」</li> <li>算数「割合」「帯グラフと円グラフ」</li> <li>理科「生命のつながりを考えよう」</li> <li>社会「森林とともに生きる」「環境をともに守る」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語「伝えたい、心に残る言葉」</li> <li>理科「流れる水のはたらき」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語「地域のおすすめを紹介しよう」</li> <li>算数「割合」「帯グラフと円グラフ」</li> <li>理科「生命のつながりを考えよう」</li> <li>社会「森林とともに生きる」「環境をともに守る」</li> </ul>



洋野町立中野小学校 第6学年 ストーリーマップ

主な関連機関	内容
岩手県栽培漁業組合	ウニに関わる問題や環境問題を知る。
有家さけますふ化場	サケに関わる問題や環境問題を知る。

【テーマ】 環境問題と未来

【目標】 ・洋野町の水産業が抱えている問題やこれから起こりうるであろう課題に気づき、その原因を考えたり、調べたりすることができる。  
 ・進んで地域へ関わりながら課題解決し、地域の特産であるサケ（ウニ）や洋野の海を守るために自分ができることや大人に協力してほしいことなどについて考え・表現し、実践することができる。

(ア) 洋野町の水産業が抱えている問題やこれから起こりうるであろう課題に気づき、その原因を考えたり、調べたりしている。【知識・技能】

(イ) 地域の特産であるサケ（ウニ）や洋野の海を守るために自分ができることを考えたり、表現したりしている。【思考・判断・表現】

(ウ) 進んで海や地域へ関わりながら、問いやその原因を考えたり、自分ができることを実践したりしている。【主体的に学習に取り組む態度】

【海洋教育の視点】 「海を知る」「海を守る」「海を利用する」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1・2・3月
<b>単元名「洋野町の未来を考えよう～洋野の海やサケ(ウニ)を守るためにできること～」 (30時間)</b>										
海洋科の活動の流れ	オリエンテーション(1時間) ・前学年の海洋学習を振り返る。 ・6年生の学習内容を知り、学習の見通しをもつ。	<b>A(体験)</b> <b>○サケ(ウニ)の学習を振り返ろう。</b> ・前年度学んだことの振り返りをする。(1)		<b>B(疑問・問題)</b> <b>○サケ(ウニ)が直面している問題とは？</b> <b>⇒なぜ、ウニ(サケ)が獲れなくなっているのだろう？</b> <b>なぜウニの身入りが悪くなっているのだろう？</b> ・サケ(ウニ)が抱えている問題について課題意識をもち、学習計画を立てる。(1) ・サケ(ウニ)が抱えている問題の原因を考える。(2)		<b>C(探究)</b> <b>○サケ(ウニ)の抱えている問題の原因を調べよう。</b> <b>○調べたことを整理し、自分たちにできることを考えよう。</b> ・サケ(ウニ)が抱えている問題の原因をインターネットや本、GT等で詳しく調べる。(5) ・調べたことを整理し、自分たちにできることを考える。(3)		<b>D(表現・活動)</b> <b>○洋野のサケ(ウニ)を守るために、自分たちにできることをまとめ、発表しよう。</b> ・洋野のサケ(ウニ)が抱えている問題やその原因、自分たちにできることをグループでまとめる。(8) ・グループでまとめたものを全校へ発表する。(3) ・グループでまとめたものを一つにして、海洋サミットで発表する。(4)		<b>E(ふいかえり)</b> ・学習したことを振り返り、思いや願い・新たな問い・活かしたいことなどについて考え、発表し合う。(1)
		<b>サケの稚魚を放流しよう</b> ・有家川にサケの稚魚を放流する。(2)		<b>卒業論文を書こう (国語科との関連)</b>						
関連	・国語科「気持ちよく対話を続けよう」 「原因と結果に着目しよう」	・国語科「イースター島にはなぜ森林がないのか」 「友達の意見を聞いて考えよう」 ・理科「地球と私たちの暮らし」	・理科「動物のからだのはたらき」 「植物のからだのはたらき」 ・社会科「わたしたちの暮らしを支える政治」 ・道徳科「チョモランマ清掃登山隊」	・書写「書く速さ」 「インタビューのメモを取ろう」 ・理科「生き物のくらしと環境」 ・社会科「災害からわたしたちを守る政治」	・音楽科「われは海の子」 ・海はともだち	・国語「海のいのち」 ・国語科「話し合っ て考えを深めよう」 ・理科「大地のつくり」	・国語科「町の未来をえがこう」 ・道徳科「帰ってきたクニマス」	・国語科「世界に向けて意見文を書こう」 ・海洋教育子どもサミット	・国語科「プロフェッショナルたち」 ・理科「地球に生きる」 ・社会科「地球規模の課題の解決と国際協力」 (・海洋教育カンファレンス) ・おにぎりの日 ・東大サミット	

学年	単元名 (時数)
1年	「つくろう あそぼう なかののたからで」(28時間)
実施期日	令和4年 6月～12月
海洋教育の視点	親しむ 知る 守る 利用する (複数選択可)

### 1 単元のねらい

身近な人々，社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して，それらを工夫したり楽しんだりすることができ，活動のよさや大切さに気付き，自分たちの遊びや生活をよりよくできるようにする。

### 2 学習活動について

1年生の生活科の学習には，自然に親しみ，草花で遊んだり，昆虫の飼育・観察をしたり，季節に応じて水遊びや雪遊びをする単元があり，児童は楽しんで意欲的に活動をしている。さらに，本校では海洋学習に取り組んでいることから，活動範囲を海まで広げることで，海洋について体験し学ぶ機会を作っている。

最初に，児童は，海はどんな所かを知るために，夏の有家浜に行った。砂浜を歩いたり砂遊びをしたりして，校庭の砂場とは違う海水のしみ出る感触に驚いたり楽しんだりした。また，流木や漂着ごみを拾い，どこから流れてきたのかと疑問をもつ児童もいた。秋には，おもちゃ作りの材料を集めるために再び有家浜に行った。時間をかけて熱心にシーグラスや貝殻を拾う児童や，夏の海の様子と秋の海の様子の違いに気づく児童の姿が見られた。

その後，学校の周囲の野山で採集した木の実も使い，おもちゃ作りに取り組んだ。自分の集めたお気に入りの材料をどのように生かそうかと工夫しながら意欲的に取り組み自分なりのおもちゃを製作することができた。また，たくさん集めた自然物を大切に生かしたいという思いから，飾っておくもの作りにも取り組み，楽しみながら活動した。



夏の有家浜



秋の有家浜



ぼくのお気に入り！

### 3 指導の手立てについて

#### ① 手立て1 「地域素材を生かした教科等横断的な単元教材の開発」

○中野地区は海も山も近くにある自然に恵まれた土地である。中野小学校の窓からは、太平洋が見える。しかし、1年生の中には、これまでに1度も海へ行ったことのない児童が数名おり、身近にある自然の素晴らしさに気づく機会がないという実態があった。そこで、生活科の学習として、みんなで有家浜に行く機会を設けた。そして、波や砂や風の様子を観察したり、砂遊びを楽しんだり、貝殻やシーグラス、流木などの自然物を拾い集めたり、漂着ごみ拾いをして砂浜をきれいにしたりすることで、海の楽しさや面白さを味わい、きれいな海にするために自分達でもできることがあると感ずることができた。また、夏と秋の2回行ったことで海の様子の違いを観察し、植物や昆虫、野山と同様に海も季節によって様子が違うところがあると気づくことができた。そして、「海は楽しい」「この次は上の学年のように海の生き物を探してみたい」と海が好きになった児童がほとんどであった。身近な自然に親しむことを目的とする1年生の実態に合った単元だった。

#### ② 手立て2 「子どもの問いに基づく探究課題の設定の在り方」

○1回目の夏の有家浜探検の際には、波の寄せ方が影響するためか、流木は多く見つかったが、貝殻やシーグラスはほとんど拾うことができなかった。2年生から「昨年はシーグラスや貝殻や琥珀が落ちていた」と聞いていた児童らは、「自分達もシーグラスや貝殻を拾いたい。どこの海岸に行けば落ちているのだろう。」と強い興味をもった。そこで、2回目の秋の有家浜探検は、少し場所を変えてシーグラスや貝殻が打ち寄せている場所へ行った。児童は「貝だけでなく小さい石もたくさん落ちている」「波うち際に落ちている」等と夏に行った場所との違いを見つけることができた。

#### ③ 手だて3 「子供の表現を深めるための対話の在り方」

○1回目に有家浜探検した後に、海で遊んだことや見つけた物について、クイズを作った。砂の感触、波の音、海洋ごみのことなど、それぞれの印象に残ったことや興味をもったことについて絵を描いたりクイズを作ったりし、それを出し合い「海はかせクイズ大会」をすることで、一人ひとりが海について感じたことや体験したことの内容を、学級全員で共有することができた。

○自然物を使った「おもちゃ大会」で2年生と一緒に遊び、遊び方やルールを説明した。説明が伝わらない時は2年生からアドバイスをもらい、自分だけでなく相手も楽しめる工夫をすることの大切さを学ぶことができた。



おもちゃ大会

学年	単元名 (時数)
2年	しぜんと なかよし たんけんたい(全19時間)
実施期日	令和4年 4月～ 11月
海洋教育の視点	親しむ 知る 守る 利用する (複数選択可)

### 1 単元のねらい

- ・地域の海や川などへ行き、生き物や周りの様子を見たり触ったりする活動を通して、それぞれの場所の違いや特徴を見付けたり、考えたり、比べたりすることができ、自分たちの住んでいる地域は豊かな自然が多くあることに気づくとともに、自然や地域への愛着をもつことができる。
- ・体験したことを伝え合う活動を通して、伝えたいことや伝え方を選んで、伝えたい相手に伝わる楽しさを実感し、進んで交流することができる。

### 2 学習活動について

次年度以降の特別な教科「海洋科」の学習の素地を養うために、洋野町の海や川の恵まれた自然を題材にし、本単元を設定した。本単元では、海や川へ行き、生き物や周りの様子を見たり、触ったり遊んだりすることを通して、海や川のそれぞれの面白さや不思議さを感じさせた。(親しむ)(利用する)

4月に鮭の稚魚を放流するため有家川に行った際に海へつながっている川へ関心をもたせ、川の様子や四季の変化に気付き、海とは異なった川について考える視点が広がった。活動の中で、海と川と比較したり、春や夏や秋のそれぞれの川の周りの様子や生き物、水の温度や透明度など季節によって生じる変化に気付かせた。(知る)

また、海や川で見つけた面白さや不思議さを伝え合う活動を通して、洋野町には恵まれた自然が多くあることに気付かせた。(知る)

単元の終わりには、海や川の面白さや不思議など周りの人たちに伝えたいことを決め、グループで発表させ、多くの人に伝える活動を行った。

海とは異なった川について考える視点の広がりが見られ、海だけでなく、川も好き、洋野町が好きという気持ちを高めることができた。



【歩くウニに驚く】



【川でおたまじやくしを見付ける】



### 3 指導の手立てについて

#### ① 手立て1「地域素材を生かした教科等横断的な単元教材の開発」

○有家浜や有家川の豊かな自然に触れ、地域の自然の素晴らしさを感じることができた。今年度は、新たな単元を開発し、海だけでなく有家浜につながっている有家川に春、夏、秋に行き、有家川を考えることにより、海や川などを考える視点の広がりが見られた。また、有家川は学校の近くにあり児童にとっては身近な存在であるものの川で遊んだことのない児童が多く、海だけでなく川への愛着をもつなど、来年度以降の特別な教科「海洋科」の学習の素地を養うことができた。

#### ② 手立て2「子供の問いに基づく探究課題の設定の在り方」

○海と川の違いや四季の変化などを通して、自然の面白さや不思議さに気付くことができた。特に川は、次はどうなっているか周りの様子や生き物などの変化を予想しながら活動することができた。

○海と川が描いてある白地図に、海と川で気付いたことや驚いたことなどを付箋に書いて貼り、それぞれの特徴をまとめることができた。

#### ③ 手立て3「子供の表現を深めるための対話の在り方」

○海や川での体験活動の後に、面白かったことや不思議だったことなど伝え合う活動をした後に個人で振り返りをしておくことで次への活動へ意欲が高まることができた。

△海と川のどちらのすてきを伝えたいか、それぞれの何について伝えたいかをグルーピングして考えさせることにより、どのような方法で伝えるか決めることができた。伝え方について、いろいろな方法があることを教えることにより、来年度から始まる「海洋科」の学習へつながると考えられる。



【川の季節の変化に気付く(秋)】 【気付いたことを付箋に書いて  
地図に貼る】

【みつけたすてきをどのような  
方法で伝えるか考える】

学年	単元名 (時数)
2年	しぜんと なかよし たんけんたい(全19時間)
実施期日	令和4年 4月～ 11月
海洋教育の視点	親しむ 知る 守る 利用する (複数選択可)

1 単元のねらい

- ・地域の海や川などへ行き、生き物や周りの様子を見たり触ったりする活動を通して、それぞれの場所の違いや特徴を見付けたり、考えたり、比べたりすることができ、自分たちの住んでいる地域は豊かな自然が多くあることに気づくとともに、自然や地域への愛着をもつことができる。
- ・体験したことを伝え合う活動を通して、伝えたいことや伝え方を選んで、伝えたい相手に伝わる楽しさを実感し、進んで交流することができる。

2 学習活動について

次年度以降の特別な教科「海洋科」の学習の素地を養うために、洋野町の海や川の恵まれた自然を題材にし、本単元を設定した。本単元では、海や川へ行き、生き物や周りの様子を見たり、触ったり遊んだりすることを通して、海や川のそれぞれの面白さや不思議さを感じさせた。(親しむ)(利用する)

4月に鮭の稚魚を放流するため有家川に行った際に海へつながっている川へ関心をもたせ、川の様子や四季の変化に気付き、海とは異なった川について考える視点が広がった。活動の中で、海と川と比較したり、春や夏や秋のそれぞれの川の周りの様子や生き物、水の温度や透明度など季節によって生じる変化に気付かせた。(知る)

また、海や川で見つけた面白さや不思議さを伝え合う活動を通して、洋野町には恵まれた自然が多くあることに気付かせた。(知る)

単元の終わりには、海や川の面白さや不思議など周りの人たちに伝えたいことを決め、グループで発表させ、多くの人に伝える活動を行った。

海とは異なった川について考える視点の広がりが見られ、海だけでなく、川も好き、洋野町が好きという気持ちを高めることができた。



【歩くウニに驚く】



【川でおたまじやくしを見付ける】



### 3 指導の手立てについて

#### ① 手立て1「地域素材を生かした教科等横断的な単元教材の開発」

○有家浜や有家川の豊かな自然に触れ、地域の自然の素晴らしさを感じることができた。今年度は、新たな単元を開発し、海だけでなく有家浜につながっている有家川に春、夏、秋に行き、有家川を考えることにより、海や川などを考える視点の広がりが見られた。また、有家川は学校の近くにあり児童にとっては身近な存在であるものの川で遊んだことのない児童が多く、海だけでなく川への愛着をもつなど、来年度以降の特別な教科「海洋科」の学習の素地を養うことができた。

#### ② 手立て2「子供の問いに基づく探究課題の設定の在り方」

○海と川の違いや四季の変化などを通して、自然の面白さや不思議さに気付くことができた。特に川は、次はどうなっているか周りの様子や生き物などの変化を予想しながら活動することができた。

○海と川が描いてある白地図に、海と川で気付いたことや驚いたことなどを付箋に書いて貼り、それぞれの特徴をまとめることができた。

#### ③ 手立て3「子供の表現を深めるための対話の在り方」

○海や川での体験活動の後に、面白かったことや不思議だったことなど伝え合う活動をした後に個人で振り返りをしておくことで次への活動へ意欲が高まることができた。

△海と川のどちらのすてきを伝えたいか、それぞれの何について伝えたいかをグループングして考えさせることにより、どのような方法で伝えるか決めることができた。伝え方について、いろいろな方法があることを教えることにより、来年度から始まる「海洋科」の学習へつながると考えられる。



【川の季節の変化に気付く(秋)】 【気付いたことを付箋に書いて  
地図に貼る】

【みつけたすてきをどのような  
方法で伝えるか考える】

学年	単元名 (時数)
4年	水の旅～山から川へ，そして海へ～ (全 30 時間)
実施期日	令和4年4月～12月
海洋教育の視点	親しむ <u>知る</u> <u>守る</u> 利用する (複数選択可)

### 1 単元のねらい

- ・山—川—海をつなぐを調べることで，山での植林活動が川，海にもたらすよい影響や，自然環境を守ろうとする地域の人々の存在，洋野町で海産物が豊富にとれる理由などについて考えることができる。
- ・地域の豊かな自然環境に誇りと愛情をもち，それらを守るために自分にできることを具体的に考えることができる。

### 2 学習活動について

4年生では，社会科「水はどこから」の単元と連携し，水源となる山から川へ，さらに海へと流れていく水の循環の視点で学習を進めた。最初に，3学年で学んだ有家浜の学習を想起し，有家の海でいろいろな種類の生き物を見つけたことや海産物が豊富に取れることに着目し，その理由について，海に流れ込む有家川の水と何か関係があるのかもしれないとの問いをもち，川の水質調査の計画を立てた。

有家川の水質調査は2回実施した。1回目では，学習としては初となる有家川について予想を立ててから行った。「有家川の水はとてもきれいだということが分かった」「これは何という生き物だろう」のように感想を抱くとともに，「どうして有家川の水はきれいなのだろうか」等疑問を持たせた上で，2回目を実施した。(海を知る) 2回目は県北広域振興局から講師の方をお呼びし，質疑応答等交えながら実施した。川と海につながりに気付くと，児童から「次は山(から流れる水)について調べた方がよいと思う」という声が自然と挙がった。今年度は洋野町主催の植林活動「森は巡る」が開催され，植林を通じた自然環境を守る取り組みについて，実際の活動に参加し質疑応答等交えながら学ぶことができた。(海を守る)

さらに，今年度初となる源流探索の活動も実施し，大野の自然を守る会から松橋栄様をお呼びし，有家川の上流に位置する向田川源流と周辺環境の探索を行うとともに，実際に源流に触れながら山—川—海をつなぐについて詳しく話を聞くことができた。(海を知る) (海を守る)

そして，今までの活動を通して分かったことと自身で調べたことを合わせて，山—川—海をつなぐについてポスターにまとめ，発表活動を行い，有家の海を守るために自分たちにできる取り組みとしてごみ拾いの活動を行った。

### 3 指導の手立てについて

#### ① 手立て1 「地域素材を生かした教科等横断的な単元教材の開発」

○水の循環を通した山—川—海をつながりについて，社会科の学習と関連させ教科横断的に学習することができた。

○山とのつながりについて，今年度は植林体験に加え，源流探索といった新規の活動を実施することができた。活動を通して，児童の興味関心を高めるとともに，山と海の自然環境の関わりや植林活動の大切さ等について，さらに深く調べてみたいという気持ちを抱かせることができた。

△今回初の取り組みとなった源流探索では，時間の都合で山頂からの景色を見ることができなかった。（山頂からは有家の海を一望することができる。）

→タイムテーブルを見直し，来年度はぜひとも山頂まで行ってほしい。

△どの体験活動も，前日，前々日の天候の影響を大きく受ける。活動が実施できなかった場合の代案を，常に思案しておく必要がある。（講師の方を学校にお呼びし抗議していただく等）

#### ② 手立て2 「子供の問いに基づく探究課題の設定の在り方」

○体験活動後，山—川—海をつなぐキーワードとなるものについて児童から挙げたものを，付箋を用いてまとめた。「山—川のつながり」，「川—海をつながり」，「山—川—海をつながり」の3つのパターンに整理し比較しやすい形にまとめた。

△体験活動を多く取り入れた分，時数的余裕が減り進度に影響が出てしまった。

→水質調査は1回で十分と思われる。

#### ③ 手立て3 「子供の表現を深めるための対話の在り方」

○探究，表現活動では，「植林グループ」「フルボ酸グループ」のように調べる内容ごとに分かれて調べ学習を行い，各グループで情報を共有しながら個人の壁掲示にまとめた。お互いの作業が見える状態で活動することで，友達の表現の工夫や良さに気づき，取り入れながら活動に取り組めた。

△児童全体の興味関心が理科的な内容に傾き，人々の思いについて触れる場面が少なくなってしまう。

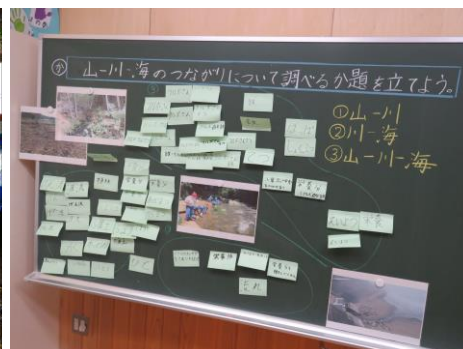
→教師の言葉がけ等を通して各項目を平等に取り扱うよう工夫が必要。



【植林体験の様子】



【源流探索の様子】



【山—川—海をつながりをもとめた様子】

学年	単元名 (時数)
5年	洋野の海のひみつを探ろう (全30時間)
実施期日	令和4年4月～12月
海洋教育の視点	親しむ <u>知る</u> <u>守る</u> 利用する (複数選択可)

### 1 単元のねらい

- ・サケ (ウニ) について問いをもち、探究的な活動を通して、サケ (ウニ) の成長を支える環境や関わる人々の工夫や努力に気付くことができる。
- ・サケ (ウニ) について、自ら課題を見つけ、疑問の解決のために情報を収集、分析・整理して、まとめることができる。

### 2 学習活動について

本単元では1年の前半は「洋野町でおいしいウニがとれる理由とは」、後半は「洋野町でサケがとれる理由とは」と大きなテーマを掲げ、洋野町の海のひみつについて探究活動を進めた。

まず、単元前半のウニについての学習では、<体験>…ウニ栽培センター、宿戸増殖溝を見学し、ウニについて知る (海を知る)、<問題・疑問>…体験で知ったことを分類し、個人の課題を設定する (熊手チャート)、<探究>…個人の課題について調べる (インターネット、本) 調べたことを整理し、まとめる (新聞) (海を守る) という流れで学習を進めた。



【栽培センターで所長の説明を聞く】

特に、体験場面のウニ栽培センター、宿戸増殖溝の見学では、実際に稚ウニやウニ、そのえさとなるこんぶ、ウニを育てる人々などに直接触れたり、話したりすることで、子供の問いに基づく課題設定へとつながる体験ができた。しかし、探究活動になるとインターネット・本での情報収集に終始し、「探究的な学習における児童の学習の姿」(参考 学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 P.6) のサイクルをうまく回すことができなかった。

そこで、後半のサケについての学習では「探究的な学習における児童の学習の姿」のサイクルと合わせて、ウニについての学習よりも活動を細分化し、教師にとっても子供にとっても、今、サイクルの中のどの活動をしているのかが分かりやすくなるように計画をした。(以下の活動の番号は、学習指導要領解説の探究的な学習活動の過程と合わせている。) <体験>…サケの料理教室 (県北広域振興局の魚食普及活動) を体



験し、洋野町ではサケがとれることを知る（海を知る）、＜①課題の設定＞…学級全体で「洋野町でサケがとれる理由とは」というテーマを確認する、＜②情報の収集＞…自分たちで予想する（話し合い）、3～6年生・先生方から予想を集める（アンケート）、＜③整理・分析＞…集めた予想を仲間分けする（付箋）、＜④課題の設定＞（個人）…整理した情報を基に、自分が調べたいことを決める、＜⑤情報の収集＞…集めた予想が合っているか確かめる（インターネット・本・今までの資料・さけます孵化場、八木漁港見学などの体験の場で直接質問をする）（海を知る）、＜⑥まとめ・表現＞…適切な資料を用いて、レポートをまとめる（国語科「和の文化について調べよう」との関連）（海を守る）という流れで学習を進めた。児童の思考に合わせて、探究の過程の順番を前後させたり、繰り返したりしている。（参考 学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 P.114）

探究の過程に基づいて学習活動を計画したことで、児童は明確に目的をもって学習に取り組むことができた。また、探究の過程の中で一つのことが解決すると、次に浮かんだ疑問を解決しようという意欲が見られたり、相手意識をもって調べる内容を整理したりすることができていた。しかし、探究の過程のサイクルを回すことを目的とするのではなく、児童の学習が探究的な見方・考え方を働かせられるものになっているかどうかを確認しながら学習を進めることが必要だと感じた

### 3 指導の手立てについて

#### ① 手立て1 「地域素材を生かした教科等横断的な単元教材の開発」

○ウニ栽培センター、宿戸増殖溝、八木漁港、有家鮭鱒孵化場の見学を単元の中に位置付け、洋野町の特産物であるウニ・サケについて社会科・国語科等と関連させて学習を進めることができた。

△海洋科の内容で他教科の資質・能力を高められる場面がまだあると気付いた。十分な探究時間の確保のためにも、細かいカリキュラムマネジメントが必要である。

#### ② 手立て2 「子供の問いに基づく探究課題の設定の在り方」

○体験の後に「洋野町でおいしいウニがとれる理由とは」「洋野町でサケがとれる理由とは」という大きなテーマを学級で設定し、そのテーマの予想に基づいた個人の課題を設定したことで、洋野町をよりどころとした探究を進めることができた。

△探究を進める中で「洋野町」と離れた調べ学習になることは必ずある。児童の思考が最終的に「洋野町」に戻れるような手立てが必要である。

#### ③ 手立て3 「子供の表現を深めるための対話の在り方」

○付箋を使って考えを整理することで、児童は自分の考えを広げたり、比較したりしながら考えることができた。

△対話を重視したグループ分けをしなかったため、話し合いに参加できない子がいた。

学年	単元名 (時数)
6年	洋野の未来を考えよう ～洋野の海やサケを守るためにできること～ (全30時間)
実施期日	令和 年 月～ 月
海洋教育の視点	親しむ <u>知る</u> <u>守る</u> 利用する (複数選択可)

### 1 単元のねらい

- ・洋野町の水産業が抱えている問題やこれから起こりうる課題に気づき、その原因を考えたり、調べたりすることができる。
- ・進んで地域へ関わりながら課題解決し、地域の特産であるサケや洋野の海を守るために自分ができそうなことを考え・表現し、実践することができる。

### 2 学習活動について

本単元では、洋野町において多くの漁獲量を誇るサケを中心として扱い、5年次より継続した学習を行ってきた。自分たちが住む地域にサケますふ化場があることで漁獲量を確保していることや採卵体験や稚魚飼育・放流を通してサケの生態についても深く学んできた。今年度はサケの学習を通して、洋野町や岩手県のサケの回帰率が減少していることを知り、様々な原因について考察しながら洋野の町や特産を守ることにについて考えた。また、回帰率減少に影響のありそうな課題に対して今できる事と将来できると考えられる事について対策を考えた。

サケの生態や回帰率減少の要因は、まだ解明されていないことが多い。現時点では最も影響がありそうな事象は地球の温暖化に伴う海水温の上昇であることを知り、CO2削減の呼びかけるポスターを作り昇降口に貼り、全校に30分間消灯の協力を依頼した。また、高くなった海水温に対応できるサケを育てるための品種改良すること、水槽や近海での養殖をサケます孵化場の方に提案することを考えた。

調べた情報から分析し自分の考えを持ったり予想したりする事を「考察する」と位置づけ、調べ学習の時間に組み込んだことにより、情報から自分の考えを持ったり、情報と情報を関連付けて考えたりすることができた。

これらの活動をまとめ、海洋サミットで発進し伝えることが出来た。



【ピラミッドツールを使用した発表】



### 3 指導の手立てについて

#### ① 手立て1「地域素材を生かした教科等横断的な単元教材の開発」

- サケますふ化場で働く澤尻さんにお話を聞いたり、魚食普及活動で実際のサケを扱ったりして地元のサケとふれ合うことで、「知りたい」「守りたい」という思いを高めることができた。
- △ 5年生でサケますふ化場に見学に行っているため、今年度は見学に行かなかった。5年生での学びを振り返る場面からの導入になるが、体験活動は検討が必要。

#### ② 手立て2「子供の問いに基づく探究課題の設定の在り方」

- 調べた情報から分析し自分の考えを持ったり予想したりする事を「考察する」と位置づけ、調べ学習の時間に組み込んだことにより、情報から自分の考えを持ったり、情報と情報に関連付けて考え、次に調べる事や改善するための対策など子ども自身で考え、学習や活動を進めることが出来た。

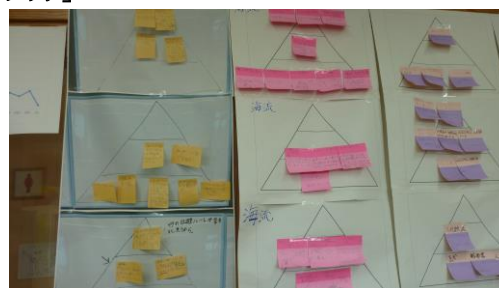


【ピラミッドツールを使用した話し合い】

- △ 選んだ素材が、解明されていないことが多く考察するとき根拠にしにくかった。

#### ③ 手立て3「子供の表現を深めるための対話の在り方」

- ピラミッド型の思考ツールを取り入れ、付箋を使用したことで、それぞれが調べた情報やアイデアに段階的な軽重をつけて話し合うことができた。



【ピラミッドツール】

基本のグループ活動のほかに、他グループの状況を適宜交流して意見を取り入れたことで、客観的な意見をもとにさまざまな視点で話し合いを深めることができた。

- △ 作業を行う児童が若干固定されていた。



# 第 1 学年 生活科学習指導案

日 時 令和4年6月27日(月) 2校時  
 児 童 男子7名 女子1名 計8名  
 指導者 日 影 知 子

1 単元名 「つくろう あそぼう なかののたからで」

2 単元の目標並びに評価規準

(1) 単元の目標

自然と関わる活動を通して、遊びや遊びに使うものを工夫して作ったり、身近な自然の違いや特徴を見つけたりすることができ、自然の様子や四季の変化に気付いたり、遊びの面白さや不思議さに気付いたりするとともに、身近な自然を取り入れ自分の生活を楽しくしようとするができるようにする。

(2) 評価規準 [方法]

単元の評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		自然と関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること、遊びや遊びに使うものを工夫してつくることの面白さや自然の不思議さに気付いている。	自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、身近な自然を使って遊びや遊びに使う物を工夫して作ったりしている。	自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れ、みんなと楽しみながら遊びを創り出し、自分の生活を楽しくしようとしている。
	活動 小単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	A 体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏や秋の有家浜に行き、遊んだり自然物を触ったりする活動を通して、海の楽しさや面白さに気付いている。〔行動観察・発言分析〕</li> <li>・夏と秋の自然の様子の違いを感じ、自然の事象の不思議さに気付いている。〔表現物の分析〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏や秋の有家浜へ行き、遊んだり自然物を触ったりする活動を通して、新たな発見や遊びに使う自然物を集めている。〔行動観察・発言分析〕</li> <li>・学校の周りの自然物で遊んだり観察したりしながら、自分たちの住む地域の豊かな自然と触れ合うことを楽しんでいる。〔行動観察・発言分析〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏や秋の有家浜へ行き、遊んだり自然物を触ったりする活動を通して、みんなと遊びを楽しくしようとしている。〔行動観察・発言分析・表現物の分析〕</li> <li>・自分たちが集めた自然物に関心を持ち、重ねたり並べたりして楽しもうとしている。〔行動観察・発言分析〕</li> </ul>
	B 思い・願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海や山で見つかる自然物の違いに気付き、面白さを感じている。〔発言分析・行動観察〕</li> <li>・みんなで遊ぶ際、遊びの約束やルールなどを守ることが大切であることに気付いている。〔発言分析・行動観察〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しみたい遊びを思い描きながら、遊びに使う物を選んでいく。〔行動観察・発言分析・表現物の分析〕</li> <li>・相手に合わせて、遊びの約束やルールなどを工夫しながら遊んでいる。〔発言分析・行動観察〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海や山で見つかる自然物の違いを見付けて、工夫しながら遊びを考えだそうとしている。〔行動観察・発言分析・表現物の分析〕</li> <li>・みんなで遊ぶ際、進んで道具や用具の準備や片づけ、掃除、整理整頓をしようとしている。〔行動観察〕</li> </ul>

D 表現・活動	楽しかったことを伝えよう 遊んでみよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有家浜についてのクイズに答える活動を通して、海の楽しさや面白さに気付いている。〔行動観察・発言分析〕</li> <li>・集めた自然物で遊びに使う物を作ることを通して、自分たちの住む地域には豊かな自然があることに気付いている。〔行動観察・発言分析〕</li> <li>・約束やルールが大切なことやそれを守って遊ぶと楽しいことに気付いている。〔行動観察・表現物の分析〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有家浜の楽しさを思い出しながら、伝え方を工夫しながら表現している。〔発言分析・行動観察・表現物の分析〕</li> <li>・集めた自然物の中から、予想したり、確かめたり、見直したりしながら、遊びに使う物を工夫して作っている。〔行動観察・表現物の分析〕</li> <li>・比べたり、遊んだり、見立てたりしながら、遊びを楽しんでいる。〔行動観察・発言分析・表現物の分析〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有家浜で遊んだ楽しさや知ったことを伝えるために、クイズなどで表現しようとしている。〔発言分析・行動観察〕</li> <li>・みんなで楽しく遊びたいという願いを持ち、粘り強く遊びを創り出そうとしている。〔行動観察・発言分析〕</li> <li>・友達のよさを取り入れたり、自分との違いを生かしたりして、遊びを楽しくしようとしている。〔行動観察・発言分析・表現物の分析〕</li> </ul>
		E 振り返り	学習を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びを工夫したり、友達と楽しく遊んだりしたことを振り返り表現している。〔行動観察・発言分析・表現物の分析〕</li> </ul>

(3) 単元計画 (全28時間)

小単元名(時間)	学習活動
一 たんけん なかの	
1 【A 体験】 「有家浜に行こう」 【D 表現・活動】 「楽しかったことを伝えよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有家浜の砂浜で、砂遊びなどをして楽しむ。(2)</li> <li>・有家浜で遊んだことや見つけた物を思い出して、絵をかく。(1)</li> <li>・有家浜で遊んだことや見つけた物についてクイズを作る。(1)本時</li> <li>・クイズを完成させる。(1)</li> <li>・「海はかせクイズ大会」をする。(1)</li> </ul>
2 【A 体験】 「学校のまわりで秋を探そう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のまわりで木の実や葉っぱなどを集めたり観察したりして、夏と秋の自然の様子の違いに気付く。(4)</li> </ul>
3 【A 体験】 「葉っぱや実で遊ぼう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のまわりで見つけた木の実や葉っぱを使って遊ぶ。(2)</li> </ul>
4 【A 体験】 「有家浜にまた行こう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋の有家浜の様子を観察し、流木、シーグラス、貝殻など遊びの道具になりそうな物を探す。(2)</li> </ul>
二 おもちゃをつくろう	
5 【B 思い・願い・気付き】 「どんな遊びができるかな」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のまわりや有家浜で見つけた物を使って、どんな遊びができるか考える。(1)</li> </ul>
6 【D 表現・活動】 「作ってみよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のまわりや有家浜で見つけた物を使って、遊ぶ道具を作る。(4)</li> </ul>
三 みんなで あそぼう	
7 【D 表現・活動】 「遊んでみよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びを交流し、さらに楽しい遊びにするために意見の交換をする。(3)</li> </ul>
8 【B 思い・願い・気付き】 「こども園のみんなと遊ぼう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊ぶ相手が楽しく遊ぶことができるように工夫する。(4)</li> </ul>
9 【E 振り返り】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を通して、楽しかったことや中野の自然について感じたことをまとめる。(2)</li> </ul>

### 3 本時の学習

#### (1) 本時の目標

有家浜で遊んだ楽しさや知ったことを伝える表現を深めることができる。

#### (2) 展開案

時間	学習内容 ○発問 ・主な子どもの反応	<手立て>・留意点 ◆評価規準<観点> [方法]
15分	<p>1 前時までの学習を振り返り、学習の見通しをもつ。</p> <p>○海で遊んだことを絵にかきましたね。それを伝え合いましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・砂で～を作りました。</li> <li>・～を拾いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有家浜での活動の様子の写真を掲示して、児童が思い出せるようにする。</li> <li>・全員に発表させ、海でいろいろ活動してきたことを思い出させる。</li> </ul>
25分	<p>2 教師の出したクイズに答える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>海はかせクイズ大会をしよう。</p> </div> <p>○どちらが海の～でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・砂クイズ ……海の砂と砂場の砂</li> <li>・水クイズ ……海水と水道水</li> <li>・草クイズ ……海草と草</li> </ul> <p>3 クイズ大会にむけての準備をする。</p> <p>○クイズを作りましょう。</p>	<p>◆有家浜についてのクイズに答える活動を通して、海の楽しさや面白さに気付いている。&lt;知識・技能&gt; [行動観察・発言分析]</p> <p>&lt;手立て3&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手ざわりやにおい、見た目など、諸感覚を働かせるクイズを出し、海について楽しく思い出しながら答えさせる。教師がクイズを示すことで新しい表現への意欲をもたせる。</li> </ul> <p>◆有家浜で遊んだ楽しさや知ったことを伝えるために、クイズで表現しようとしている。&lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [行動観察・発言分析]</p>
5分	<p>4 本時の振り返りをする。</p> <p>○今日の学習をして、思ったことを発表しよう。</p> <p>5 次時の見通しをもつ。</p> <p>○次の時間もクイズ作りの続きをしましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりが活動に取り組んだことを評価して終える。</li> </ul>

# 第2学年 生活科学学習指導案

日 時 令和4年6月27日（月）3校時  
 児 童 男子6名 女子7名 計13名  
 指導者 松 浦 ふ み か

- 1 単元名 「しぜんと なかよし たんけんたい」
- 2 単元の目標並びに評価規準

### (1) 単元の目標

- ・海、川などへ行き、生き物や水、砂などを見たり、触ったりする活動を通して、それぞれの場所の違いや特徴を見付けたり考えたりすることができ、自分たちの住んでいる地域は豊かな自然が多くあることに気付くとともに、自然や地域への愛着をもつことができる。
- ・体験したことを伝え合う活動を通して、それらを伝える相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさが分かるとともに、進んで伝える相手と触れ合い、交流することができる。

### (2) 評価規準

			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準			・海、川などへ行き、生き物や水、砂などを見たり、触ったりする活動を通して、自分たちの住んでいる地域は豊かな自然が多くあることに気付いている。 ・体験したことを伝え合う活動を通して、伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさが分かっている。	・海、川などへ行き、生き物や水、砂などを見たり、触ったりする活動を通して、それぞれの場所の違いや特徴を見付けたり、考えたりしている。 ・体験したことを伝え合う活動を通して、それらを伝える相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりしている。	・海、川などへ行き、生き物や水や砂などを見たり触ったりする活動を通して、自然や地域への愛着をもっている。 ・体験したことを伝え合う活動を通して、進んで伝える相手と触れ合い、交流しようとしている。
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	A 体験	一春の有家川に行こう 一看家浜行こう 二夏の有家川で、自然と触れ合おう 四秋の有家川に行こう	・川や海へ行き、周りの様子や水、砂などを見たり、触ったりする活動を通して、自分たちの住んでいる地域は豊かな自然があることに気付いている。〔行動観察、発言分析〕  ・夏や秋の有家川へ行き、周りの様子や水、砂などを見たり、触ったりする活動を通して、季節により変化することに気付いている。〔行動観察、発言と表現物の分析〕	・川や海へ行き、周りの様子や水、砂などを見たり、触ったりする活動を通して特徴を見付けて観察している。〔行動観察、発言分析〕  ・夏や秋の有家川へ行き、周りの様子や水、砂などを見たり、生き物を触ったりする活動を通して、自分たちの住んでいる地域の特徴を考えている。〔行動観察、発言分析〕	・川や海へ行き、周りの様子や水、砂などを見たり、触ったりする活動を通して、自然の面白さや不思議さを感じている。〔行動観察、発言分析〕  ・夏や秋の有家川へ行き、周りの様子や水、砂などを見たり、生き物を触ったりする活動を通して、自然の面白さや不思議さを感じている。〔行動観察、発言分析〕

B 思い・願い	一春の有家川に行こう 二生き物となかよしになろう 三夏の有家川で、自然と触れ合おう 四秋の有家川に行こう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験したことを伝え合う活動を通して、伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさが分かっている。〔行動観察、発言分析〕</li> <li>・海の周りの様子や水、砂などを見たり、生き物を触ったりした活動を通して、伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさが分かっている。〔発言と表現物の分析〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験したことを伝え合う活動を通して、伝えたいことや伝え方を考えている。〔行動観察、発言分析〕</li> <li>・夏の有家川へ行き、周りの様子や水、砂などを見たり、触ったりする活動を楽しんでいる。〔行動観察、発言分析〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験したことを伝え合う活動を通して、進んで伝える相手と触れ合い、交流しようとしている。〔行動観察、発言分析〕</li> <li>・夏の有家川へ行き、周りの様子や水、砂などを見たり、触ったりする活動を通して、自然の面白さや不思議さを感じている。〔行動観察、発言分析〕</li> </ul>
	D 表現・活動	五私のお気に入りを入れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験したことを伝え合う活動を通して、伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさが分かっている。〔行動観察、発言と表現物の分析〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰に、何を、どのように伝えるのか考えたり、選んだりして伝える方法を決めている。</li> <li>・伝える相手のことを想像しながら、発表の準備をしている。〔行動観察、発言と表現物の分析〕</li> </ul>

(3) 単元計画 (全19時間)

小単元名 (時間)	学習活動
1 【A 体験】 「春の有家川に行こう」	・鮭の稚魚を放流する。(1)
【B 思い・願い・気付き】 「春の有家川で気付いたことを整理しよう」	・春の有家川の様子を見に行き、特徴を見付ける。(2)
2 【A 体験】 「有家浜へ行こう」	・有家浜に行き、海の生き物を探したり捕まえたりする。(2)
【B 思い・願い・気付き】 「有家浜で気付いたことを整理しよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海にはどんな生き物がいたのか振り返る。(2)</li> <li>・有家川と有家浜のすてきを整理しよう。(1) <b>本時</b></li> <li>・グループ毎に発表方法を決め、すてきを発表しよう。(2)</li> </ul>
3 【A 体験】 「夏の有家川へ行こう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの海と川の学習を振り返る。(1)</li> <li>・夏の有家川へ行き、川遊びをしながら、春の様子との違いを見付ける。(3)</li> </ul>
【B 思い・願い・気付き】 「夏の有家川で気付いたことを整理しよう」	・夏の有家川へ行って、気付いたことを整理する。(1)
3 【A 体験】 「秋の有家川へ行こう」	・秋の有家川の様子を見に行く。(2)
【B 思い・願い・気付き】 「秋の有家川で気付いたことを整理しよう」	・秋の有家川の様子を見に行き、気付いたことを整理する。(1)

訂正版



### 3 本時の目標

#### (1) 本時の目標

有家浜や有家川での活動を通して、自然の面白さを見つけたり、海と川の特徴を比べたりしながら、自分たちが住んでいる地域は豊かな自然があることに気付いている。

ことが出来る。

#### (2) 展開案

時間	学習内容 ○発問 ・主な子どもの反応	〈手立て〉・留意点 ◆評価規準(観点) [方法]
5分	<p>1 前時を振り返り、学習の見通しをもつ。</p> <p>○有家浜と有家川の発見を「発見カード」に書きましたね。今日は、自分が発見したことを、みんなに伝えましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>海と川ではっ見したすてきをはっぴょうしよう。</p> </div>	<p>・前時までの「発見カード」や写真を基に、本時の学習の見通しをもたせる。</p> <p>・海と川と比較しながら、気が付きが深まるように伝え合わせる。</p>
3分	<p>2 発見カードを基に、付箋に絵か文字で書かせる。</p> <p>○「おどろいたこと」 「気づいたこと」 「川と海とのちがい」 驚いたこと、気づいたこと、川と海とのちがいを付箋に書き、黒板に貼りましょう。</p>	<p>〈手立て2〉付箋紙に絵や文字で書かせることで発表に対する思いや願いをもたせる。</p> <p>◆体験したことを振り返る活動を通して、海や川の特徴を考えている。〈思考・判断・表現〉[行動観察・発言分析]</p> <p>・黒板に、地域の地図を貼っておき、児童の発見を付箋に書いて地図に貼っていく。</p> <p>・有家川や有家浜で活動したときの写真を教室に掲示し、新たな発見を見付けられるように手立てを組む。</p>
5分	<p>3 黒板に貼られた付箋を見ながら、海か川のどちらかに分かれ、伝えたいすてきを決める。</p> <p>○黒板に貼られた付箋を見ながら、伝えたいすてきを選びましょう。</p> <p>○海と川グループに分かれ、それぞれどんなすてきを伝えたいのか話し合しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海と川の周りの様子について</li> <li>・生き物について</li> <li>・海と川の水について 等</li> </ul> <p>○グループで発表したいこととその理由を発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ毎に、何について発表するのか、理由と共に発表する。</li> </ul>	<p>〈手立て3〉同じ表現をしたいことを、グルーピングして対話を促す。</p> <p>◆体験したことを振り返る活動を通して、自然の面白さを感じている。〈主体的に学習に取り組む態度〉[発言と表現物の分析]</p> <p>・「面白かった」「驚いた」「不思議だと思った」などを理由として発表させる。</p>
5分	<p>4 本時の振り返りをする。</p> <p>○今日の学習をして、思ったことを振り返りましょう。</p> <p>5 次時の見通しをもつ。</p>	<p>〈手立て1〉海と川のたくさんのすてきから、地域の豊かな自然へ愛着をもたせ、次時の学習へつなげさせる。</p>

# 第 3 学年 海洋科学習指導案

日 時 令和4年9月8日(木) 2校時  
 児 童 男子10名 女子5名 計15名  
 指導者 林 崎 美 麻

1 単元名 「海のふしぎを調べてまとめよう」

2 単元の目標並びに評価規準

(4) 単元の目標

潮風トレイルを散策する活動を通して、地域の海が豊かな自然環境に支えられていることや自分たちの生活と大きな関わりがあることに気付き、見つけた課題について探究するとともに、地域の海に誇りと愛情をもって大切にしようと考えられるようにする。

(5) 評価規準 [方法]

単元の評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		潮風トレイルを散策する活動を通して、地域が豊かな自然環境に支えられていることや自分たちの生活と大きく関わりがあることに気付いている。	潮風トレイルを散策する活動を通して、地域の海に対する問いをもち、それらを解決する方法を考え、学んだことを分かりやすく伝えている。	潮風トレイルを散策する活動を通して、地域の海の豊さに気付き、大切にしようとしている。
活動	小単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	A 体験 潮風トレイルで海のふしぎを見つけよう	・潮風トレイルを散策する活動を通して、自分たちの住む地域は豊かな自然環境があることに気付いている。〔行動観察・発言分析〕	・潮風トレイルを散策する活動を通して、諸感覚を使って感じたことを伝えている。〔行動観察・発言分析〕 ・地域の海に対する問いをもち、それを伝えている。〔行動観察・発言分析〕	・潮風トレイルを散策する活動を通して、諸感覚を使って楽しく活動しようとしている。〔行動観察・発言分析・表現物の分析〕
	B 疑問・問題 見つけたふしぎから、くわしく調べることを選ぶ	・潮風トレイルで気付いたことを共有し、豊かな自然環境と自分たちの生活が身近であることに気付いている。〔行動観察・発言分析〕	・潮風トレイルを散策する活動を通して、地域の海に対する問いをもっている。〔行動観察・発言分析〕	・潮風トレイルで気付いたことを交流する活動を通して、問いをもち、主体的に課題設定している。〔行動観察・発言分析〕

	C 探究	見つけたふしぎについて くわしく調べよう	・調べる方法を知り、それぞれの調べ方のよさを理解している。〔行動観察・発言分析〕	・情報収集に適した調べ方を選び、調べている。〔行動観察・発言分析〕	・探究活動に進んで取り組もうとしている。〔行動観察・発言分析〕
	D 表現・活動	調べたことをまとめよう 調べたふしぎについて発表しよう	・調べたことを通して、自分たちの生活と大きな関わりがあることに気付いている。〔発言分析・表現物の分析〕	・調べたことや学んだことを分かりやすく伝えている。〔発言分析・表現物の分析〕  ・相手に応じた伝え方を考えている。〔行動観察・発言分析〕	・自分の課題について調べ、まとめたことを、進んで相手に伝えようとしている。〔行動観察・発言分析〕
	E 振り返り	学習を振り返る	・学びを振り返り、地域が豊かな自然環境に支えられていることや、自分たちの生活と大きな関わりがあることに気付いている。〔行動観察・発言分析〕	・潮風トレイルで散策したことや、海について調べたことを通して学んだことを伝えている。〔行動観察・記述分析〕	・学びを振り返り、地域の海を大切にしようとしている。〔行動観察・発言分析〕

(6) 単元計画 (全30時間)

小単元名	学習活動
1 【A 体験】 「潮風トレイルで海のふしぎを見つけよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋学習について知る。(オリエンテーション)(1)</li> <li>・潮風トレイルの計画を立てる。(1)</li> <li>・潮風トレイルを散策し、海の様子を知る。(2)</li> <li>・潮風トレイルを振り返り、見つけた不思議を全体で共有し、大きなテーマを設定する。(1)</li> <li>・本やインターネットを使って自分の興味のあることについて調べる。(3)</li> <li>・本やインターネットで分からなかったことを共有し、もう一度潮風トレイルに行き調べることを確かめる。(1)</li> <li>・もう一度潮風トレイルを散策し、視点に沿って調べる。(2)</li> <li>・2回目の潮風トレイルを振り返り、視点に沿って調べたことを全体で共有する。(1)</li> </ul>
2 【B 疑問・問題】 「見つけたふしぎから、調べることを選ぼう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を設定し、調べる項目を選ぶ。(1) <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">本時</span></li> </ul>
3 【C 探究】 「見つけたふしぎについてくわしく調べよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題について調べる計画を立てる。(1)</li> <li>・設定した課題について本やインターネットを使って調べる。(8)</li> </ul>
4 【D 表現・活動】 「調べたことをまとめよう」 「調べたふしぎについて発表しよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたことを整理し、まとめる。(4)</li> <li>・調べた不思議について発表する。(3)</li> </ul>
5 【E 振り返り】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を通して、学んだことや来年度への意欲を共有する。(1)</li> </ul>

### 3 本時の学習

#### (1) 本時の目標

調べた情報や体験したことをもとに、根拠をもって自分の中心となる課題を選ぶことができる。

#### (2) 展開案

時間	学習内容 ○発問 ・主な子どもの反応	<手立て>・留意点 ◆評価規準<観点>〔方法〕
10分	<p>1 前時までの学習を振り返り、学習の見通しをもつ。</p> <p>○本やインターネットと違って、実際に行って調べてよかったと思うことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなごみが有家浜にあるかはインターネットでは分からなかったから、行ってよかった。</li> <li>・においは自分で確かめないと分からないから、潮風トレイルに行って分かった。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>調べたことをたしかめ、自分のテーマを決めよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の流れを確かめ、本時の見通しをもたせる。</li> <li>・本やインターネットで調べることと、実際に海に行って調べることのメリット・デメリットについて確認する。</li> <li>・2回の潮風トレイル体験や調べる活動全体を通して自分の思いが強くなったテーマについて確かめることを共有する。</li> </ul>
30分	<p>2 グループごとに現時点までで分かったことを発表し、全体に共有する。</p> <p>○本やインターネットで調べて、分かったことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貝の種類は○種類ある。</li> <li>・海のごみが多いのは世界中で問題になっている。</li> <li>・砂の色は○色がある。</li> </ul> <p>3 自分の中心となる課題を選ぶ。</p> <p>○今聞いたことや、潮風トレイルで感じたことを通して、自分がかわしく調べたいテーマを決めましょう。なぜそれを調べたいのか、理由も書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・潮風トレイルに行ったときに自分が思ったよりもごみが多かったので、ごみを選びました。</li> <li>・潮風トレイルでいろいろな貝があって、調べてみるとたくさん種類があっておもしろいと思ったので貝を選びました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・潮風トレイルで調べたことのほかに、分かっている情報を共有させることで、多くの情報に触れさせる。</li> </ul> <p>&lt;手立て2&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点までで分かっていることの表や体験時の写真等を提示することで、視覚的に情報を整理したり、場面を想起させたりしてテーマ選択の手立てとする。</li> </ul> <p>◆調べた情報や体験したことをもとに、根拠をもって自分の中心となる課題を選んでいる。</p> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;〔表現物の分析・発言分析〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠を明確にすることで、探究活動への意欲へつなげさせる。</li> </ul>
5分	<p>4 本時の振り返りをする。</p> <p>○今日の学習をして考えたことや友達の考えを聞いて感じたことを書きましょう。</p> <p>5 次時の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を生かし、次時への意欲を高めたり、友達の考えのよさについて考えさせたりする。</li> </ul>

# 第 4 学 年 海 洋 科 学 習 指 導 案

日 時 令和4年10月3日(月) 2校時  
 児 童 男子7名 女子8名 計15名  
 指 導 者 伊 藤 健

1 単元名 「水の旅～山から川へ、そして海へ～」

2 単元の目標並びに評価規準

(7) 単元の目標

- ・地域の自然環境について問いを持ち、体験活動を通して山－川－海のつながりを調べることで、水の循環の仕組みを理解したり、洋野町で海産物が豊富にとれる理由を考えたりすることができる。
- ・地域の自然環境への誇りと愛情を持ち、それらを守るために自分にできることを具体的に考え、行動することができる。

(8) 評価規準 [方法]

単元の評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		・地域の山, 川, 海がよい環境となっていることを理解している。	・収集した情報の中から必要なものを選び、整理してまとめている。	・主体的・協働的に学び、地域の豊かな自然環境に誇りと愛情を持っている。
・自然環境と自分の生活にかかわりがあることに気付いている。	・目的や相手に応じて分かりやすくまとめたり、表現したりしている。	・自然環境を守るためにできることを具体的に考えている。		
評価規準	活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	小単元	・水質調査, 源流探索, 植林体験の活動を通して、生き物を発見したり自然物を触ったりする活動を通して、自然の楽しさや面白さに気付いている。[行動観察・発言分析]	・水質調査, 源流探索, 植林体験の活動を通して、知ったことや疑問に思ったことをまとめている。[行動観察・発言分析・表現物の分析]	・水質調査, 源流探索, 植林体験の活動に意欲的に取り組んでいる。[行動観察・発言分析・表現物の分析]
A 体験	・有家川の水質調査, 源流探索, 植林体験に出かけよう。	・山, 川, 海はつながっていることに気付いている。[発言分析・表現物の分析]	・水質調査, 源流探索, 植林体験の活動を通して、分かったことや疑問に思ったことから、山－川－海のつながりについて探究するための自分なりの課題を見出している。[行動観察・発言分析・表現物の分析]	
B 疑問・問題	・山－川－海のつながりについて調べる課題を立てよう。	・水質調査, 源流探索, 植林体験の活動を通して、山, 川, 海つながりや見つかった生き物等に気付き、興味を持って調べている。[発言分析・行動観察]		・山－川－海つながりについて調べる課題を立てようとしている。[行動観察]

C 探究	設定した課題について調べよう。	・設定した課題について、山－川－海が互いに関わり合っていることに気付いている。〔発言分析・行動観察・表現物の分析〕	・設定した課題について、本やインターネット等から必要な情報を調べて選び、整理しまとめている。〔表現物の分析〕	・設定した課題について意欲的に調べようとしている。〔行動観察〕
	D 表現・活動	・自然を守るために、自分達ができることについて取り組もう。 ・分かったことや調べたことをまとめよう。	・設定した課題について、自然環境と自分の生活に関わりがあることに気付いている。〔発言分析・行動観察・表現物の分析〕	・調べた情報を、伝えたい内容や伝える相手によって分かりやすくまとめたり、表現の仕方を考えたりしている。〔発言分析・表現物の分析〕
	E 振り返り	学習を振り返る。		・単元を振り返り、地域の豊かな自然環境に誇りと愛情を持っている。〔発言分析・行動観察〕 ・自然環境を守るためにできることを具体的に考えている。〔発言分析・行動観察・表現物の分析〕

(9) 単元計画 (全30時間)

小単元名(時間)	学習活動
1 【A 体験】 「有家川の水質調査に出かけよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前学年の海洋学習を振り返るとともに、水はどこからどこへ行くのか考え、問いをもつ。(オリエンテーション)(1)</li> <li>・有家川の水質調査の計画を立てる。(1)</li> <li>・有家川の水質調査(1回目)をする。(1)</li> <li>・有家川の水質について分かったことや思ったこと、疑問等をまとめ、2回目の準備をする。(1)</li> <li>・有家川の水質調査の計画を立てる。(1)</li> <li>・有家川の水質調査(2回目)をする。(1)</li> <li>・有家川の水質について分かったことや思ったこと、疑問等をまとめ、振り返る。(1)</li> </ul>
2 【A 体験】 「源流探索に出かけよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・源流探索の計画を立てる。(1)</li> <li>・源流探索をする。(2)</li> <li>・GTの話聞く。(1)</li> <li>・源流探索を通して分かったことや思ったこと、疑問等をまとめ、振り返る。(1)</li> </ul>
3 【A 体験】 「植林体験に出かけよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植林体験の計画を立てる。(1)</li> <li>・植林体験をする。(1)</li> <li>・GTの話聞く。(1)</li> <li>・植林体験を通して分かったことや思ったこと、疑問等をまとめ、振り返る。(1)</li> </ul>
4 【B 疑問・問題】 「山－川－海のつながりについて調べる課題を立てよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有家川の水質調査の結果やGTの話から疑問をもち、課題を設定する。予想を立てるとともに、マップを使いながら予想したり、調べることや調べる方法について計画を立てたりする。(1)</li> </ul>

本時



5 【C 探究】 「設定した課題について調べよう」	・自身の設定した課題について、マップを使いながら今までの学習で学んだことや、足りない部分について調べ、整理・分析する。(5)
6 【D 表現・活動】 「分かったことや調べたことをまとめよう」	・整理・分析したことについて壁新聞を作成し、伝える。(6)
7 【D 表現・活動】 「自然を守るために、自分達にできることについて取り組もう」	・洋野町の自然に対する思いや願いを交流する。また、実行可能な行動を考え、実践する。(1)
8 【E 振り返り】	・学習を振り返る。(1)

### 3 本時の学習

#### (1) 本時の目標

今までの活動やGTの話などから疑問もち、山—川—海のつながりについて探究するための個人の課題を設定することができる。

#### (2) 展開案

時間	学習内容 ○発問 ・主な子どもの反応	<手立て>・留意点 ◆評価規準<観点> [方法]
6分	<p>1 前時までの学習を振り返り、学習の見通しをもつ。</p> <p>○水質調査（源流探索、植林体験）で分かったことや疑問に思ったことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有家川にはカゲロウ等沢山の水生生物がいました。</li> <li>・源流から流れる水が、川や海の環境に関係していることが分かりました。</li> <li>・植林と源流をきれいに保つことの関係がまだよく分かりません。</li> </ul> <p>○この活動をしてきたのはなぜでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山—川—海はつながっていることを学習するためです。</li> </ul> <p>○山—川—海のつながりについて何を調べていきたいですか。課題を立てましょう。</p>	<p>&lt;手立て&gt;・留意点 ◆評価規準&lt;観点&gt; [方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの活動の写真（壁掲示やTV）を見ながら、分かったこと等を想起する。活動を通して学んだ単語やゲストティーチャー（GT）から教えてもらった知識について、紙板書で掲示し、全員が発表できるようにする。</li> </ul>
山—川—海のつながりについて調べる課題を立てよう。		
34分	<p>2 山—川—海のつながりについて、今まで出てきたキーワードを振り返る。</p> <p>○山—川—海はつながっていると学習してきましたね。つながっているものや関係しているものは何でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水でつながっていると思います。</li> <li>・海を守るためには山を守ることが大切です。</li> </ul> <p>3 今までの活動やGTの話、キーワードから、山—川—海のつながりについて調べる課題を設定する。</p> <p>○山—川—海のつながりについて、調べていく課題を立てましょう。時間がある人は、調べていく方法も考えましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 山と川、川と海、山—川—海全てのつながりの3つから自分が調べていくグループを決定する。</li> <li>② 疑問に思ったことやキーワードなどを基にして、深く調べていきたいことを文にしてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・水質調査をする人達はどんなことをして川や海を守っているのだろう。</li> <li>・なぜ植林が源流をきれいにすることにつながるのかな。</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの体験活動を通して学んできたことやGTから聞いた話を思い出し、山—川—海のつながりに関係していそうなキーワード(水、栄養、自然等)を振り返る。</li> <li>◆水質調査、源流探索、植林体験の活動を通して、分かったことや疑問に思ったことから、山—川—海のつながりについて探究するための自分なりの課題を見出している。&lt;思考・判断・表現&gt; [行動観察・発言分析・表現物の分析]</li> </ul> <p>&lt;手立て2&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の山—川—海のつながりについて探究するための問いや疑問、調べていくことや方法等について、ワークシートを用いて整理する。</li> <li>◆山—川—海のつながりについて調べる課題を立てようとしている。&lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; [行動観察・発言分析]</li> </ul>

	<p>・水が3つをつなぐことについてもっと詳しく知りたい。</p>	
5分	<p>4 本時の振り返りをする。 ○今日の学習で考えたことや、次の時間調べていくことを発表しましょう。</p> <p>5 次時の見通しをもつ。 ○山→川→海は、何で、どのようなつながりがあるのかについて、詳しく調べていきます。</p>	<p>・一人ひとりが疑問に思ったことや課題を認め、次時の学習の意欲を高める。</p>

1 単元名 「洋野の海のひみつを探ろう」

2 単元の目標並びに評価規準

(1) 単元の目標

- ・サケ(ウニ)について問いをもち、探究的な活動を通して、サケ(ウニ)の成長を支える環境や関わる人々の工夫や努力に気付くことができる。
- ・サケ(ウニ)について、自ら課題を見つけ、疑問の解決のために情報を収集、分析・整理して、まとめることができる。

(2) 評価規準 [方法]

単元の評価規準				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
				・洋野町のサケ(ウニ)は、地域の海洋環境と関わって育っていることを理解している。 ・洋野町のサケ(ウニ)についての調べ学習を、目的や対象に応じて実施することができる。	・サケ(ウニ)の生態や、地域の環境について、自ら課題を見つけている。 ・課題解決に必要な情報を、見通しをもって収集し、特徴をもとに分類・比較したり、関連付けたりして、解決に向けて考えている。	・課題の解決に向けて、主体的・協働的に学習に取り組もうとしている。 ・洋野町のサケ(ウニ)の良さに気付き、それらを大切にしようという思いをもち、学んだことを身近な人々に発信しようとしている。
		活動	小単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	A 体験	洋野町のサケを知ろう	洋野町のウニを知ろう	・洋野町で生産されるサケやウニについて知るために、サケやウニの生態に適した方法で体験をしている。〔行動観察・記述分析〕	・洋野町で生産されるサケやウニについて、施設見学やサケやウニと触れ合う活動を通して情報を収集している。〔行動観察・記述分析〕	・洋野町で生産されるサケやウニについて関心をもち、進んで海や地域に関わろうとしている。〔行動観察・記述分析〕
	B 疑問・問題	洋野町でサケがとれる理由とは？	洋野町でおいしいウニがとれる理由とは？	・施設見学やサケやウニと触れ合う活動で気付いたことを共有し、サケやウニは洋野町の環境と関わって生きていることを理解している。〔行動観察・発言分析〕	・洋野町で生産されるサケやウニについて、体験したことと自分の経験を結び付けて、課題を見出している。〔行動観察・記述分析〕	・洋野町で生産されるサケやウニについて問いをもち、主体的に課題設定している。〔行動観察・記述分析〕

C 探究	洋野町でおいしいウニがとれる理由を調べよう。 洋野町でサケがとれる理由を調べよう。	・洋野町で生産されるサケやウニについての情報収集を、相手や場面に応じた適切さで実施している。〔行動観察・発言分析〕	・洋野町で生産されるサケやウニについての情報を、手段を選択して収集したり、種類に応じて蓄積したりしている。〔行動観察・発言分析〕 ・洋野町で生産されるサケやウニについて収集した情報と比較したり、関連付けたりして、サケやウニが洋野町で生産される理由を見出している。〔行動観察・記述分析〕	・洋野町で生産されるサケやウニについて、自分と違う友達の考えを生かしながら、課題解決に取り組もうとしている。〔行動観察・発言分析〕	
	D 表現・活動	洋野のひみつを伝えよう	・探究して分かったことや感じたことを通し、サケやウニは洋野町の環境や洋野町で働く人々の努力と関わって生産されていることを理解している。〔行動観察・発言分析・表現物分析〕	・目的や相手に応じて、洋野町で生産されるサケやウニのよさを、効果的に表現をしている。〔行動観察・発言分析・表現物分析〕	洋野町で生産されるサケやウニのよさを、進んで表現しようとしている。〔行動観察・発言分析〕
	E 振り返り	学習を振り返る	・洋野町で生産されるサケやウニのよさについて知ることができたのは、サケやウニと洋野町との関係を探的に学習してきたことの成果であることに気付いている。〔行動観察・記述分析〕	・サケやウニと洋野町との関係を探的に学習してきた自分の成長を自覚している。〔行動観察・記述分析〕	・学びを振り返り、地域の海や環境を大切にしようとしている。〔行動観察・記述分析〕

(3) 単元計画 単元名「洋野の海のひみつを探ろう」(全30時間 本時18/30)

小単元名	学習活動(時間)
1【A 体験①】 「洋野町のウニを知ろう。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生の学習内容を知り、見通しをもつ。(オリエンテーション)</li> <li>・洋野町の特産物調べをする。(2)</li> <li>・ウニ栽培センター、宿戸増殖溝を見学し、ウニについて知る。(理科「魚のたんじょう」4時間)</li> </ul>
2【B 疑問・問題①】 「洋野町でおいしいウニがとれる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験で知ったことを分類し、個人の課題を設定する。(1)</li> </ul>

理由とは？」	
3 【C 探究①】 「洋野町でおいしいウニがとれる理由を調べよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の課題について調べる。(6)</li> <li>・調べたことを整理し、まとめる。(1)</li> <li>・まとめたことを交流する。(1)</li> </ul>
4 【A 体験②】 「洋野町のサケを知ろう。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サケの料理教室（県北広域振興局の魚食普及活動）を体験し、洋野町ではサケがとれることを知る。 (家庭科「おいしい楽しい調理の力」(2))</li> <li>・サケの生態について調べる。(1)</li> </ul>
5 【B 疑問・問題②】 「洋野町でサケがとれる理由とは？」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験で感じたことを記録し、洋野町でサケがとれる理由を予想する。(1)</li> </ul>
6 【C 探究②】 「洋野町でサケがとれる理由を調べよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洋野町でサケがとれる理由について情報を集める。(3)</li> <li>・集めた情報を分類し、再度課題設定をする。(1)</li> <li>・サケがとれる理由を確かめるための質問内容を決める。(1)</li> </ul> <p style="text-align: right;">本時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えた質問に基づいて、洋野町でサケがとれる理由を確かめる。(3)</li> <li>・さけます孵化場で採卵体験をし、孵化場で働く人々の工夫等を確かめる。(社会「水産業のさかんな地域」(2))</li> <li>・八木漁港見学に行き、漁港で働く人々の工夫等を確かめる。(社会「水産業のさかんな地域」(2))</li> <li>・確かめた情報を整理し、洋野町でサケがとれる理由を話し合う。(1)</li> <li>・洋野町でサケがとれる理由をまとめる。(1)</li> </ul>
7 【D 表現・活動】 「洋野のひみつを伝えよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洋野のウニやサケのよさをグループでまとめる。(4)</li> <li>・グループでまとめたものを発表する。(2)</li> </ul>
8 【E 振り返り】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したことをふり返り、新たな問いや生かしたいことについて考え、思いや願いを持つ。(1)</li> </ul>

### 3 本時の学習

#### (1) 本時の目標

- ・分類した情報をもとに、洋野町でサケがとれる理由を確かめるための質問内容を決めることができる。

#### (2) 展開案

時間	学習内容 ○発問 ・主な子供の反応	<手立て>・留意点◆評価規準<観点> [方法]
5分	<p>1 既習を確認する。 ○グループで集めた「洋野町でサケが獲れる理由」を発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サケが戻りやすい地形だから</li> <li>・稚魚を放流しているから</li> <li>・さけます孵化場があるから</li> <li>・海水に栄養があるから</li> <li>・山から栄養が流れているから</li> <li>・漁協の人が頑張っているから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時まで集めた情報を確認し、情報を共有する。</li> </ul>

35分	<p>2 分類した情報をもとに、洋野町でサケがとれる理由を確かめるための質問内容を決める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> <p>予想を確かめるための質問を考えよう。</p> </div> <p>○予想を確かめるための質問を考えましょう。</p> <p>&lt;施設&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ洋野にさけます孵化場ができたのですか。</li> <li>・天然のサケとさけます孵化場のサケはどう違うのですか。</li> <li>・さけます孵化場では、どんな仕事をしていますか。</li> </ul> <p>&lt;環境&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうして海に直に栄養が届けられるのですか。</li> <li>・どんな栄養がサケにとって必要なものですか。</li> <li>・サケが戻りやすい川の特徴は何ですか。</li> <li>・有家川の他に、洋野町でサケが戻ってくる川はありますか。</li> </ul> <p>3 考えた質問を修正する。</p> <p>○考えた質問を修正しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・稚魚を大きくするための工夫はなんですか。</li> <li>・サケを増やすために重要な仕事内容はなんですか。</li> <li>・植林以外に川の栄養を増やすために取り組んでいることはありますか。</li> </ul> <p>4 修正した質問を交流する。</p> <p>○サケがとれる理由に迫れると思う質問を発表しましょう。</p>	<p>&lt;手立て3&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えた予想やアンケートで集めた情報をもとにすることで、質問を考えやすくする。</li> <li>・個人で質問を考えさせた後、グループで考えをグルーピングさせる。</li> <li>・グループで出た質問の中で「サケがとれる理由に迫れる質問」を選択させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの考えた質問をサケがとれる理由に迫れるかどうか吟味し、修正することで、次の情報収集の活動へとつなげる。</li> <li>◆洋野町で生産されるサケについて収集した情報と関連付け、サケが洋野町で生産される理由につながる質問内容を決めている。&lt;思考・判断・表現&gt;〔行動観察・記述分析〕</li> </ul>
5分	<p>5本時を振り返る。</p> <p>○今日の学習の振り返りをしましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のこと、友達のこと、新しい学びの3つの項目で振り返る。</li> </ul>



# 第 6 学 年 海 洋 科 学 習 指 導 案

日 時 令和4年9月8日(木) 3校時  
 児 童 男子7名 女子4名 計11名  
 指 導 者 野 田 健 友

1 単元名 「洋野町の未来を考えよう～洋野の海やサケのためにできること～」

2 単元の目標並びに評価規準

(10) 単元の目標

(ア) 洋野町の水産業が抱えている問題やこれから起こりうる課題に気付き、その原因を考えたり、調べたりすることができる。

(イ) 進んで地域へ関わりながら課題解決し、地域の特産であるサケや洋野の海を守るために自分ができそうなことを考え・表現することができる。

(11) 評価規準 [方法]

単元の評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		・洋野町の水産業が抱えている問題やこれから起こりうる課題に気付いている。 ・洋野町の水産業が抱えている問題や起こりうる課題の原因を考えたり、調べたりしている。	地域の特産であるサケや洋野の海を守るために自分ができそうなことを考えたり、表現したりしている。	進んで海や地域へ関わりながら、問題やその原因を考えようとしている。
評価規準	活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	小単元 サケ(ウニ)の学習を振り返ろう。 サケの放流をしよう。	・放流した稚魚が、数年後に回帰してくることを理解している。[観察・発言]		・6年生の学習内容に関心をもち、進んで海や地域に関わろうとしている。[観察・発言] ・思いや願いをもって、進んでサケの稚魚を放流しようとしている。[観察・発言・記述]
	B 疑問・問題 サケが直面している問題はなんだろう。	・サケが抱えている問題の原因を、海洋科の既習や各教科の学びを活かして考えている。[記述・発表]		・サケが抱えている問題について問いをもち、解決するための学習計画を立てようとしている。[観察・発言・記述]

C 探究	サケが抱えている問題の原因を調べよう。 調べたことを整理し、自分たちができることを考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サケが抱えている問題の原因を詳しく調べている。〔観察・発言・記述〕</li> <li>・調べたことを整理し、地域の特産であるサケや洋野の海を守るために、解決策を具体的に考えている。〔観察・発言・記述〕</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・サケが抱えている問題の原因を意欲的に調べようとしている。〔観察・発言・記述〕</li> <li>・調べたことを整理し、地域の特産であるサケや洋野の海を守るための解決策を意欲的に考えようとしている。〔観察・発言・記述〕</li> </ul>
D 表現・活動	洋野のサケや海をまとめるために、自分たちができることをまとめよう。 洋野のサケや海をまとめるために、自分たちができることを発表しよう。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・洋野のサケや海が抱えている問題やその原因・解決策を、相手意識や目的意識をもってまとめている。〔観察・記述・発言〕</li> <li>・洋野のサケや海が抱えている問題やその原因・解決策を、相手意識や目的意識をもって表現している。〔発表〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洋野のサケや海が抱えている問題やその原因・解決策を、相手意識や目的意識をもってまとめようとしている。〔観察・記述・発言〕</li> <li>・洋野のサケや海が抱えている問題やその原因・解決策を、相手意識や目的意識をもって表現しようとしている。〔発表〕</li> </ul>
E 振り返り	学習を振り返る卒業論文を書く			<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したことを振り返り、思いや願いなどを持ち、進んで海や地域へ関わろうとしている。〔記述・発言〕</li> </ul>

(12) 単元計画 (全30時間)

小単元名	学習活動
1 【A 体験】 「サケの稚魚を放流しよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前学年の海洋学習を振り返り、6年生の学習の見通しをもつ。(オリエンテーション) (1)</li> <li>・5年生時から育ててきたサケの稚魚を、2年生とともに、有家川で放流する。(2)</li> </ul>
2 【B 疑問・問題】 「サケが直面している問題は何だろう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サケが抱えている問題について課題意識をもち、学習計画を立てる。(1)</li> <li>・サケが抱えている問題の原因を考える。(2)</li> </ul>
3 【C 探究】 「サケが抱えている問題の原因を調べよう」 「調べたことを整理し、自分たちにできることを考えよう」(本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サケが抱えている問題の原因をインターネットや本、GT等で詳しく調べる。(5)</li> <li>・調べたことを整理し、自分たちにできることを考える。(3)</li> </ul>
4 【D 表現・活動】 「洋野のサケや海を守るために、自分たちにできることをまとめよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洋野のサケや海が抱えている問題やその原因、自分たちにできることや将来できそうなことをグループごとにまとめる。(8)</li> </ul>
5 【D 表現・活動】 「洋野のサケや海を守るために、自分たちにできることを発表しよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループでまとめたものを、全校(中・高学年)へ発表する。(3)</li> <li>・各グループでまとめたものを、一つにして海洋教育サミットで発表する。(4)</li> </ul>
6 【D 表現・活動】 「海洋卒業文集を書こう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋卒業文集を書く。(国語科との関連)</li> <li>・海洋卒業文集発表会をする。</li> </ul>
7 【E 振り返り】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したことを振り返り、思いや願い、新たな問い、活かしたいことなどについて考え、発表し合う。(1)</li> </ul>

### 3 本時の学習

#### (1) 本時の目標

調べたことを整理し、自分たちが実際にできることや協力してもらってできること、10年後にできるかもしれないことを考えることができる。

#### (2) 展開案

時間	学習内容 ○発問 ・主な子どもの反応	<手立て>・留意点 ◆評価規準<観点> [方法]
5分	1 前時調べたことを振り返り、情報を共有する。 ○ 海水温の変化について調べたことを発表してください。	・前時調べたことを掲示し、情報を共有する。
35分	2 海水温の変化が原因の1つであるとして、解決策を考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">回帰率を増やすためにできること考えよう。</div> ○ 海水温の変化が、サケが戻ってくる数が減っている原因の一つだとした場合、自分たちで実際にできる解決策、または、協力してもらってできる解決策を考えましょう。  3 解決策を発表する。 ○ グループごとにアイデアを発表しよう。  ○ 海水温の変化が、サケが戻ってくる数が減っている原因の一つだとした場合、10年後にはできるかもしれない解決策を考えましょう。	<手立て3> ・原因を解決するために自分たちでできることや10年後にできるかもしれないことを、思考ツール（ピラミッドチャート）を使用して考えさせる。 ・グループで、実現可能か根拠をもって説明できるように考えさせる。  ◆調べたことを整理して地域の特産であるサケが抱えている問題の解決策を考えている。 <知識・技能> [行動観察・発言分析・記述] <主体的に学習に取り組む態度> [行動観察・発言分析・記述]
5分	4 本時の振り返りをする。 ○今日の学習の振り返りをカードに書きましょう。  5 次時の見通しをもつ。 ○これまで調べた3つの項目について、関連があるかないかを考えます。	・自分の事、友達の話、新しい学びの3つの項目で振り返る。

# 洋野町立大野小学校

## 令和4年度 第3学年 海洋教育 単元指導計画（全30時間）

テーマ（海は友だち～洋野の海に親しもう～）

学期	活動内容
一学期	<p>○磯遊びをしよう(7 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海のイメージについて話し合う。</li> <li>・磯遊びの計画を立てる。</li> <li>・種市の海に海遠足に行く。</li> <li>・気付いたことをまとめる。</li> </ul> <p>○もぐらんぴあを見学しよう(4 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海の生き物と触れ合う。</li> <li>・震災時のお話を聞く。</li> <li>・南部ダイバーに触れる。</li> </ul>
二学期	<p>○海の生き物図鑑を作ろう(6 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見学した生き物、調べた生き物について図鑑を作る。</li> <li>・生き物図鑑発表会をする。</li> </ul> <p>○ウニについて調べよう(7 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洋野町でなぜウニの生産が盛んなのか予想して話し合う。</li> <li>・ウニの養殖の見学の計画を立てる。</li> <li>・見学をする。</li> <li>・まとめる。</li> </ul>
三学期	<p>○海について1年間体験したことや学んだことをまとめる(6 時間)</p>



## 令和4年度 第4学年 海洋教育 年間指導計画（全30時間）

テーマ（森の恵み～源流から海への旅～）

学期	活動内容
一学期	<p>○探検!大野の川(15時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちの住むまちの川について話し合う。</li> <li>・ 学習の計画を立てる。</li> <li>・ 向田川源流、久慈平岳山頂探索</li> <li>・ 大野浄水場見学(浄化センターをどう扱うか要検討)</li> <li>・ 大野川水生生物調査</li> <li>・ 分かったこと、考えたことをまとめる。</li> </ul>
二学期	<p>○川から海へ(15時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大野の川(大野川・向田川)はどこへ流れていくのかについて考える。</li> <li>・ 見学の計画を立てる。</li> <li>・ 大野川と向田川の合流地点見学→林郷、権谷周辺→有家へ</li> <li>・ 有家川さけます共同ふ化場、河口見学</li> <li>・ わかったこと、考えたことをまとめる。</li> <li>・ 自分たちにできることを考え、発信する。</li> </ul>
三学期	

## 令和4年度 第5学年 海洋教育 単元指導計画（全30時間）

テーマ（海の産業、山の産業について調べよう）

学期	活動内容
一学期	<p>○海の産業について調べよう（10時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・種市ではどんな産業があるか予想する。</li> <li>・種市の産業の見学の計画を立てる。</li> <li>・種市の産業を見学する。</li> <li>・種市の産業についてまとめる。</li> </ul>
二学期	<p>○山の産業について調べよう（10時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大野ではどんな産業があるか予想する。</li> <li>・大野の産業の見学の計画を立てる。（ミルク工房、林産加工、北部産業、大野木工、間沢牧場）</li> <li>・大野の産業を見学する。</li> <li>・大野の産業についてまとめる。</li> </ul> <p>○洋野の産業について発表しよう。（7時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだことをまとめ、発表の準備をする。</li> <li>・発表する。</li> </ul>
三学期	<p>○学習のまとめをしよう（2月）3時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだことを地域の方を呼んで発表する。</li> </ul>

## 令和4年度 第6学年 海洋教育 単元指導計画（全30時間）

テーマ（海、山の環境のために私たちができること）

学期	活動内容
一学期	<p>○大野と海のつながりを知ろう。（10時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大野海成段丘について調べる。</li> <li>・大野の地層や大野で見つかった化石について調べる。</li> <li>・やませについて調べる。</li> <li>・大野と海のつながりについてまとめる。</li> </ul>
二学期	<p>○洋野の海で起きていることを知ろう。（6時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サケについて知る。</li> <li>・サケの孵化場に行き、漁獲量などについて話を聞き、海の環境が変化していることを知る。</li> <li>・海の環境とサケについてまとめる。（4時間）</li> </ul> <p>○大野の山、川のことを知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・林業の方のお話を聞き、山や木について理解を深める。</li> <li>・「大野の自然を守る会」の方のお話を聞き、川の生態系について理解を深める。</li> </ul> <p>○海と山の環境についてまとめる。（5時間）</p>
三学期	<p>○海と山の自然を守るためにできることを考えよう。（5時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洋野だけでなく、世界で起きている環境問題について知る。</li> <li>・これからの環境を守るために何ができるかを考える。</li> </ul>

## 第4学年 海洋科学習指導案

日時 令和4年度6月28日(火) 4校時

児童 男子6名 女子7名 計13名

指導者 沢橋 輝

### 1 単元名 「森の恵み～源流から海への旅～」

### 2 単元について

#### (1) 教材について

4年生は、前年度「大野の魅力大発見」として、自分たちが生活する地域の学習に取り組んできた。自然の豊かさや人の心の温かさに触れながら、素晴らしい地域であることを実感した。4年生になり、社会科でごみの学習をすることで環境への関心が出てくる。近くの川の状況を調べることで、思考は海へと自然に流れていく。源流と川とサケを組み合わせ山から海へのつながりに気づかせたい。

#### (2) 児童について

4学年の児童は、1年生の生活科の学習から地域ボランティアの方々からたくさん支援をいただいていた。その中で、楽しい活動を行ったり、興味深い話を聞いたりして地域に対する愛着は深まってきた。学習に対しては真剣にまじめに取り組む良さがある。

#### (3) 指導について

指導にあたっては、5年生、6年生で学習する海洋科のながれを意識して、あまり深くは掘り下げず、新たな課題や疑問をもてるような学習の進め方をしたい。4年生なりの思考の深まりをもたせるために、大野の川だけではなく種市の海も実際に目で確認し、川でつながっていることを知識だけでなく実感としてもたせたい。

### 3 単元の指導計画

#### (1) 単元の目標

- ・源流を探検したり、森の恵みや地域の川に住む水生生物の調査をしたりすることによって、私たちの生活が豊かな生活に支えられていることに気づき、大野の自然を大切にしようとする心を育む。
- ・川の流れは山から海におかって姿をかえていくことに気づき、私たちの生活と自然環境の関係について考えを深める。

#### (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域の川にすむ水生生物を調査することにより、森の恵みが自分たちの生活に関わりあることに気付いている。	情報を整理し自分の考えをもつとともに、自分たちの生活と自然環境の関係を考えている。	主体的・協働的に学習活動に取り組み、大野の自然のために、考えたり行動したりしている。

(3) 単元計画

時数	主な学習活動	・指導上の留意点
3	<b>事前学習</b> ・川の水や生き物の様子、川についての関心を高め、疑問をもつ。 ・自分たちが住む大野の森や川、海、そして人びとのくらしや自然環境について考える。	・ひろく子どもたちの興味関心を集める。 ・自分たちが暮らす大野について知っていることもあるが、知らないことも多いことをおさえる。
3	<b>向田川源流の森探検</b> ・私たちの身近な場所にある川はどこから始まり、どのように海へとつながっていくのかを知る。森林と川の関係について知る。 ○源流→久慈平岳山頂 ○久慈平浄水場	・目的を明確にして見学を進める。 ・源流の意味を視覚から捉えさせる。 ・地域ボランティアの方の話を集中して聞き、疑問があったら進んで質問させる。
2 本時 (1/2)	源流探検の感想交流と探求課題の設定 ・向田川源流探検、久慈平岳登山の感想交流 ・感想の中から新たな課題を出し合う。 ・課題を絞って次の学習へつなげる。	・活動前に計画した疑問が解決できているか。 ・新たな疑問、課題が生まれるように、当日の写真等も提示する。
3	<b>大野川探検</b> ・場所：大野川 上川原地区 ・大野川に住む水生生物を調査し、自分たちが住む川の現状を知る。	・水生生物の種類によって川のきれいさがかわることを全員に押さえる。 ・安全面に十分注意する。
8	<b>学習のまとめをする。</b> ・これまで学習や見学、体験したことを写真や絵などを用いて模造紙等にまとめる。	・源流から川がつながっていることをまとめながら実感させる。 ・地元の川がどこへつながるのか問いかける。
3	<b>川の流れ（大野～中野（太平洋））について知る</b> ・川の合流地点等の見学（明戸、林郷、中野 有家） ・河口見学 ・サケの遡上の様子を見学 ・サケのふ化場見学	・川が海へとつながっていることに視点をあてる。 ・サケの遡上の現状を押さえる。
8	<b>学んだことを発表・実践する</b> ・まとめたものを、学習でお世話になった方々に発表する。 ・大野川の学習を通して学んだ、自分たちにできることに実際に取り組む。	・改めて源流から海へとぎれることなくつながっていることを考えさせる。 ・自分たちの生活が海側の人や生き物に影響があることも押さえる。

#### 4 本時の学習

##### (1) 本時の目標

向田川源流探検の感想を交流して、地域を流れる川への関心を高め、より身近な大野川について課題をもつことができる。

##### (2) 展 開

学習内容 ○発問 ・主な子どもの反応、活動	◇指導上の留意点 ◆評価規準<観点> [方法]
<p>1 見学してきたことを全体で振り返る。</p> <p>○源流探検で見学してきた場所について説明してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・向田川の源流を見てきました。</li> <li>・久慈平岳に登って、種市や久慈の海を見ました。</li> </ul> <p>○感想を交流して見学前の課題が解決できたか確かめましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>感想交流をして分かったことや気づいたことをまとめ、次の学習の探求課題を考えよう。</p> </div> <p>2 自分でもっていた課題について分かったことや気づいたことをまとめる。</p> <p>○見学で分かったことや気づいたことを学習シートにまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習シートにそれぞれ記入する。</li> </ul> <p>3 グループで感想を交流する。</p> <p>○グループで感想を交流しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・源流は思ったより水が少なかった。</li> <li>・もっと山の高いところから水が流れ出ていると思ったけどそうでもなかった。</li> <li>・久慈平岳は見晴らしがよく、海まで見えた。</li> </ul> <p>4 大野川について知っていることを出し合う。</p> <p>○近くを流れる大野川について知っていることを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・結構小さい川</li> <li>・魚が泳いでいる。</li> <li>・たぶんきれいだと思う。</li> </ul> <p>5 大野川について知りたいことを考える。</p> <p>○大野川についてもっと知りたいと思うことを書きましょう。</p> <p>6 次時の学習について確かめる。</p> <p>○探求課題をしぼる。</p>	<p>◇見学してきた内容を思い出すために見学シートの他に写真記録を提示する。</p> <p>◇見学シートにメモしてきたことをそのまま書き写すのではなく、グループで交流することも頭に入れて自分の言葉でまとめなおさせる。</p> <p>◆分かったことや気づいたことを学習シートに書き出し、必要なことを相手に伝えている。</p> <p>&lt;思考・判断・表現&gt; [記述・発言]</p> <p>◇近くを流れる川でも知っていることがそれほど多くはないことに気づかせる。そこから、知りたいことをたくさん考えさせる。</p>



# 洋野町立林郷小学校

# 令和4年度 海洋教育 年間指導計画

洋野町立林郷小学校

## ○ 学年ごとの指導計画

【全校】 「海に行こう」 全校遠足（体験的行事 5時間）

- ・海が林郷の近くにあることを感じる
- ・海は楽しい所だと実感を伴う体験をする
- ・美しい海を守らなければいけないという思いをもつ（高学年）

【低学年】 「海は楽しいところだね」

学年	教科等	単元名	学習内容
1年生	生活科	海となかよくなろう (なつがやってきた)	・海岸や海辺で遊ぶ ・海で宝物を見つける ・海で遊んだことをお友達に話す
2年生	生活科	海の思い出を残そう (ドキドキわくわくま ちたんけん)	・1年生と海で遊ぶ ・お気に入りの場所を見つける ・海での思い出を絵に表そう ・拾ってきた物で宝物をつくる

【中学年 R4年度】全30時間

単元名	有家川の自然を調べよう ～林郷小から源流へ～	
時数	30時間	
ねらい	学校の近くを流れる有家川の様子や源流を探索することとおして、川のはたらきと暮らしに与える環境について理解する。	
時期	5月～10月	
段階	学習内容（○主な内容 ・具体的な活動や配慮事項）	時数
課題把握	<p>○有家川の様子を観察しに行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図に絵を描くなどしてメモをとる</li> <li>・川の中の様子を観察する（生き物がいるのはきれいな水なのだ気づかせる）</li> </ul> <p>○大野の川を中心とした自然のお話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有家川を中心とした大野の川が、昔からどのように人々の生活に結びついてきたかを聞く。</li> </ul> <p>※講師招聘 大野の自然を守る会 松橋栄さん</p> <p>○川と人々との生活について、調べたい課題を見つける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめてきた絵地図を見ながら、自分が調べたいテーマを見つけさせる。（児童が課題解決できるテーマになるように配慮する）</li> </ul>	10時間
追求	<p>○有家川の水生生物調査をし、有家川にいた生き物をまとめ、水質を調べる。（6時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に有家川に入り、生き物を採集して水質を調べる。</li> </ul> <p>○源流や久慈平岳の見学に行く。（5時間）</p> <p>※スクールバス利用</p> <p>※講師招聘 大野の自然を守る会 松橋栄さん 佐々木祥吉さん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大野の川の水が農業用水として使われていることを知る。</li> <li>・源流を知り山と海のつながりや、川と昔の人々の生活のつながりを知る。</li> </ul>	11時間
まとめる	<p>○調べたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人新聞にまとめる。</li> </ul>	6時間
ふりかえり	○わかったことをまとめて、ミニ発表会を開く。	3時間



【高学年 R4年度】全30時間

単元名	大野の酪農と海洋のつながり	
時数	30時間	
ねらい	・大野の海成段丘と酪農、やませの関係を知り、海に起きている問題と関連付けて考え、環境を守ろうとする態度を養う	
時期	7月～12月	
段階	学習内容（○主な内容 ・具体的な活動や配慮事項）	時数
課題把握	<p>○海成段丘を見学する（3時間）</p> <p>※スクールバス利用 講師招聘 ひろのまきば天文台台長 阿部 俊夫さん</p> <p>・海成段丘について学ぶ。</p> <p>・大野の酪農と模範牧場</p> <p>○大野が酪農が盛んな理由を“やませによる冷涼な気候”と“なだらかな海成段丘”であることをまとめる。</p> <p>（3時間）</p>	6時間
追求	<p>○間澤牧場に行き、大野の酪農について見学・体験をする。</p> <p>※スクールバス利用 講師 間澤牧場 間澤 葉子さん</p> <p>○やませについて調べる</p> <p>・やませのしくみや影響について調べる</p> <p>○やませと海に起きている問題の関係を調べる</p> <p>・海水温上昇や地球温暖化、海洋ゴミなど</p> <p>○大野（林郷）の酪農のために自分ができることを考える。</p> <p>・地球規模の視点、SDGsの視点から考えさせる。</p>	17時間
まとめる	<p>○調べたことをまとめる</p> <p>・ポスターにまとめる</p> <p>※地域カンファレンスや海洋サミットを見据えたまとめにする</p>	5時間
ふりかえり	○1年間の海洋教育で学んだことをふりかえる。	2時間



# 「有家川の自然を調べよう」

西 1  
間 2  
年 3

川二つ目は、  
果は有家川の  
水がきれいな  
水でできた。

ジヒ川な  
ケ虫か次  
ウナでたに  
すト多リか  
。ビがし  
ケたたり  
ラた。リ  
との魚少  
ドはと少

キかたたりで魚になし  
リッたりもと主っ生一  
イの魚少と川にいて物  
ワは川かになす生さ  
でミでたが。きま  
すズ少多かそ物は  
カ少か。のした  
マなし。中

川は、久慈平岳に  
ある。向田川も  
ここから始まる。

川は、久慈平岳に  
ある。向田川も  
ここから始まる。

江崎のど(1)有家川  
のきれいな水の中  
には、魚や川虫が  
たくさん生きている。

アイヌの言葉で「  
水がきれいな水」  
という意味です。

アイヌの言葉で「  
水がきれいな水」  
という意味です。

浄水場は、久慈平岳  
にある。水はきれい  
で、魚がすくすく  
育ちます。

川は、久慈平岳に  
ある。向田川も  
ここから始まる。

川は、久慈平岳に  
ある。向田川も  
ここから始まる。

久慈平岳の高さは、  
七〇六メートルです。

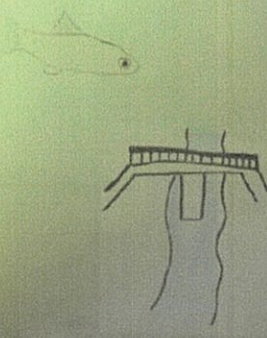


筆著は、有家川の  
自然を調べよう。  
川はきれいで、  
魚や川虫がすく  
すく育ちます。

川は、久慈平岳に  
ある。向田川も  
ここから始まる。

川は、久慈平岳に  
ある。向田川も  
ここから始まる。

川は、久慈平岳に  
ある。向田川も  
ここから始まる。





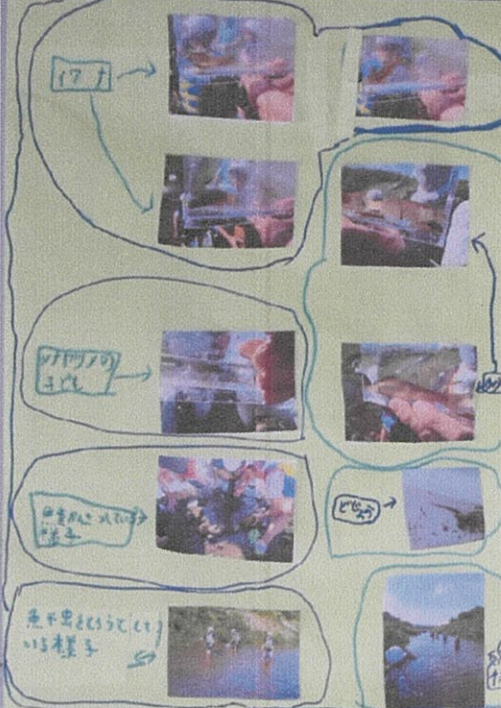
# 有家川の自然を調べよう

西綾乃 粒來 然作  
下道 海音

## 有家川について

有家川にはいろいろな生き物が  
いました。ミズカマキリ、ゴオニ  
ヤンヌのよう、他にもたくさん  
さんいました。ヤマメ、イワナ  
お魚もいました。他にもたくさん  
他にもたくさんのお魚がいました。

ナガレトビゲラとみげながわと  
びげらは、自分の身を守るために  
大きい石に小さい石をつけて身  
をまもります。この二匹のすは  
少しねばねばしていました。  
そして、少しおおきなあみで魚や  
虫をとりました。とくに楽しか  
たのは、魚をとることができた。大  
きな魚もとれてうれしかった。大  
きくいろいろな虫や魚がとれてよ  
かったです。



## 久慈ひらだけについて

久慈ひらだけは、とても高い山で、  
いな山です。高さは、七百メートルも  
あります。アツタの水場にも行きました。  
田の水をとって、ふると下にたま  
り、いたゴミや土が、ペットボトル  
いっぱいになります。そして、ろが  
もみせ、くねました。きたない水が  
ろがら、な水になるのがすごか  
たです。久慈ひらだけのぼりま  
した。のぼると、けしきを見ま  
した。で、人ぼうだいのぼりま  
した。実は、ふだんは、くじ  
ちうだけ、こてもきれいなけし  
きです。たし、いろいろなし  
ね

## まとめ

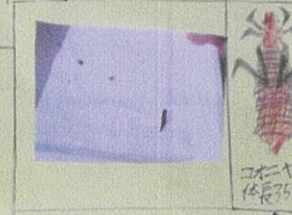
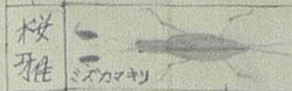
有家川では、いろいろな虫や魚が  
いて、水は、きれいな水です。  
び、くりしたことは、ヒラタ  
カゲロウがうかしたことです。  
久慈ひらだけでは、浄水場や水  
のことが、かして、よかったです。  
とくに、久慈ひらだけのけし  
き、きれいです。たし、久慈  
ひらだけについて、他にも、  
有家川のことや久慈ひらだけ  
について、いろいろ調べよう





# 有家川の自然を調べよう

作、郷、粒、夾、桜、稚、市、咲、希  
材、郷、悠、吾、詔、市、咲、有



希有家川について  
 希有家川で生物と水管の二つを調べ  
 ました。たのは、コオニヤンマとい  
 う虫です。体長は、約三十五ミリメ  
 ートルです。赤っぽい色でした。そし  
 て、ミズカマキリもいました。それ  
 て、他にも大きなオニヤンマを使  
 った。ウグイやイワナにも使  
 った。希有家川の水質のけ、かは  
 ややきれいでした。なぜか  
 とい、うと、ヤヤヤヤヤヤ川に  
 す、おコオニヤンマがたくさ  
 いたからです。



## 久慈平岳について

### ①山の事について

久慈平岳のひう高は、七〇六メ  
 ートルです。うに展望台もありま  
 す。洋野町からは、山に見えますが  
 ちよ、うにから右がわは、がけに  
 ています。アイヌ語では、久慈ひう  
 岳というそうです。

### ②川の事について

久慈平岳には、さわが何百か所と  
 あります。向田川は、他の川と合流  
 して、有家川になります。

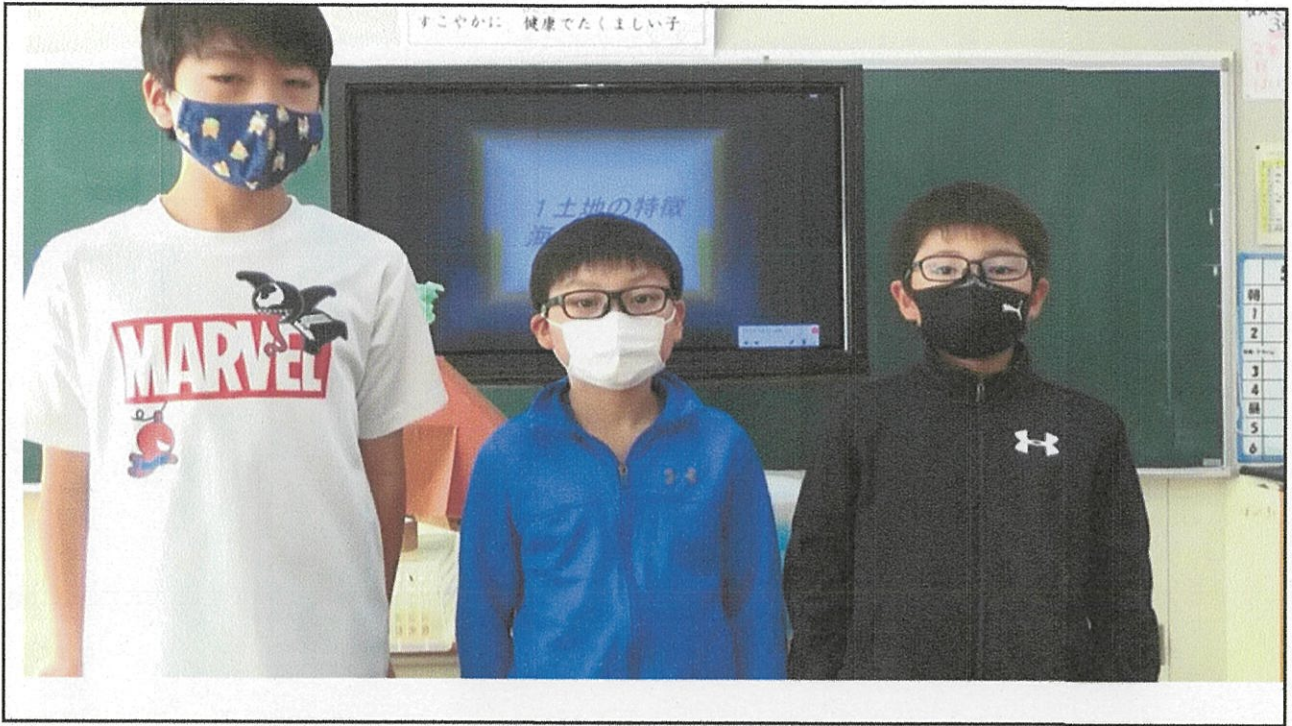
### ③浄水場について

洋野町には、四つの浄水場があり  
 ます。最も、水がとどく所は、深水  
 井と言います。水の調べるものは、深  
 さをはかりたり、か調べます。次に  
 ちんでん池では、水より少し重い  
 みをおとします。そして、ろか池で  
 ろかとい、うすのろろろろろろろ  
 にな、うすのろろろろろろろろろ  
 なります。8時間くらいいかかります。

## まとめ

希有家川の生物で  
 は、ミズカマキリ  
 やコオニヤンマと  
 う川虫やウグイ  
 イワナという川  
 魚がたくさんい  
 水質は、やさされ  
 いで予想以上にさ  
 れいでした。  
 希有家川の水質  
 は、七〇六メトル  
 ルも、久慈ひう岳  
 には、久慈ひう岳  
 とい、いひひひひひ  
 ました。  
 希有家川では、さわ  
 何百か所とあり、  
 向田川と他の川と  
 合流し、希有家川  
 になること、がす  
 かなと思、い、ま、し、た。





1

洋野町の牛について		
	ホルスタイン	黒毛和種
頭数	3 2 5 2 頭	1 4 9 6 頭
大きさ	体高 1 4 0 cm ~ 1 5 0 cm	体高約 1 3 0 cm
えさ	1 日 3 0 kg	1 日 3 0 kg
特徴	寒さに強く、暑さに弱い	寒さに強く、暑さに弱い
その他	オスは大きくなったら肉用牛になります。 メスは大きくなったら乳用牛になります。 搾乳できる量は 1 日 2 0 から 3 0 L です。	種牛となる牛以外は、肉用牛になります。



2



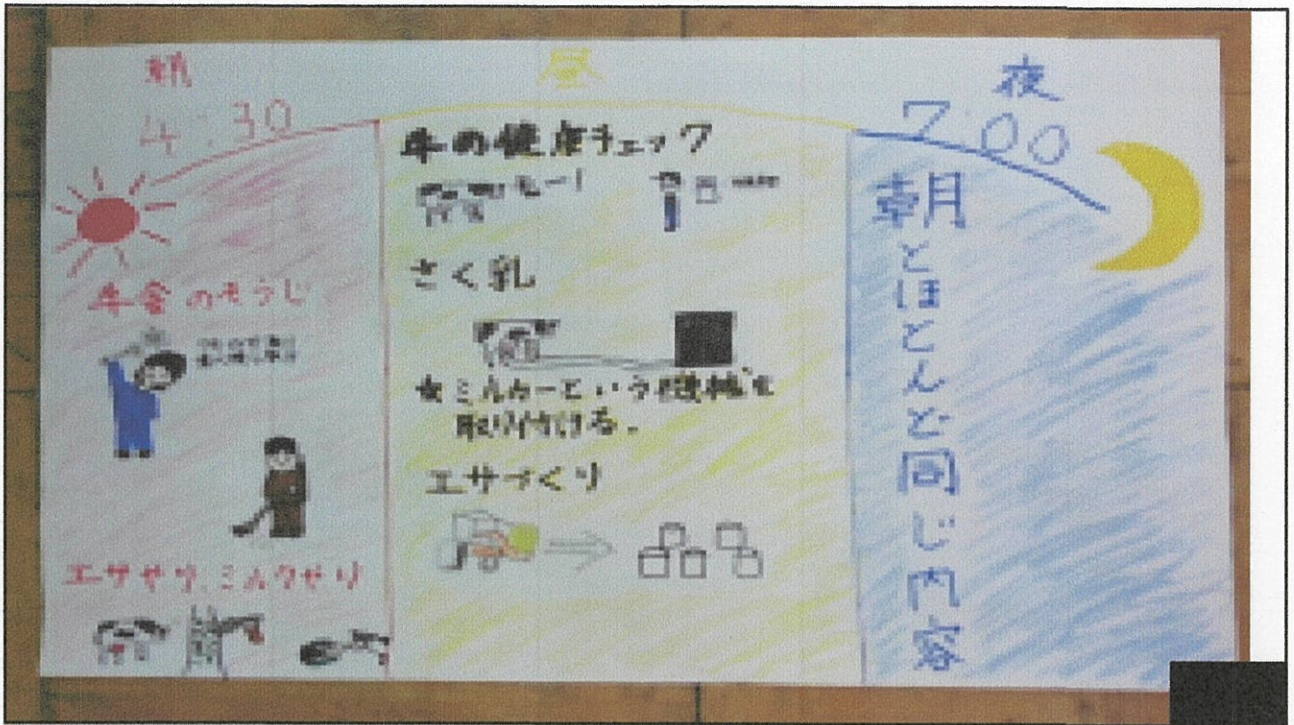


3



4





5

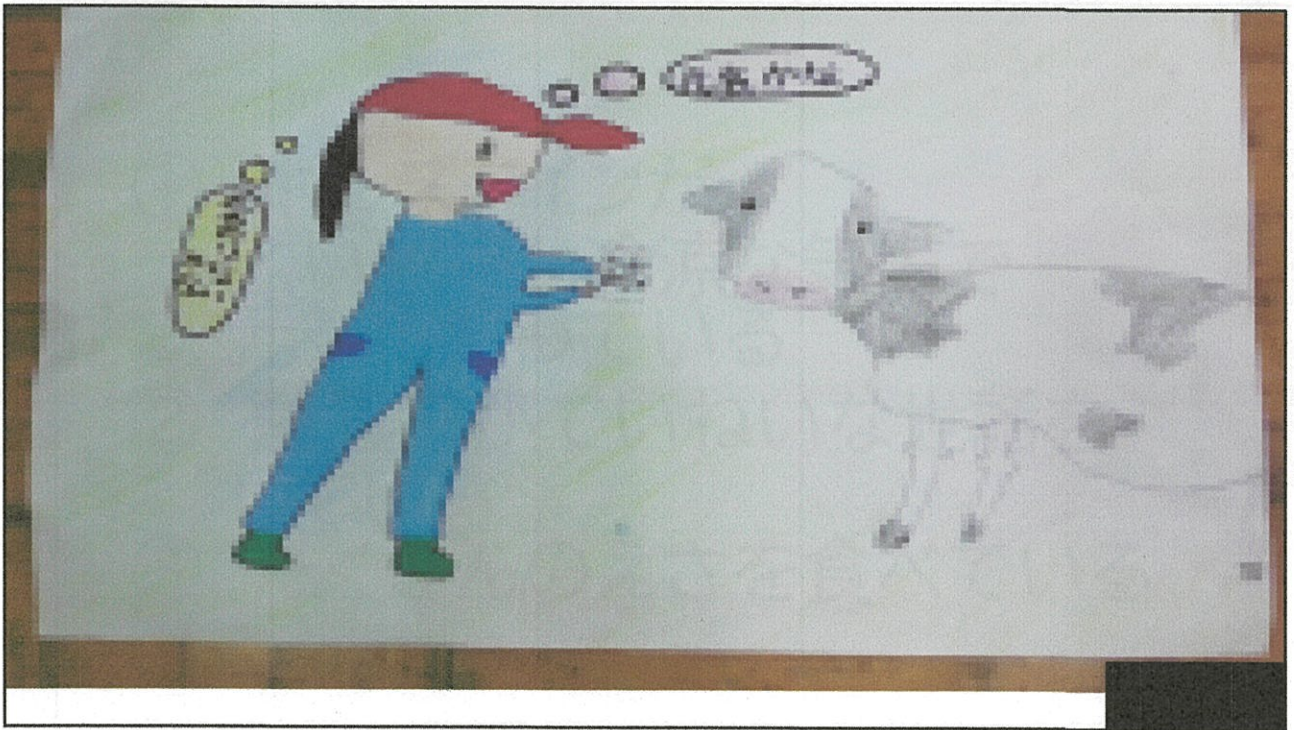


6





7



8



# 内陸部も 海のめぐみを受けている



11

## 〇ゆめ牛乳や酪農の魅力を 広めていく！



12



# ○海を大切にする。



13

# 洋野町立帯島小学校

# 海洋教育推進計画

## 1 目的

本校は、太平洋側の隆起による海成段丘（大野段丘）の上に立つ中山間地域にある。海岸線までは30kmほどあり、一見、海洋に親しみ生活しているとは言い難い地域である。しかしながら地域の中心的な産業（農・畜産業）は海洋の影響により形成された段丘と太平洋から吹き上げる山背を利用して拡大してきた経緯がある。従来、負の影響が大きく取り上げられる山背を最大限利用し、さらに段丘地形を見事に活用し、発展してきたこの地域の知恵と志の高さに目を向け、ふるさとの伝統や文化、自然を愛する児童を育てると共に産業と自然、社会との関わりを追究することにより多面的・総合的に物事を考えることができる児童の育成を目指すものである。

## 2 目標

地球の成り立ちに始まる海の影響により創成された洋野町の大地に生き、ともに歩んできた洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の4つの観点で目を向け、自分たちの生まれ育ってきた地域に喜びと誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育てる。

## 3 基本的考え方

海洋教育はこれまで本校で行われてきた教育課程を「海・海洋・地球」を切り口に見直し、各教科・領域で「海・海洋・地球」（＝身の回りの出来事）と関連させて取り組むことで、実生活を意識し、より主体的に「海に生き、海とともに歩む地域に喜びと誇りをもち郷土の豊かな自然や地域の特色を学ぶ」ことを基本とする。

## 4 具体的な観点

### (1) 海に親しむ

町内に広がる豊かな海や川、山での体験学習を行い豊かな心と郷土を愛する心をはぐくむ。（ふるさとで過ごす喜び）

### (2) 海を知る

身近な郷土について「水」を視点に見直し、発見したことをもとに郷土の特色を学び、郷土の発展に努める。（地域の特色を学ぶ）

### (3) 海を守る

「森林愛護少年団」の活動や「森林学習」の目的を明らかにし、「海や水」「産業」とのつながりを意識することで、郷土を大切にすることを心をはぐくむ。（ふるさとを愛する心）

### (4) 海を利用する

先人たちは、どのようにして海の恵みを享受してきたのか。地域に根ざした産業を学び、地域社会に尽くす人材を育成する。（地域社会に尽くす）

## 5 今年の重点

- ・現在の教育活動（※総合的な学習の時間を中心として）を「水」「海」「地球」「世界とのつながり」という視点で見直し、海洋教育の関連を明らかにする。
- ・関連性のある学習において「水・海との関連」という視点を児童に投げかけ、考える機会を持つ。

## 6 具体的実践領域

- ①体験活動全般
- ②自然科学全般（気象・水の循環・四季・地形・気候・地学・物理・化学）
- ③産業学習全般（農業・林業・工業・商業・物流・特産）
- ④地域学習全般（人・もの・土地）
- ⑤伝承活動

## 7 学習の具体的視点

- (1) 「海成地形の影響」(利点・欠点)
- (2) 気候と海の影響、暮らし、産業との関係 (山背、ほうれん草、酪農、米作)
- (3) 「水」との関わり(森林と水 源流 水の循環 海への影響)
- (4) 起源をさぐる(えんぶりの起こり、願い、踊りの意味)  
(産業の起こり、特徴、自然環境との関連)
- (5) 比べる(海と山との違い 海と山との関連)  
(他の地域との違い 他の地域との関連)

## 8 各学年における今年度の指導計画

【中学年 A年度】全30時間

単元名	洋野のウニを調べよう	
時数	15時間	
ねらい	洋野のウニの秘密を探り、海の恵みに感謝する。	
実施時期	6～2月	
段階	学習内容(○主な内容 ・具体的な活動や配慮事項)	時数
課題把握	○ウニについて調べたいことを考える。 ・ウニについて知っていることを発表し合う。 ・ウニについて、調べたい課題を考える。	1
追求	○海辺で遊ぼう ・種市海浜公園で遊ぼう ○洋野のウニを観察しよう ・種市ウニ栽培漁業センターの見学	3
	○洋野のウニやコンブについて調べよう ・ウニのえさ ・おいしいウニのひみつ ・コンブの育ち方	4
まとめる	○ウニやコンブについて分かったことをまとめよう ・グループごとに分かったことをまとめる	2
	○発表会の準備をしよう ・グループごとに壁新聞を作る ・発表会の練習をする	3
	○発表会をしよう ・授業参観で発表する	1
ふりかえり	○学習のふりかえり ・学習を終えた感想を書く	1

単元名	モーモー探検隊	
時数	15時間	
ねらい	ほうれん草農家や酪農家の仕事を知り、地域の人々の願いを探る。	
実施時期	6～2月	
段階	学習内容(○主な内容 ・具体的な活動や配慮事項)	時数

課題把握	○ほうれん草や酪農について自分の課題を決める ・ほうれん草について知りたいこと ・酪農について知りたいこと	1
追 求	○体験しよう（ほうれん草・酪農） ・出前授業	3
	○まとめよう ・ほうれん草農家や酪農家の様子を見学した感想を書く	1
	○帯島の酪農について調べよう ・自分の課題に沿って調べる ・見学して分かったことをまとめる ・必要に応じて追加質問する	3
まとめる	○ほうれん草や酪農について分かったことをまとめよう ・グループごとに分かったことをまとめる	2
	○発表会の準備をしよう ・グループごとに壁新聞を作る ・発表会の練習をする	3
	○発表会をしよう ・授業参観で発表する	1
ふりかえり	○学習のふりかえり ・学習を終えた感想を書く	1

【中学年 B年度】全30時間

単元名	源流体験をしよう	
時 数	6時間	
ねらい	高家川の様子を知り、川の水をきれいに保つことの大切さを知る。	
実施時期	6月	
段 階	学習内容（○主な内容 ・具体的な活動や配慮事項）	時数
課題把握	○高家川について考える ・高家川の源流を知る	1
追 求	○源流体験をする ・高家川沿いのごみ拾いをする ・高家川の源流の観察をする ・大野ダムの見学をする	4
ふりかえり	○学習のふりかえり ・学習を終えた感想を書く	1

単元名	植樹をしよう	
時 数	3時間	
ねらい	植物を植える体験を通して、自然への興味を高める。	



実施時期	6月	
段階	学習内容（○主な内容 ・具体的な活動や配慮事項）	時数
活動	○植樹の方法を知る	1
	○植樹体験をする	1
ふりかえり	○活動のふりかえり ・活動を終えた感想を書く	1

単元名	洋野の海を楽しもう	
時数	21時間	
ねらい	海とともに暮らす楽しさを知るとともに、海を守る大切さを知る。	
実施時期	6～2月	
段階	学習内容（○主な内容 ・具体的な活動や配慮事項）	時数
課題把握	○洋野の海について考えよう ・洋野の海について知っていることを発表しよう ・洋野の海について調べたいことを考えよう	1
追求	○海つりを楽しもう（環境アドバイザー：中野雅幸さん他） ①イサダ取りにチャレンジしよう ②砂浜のごみを集めよう ・種市海浜公園内のごみ拾いをする ・海のごみについてのお話を聞く ③魚釣りをしよう ・魚釣りの方法を教えていただく ・種市海浜公園で魚釣りをする	4
まとめる	○魚つりの楽しさを紹介しよう ・魚つりの様子を個人新聞にまとめる	3
	○海のごみから分かることをまとめよう（種類や量など） ・グループごとにテーマを決め、資料集めをする	3
	○海つり体験や海のごみについて分かったことを伝えよう ・グループごとに発表資料を作る ・発表会の練習をする	7
	○発表会をしよう ・授業参観で発表する	1
ふりかえり	○学習のふりかえり ・学習を終えた感想を書く	1

【5年生】全30時間

単元名	高家川博士になろう	
時数	30時間	
ねらい	川の水をきれいにすることの大切さを知るとともに、海との関係を探る。	
実施時期	6～2月	
段階	学習内容（○主な内容 ・具体的な活動や配慮事項）	時数
課題把握	○オリエンテーション ・高家川について考える ・高家川の源流を知る ・自分の課題を決める	2
追求	○源流体験をする ・高家川沿いのごみ拾いをする ・高家川の源流の観察をする ・大野ダムの見学をする	4
	○高家川の水質を調べよう ・水生生物調査とパックテストをしよう	4
	○高家川の水質からどんなことが分かるか話し合おう ・「ハナカジカ」について調べよう	8
まとめる	○高家川の水質についてまとめよう ・水生生物調査の結果から ・パックテストの結果から ・発表会の準備をしよう ・発表会の練習をしよう	10
	○発表会をしよう ・授業参観で発表する	1
ふりかえり	○学習のふりかえり ・学習を終えた感想を書く	1

【6年生】全30時間

単元名	環境問題と未来	
時数	30時間	
ねらい	より良い未来を目指して海や地域のためにできることを主体的に考えることができる。	
実施時期	4～2月	
段階	学習内容（○主な内容 ・具体的な活動や配慮事項）	時数
課題把握	○オリエンテーション ・学習計画を立てる ・自分の課題を考える	1

追 求	○源流体験を深める ・高家川に落ちているごみの種類について ・自然環境に及ぼすごみの影響について ・ごみを減らすための世界的な取り組みについて (3R、分別、海洋ごみ、バイオマスなど)	6
	○森林学習 ・学校裏山の木の間伐 ・伐採した木を使った木工教室 ・環境アドバイザー(中野雅幸さん)による森林の役割にいてのお話	2
	○森林学習を通して山(森)の働きを知る ・広葉樹がもたらす影響について ・山に降った雨水はどうなるのか・豊かな森が豊かな海を育む理由	4
まとめる	○海洋教育子どもサミットに向けた資料作りと発表練習をしよう ・海の世界の現状や課題 ・ごみ軽減のための具体的な取組 ・海を守るために自分たちにできること。→実践していく ・海と森のつながり(森林学習より)	9
	○サミット参加・発表	3
	○授業参観やカンファレンスに向けた準備をしよう ・こどもサミットの資料の手直し ・発表練習	3
ふりかえり	○学習のふりかえり ・帯島を含めた森や海への思いや願い ・新たな問い ・これからの自分の生き方について	2

## 9 総合的な学習の時間と海洋学習に関連する活動計画

- 5月 田植え体験(5年生)
- 6月 酪農・野菜作り・工房見学・地域のゲストティーチャーによる授業開始
- 7月 高家川源流探検・大野ダム見学・森林愛護少年団活動開始(4~6年生)  
(指導者を招いての)水生生物調査 パックテスによる水質調査
- 11月 海洋教育子どもサミットへの参加(6年生)
- 10月 稲刈り体験(5年生)
- 10月・1月 地域へのえんぶり披露(5~6年生)
- 2月 授業参観での発表会による地域・保護者への学習のまとめ発表

## 第5学年 総合学習指導案

日時 令和4年7月11日

児童 5学年児童 男子9名 女子4名 計13名

指導者 八木 雄希

### 1 本時の目標

身近な川と生活とのつながりを考えながら、実際に川の水がどれくらいきれいなのかを調査しよう。

### 2 本時の指導

学習活動	指導上の留意点（◇評価）
1 前時までの学習の振り返りと本時の見通しをもつ。	・川の水は生活とどのように関わっていたか、川と海の手ながりについてどんあつながりがあったかなどを確認する。
2 今日の課題を設定する。	
高家川にいる水生生物の調査やパックテストを行って、水質を調べよう	
3 水生生物調査やパックテストの行い方を聞く。	
4 高家川の水質を調べる。 ・高家川に住んでいる水生生物を調べ、川のきれいさを調べる。 ・高家川の水のきれいさをパックテストで調査する活動を行う。	・班ごとに活動を行い、水生生物調査やパックテストを行う。 ◇見つけた水生生物やパックテストの結果から、川の水がどれくらいきれいなのか考える、判断することができる。
5 高家川の河口に移動し、川の様子やどんな生き物がいるのか調べる。	・班ごとに活動を行い、水生生物調査やパックテストを行う。 ◇見つけた水生生物やパックテストの結果から、川の水がどれくらいきれいなのか考える、判断することができる。
6 今日の学習の振り返りをする	・ワークシートに、実際に調査をして分かったことや考えたこと、川と海とのつながりなど気づいたことを書く。

第6学年 海洋教育指導案

日 時 令和5年2月9日(木) 5校時

対象学級 6学年児童 11名

指導者 湊 麻実

1 本時の指導(28時間目/全28時間)

(1) 目標

今までの経験や体験をまとめ、山・川・海の働きや自分たちにできることを知ることができる。

(2) 展開

段階	学習活動	○指導上の留意点(◇評価)
導入 5分	1 学習の見通しをもつ。 ○各グループの発表をしっかりと聞いて、自分たちがこれからできることを考えましょう。	○各グループが調べてまとめたことを聞いて、洋野町の環境の現状や、自分たちにできることを考えることを確認する。
展開 30分	2 グループごとに発表する。 ・環境のことを意識せずに過ごすと、川がどんどん汚れて、汚れた水が海にも流れてしまう。 ・ごみを減らすために、ポイ捨てをしない、3Rを心がけるなどができる。 ・海を守るために、ごみ拾いをする、ごみを捨てないなどの取り組みができる。 ・森林を守ることで、木を使って遊ぶことができたり、動物や植物が住処を作って過ごすことができたりする。 3 各グループの発表を聞いて、分かったことや感じたことを書く。 ・海が汚れると、赤潮という現象の原因にもなることが分かった。 ・海の環境を守ることで生き物たちが住みやすくなり、魚を使った料理を自分達が食べることができることを知った。 ・森林学習で、環境アドバイザーの方からお話を聞き、木を守るために大切なことが分かった。	○ごみを軽減するための具体的な取り組みや、海と森のつながりなど、今まで学んだことや経験したことなどをもとに、各グループで調べたことを発表する。  ○各グループの発表を聞いた後、分かったことや考えたことなどを書く。
終末 10分	6 振り返りをする。 ○今日学んだことを書いて、発表しましょう。 ・家庭から出る生活排水も、海や川を汚す原因になることが分かった。 ・海洋ごみでアートを作るなど、資源を無駄にしない取り組みがあることが分かった。 ・普段からエコバッグを持ち歩こうと思った。 ・ポイ捨てをしないなど、自分たちにもすぐに行えることをしていきたいと思った。	◇各グループの発表を聞いて、山・川・海の働きや自分たちにできることを考えることができる。 <思考・判断・表現> 【記述・発言】





# 洋野町立向田小学校

## 向田小学校 第3学年 ひろの学 学習指導案

### 1 単元名「向田の未来を創る私たち」(30時間)

### 2 単元のねらい

- ・森林の働きや地域の気候の特徴を調べ、向田の自然の美しさを素晴らしさに気付かせる。
- ・地域の特産品の豆腐づくりや米作りを通して、向田の人や自然の豊かさ、資源と海とのかかわりに関心を持ち、地域のすばらしさと自分たちのくらしとのかかわりについて気付かせる。

### 3 単元指導計画

時	☆学習課題 ○主な学習活動	・指導上の留意点 ◆評価規準<観点> [方法] ◇教科等の関連 ※ゲストティーチャー
2	☆稲の種をまこう ○稲の種まき体験をする。(2)	・稲の苗づくりの様子を知る。 ・丈夫な苗を作るためにどんな工夫や世話が必要か教わっている。<主体的に取り組む態度> [発言・観察] ※川原由次郎さん (三本木悠真さんの祖父) ◇理科3年生「たねをまこう」
2	☆向田の自然の今を知ろう。 ○向田地域に住む私たちは、今どんな自然に囲まれて生きているのか話し合う。(1) ○学校周囲の自然を観察する。(1) (森林観察学習)	・動植物、山、川、土、空気、太陽等、視点を与えて考えさせることで、自然と私たちとの関わりについてより深く考えさせる。 ◆どんな自然に囲まれて生活しているのか、主体的に話し合い活動に取り組んでいる。<学びに向かう力> [発言・観察] ※洋野町農林課
2	☆おいしいお米になるように上手に田植えをしよう ○苗の植え方を教わり、田植え体験をする。(2)	・地域の方から田植えの仕方を教わり、縦割り団ごとに協力しながら、上手に苗を植える。 ◆進んで苗を植えているか。教わった通りに最後まで真剣に田植えを行っているか。<主体的に取り組む態度> [発言・観察] ※地域の方々、保護者
2	☆大豆の種まきをしよう ○きれいな大豆を種にするので、選別を	・前年度収穫した大豆の傷や色の付いていないき

	<p>する。(1)</p> <p>○パラパラと蒔いて、苗を作る。(1)</p>	<p>れいな大豆を選別する。</p> <p>・小動物に芽が食べられないように苗床に網のトンネルをかける。</p> <p>◆丁寧に選別しているか。良い大豆がたくさん収穫できるように、主体的に苗づくりを行っているか。&lt;学びに向かう力&gt; [発言・観察]</p> <p>※坂川スミさん、村田チエさん (豆風鈴さん)</p> <p>◇理科3年生「たねをまこう」</p>
2	<p>☆大豆の植え替えをしよう</p> <p>○成長した大豆の苗を畑に植え替える。(2)</p>	<p>・60cmくらいの広めの間隔で、2本ずつ大豆の苗を畝に植え替える。</p> <p>・根を切らないように丁寧に植え替える。</p> <p>◆苗の植え方を教わり、丁寧に植え替えているか。&lt;主体的に取り組む態度&gt; [発言・観察]</p> <p>※坂川スミさん、村田チエさん (豆風鈴さん)</p> <p>◇理科3年「どれくらい育ったかな」「花がさいたよ」</p>
(学校行事5)	<p>☆山開きに参加して地域の特徴を知ろう</p> <p>○久慈平岳の山開きに参加する。(学校行事5)</p>	<p>・山開きの意味を知る。森林学習や神事に関心が持てるようにし、参加意欲を高められるようにする。</p> <p>◆久慈平岳やその周辺の自然の様子を観察し、地域の美しい自然について関心をもつ。</p> <p>&lt;主体的に取り組む態度&gt; [発言・観察・観察カード]</p>
2	<p>☆水生生物を調べよう</p> <p>○有家川の水生生物を調べる。(2)</p>	<p>・地域に流れる有家川の水生生物を調べることで関心をもたせる。</p> <p>◆有家川の水生生物を進んで調べ、採取した生き物から水質の様子に気付くとともに、川がきれいな理由を森林の働きと関連付けて考える。&lt;思考・判断・表現力&gt; [発言・観察・観察カード]</p> <p>※久慈広域</p>
2	<p>☆稲刈りをしよう</p> <p>○育てたお米の稲を刈り収穫体験をする。(2)</p>	<p>・地域の方から稲の刈り方を教わり、縦割り団ごとに稲を刈り、藁で結ぶ。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に作業させる。</li> <li>◆進んで稲を刈ったり、教わった刈り方を教え合ったりしながら、収穫の喜びを感じている。＜主体的に取り組む態度＞ [発言・観察]</li> <li>※地域の方々、保護者</li> <li>◇理科3年「実ができたよ」</li> </ul>
2	<p>☆育てた大豆を収穫し、乾燥しよう</p> <p>○育てた大豆を収穫し、一掴みずつ藁で束ねて干す。(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大豆の収穫の仕方を教わり、丁寧に土を落とし、一掴みずつ藁で結び、自転車置き場に張ったロープに干す。</li> <li>・作業後、土や葉で汚れたところを掃く。</li> <li>◆進んで収穫している。成長した大豆の様子に気付くとともに、収穫の喜びを感じている。＜思考・判断・表現力＞ [発言・観察・観察カード]</li> <li>※坂川スミさん、村田チエさん（豆風鈴さん）</li> <li>◇理科3年「実ができたよ」</li> </ul>
2	<p>☆大豆の豆うちをしよう</p> <p>○乾燥した大豆を殻から取る体験をする。(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大豆の収穫の仕方を教わり、丁寧に大豆を殻から外す。使う道具に関心をもつ。</li> <li>◆進んで収穫作業に参加している。使う道具に関心をもっている。＜主体的に取り組む態度＞ [発言・観察]</li> <li>※坂川スミさん、村田チエさん（豆風鈴さん）</li> <li>◇社会3年「かわる道具とくらし」</li> </ul>
4	<p>☆豆腐をつくろう（本時）</p> <p>○収穫した大豆を使って、豆腐づくり体験をする。(3)</p> <p>○豆腐作りの工程や体験の振り返りをする。(1) 本時</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豆腐の製造工程を知る。</li> <li>・どんな思いを込めて作っているか、工夫や苦勞を聞く。</li> <li>◆製造工程に関心をもつとともに、おいしい豆腐を作るためにどんなこだわりをもっているか関心をもっている。＜知識・技能・主体的に取り組む態度＞ [発言・観察]</li> <li>※豆風鈴（坂川スミさん、村田チエさん他）</li> </ul>
5	<p>☆活動のまとめをしよう</p> <p>○体験したことや調べて分かったことをまとめる。(5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習を振り返り、学んだことを想起させる。</li> <li>・大豆、豆腐作りのオリジナルカレンダーを作る。</li> </ul>



		◆課題解決に向けて、工夫してカレンダーを作っている。＜思考・判断・表現力＞ [発言・観察]
2	☆まとめたことを発表しよう ○学習してわかったことや感じたことがわかりやすくまとめているか、発表したり読み合ったりする。(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大豆作り・豆腐作りの工夫を通し地域の人々の願いや向田の自然を生かした活動を知る。</li> <li>・各自のテーマに沿って、わかったことが見やすく伝わるか、絵や図などが効果的か、お互いに見合う。</li> <li>◆自分のまとめと比べながら見たり読んだりして、主体的に話し合いに参加している。＜主体的に取り組む態度＞ [発言・観察]</li> <li>◆向田の自然や環境の良さに気付いている。＜思考・判断・表現力＞ [発言・観察]</li> </ul>
1	☆1年間の活動を振り返ろう ○活動のまとめをしよう (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習を通して学んだ知識や体験を価値づけて、これからの学習や生活に生かすように促す。</li> <li>◆海洋教育で学んだことを学習や生活に生かそうとしている。＜主体的に取り組む態度＞ [発言・観察]</li> </ul>

#### 4 本時の指導計画

##### (1) 目標

進んで収穫作業に参加し、成長した大豆の様子に気付くとともに、収穫の喜びを感じることができる。

(2) 展開

段階	学習活動	・指導上の留意点◆評価規準<観点> [方法] ◇教科等の関連 ※ゲストティーチャー
導入 5分	1. 本時の学習課題を設定する。 豆腐作りの作業を振り返り、感想をまとめよう。	・単元の課題意識をもって活動を行うことができるようにする。
展開 35分	2. 豆腐作りの工程を振り返る。 ○写真を見ながら豆腐作りの工程をワークシートに振り返る。 ・最初は前の日に大豆を水につけておくことから始まった。 ・次はつぶす作業をした。  3. ペアになり豆腐作りのポイントを話し合う。 ・にがりというものが大事だった。 ・出来上がった豆腐を崩さないようにパックに入れるのも大切だった。 ・使っている大豆は洋野町のものだった。 ・どの作業も人の手が必要。  4. ペアで整理した情報を全体で共有する。 ○ペアで整理した情報を発表する。 ○なぜ大切なのか考える。 ・にがりを使わないと固まらないから。 ・買ってくれるお客さんのことを考えている。 ・洋野町の特産を使っておいしさを届けたいと思っているから。  5. 共有したものをもとに感想を書く。 ○共有した情報から、豆腐作り体験の感想をワークシートに書く。 ・おいしい豆腐を作るには食べて欲しいという思いが大切だと思う。 ・洋野町は農家さんがおいしい大豆を作っているからおいしい豆腐ができるのだと思う。	・活動の写真をモニターで大きく映すようにし、児童が思考しやすい環境をつくる。(ワークシート)  ・豆腐作りの工程の中で大切なポイントはどこにあったか考えさせる。 ◆製造工程に関心をもつとともに、大切なポイントについて考えている。<思考・判断・表現力> [発言・観察]  ・発表したポイントはなぜ大切にしていることなのか、働く人の思いやこだわりを注目できるようにする。 ・構造的な板書にすることで、児童が考えを再構成する際の手がかりとなるようにする。 ◆おいしい豆腐を作るためにどんなこだわりをもっているか関心をもっている。<知識・技能・主体的に取り組む態度> [発言・観察]  ・自分の考えと友達のことを比較したり関連させたりできるような発問をすることで、本時の課題解決に向けた意識を高めることができるようにする。

	<p>・働いている人みんなで協力して、作ることも大切だと感じた。</p>	<p>ワークシート</p> <p>◆体験したことを思い出したり、関連付けたりしながら豆腐作りについて自分の考えを整理している。＜思考・判断・表現力＞ [発言・観察]</p>
<p>終 末 5 分</p>	<p>7. 本時の学習を振り返る。</p> <p>○本時の学習を振り返り、次時からはオリジナルカレンダー作りをしていくことを確認する。</p>	<p>・本時の学びをもとにオリジナルカレンダー作りをしていくことを伝え、次時への活動に期待がもてるようにする。</p>

## 向田小学校 第5・6学年 ひろの学 学習指導案

1 単元名 「向田の未来をソウゾウしよう」(30時間)

2 単元のねらい

- ・森林の働きや洋野町の海と自分たちの住む地域の関連性を調べることを通して、向田の自然の美しさや豊かさに気付かせる。
- ・地域の農林業の特徴を調べることを通して、地域の抱える課題を理解するとともに、どのように地域と関わっていけばよいか考え、実行しようとする思いを高める。

3 単元指導計画

時	☆学習課題 ○主な学習活動	・指導上の留意点 ◆評価規準<観点> [方法] ◇教科等の関連 ※ゲストティーチャー
2	☆向田の自然の特徴を調べよう (森林観察学習) ○向田や大野地区の山や森の特徴を調べたり、地域の特産品である炭作りを体験したりする。(2)	・地域の特産品の特徴やその作り方を知ることで自分の住む地域に対する愛情を高められるように意図して声掛けをする。 ◆地域の自然や産業の様子に関心をもち、進んで調べている。<主体的に取り組む態度> [発言・観察・ノート] ◆地域の自然や産業の様子について理解を深めている。<知識・理解> [発言・観察・ノート] ※洋野町農林課、県北広域振興局
2	☆おいしいお米になるように上手に田植えをしよう ○苗の植え方を教わりながら、田植え体験をする。(2)	・下級生に上手な植え方を教えながら苗を植えることができるように声掛けをする。 ◆美味しいお米にしたいという思いを込めながら、丁寧に田植えを行っている。<主体的に取り組む態度> [発言・観察] ※地域の方々、保護者
(学校行事5)	☆山開きに参加して地域の特徴を知ろう ○久慈平岳の山開きに参加する。 (学校行事5)	・山開きの意味を知ること、森林学習や神事に関心をもち、参加意欲を高められるようにする。 ◆美しい自然に関心をもち、久慈平岳やその周辺の自然の様子を観察している。<主体的に取り組む態度> [発言・観察・観察カード]
3	☆向田の山の特徴を調べよう ○腐葉土の水質浄化作用や有家川の水質の特徴について調べる。(3)	・腐葉土の浄化実験や、パックテストを用いた有家川の水質調査を通して、山のから栄養が含まれた水が有家川に流れ込み、それが海に流れることで洋野町の海が栄養豊富な海になるということを

		<p>理解できるようにする。</p> <p>◆実験を通して森林の性質について理解している。          &lt;知識・理解&gt; [発言・観察・ノート]</p>
3	<p>☆洋野町の海の特徴を調べよう</p> <p>○洋野町の海の特徴や特産品について調べる。(3)</p>	<p>・副読本やインターネットを活用し、洋野町の海の特徴や特産品について知ることができるようにする。</p> <p>◆洋野町の海の特徴や特産品について理解している。          &lt;知識・理解&gt; [発言・観察・ノート]</p>
3	<p>☆自然を活かしたまちづくりを考えよう</p> <p>○洋野町の山や海の特徴やその関わりについてまとめる。(1)</p> <p>○大野地区の農業や自然の様子について役場の方からお話を聞く。(1)</p> <p>○洋野町の産業や特産品を活かし、自然を守りながら町を活発にするにはどうすればよいか考える。(1) (本時)</p>	<p>・洋野町の山や海の特徴についてまとめたり、他地域のまちづくりと比較したりすることを通して、自分たちの町をよりよいものにするために必要なことは何か考えられるようにする。</p> <p>◆自分たちの住む地域をより良くするためにはどのようなことができるか、洋野町の自然の特徴や他地域のまちづくりをもとに考えている。&lt;思考・判断・表現&gt; [発言・観察・ノート]</p> <p>※洋野町役場農林課</p>
2	<p>☆稲刈りをしよう</p> <p>○育てたお米の稲を刈り収穫体験をする。(2)</p>	<p>・下級生に上手な稲の刈り方を教えながら稲刈りをするように声掛けをする。</p> <p>◆収穫の喜びを感じながら、丁寧に稲刈りを行っている。&lt;主体的に取り組む態度&gt; [発言・観察]</p> <p>※地域の方々、保護者</p>
2	<p>☆植樹体験をしよう (森は巡る)</p> <p>○森林の大切さを学ぶとともに、植樹体験をする。(2)</p>	<p>・丁寧に木を扱い、正しい方法で植樹できるように声を掛ける。</p> <p>◆森林を大切にしようという思いを持ちながら植樹活動に参加している。&lt;主体的に取り組む態度&gt; [発言・観察]</p> <p>※洋野町農林課、県北広域振興局、ひろのまきば天文台 台町 阿部俊夫さん</p>
2	<p>☆久慈平岳の源流を探索しよう</p> <p>○久慈平岳にある有家川の源流を探索し、有家川の水質や森林の様子を調査する。(2)</p>	<p>・久慈平岳の源流付近の植物や川の流れ、水質など、観察したものをタブレットのカメラ機能で記録させることで、振り返りしやすくする。</p> <p>◆有家川の水質や久慈平岳の森林の様子について理解している。&lt;知識・理解&gt; [発言・観察・ノ</p>



		ート] ※三本木恒廣さん
4	☆こどもサミットに向けて準備をしよう ○海洋教育こどもサミットに向けて、自分たちが調べたことや考えたことが相手に伝わるように資料を作成する。 (4)	・プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の使い方を理解するとともに、図やアニメーションを活用した効果的な資料の作り方を身に付けられるようにする。 ◆プレゼンテーションソフトの使い方を理解し、図やアニメーションを活用した効果的な資料を作成している。＜思考・判断・表現＞ [プレゼンテーション資料・発言・観察]
2	☆海との関わり方について考えを深めよう (こどもサミット) ○海洋教育こどもサミットに参加し、自分たちのまとめたことを発表したり、他校と交流したりする。(2)	・自分たちの発表と他校の発表の違いに注目させることで、自分たちの考えをさらに深めることができるようにする。 ◆他校との交流を通して、洋野町の海や山などの自然との関わり方について、自分の考えを深めている。＜思考・判断・表現＞ [発言・観察]
3	☆向田の未来をソウゾウしよう ○これまで学習したことをもとに、向田の山や森林、川などの自然環境との関わり方を考える。(3)	・これまでの学習を想起させるとともに、自分の将来を想像させることで、自然とどのように関わっていくか考えを深められるようにする。 ◆自分の将来を想像することを通して、洋野町の海や山などの自然との関わり方について、自分の考えを深めている。＜思考・判断・表現＞ [発言・観察]
2	☆1年間の振り返りをしよう ○1年間で学んだことを振り返り、まとめる。(2)	・これまでの学習で使用したノートやプレゼンテーション資料などをもとに振り返ることで、自然環境との関わり方について思いを高められるようにする。 ◆自分と自然環境の関わり方について思いを高めている。＜主体的に取り組む態度＞ [発言・観察]

#### 4 本時の指導計画

##### (1) 目標

洋野町の自然の特徴や他地域のまちづくりをもとに、自分たちの住む地域をより良くするために  
はどのようなことができるか考えを深める。

##### (2) 展開

段階	学習活動 ・ 予想される児童の反応や思考	・ 指導上の留意点 ◆評価規準<観点> [方法]
導入 5分	1. 本時の学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">             向田をもっとよいまちにするにはどうしたらよいか考えよう。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時までの学習を振り返ることで、本時の見通しをもたせる。</li> </ul>
展開 35分	2. 大野地区の農業や自然の様子について役場の方から聞いたことを整理する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大野地区は畜産業が盛んだった。</li> <li>・ 農業に携わる人は減っているが、林業に携わる人は増えていた。</li> <li>・ 久慈平岳で切られた木は、建物に使われたり木材チップに加工されたりすることが分かった。</li> </ul> 3. 洋野町の自然や、他地域のまちづくりから、自分たちの住む地域をより良くするために必要なことを考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 久慈平岳の植物や有家川を大切にすることで、山や海をきれいに保ちたい。</li> <li>・ 修学旅行で行った仙台のように、店や公共施設が充実していると、より住みやすく魅力あるまちになると思う。</li> <li>・ 大野木工や木炭、しいたけなど、地元の特産品を広めることで、向田にたくさん人が来るようになると思う。</li> </ul> 4. 調べたことをもとに、具体的にどのようなことをすればよいか考えを深める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業や林業の良さが伝わるように、特産品などを扱う店や、炭作りや大野木工作りが体験できる施設を作ればいい。</li> <li>・ 久慈平岳の魅力が伝わるポスターを作成すれ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業の担い手を増やすために必要なことを想像させる。</li> <li>・ 植樹体験を想起させることで、木材を大切にしたい、森林を大切にしたいという思いをさらに高める。</li> <li>・ 自分たちの住む地域の自然を大切にしたい、残していきたいという思いを引き出す。</li> <li>・ 自然環境や特産品など、自分たちの住む地域の良さを生かしつつ、より良いまちにするためにはどのようなことが必要か考えさせる。</li> <li>・ ペアやグループで話し合うことで、より具体的に想像をふくらませることができるようにする。</li> <li>・ 自然環境を大切にするためにどのようなこ</li> </ul>

	<p>ばよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人がたくさん来るように、自然を活かしたキャンプ場や特産品を使った料理が味わえるレストランを作ればいい。</li> </ul>	<p>とをすれば良いか、具体的な方法を考えるように助言する。</p> <p>◆自分たちの住む地域をより良くするためにはどのようなことができるか、洋野町の自然の特徴や他地域のまちづくりをもとに考えている。＜思考・判断・表現＞ [発言・観察・ノート]</p>
<p>終 末 5 分</p>	<p>5. 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・向田をより良いまちにするために、自然を活かしたまちづくりをしたかった。</li> <li>・向田にはたくさんの魅力があるから、それをもっと広めていきたいと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時からは、これまで学んだことを海洋教育サミットで発表するための資料を作成していくことを伝える。</li> </ul>

# 洋野町立種市中学校

# 海洋教育年間計画

洋野町立種市中学校

## 1 ねらい

海の豊かな自然と親しむ活動や身近な地域社会の中で海とのつながりを感じることができるような体験活動、海や地域について調べる活動、その保全活動などの体験を通して、海や地域に対する関心を高めるとともに、海洋環境、水産資源、船舶運輸など海洋と人間の関係及び海を通じた世界の人々との結びつきについて理解させ、社会の形成者としての資質・能力を養う。

## 2 学習テーマ 「海に学び、海に生きる」

### 〔1学年〕「地域・海を知る」

- 講演会、ウニ栽培センターなどの見学、漁業体験（ウニとり、塩ウニづくり）などを通して、講師の方や地域の方々の話を聞いたり、体験したりして、海について学ぶ。小学校での学習を基に海に対する理解を深める。

### 〔2学年〕「地場産業の良さを知り、働くことの意義を考える」

- 職場体験における職場体験や地域の方々との触れ合いを通して、勤労に対する関心意欲を高めるとともに、洋野町が地域の方々の努力や工夫による産業活動に支えられていることに気づきながら、自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を養う。
- 漁業体験（鮭とばづくり）を通して、海についての理解を深めるとともに、地域の課題や良さについて考える。

### 〔3学年〕「地域・自身の未来について考える」

- これまでの学習をもとに、地域に対する理解をより深め、自分と地域とのこれからのかかわりについて考えながら、自己の進路（将来）について考え、適切な進路選択ができるようにする。

## 3 年間活動計画

月	第1学年	時間	第2学年	時間	第3学年	時間
4	オリエンテーション		オリエンテーション		オリエンテーション	
5						
6	種市高校津波出前授業 防災・復興講演会	1 2	防災・復興講演会	2	防災・復興講演会	2
7	地域産業見学 浜清掃 訪問合唱	6 2 2	浜清掃 訪問合唱	2 2	地域伝統芸能講習 浜清掃 訪問合唱	2 2 2
8	漁業体験(ウニとり・加工)	15	職場体験計画・学習	18	夏祭りへの参加	
9			宿泊研修計画・学習	18	修学旅行計画・学習	26
10	まとめ・発表	10	まとめ・発表	10	まとめ・発表	10
11	海洋サミット	2	漁業体験（鮭とば）	2		
12	進路学習	2	進路学習	2	進路学習	2
1			漁業体験（鮭とば）	1		
	第1学年合計	42	第2学年合計	57	第3学年合計	46

※「復興に思いを寄せる日」毎月11日、避難訓練（津波想定）6月実施予定

## 4 評価の観点

○海に関する知識・技能    ○海を通じた思考・判断・表現    ○主体的に学習に取り組む態度



令和4年度 種市中学校海洋科「海に学び、海に生きる」

1年「地域・海を知る」

【実践のねらい】

- ・ 講演会、ウニ栽培センターなどの見学、漁業体験（ウニとり、塩ウニづくり）などを通して、講師の方や地域の方々の話を聞いたり、体験したりして、海について学ぶ。小学校での学習を基に海に対する理解を深める。

○時数 5月～11月（42時間）

[主な連携機関と内容]	
連携機関	内容
宿戸南漁業協同組合	漁業体験（ウニとり、加工）
宿戸地区婦人部	漁業体験（ウニ加工）
種市高等学校海洋開発科	漁業体験（ウニとり）、津波出前授業
ウニ栽培漁業センター	施設見学、ウニについて
ひろの屋	施設見学、ウニについて、流通
町内福祉施設	訪問合唱

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学 校 行 事 等	紹介式 始業式 入学式 身体測定 交通安全教室 生徒会入会式 生徒大会 授業参観	体育祭 中間テスト 避難訓練 全国学調 新入生学調	壮行式 地区中総体 オリンピック 聖火リレー 復興講演会 避難訓練 期末テスト 県通信陸上 大野高校体験 入学	町民芸術劇場 高校説明会 県中総体 期末面談 終業式 地区駅伝 久慈工業、久 慈、種市高校 体験入学	種市夏祭り 始業式 実力テスト 地区陸上大会	私の主張 英語暗唱大会 町民体育祭 地区新人戦 修学旅行 宿泊研修 中間テスト	生徒会役員選 挙 文化祭 町駅伝大会 県新人戦 町文化祭	授業参観 卒業生に学ぶ 会 避難訓練 町音楽会 入試説明会 町教研 県新人 期末テスト 海洋サミット	総合学力調査 期末面談 終業式	子ども議会 始業式 実力テスト 中1英語確認 調査 岩手推薦入試 三送会	新入生説明会 期末テスト	岩手入試 青森入試 実力テスト 修了式 卒業式 離任式
活 動 の 流 れ	オリエンテーション	種市高校津波出前授業（1時間） ・津波のメカニズムを知る。	防災・復興講演会（全校・1時間） ・講話を通して、震災と復興、地域の 防災について考える。	訪問合唱（全校・2時間） ・地域貢献について考える。	浜清掃（全校・2時間） ・学校から海岸までのゴミ拾いを通して、地域 や地域の自然を知る。 ・地域の環境保全について考える。	漁業体験（4時間） ・ウニとり、殻むき、塩ウニづくりを体 験する。 ・体験を通して、地域の自然や産業につ いて知る。 ・働くことについて考える。 ・地域の方との触れ合いを通して、地域 産業を支える人の思いを知る。	地域産業見学（6時間） ・ウニ栽培漁業センター、ひろの屋を見学し、 ウニについて知る。	まとめ・発表（12時間） ・学習のまとめをする。 ・学んだことを発信する。	海洋子どもサミット（2時間） ・学んだことを発信する。 ・学びを深める。	進路学習（2時間） ・進路について考える。		

# 令和4年度 種市中学校海洋科「海に学び、海に生きる」

## 2年「地場産業の良さを知り、働くことの意義を考える」

### 【実践のねらい】

- ・ 職場体験における職場体験や地域の方々との触れ合いを通して、勤労に対する関心意欲を高めるとともに、洋野町が地域の方々の努力や工夫による産業活動に支えられていることに気づきながら、自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を養う。
- ・ 漁業体験（鮭とばづくり）を通して、海についての理解を深めるとともに、地域の課題や良さについて考える。

○時数 4月～1月 57時間

[主な連携機関と内容]	
連携機関	内容
宿戸南漁業協同組合	漁業体験（鮭とば）
町内事業所	職場体験
岩手大学	海洋講話
町内福祉施設	訪問合唱

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学 校 行 事 等	紹介式 始業式 入学式 身体測定 交通安全教室 生徒会入会式 生徒大会 授業参観	体育祭 中間テスト 避難訓練 全国学調 新入生学調	壮行式 地区中総体 オリンピック 聖火リレー 復興講演会 避難訓練 期末テスト 県通信陸上 大野高校体験 入学	町民芸術劇場 高校説明会 県中総体 期末面談 終業式 地区駅伝 久慈工業、久 慈、種市高校 体験入学	種市夏祭り 始業式 実力テスト 地区陸上大会	私の主張 英語暗唱大会 町民体育祭 地区新人戦 修学旅行 宿泊研修 中間テスト	生徒会役員選 挙 文化祭 町駅伝大会 県新人戦 町文化祭	授業参観 卒業生に学ぶ 会 避難訓練 町音楽会 入試説明会 町教研 県新人 期末テスト 海洋サミット	総合学力調査 期末面談 終業式	子ども議会 始業式 実力テスト 中1英語確認 調査 岩手推薦入試 三送会	新入生説明会 期末テスト	岩手入試 青森入試 実力テスト 修了式 卒業式 離任式
活 動 の 流 れ	オリエンテーション	防災・復興講演会（全校・1時間） ・講話を通して、震災と復興、地域の防災について考える。	訪問合唱（全校・2時間） ・地域貢献について考える。	浜清掃（全校・2時間） ・学校から海岸までのゴミ拾いを通して、地域や地域の自然を知る。 ・地域の環境保全について考える。	職場体験（18時間） ・体験を通して、地域の自然や産業について知る。 ・働くことについて考える。 ・地域の方との触れ合いを通して、地域産業を支える人の思いを知る。	宿泊研修（18時間） ・海洋講座を通して、海や地域について知る。	まとめ・発表（10時間） ・学習のまとめをする。 ・学んだことを発信する。	漁業体験（3時間） ・鮭とばづくりの方法を知る。 ・体験を通して、地域の自然や産業について知る。 ・働くことについて考える。 ・地域の方との触れ合いを通して、地域産業を支える人の思いを知る。	進路学習（2時間） ・進路について考える。			

# 令和4年度 種市中学校海洋科「海に学び、海に生きる」

## 3年「地域・自身の未来について考える」

### 【実践のねらい】

- ・これまでの学習をもとに、地域に対する理解をより深め、自分と地域とのこれからのかかわりについて考えながら、自己の進路（将来）について考え、適切な進路選択ができるようにする。

○時数 4月～1月 46時間

[主な連携機関と内容]	
連携機関	内容
平内婦人部	地域伝統芸能講習（ナニヤドヤラ）
町内福祉事業所	訪問合唱
洋野町役場	夏祭り参加、水質調査
東京大学	海洋講話
県北広域振興局	水質調査

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学 校 行 事 等	紹介式 始業式 入学式 身体測定 交通安全教室 生徒会入会式 生徒大会 授業参観	体育祭 中間テスト 避難訓練 全国学調 新入生学調	壮行式 地区中総体 オリンピック 聖火リレー 復興講演会 避難訓練 期末テスト 県通信陸上 大野高校体験 入学	町民芸術劇場 高校説明会 県中総体 期末面談 終業式 地区駅伝 久慈工業、久 慈、種市高校 体験入学	種市夏祭り 始業式 実力テスト 地区陸上大会	私の主張 英語暗唱大会 町民体育祭 地区新人戦 修学旅行 宿泊研修 中間テスト	生徒会役員選 挙 文化祭 町駅伝大会 県新人戦 町文化祭	授業参観 卒業生に学ぶ 会 避難訓練 町音楽会 入試説明会 町教研 県新人 期末テスト 海洋サミット	総合学力調査 期末面談 終業式	子ども議会 始業式 実力テスト 中1英語確認 調査 岩手推薦入試 三送会	新入生説明会 期末テスト	岩手入試 青森入試 実力テスト 修了式 卒業式 離任式
活 動 の 流 れ	オリエンテーション	<p><b>防災・復興講演会</b>（全校・1時間） ・講話を通して、震災と復興、地域の防災について考える。</p> <p><b>地域伝統芸能講習</b>（2時間） ・地域の伝統芸能（ナニヤドヤラ）について知る。 ・地域の方との触れ合いを通して、地域伝統芸能を支える人の思いを知る。 ・地域と自分自身のとのかかわりについて考える。</p> <p><b>訪問合唱</b>（全校・2時間） ・地域貢献について考える。</p> <p><b>浜清掃</b>（全校・2時間） ・学校から海岸までのゴミ拾いを通して、地域や地域の自然を知る。 ・地域の環境保全について考える。</p>	<p><b>修学旅行</b>（26時間） ・講習を通して、地域の自然や産業、人の暮らしについて考える。 ・自分と地域とのこれからのかかわりについて考えながら、自己の進路（将来）について考える。</p> <p><b>夏祭りへの参加</b> ・地域の方との触れ合いを通して、地域伝統芸能を支える人の思いを知る。 ・地域と自分自身のとのかかわりについて考える。</p> <p><b>水生生物による川の水質調査</b>（理科） ・水質調査を通して、地域の自然環境について知り環境保全について考える。</p>	<p><b>まとめ・発表</b>（10時間） ・学習のまとめをする。 ・学んだことを発信する。</p> <p><b>進路学習</b>（2時間） ・進路について考える。</p>								

種市中学校 第1学年指導案

1学年「地域・海を知る」

テーマ1 地域の特産物を知ろう（2／10時間）

	学習内容	留意点
導 入	① 小学校での海洋学習の内容を交流する。 ・3校それぞれの学習内容を発表しあう。 ② 学習テーマの確認をする。 「地域の特産物を知ろう」 ③ 本時の学習課題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">「個人課題を設定しよう」</div>	
展 開	④ 地域の特徴、産業について調べる。 個人で調べ、学習シートに記入する。 グループで交流する。 ⑤ 個人課題を設定する。 ⑥ 課題解決に向けて、どんなことを調べたらよいか、 アイデアツリーに書き出す。	・図書室の資料、先輩のまとめ新聞、 PC、副読本を活用させる。
ま と め	⑦ 次時の学習内容を確認する。 ・グループの課題設定	

# 令和4年度2学年漁業体験「鮭とばづくり」オリエンテーション

R4.11.17 種市中学校 第2学年

## 1 ねらい

- (1) 1学年での漁業体験をふまえ、地域産業の特徴やよさについてさらに理解を深める。
- (2) 地域の方々との触れ合いを通して、自分たちの生活や地域を支える活動に取り組む方が多くいることを知り、自分自身の生き方を考える。

2 期 日 令和4年11月28日(月)

3 参加者 種市中学校 2学年49名  
引率 種市中学校2学年職員(塚野 渡部 高橋 柴田 松川 番沢)

4 内 容 鮭をさばく、名札付け、干し方作業(鮭トバのみ、新巻はなし)

5 会 場 宿戸漁港 新荷さばき場

6 指導者 宿戸漁業研究会、県北広域振興局、洋野町漁協、洋野町漁協宿戸女性部の方々

## 7 服装・持ち物

○服装……マスク着用、運動着、防寒着

○持ち物……長靴、長靴を入れるビニル袋、タオル2枚(手拭き用、鮭拭き用)

※鮭用タオルは、鮭を直接拭くタオルである。食品用なので、きれいなものを準備する。

ただし、血だらけになるので、捨てることになる。

○学校で用意するもの……カッパ、不織布帽子、軍手、ビニル手袋、ビニル袋2枚、ひも2本、名札(ガムテープ2枚)

8 移動 スクールバス

## 9 当日の日程

1～4校時 午前短縮授業(4校時:道具準備→帰りの会→早めに給食準備)

5～6校時 総合的な学習の時間

13:00 宿戸漁港へバス移動

13:15 開会行事/作業手順説明(鮭についての説明含む)

作業開始……生の鮭を、マキリ(カッター)で3枚におろす

15:00 道具、作業台を洗う、片づけを行う

<集合写真・クラスごと>

15:10 閉会行事

15:15 バス移動

15:30 学校着

\*駐輪場で干し竿につるし、網をかける(S.B生徒)

\*道具を洗い、片付ける(その他の生徒)

16:00 下校 (部活動なし・SB:16:15)

## 10 開・閉会行事 司会進行（学年委員会）

### <開会行事>

- 1 はじめのことば
- 2 学年委員長から
- 3 指導者の方から
- 4 指導者の方々にあいさつ
- 5 連絡
- 6 おわりのことば

### <閉会行事>

- 1 はじめのことば
- 2 感想発表（各学級から1人ずつ）
- 3 学年の先生から
- 4 指導者の方々から
- 5 お礼のあいさつ
- 6 連絡
- 7 おわりのことば

## 11 注意事項

- ◎ 体験活動のねらいをよく理解し、真剣に活動すること。
- ◎ 多くの地域の方の協力を得て行う活動です。感謝の気持ちを忘れず、『返事やあいさつをしっかりとる』・『話をしっかりと聞く』・『指示されたとおりに動く』・『私語や勝手な行動をしない』を徹底すること。  
※当日は刃物を使っての作業なので、全神経を集中してケガのないように気をつける！
- ◎ 作った鮭トバは、**商品として**お客様の手に渡ります。衛生面に気をつけることはもちろん、心を込めて丁寧に作ろう。
- ◎ 帰宅後、『振り返りシート』を書き、29日（火）の朝、担任の先生に提出。

## 12 作業後の予定

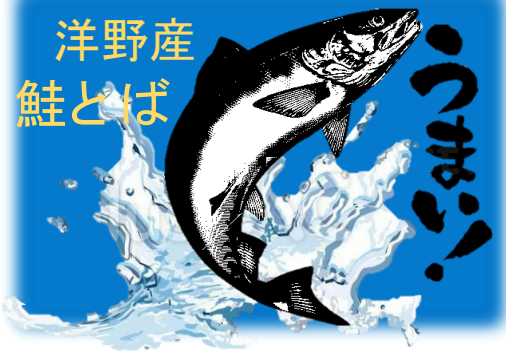
- ・ 11月28日（月）～12月中旬 鮭の乾燥  
日直2名（A組1名、B組1名）が、昼休みに毎日交代で干してある鮭トバをくっつかないようにはがし、写真を撮って『鮭トバ日誌』を書く（PCで）。
- ・ 3学期（2月ごろ？） 午後2h総合（教務と後日相談）：とばの袋詰め→冷凍
  - ①調理室チーム10名（切るチーム）・・・A組・B組の各班から1名ずつ
  - ②コモンスペースチーム他39名（袋詰めチーム）・・・重さを図って袋詰め
  - ③作業日までに、ラベルの作成（技術の授業）
- ・ R5 参観日またはバザーで販売



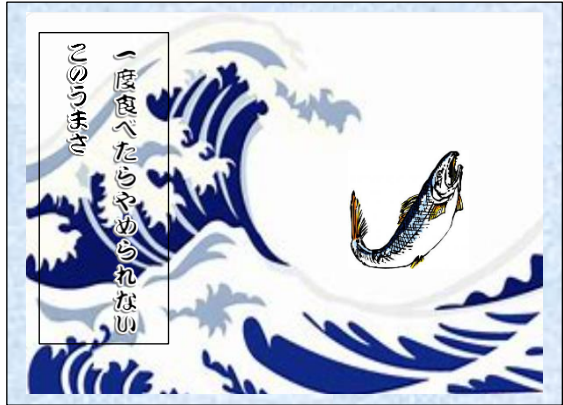


2年【地域での交流】漁業体験 3時間		
【単元のねらい】		
(1) 地域の特徴やよさについて、小学校での海洋学習や1学年での漁業体験をふまえ、理解を深める。 (2) 漁協の方々との触れ合いを通して、地域を支える活動に取り組む人々が多くいることを知り、自分自身の生き方を考える。		
【本時のねらい】 2,3時間/3時間		
(1) 衛生面に気をつけて鮭とばを加工する過程を知る。 (2) 漁業の方のアドバイスのもと、仲間と協力して作業する。		
学習活動		指導・援助
13:05	1 集合・整列・移動 班ごとに整列し、バスに乗車する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全指導、避難場所の確認を行う。</li> </ul>
13:20	2 始めの会 挨拶をする。身なりを整える。手指消毒をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白衣、マスク、手袋、長靴を身につける。</li> <li>・衛生面に気を付けさせる。</li> </ul>
13:30	3 作業 漁協の方の話をよく聞いて、作業をする。 怪我に注意して、作業をする。 [作業の流れ] ①鮭を清潔なタオルの上に置く(タオルのお陰で滑らなくなり、捌きやすくなる)。 ②鮭を3枚におろす。 ③身を細長く切り、数本をスズランテープでまとめる。 ④学校で干す(帰校後の作業)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手意識(食べてくれる人、教えてくれる人)を持って活動させる。</li> <li>・わからないところは、質問するように促す。</li> <li>・適宜、休憩・水分補給を行わせる。</li> </ul>
15:00	4 片付け 周りを見て全員で素早く行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・忘れ物、ごみのないように声を掛ける。</li> </ul>
15:10	5 終わりの会 感想発表、お礼の言葉	
15:15	6 移動	
15:30	7 学校到着	(振り返り用紙への記入を宿題とする。)
16:15	8 干す作業後下校	

洋野産  
鮭とば



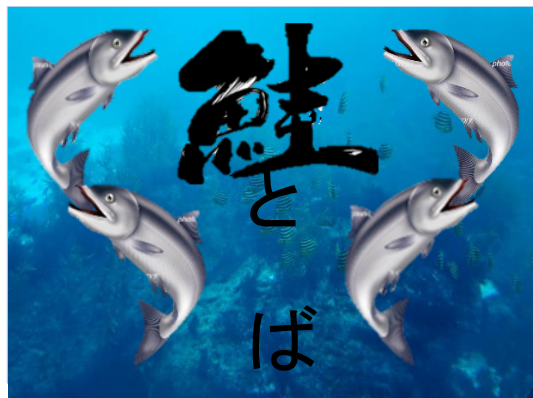
一度食べた  
らやめられ  
ない  
さけとば

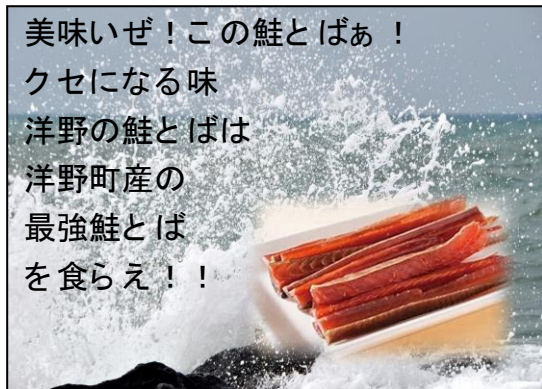


洋野の鮭とば



美味しいよ、鮭とば





# 洋野町立中野中学校



# 洋野町立中野中学校海洋科1年「地域を知ろう ～海と山の関係と地域産業から見える洋野の海の課題～」ストーリーマップ 30 時間

## 【実践のねらい】

地域の企業、自然を活用した様々な活動を通して、洋野の海と山の関係から地域のよさを知り、地域に対する興味・関心を深めさせる。そのために、地域企業の方に講師になっていただき、山と海の関係についての学習活動の他に、地域企業で取り組んでいる冷涼な気候を生かしたきのこの植菌作業や、洋野町の海の問題や取組調査、長根商店経営「きのこの駅」での採用を目指し、洋野の海の幸、山の幸を融合させた新メニュー考案とプレゼン、レシピカード作りなどの体験的活動を行う。それらの活動を通し、自分たちの生きる地域の魅力について知り、地域に対する愛着を深める。また、小学校での既習事項と合わせ、洋野町の海の課題を広い側面から捉え、全校や地域の人に提起する。

○時数 4月から3月（総合的な学習の時間、特別活動、国語科、理科、社会科、技術・家庭科）

○関連 国語、理科、社会科、英語科、美術科、技術・家庭科

○目標 (1) 地域の企業、自然を活用した様々な活動を通して、洋野の海と山の関係から地域のよさを知り、地域に対する興味・関心を深めることができる。

(2) 他者と協働しながら、課題設定や課題解決・追究活動に主体的・対話的に取り組むことができる。

(3) 目的にふさわしい情報収集の仕方を知り、様々な方法で情報収集を行うことができる。

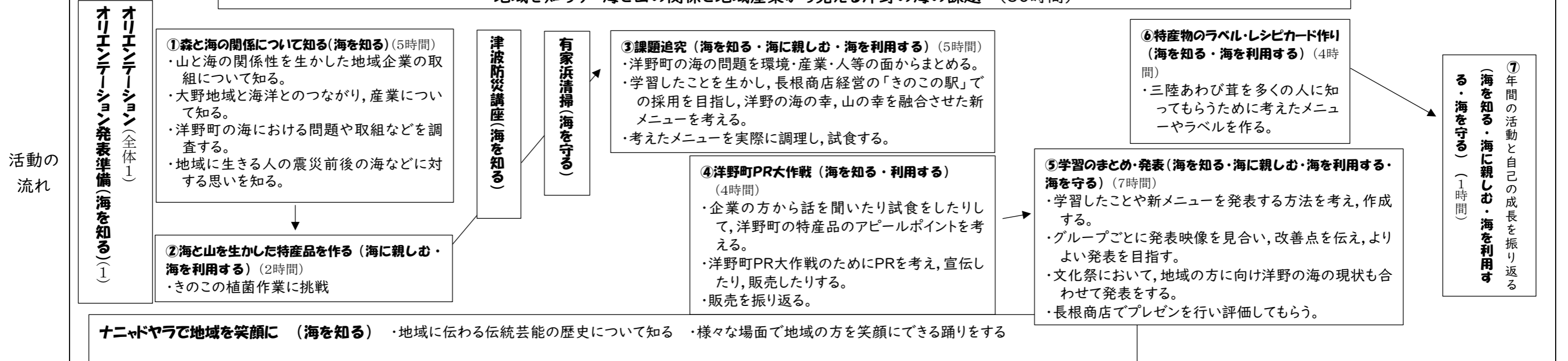
(4) まとめ方のプロセスを知り、学習の成果をまとめることができる。

(5) 学習、体験活動や発表を通して知った洋野町の魅力と、自分らしさや自己の成長を発見することができる。

主な連携機関	内容
長根商店	地域企業の事業と山と海の関係の学習、きのこの植菌作業、商品のラベル・メニュー考案
小子内浜漁協、種市漁協、種市南漁協、角浜魚市場、八木魚市場、水産商工課	洋野町の各漁協(魚市場)を中心に、漁業関係者から、洋野町の海の問題や取組、願いについて様々な角度から話を聞く。
ひろのまきば天文台	大野地区の産業と海洋の係わりについて講義
種市南漁協、館豆富店、北部産業 北三陸ファクトリー	洋野町物産品の販売 文化祭での洋野町物産品の販売
洋野町保健センター	新メニュー、レシピカード作り
洋野町立中野小学校	海岸清掃、授業参観、拡大校内研修会
中野ふじの会	伝統芸能「ナニヤドヤラ」の学習会、練習会
中野地区コミュニティ協議会	海岸清掃、地域貢献活動

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	紹介式・始業式 入学式・身体測定 新入生学調 交通安全教室 生徒会入会式 授業参観	知能検査 運動会 町教研 地区通信陸上 530運動	地区中総体 期末テスト 津波防災講座	思春期講演会 地区合唱交流会 県中総体 町民芸術劇場 期末面談 終業式・地区駅伝	始業式 実力テスト 漢字検定 地区陸上大会 身体測定 生徒会役員選挙	英語暗唱大会 地区新人戦 中間・前期テスト	修学旅行 文化祭 町駅伝大会 子ども議会 県新人戦(テニス) 町音楽発表会	実践区大会 県新人(バド・卓球) ベネッセテスト 期末テスト 町教研 海洋カンファレンス	期末面談 終業式	子ども議会 始業式 実力テスト 漢字検定 中1英語確認調査 三送会	期末・後期 テスト	実力テスト 修了式 卒業式 離任式

## 地域を知ろう～海と山の関係と地域産業から見える洋野の海の課題～(30時間)



各教科で伸ばしたい能力	【国語】	【社会】	【数学】	【理科】	【英語】	【音楽】	【美術】	【保健体育】	【技術】	【道徳】	【特別活動】
海洋科学習につながる	・社会生活に必要な国語の知識や技能 ・筋道立てて考える力や感じたり想像したりする力 ・日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにする力 ・思いや考えを伝え合おうとする力	・日本の国土と歴史、政治、経済、国際関係等に関して理解する力 ・調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる力 ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題解決に向け選択・判断したりする力 ・思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力	・数量や図形などについての基礎的な概念や原理、法則などの理解 ・事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈、表現、処理する力 ・事象の特徴を表などで考察したり、データの分布から傾向を読み取り批判的に考察、判断したりする力	・問題を見だし見通しを持って観察、実験を行う力 ・規則性、関係性、共通点や相違点、分類するための観点や基準を見だし表現する力	・日常的な話題について必要な情報を聞き取る力 ・日常的な話題について簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取る力 ・関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合ったり発表したりする力 ・関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書く力。	・表現を創意工夫したり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わう力 ・音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしようとする力	・意図に応じて表現方法を工夫して表す力 ・美術の観点から、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったりする力 ・創造活動の喜びを味わい、心豊かな生活を創造する力	・運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力 ・運動における競争や協働の経験を通し、公正、協力、役割を果たす、個々の違いを認める力	・生活や社会で利用されている事物、情報の技術についての基礎的な理解力 ・生活や社会の中から技術に関わる問題を見だし課題を設定する力 【家庭】 ・家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な基礎的な理解力 ・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし課題を設定する力	・自分を見つめ、自分の生き方を模索する力 ・物事を広い視野から多面的・多角的に考える力 ・人間としてよりよい生き方について考える力	・様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要なことを理解し行動する力 ・集団や自己の生活の課題を見だし、解決する力 ・よりよい生活や人間関係を形成するとともに、自己実現を図ろうとする力



# 洋野町立中野中学校 2学年海洋科 「地域を考えよう ～洋野町と他地域との比較から洋野の海の課題解決～」ストーリーマップ 45時間

## 【実践のねらい】

他地域と洋野を比較することを通して、他地域と洋野町のそれぞれの特性を生かした産業などについて学ぶとともに、洋野町の魅力や課題点を焦点化させる。そのために、キャリアアップ研修の際には洋野町以外の地域での地域特産品の販売体験活動、観光、環境、住、食の視点で他地域での学習活動などを行う。また、地域企業協力の下、職場体験学習を行い、職業観や勤労観を養いながら、将来を考える能力を高める。これらの活動を通し、自分たちの生きる地域の課題を見つめ、洋野町の特性を生かした課題解決の道を探る。

○時数 4月から3月（総合的な学習の時間、特別活動、国語、理科、社会科、技術・家庭科）

○関連 国語、理科、社会科、英語科、技術・家庭科

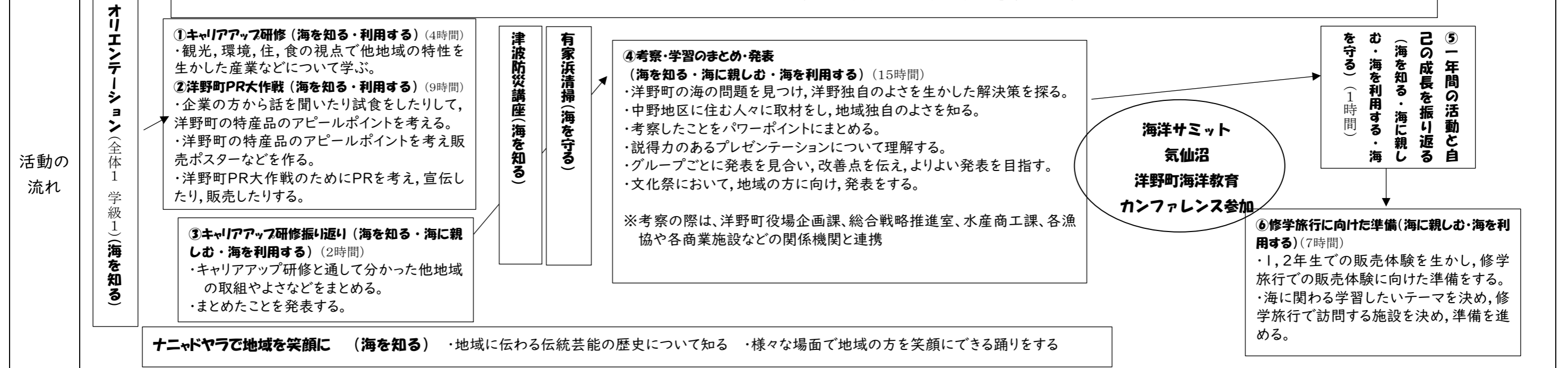
○目標 ・キャリアアップ研修を通して他地域と洋野を比較し地域の課題を見付け、洋野町独自のよさを生かした町づくりについて考えることができる。

- ・地域での職場体験を通し、働くことの意味や働く人の思いについて考えを深めることができる。
- ・「海」を視点とし、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定することができる。
- ・各教科で身に付けた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えることができる。
- ・地域の一員としての自覚を持ち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の未来を考えることができる。

主な連携機関	内容
長根商店、種市南漁協、川食、館豆富店、洋野町商工会議所	キャリアアップ研修(町外)での洋野町物産品の販売 修学旅行(東京都中野区)販売準備
洋野町役場企画課、水産商工課	洋野町の地域の現状と町が取り組んでいる計画
ひろの屋、洋野水産会館	洋野町の海の特産物に関わる取材
中野地区を中心とした企業	職場体験学習
洋野町立中野小学校	海岸清掃、授業参観、拡大校内研修会
中野ふじの会	伝統芸能「ナニヤドヤラ」の練習会
中野地区コミュニティ協議会	海岸清掃、地域貢献活動
洋野町保健センター、食生活改善推進協議会	郷土食、調理実習、地産地消の学習

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	紹介式・始業式 入学式・身体測定 交通安全教室 生徒会入会式 授業参観	運動会 町教研 地区通信陸上 530運動	地区中総体 期末テスト 津波防災講座	キャリアアップ研修 思春期講演会 地区合唱交流会 県中総体 町民芸術劇場 期末面談 終業式・地区駅伝	種市夏まつり 始業式 実力テスト 漢字検定 地区陸上大会 身体測定 生徒会役員選挙	英語暗唱大会 地区新人戦 中間・前期テスト	県学調 修学旅行 文化祭 町駅伝大会 子ども議会 県新人戦(テニス) 町音楽発表会	実践区大会 県新人(バド・卓球) ベネッセテスト 期末テスト 町教研 海洋カンファレンス	期末面談 終業式	子ども議会 始業式 実力テスト 漢字検定 中1英語確認調査 三送会	期末・後期テスト	実力テスト 修了式 卒業式 離任式

## 「地域を考えよう～洋野町と他地域との比較から洋野の海の課題解決～」(45時間)



各教科で伸ばしたい能力	【国語】	【社会】	【数学】	【理科】	【英語】	【音楽】	【美術】	【保健体育】	【技術】	【道徳】	【特別活動】
海洋科学習につながる	・社会生活に必要な国語の知識や技能 ・論理的に考える力や共感したり想像したりする力 ・社会生活の中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする力 ・思いや考えを伝え合おうとする力	・日本の国土と歴史、政治、経済、国際関係等に関して理解する力 ・調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる力 ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題解決に向け選択・判断したりする力 ・思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力	・数量や図形などについての基礎的な概念や原理、法則などの理解 ・事象を数値化したり、数学的に解釈したり、表現・処理したりする力 ・図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力 ・複数の集団のデータ分布に着目し、比較して読み取り、批判的に判断したり考察したりする力	・問題を見いだし見通しを持って観察、実験を行う力 ・規則性、関係性、共通点や相違点、分類するための観点や基準を見いだして表現する力	・日常的话题について話の概要を捉える力 ・日常的话题について簡単な語句や文で書かれたものから概要を読み取る力 ・日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを伝えたり、質問に答える力 ・日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとまりのある文章で書く力。	・ふざかしい表現を創意工夫したり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わう力 ・音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しもうとする力	・意図に応じて表現方法を追求し、創造的に表す力 ・美術の観点から、独創的・総合的に物事を考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったりする力 ・主体的に創造活動の喜びを味わい、心豊かな生活を創造する力	・運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力 ・運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、役割を果たす、個々の違いを認める力	・生活や社会で利用されている事物、情報の技術についての基礎的な理解力 ・生活や社会の中から技術に関わる問題を見だし課題を設定する力【家庭】 ・家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な基礎的な理解力 ・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし課題を設定する力	・自分を見つめ、自分の生き方を模索する力 ・物事を広い視野から多面的・多角的に考える力 ・人間としてよりよい生き方について考える力	・様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要なことを理解し行動する力 ・集団や自己の生活の課題を見だし、解決する力 ・よりよい生活や人間関係を形成するとともに、自己実現を図ろうとする力

# 洋野町立中野中学校 3学年海洋科 「洋野の未来を考えよう ～洋野町の発信・将来の創造～」 40時間

【実践のねらい】

洋野町の課題を分析し、修学旅行で見聞きしてきたことと洋野のよさを融合し、洋野の未来の発展について考える。そのために、首都圏の産業から洋野町に役立てられることはないかという視点を持ちながら参加する修学旅行において、地域特産品の販売体験活動や、海に関わる個人テーマを学習する施設見学などを行う。また、他地域出身の洋野町移住者による講演会で、自分たちの住む洋野の魅力を再確認し、地域を誇りに思う心を育む。洋野の未来について考え広く発信することを通し、将来を想像する力を高め、最終的に「洋野について自分たちの言葉で語ることでできる人間」の育成を目指す。

○時数 4月から3月（総合的な学習の時間、特別活動、国語、理科、社会科、英語科、技術・家庭科）

○関連 国語、理科、社会科、英語科、技術・家庭科

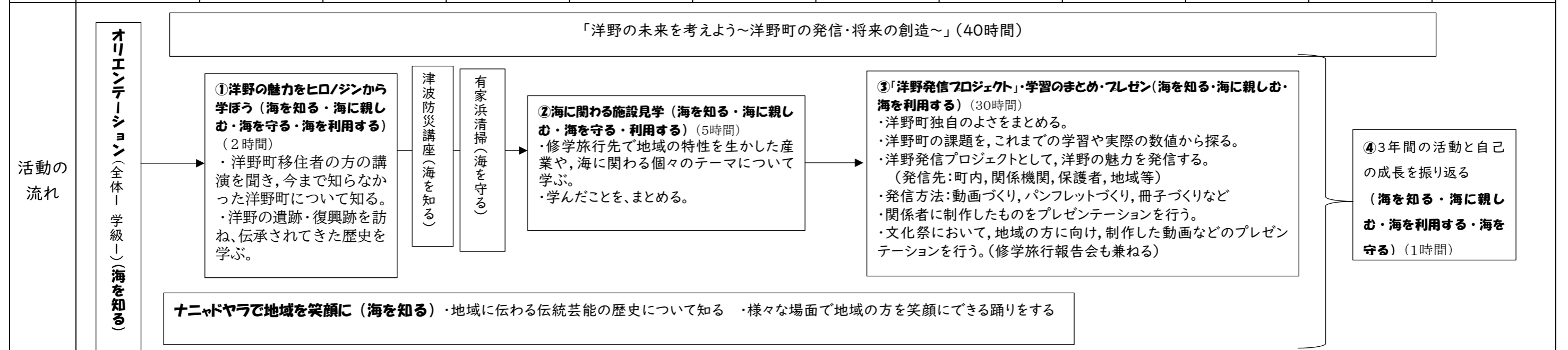
○目標 ・修学旅行で訪れる東京の文化・産業などから、洋野町の町づくりに生かせるものを見つけるとともに、洋野の課題を見付け、地域のよさも生かした洋野の町づくりについて考えることができる。

・洋野のよさを生かした洋野の未来を考え発信することを通し、地域を誇りに思い、将来を創造する能力を高め、洋野の未来についてあらゆる角度から自分の言葉で語るすることができる。

・「海」を視点とし、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定し、各教科で身に付けた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えることができる。

主な連携機関	内容
長根商店、種市南漁協、川食、館豆富店	洋野町PR大作戦（修学旅行先）での洋野町物産品の販売
個人テーマに関わる施設	海に関わる個人テーマの追究
洋野町役場	町づくりにかかわる職員の派遣
洋野町立中野小学校	海岸清掃、授業参観、拡大校内研修会
中野ふじの会	伝統芸能「ナニヤドヤラ」の学習会、練習会
中野地区コミュニティ協議会	海岸清掃、地域貢献活動
遺跡群 三陸ジオパーク 大野海成段丘 有家川 漁港	地域の魅力や歴史を伝承するための取材

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	紹介式・始業式 入学式・身体測定 交通安全教室 生徒会入会式 授業参観	運動会 町教研 地区通信陸上 530運動	地区中総体 期末テスト	思春期講演会 地区合唱交流会 県中総体 町民芸術劇場 期末面談 終業式・地区駅伝 高校体験入学	種市夏まつり 始業式 実力テスト 漢字検定 地区陸上大会 身体測定 生徒会役員選挙	英語暗唱大会 地区新人戦 中間・前期テスト 津波防災講座 実力テスト	修学旅行 文化祭 町駅伝大会 子ども議会 県新人戦（テニス） 町音楽発表会 実力テスト	実践区大会 県新人（バド・卓球） 実力テスト 期末テスト 町教研 海洋カンファレンス	実力テスト 期末面談 終業式	子ども議会 始業式 実力テスト 漢字検定 中1英語確認調査 三送会	期末・後期テスト	実力テスト 修了式 卒業式 離任式



各教科で伸ばしたい能力	【国語】 ・社会生活に必要な国語の知識や技能 ・論理的に考える力や深く共感したり想像したりする力 ・社会生活の中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする力 ・思いや考えを伝え合おうとする力	【社会】 ・日本の国土と歴史、政治、経済、国際関係等に関して理解する力 ・調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる力 ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題解決に向け選択・判断したりする力 ・思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力	【数学】 ・数量や図形などについての基礎的な概念や原理、法則などの理解 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理したりする力 ・図形の構成要素の関係に着目し、論理的に考察し表現する力 ・事象を相互に関連づけて考察、傾向の推定判断する力 ・調査の方法や結果を批判的に考察する力	【理科】 ・問題を見だし見通しを持って観察、実験を行う力 ・規則性、関係性、共通点や相違点、分類するための観点を基に見だし表現する力	【英語】 ・社会的な話題について、短い説明の要点を捉える力 ・社会的な話題について簡単な語句や文で書かれた文章の要点を読み取る力 ・社会的な話題について、考えたことや感じたこと、理由などを述べ合う力 ・社会的な話題について、考えたことや感じたこと、理由などを書く力。	【音楽】 ・ふさわしい表現を創意工夫したり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わう力 ・音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しもうとする力	【美術】 ・意図に応じて表現方法を追求し、創造的に表す力 ・美術の観点から、独創的・総合的に物事を考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったりする力 ・主体的に創造活動の喜びを味わい、心豊かな生活を創造する力	【保健体育】 ・運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力 ・運動における競争や協働の経験を通し、公正、協力、役割を果たす、参画、個々の違いを認める力 ・健康、安全を確保する力	【技術】 ・生活や社会で利用されている事物、情報の技術についての基礎的な理解力 ・生活や社会の中から技術に関わる問題を見だし課題を設定する力【家庭】 ・家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な基礎的な理解力 ・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし課題を設定する力	【道徳】 ・自分を見つめ、自分の生き方を模索する力 ・物事を広い視野から多面的・多角的に考える力 ・人間としてよりよい生き方について考える力	【特別活動】 ・様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要なことを理解し行動する力 ・集団や自己の生活の課題を見だし、解決する力 ・よりよい生活や人間関係を形成するとともに、自己実現を図ろうとする力
	【海洋科】 海洋科学習につながる										

## 令和4年度文化祭海洋科学習発表要項

文化祭海洋科学習発表担当 平賀

### 1. ねらい

- (1) 海洋科の学習を通して高めた、「環境・産業・町作り・人などの様々な事柄に対し「海」を視点とし、自ら課題を発見・設定して課題を迫及する力」と、「各教科で身に付けた専門知識や情報（非連続型テキスト）を収集・分析する力」を生かし、学習の成果を発表させる。〔※総合的な学習の時間運営計画 4今年度の重点 (1) 課題迫及能力の育成〕
- (2) 調査・体験したことについて、考えをまとめ、学級の代表として発表することで表現力の育成を図る。また、他の級友や学年の発表を聞き、質問・評価し合うことで、発表力や対応力を高める。〔※総合的な学習の時間運営計画 4今年度の重点 (2) 表現力の育成〕
- (3) 【本校で定める総合的な学習の時間の目標】と「中野中学校の付けたい力【表現する力・将来について考える力】」によって身に着けた力（※令和4年度総合的な学習の時間（追Q）全体計画）と、各学年における海洋科の目標（※海洋科教育ストーリーマップ）を意識した学習活動を行い、その成果を発表する機会とする。
- (4) 各学年の発達段階に応じた設定された、発表における目標の達成を目ざし、その力を身につけさせる。（※海洋科ストーリーマップ「各学年の目標」から抜粋）

【1学年】海洋科ストーリーマップ（4）まとめ方のプロセスを知り、学習の成果をまとめることができる。

【2学年】地域の一員としての自覚と郷土を愛する心を持ち、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の未来について考えたことを、聞く人が分かりやすく、より効果的に伝える方法について考え、発表することができる。（※海洋科ストーリーマップにはなし）

【3学年】海洋科ストーリーマップ（2）洋野のよさを生かした洋野の未来を考え発信することを通して、地域を誇りに思い、将来を創造する能力を高め、洋野の未来についてあらゆる角度から自分の言葉で語るすることができる。

### 2. 発表形態

- (1) 発表場所
  - ①体育館ステージ
  - ②体育館ステージ前スペース
  - ③合唱ひな壇
  - ④ギャラリー
- (2) 発表時間 20分以内（準備・片付けの時間を含む）

### (3) 主な内容

- ①学習のねらい
- ②学習・体験等の内容
- ③学んだこと・感じたこと・成果と課題 等
- ④学習のまとめ (※「海洋教育ストーリーマップ【実践のねらい】」)
  - ・ 1 学年…洋野町の魅力と「海と山の関係と地域産業から見える洋野の海の課題」の提起
  - ・ 2 学年…他地域と比較した洋野町の特性と、洋野の海の課題解決の道を探る
  - ・ 3 学年…洋野町の未来の発展を想像し、自分たちの言葉で発信する

### (4) 発表方法

- ①PowerPoint を用いたプレゼンテーション
- ②寸劇・クイズ 等
- ③ポスターセッション
- ④その他
  - ※1：パソコン・プロジェクター・スポットライト・CD ラジカセ等の機材は全学年で共有する (担当が準備したものを使用する)。
  - ※2：PowerPoint 等の発表データは発表用パソコンのデスクトップに貼り付けして使用する。
  - ※3：パソコン・プロジェクター・スポットライト・CD ラジカセ等の機材は、設置された場所で使用し、移動・持ち出し等はない。
  - ※4：音響で CD 等を使用したい場合は、各学年で準備し、使用後はその都度もとの場所に確実に戻す。
  - ※5：発表に必要なもの (寸劇の小道具等) の置き場所はサブアリーナとし、学年ごとに整理整頓して置く (部活動に支障が出ないように)。練習・発表後などは、舞台のそでに置いたままにしないようにする。

### (5) 発表代表者インタビュー

- ※準備・片付けの時間を利用し、発表学年の代表者インタビューを行う。
- ①発表後に総合リーダーがステージ袖のインタビューゾーンへ移動
  - ②インタビュアー (総合リーダー) が、学習や発表で頑張ったことや工夫したこと、学級が成長したこと等を質問し、学級の総合リーダーが答える。
  - ③発表が終了した学年は舞台袖等の片付け等を速やかに行い、次の発表学年はインタビューが終わるまでに準備を終えるようにする。
  - ④インタビュアー
    - ・ 1 学年代表者にインタビュー… 3 学年総合リーダー
    - ・ 2 学年代表者にインタビュー… 1 学年総合リーダー
    - ・ 3 学年代表者にインタビュー… 2 学年総合リーダー

## (6) その他

- ①学級全員が発表者となり、一部の生徒の発表とならないようにする。
- ②服装は、中野中指定の制服又はジャージを基本とし、通常の学校生活と同様とする。発表の内容に応じて衣装の着用を認めるが、学習成果の発表の場に相応しいものに限る。
- ③発達段階に応じた目標に到達できるよう指導に当たる。
- ④発表は、「総合的な学習の時間」「海洋科」と「文化祭取り組み期間（学級の時間 15:45～16:30）」内で準備できる範囲内で行えるものとし、他教科の授業や、放課後の活動時間延長では行わない。

※数字は時数（「R3 総合運営計画」から）

【全 校】文化祭に向けて 11 時間

【1 学年】15 時間（文化祭販売実習学習会 3 / 課題追究 6 / 販売実習・発表準備 2 / 文化祭での販売・発表 2 / レシピカードラベル作成 2）

【2 学年】13 時間（課題追究 6 / 文化祭発表準備 7）

【3 学年】12 時間（課題追究 6 / 文化祭発表準備 6）

## 3. PC・タブレットの使用について

- (1) インターネットを使用しての調べ学習、PowerPoint を用いたプレゼンテーションの作成等については、職員室や PC 室のタブレットではなく、教室の生徒用タブレットを使用させる。データの共有・保存は、生徒用 USB メモリーを使用させる。
- (2) 教室の生徒用タブレットは、学習活動にのみ活用するものとし、私的利用をさせない。
- (3) 著作権や人権侵害等につながるとされる文書の表現方法、カメラ・写真・動画等の活用は絶対にさせない。
- (4) 担当学年教諭の許可または監督のもとでのみ使用を認める。
- (5) 生徒用タブレットの家への持ち帰りについては、担当学年団の判断により可とする。ただし、使用上の注意について、担当学年の責任において指導・対応をする。

## 4. 発表に必要な物品の購入等について（模造紙・画用紙・マジック・のり 等）

- (1) 発表に必要な物品については、学年費から支出して購入する。
- (2) 生徒会執行部が必要な物品については、生徒会費から支出して購入する。
- (3) 教材室の物品については、副校長先生又は西澤さんの了承を得て使用する。

## 5. 新型コロナウイルス感染症対策について

- (1) 常時マスクを着用する。（発表前・発表後 ※練習時を含む）
- (2) 細目に手洗い・手指消毒を行う。
- (3) 発表隊形・立ち位置・控え場所等、密閉・密接・密集を避ける。また、至近距離での大声は避ける。 ※前後左右 1m 間隔目安
- (4) ステージ袖に消毒液を設置し、細目に手指消毒を行う。
- (5) 共用するもの（マイク・ラジカセ等）の使用後は、ステージ袖に設置の除菌シートで、使用者により除菌をする。使用後の除菌シートは、専用のゴミ箱に入れる。
- (6) スタンドマイクの活用、ラジカセ担当者の専任等、設置場所や担当者分担を明確にし、不特定多数の生徒の、共用物との接触を避けるようにする。

## 令和3年度総合的な学習の時間（追Q）全体計画

### 【本校で定める総合的な学習の時間の目標】

探究的な見方・考え方を働かせ、「海」を視点に体験活動や学習活動、保全活動などの横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、実生活と海・地域・社会とのつながりについて考えを深めさせ、自己の生き方や地域の在り方を考えていくための資質・能力を育成する。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。【知識及び技能】
- (2) 自分たちが暮らす実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析してまとめ、相手に伝わるように表現することができるようにする。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養うとともに、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の継承・発展と、自己の望ましい生き方・在り方を考え続けることができるようにする。【学びに向かう力、人間性】

### 中野中学校の付けたい力【表現する力・将来について考える力】

- ・様々な課題解決の過程で人との出会いに感謝しながら、学び方や考え方を身に付けるとともに、自分から進んであいさつを行ったり、質問に対する受け答えや自分の考えを相手に分かるように堂々と伝えたりすることができる力。
- ・他者と協働し、情報（非連続型テキスト）を収集・分析し、自分の考えをまとめ、資料やICT機器などを使って同学年や他学年・外部機関に発表・発信することができる力。
- ・地域のよさを知ることによって地域の課題解決について考え、地域の一員としての自覚や誇りを持ち、洋野町を愛し、地域や岩手の復興・発展を支えるために何ができるかを考え、行動する力。
- ・様々な行事を通し、他者と協働しながらよりよく課題を解決し、自己の生き方や地域の在り方を考え行動する力

### 海洋教育ストーリーマップ【各学年の目標】

#### **【1学年の目標】**

- (1) 地域の企業、自然を活用した様々な活動を通して、洋野の海と山の関係から地域のよさを知り、地域に対する興味・関心を深めることができる。
- (2) 他者と協働しながら、課題設定や課題解決・追究活動に主体的・対話的に取り組むことができる。
- (3) 目的にふさわしい情報収集の仕方を知り、様々な方法で情報収集を行うことができる。
- (4) まとめ方のプロセスを知り、学習の成果をまとめることができる。
- (5) 学習、体験活動や発表を通して知った洋野町の魅力と、自分らしさや自己の成長を発見することができる。



## 【2 学年】

- (1) キャリアアップ研修を通して他地域と洋野を比較し地域の課題を見付け、洋野町独自のよさを生かした町づくりについて考えることができる。
- (2) 地域での職場体験を通し、働くことの意味や働く人の思いについて考えを深めることができる。
- (3) 「海」を視点とし、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定することができる。
- (4) 各教科で身に付けた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えることができる。
- (5) 地域の一員としての自覚を持ち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の未来を考えることができる。

## 【3 学年】

- (1) 修学旅行で訪れる東京の文化・産業などから、洋野町の町づくりに生かせるものを見つけるとともに、洋野の課題を見付け、地域のよさも生かした洋野の町づくりについて考えることができる。
- (2) 洋野のよさを生かした洋野の未来を考え発信することを通し、地域を誇りに思い、将来を創造する能力を高め、洋野の未来についてあらゆる角度から自分の言葉で語ることができる。
- (3) 「海」を視点とし、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定し、各教科で身に付けた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えることができる。

## 1年生テーマ

「地域を知ろう ～海と山の関係と地域産業から見える洋野町の課題～」

・1年生は、「地域を知ろう」から学習を進めるために、地域の自然や地形を利用した産業を通して、洋野の海と山の関係から地域の良さを知り、地域に対する興味・関心を深めたい。また、中野小で築き上げた海洋教育の「個」の力を、「グループ」活動にも活用できるように指導をしていきたい。

・グループは3人、興味・関心があるグループにしたいが生活班でもよし。

・来年度の他地域との比較を考え、地元ならではの産業をまとめておきたい。

・文化祭発表は、長根商店・館豆腐店・北三陸ファクトリーの3つの企業パンフレットの作成過程を発表。作成も行う。A4用紙1枚程度、もしくは2～3枚の冊子。

・商品PRとPOPづくりを考えさせ、商品の販売活動。

### ●1学期

- 1, 海と山の関係
- 2, 海成段丘の講和（阿部台長）
- 3, 個の興味を引き出す。
- 4, 個からグループへ

### ●2学期

- 5, 取材の仕方を学ぶ
- 6, 事前グループ長根商店調べ
- 7, 長根商店に取材・植菌作業
- 8, 地元密着企業を調べ
- 9, 種市・大野の企業取材
  - ・各地区2～3社を訪問、取材
- 10, 取材まとめ
- 11, 長根商店・館豆腐店・（ ）のPR作戦
- 12, パンフレットづくり
- 13, 文化祭発表
- 14, 商品販売
  - ・道の駅や産直など

### ●3学期

- 15, 1年間のまとめ

## おおの道の駅販売体験計画

中野中学校 1 年生

### 1. ねらい

職場訪問・体験を生かし、洋野の商品の良さを地域の方々に広めよう

(ア) 洋野の良さ、商品の良さを見つける

(イ) 取り組みを通し、礼儀・失礼のない態度・説明の仕方・話し方等を学ばせる。

### 2. 日時・場所

12月2日(金) おおの道の駅

### 3. 取り組み内容

・販売体験

### 4. 日程

9:45 学校出発

10:15 おおの道の駅着 あいさつ・準備

10:45 販売開始

13:00 販売終了 片付け 昼食

13:45 おおの出発

14:15 中野中着 片付け・感想用紙書き

### 5. 計画及び具体的な活動

(ア) 日程

11月 4日(金) ①オリエンテーション・担当決め

②③ 販売商品のキャッチコピー、POP作り、電話取材

⑤⑥ 予行、手直し、チラシ作り

12月 2日(金) ⑦⑧⑨ 販売体験

⑩ 反省・お礼状作り

(イ) 具体的活動

① 販売商品について (商品や個数は、これから打ち合わせ)

長根商店商品・館豆富商品・北三陸ファクトリー商品の3つのグループに分かれ、商品のキャッチコピーやセールスポイントなどを電話取材をし、POP作りをする。

- |         |                           |
|---------|---------------------------|
| ・長根商店：  | 1班 (森のレバ刺し・のだ塩サバ飯の素       |
|         | ・三陸あわび茸炊き込みご飯の素)          |
| ・館豆富：   | 3班 (南部むかしどうふ・焼きとうふ・寄せとうふ) |
| ・北三陸ファ： | 2班 (塩蔵わかめ・茎わかめ剣山引き)       |

② 販売について

販売・会計・呼び込みの3つのグループに分かれ、当日はローテーションで行う。

- ・販売 - テーブルに陣取り、商品の陳列や説明、会計までのご案内
- ・会計 - 商品の袋入れ、お金の受け取りやおつり、お見送りまで
- ・呼び込み - テーブルを離れ、トイレ前や食堂前などでチラシ配りつつ誘導

1. 販売 1班

- ・事前準備 商品の陳列レイアウト（お客の流れからの並べ方）
- ・担当 客対応（ ）押し（ ）陳列（ ）

2. 会計 2班

- ・事前準備 値段表・集計表・レシート・お金ボックス・おつり(先生)・袋の準備
- ・担当 お金（ ）記録（ ）包装（ ）

3. 呼び込み 3班

- ・事前準備 チラシづくり・着ぐるみ?・声のかけ方
- ・担当 場所1（ ）場所2（ ）場所3（ ）

6. 当日について

(ア)服装 ジャージ かなり寒いので防寒

(イ)持ち物 海洋科ファイル・筆記用具・販売道具・弁当・水筒

7. その他

・教師担当

代表責任者 小豆嶋（学年主任：2班・呼び込み・長根商店）

企画 村松（海洋担当・副担任：3班・販売・館豆富店）

運営 佐藤（担任：1班・会計・北三陸ファクトリー）

渉外 浅水（地域コーディネーター：全体補助・記録）

# 洋野町立中野中学校第2学年海洋科校外学習〔キャリアアップ研修〕

洋野町立中野中学校2学年

## 1. ねらい

- (1) 平素と異なる生活環境で見聞を広め、自然や文化などに親しむことを通して、集団生活の在り方や公衆道徳等の体験を積ませ、集団への所属感や連帯感を深めると同時に、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的態度を育てる。
- (2) 海洋科学習の2学年探求課題とテーマのもと、復興と防災対策のまちづくりの視点から、他地域と比較して身近な地域の良さと課題について考え、郷土を愛し、その復興・発展に貢献しようとする意識を育てる。
- (3) 東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県沿岸部における復興の現状と、岩手県の県庁所在地である盛岡市における都市機能と防災対策の実態に触れ、身近な地域の明るい未来を創造すると同時に自分の生き方について考えさせる。

### <海洋科学習>

2学年探求課題「地域を考えよう ～洋野町と他地域との比較から探る洋野の海の課題解決～」

2学年テーマ「ヒロノジンから学ぼう」

～復興・防災の視点から他地域と比較し、身近な地域の良さと課題を探る～

2. 期 日 6月29日(水)・30日(木) ※日帰り2日間

3. 参加生徒 洋野町立中野中学校2学年21名(男子14名・女子7名)

## 4. 主な学習内容

6月29日(水)	6月30日(木)
<p>北三陸の自然と防災</p> <p>～豊かな自然と災害から生き方を学ぶ～</p> <p>久慈市から田野畑村にかけての特色ある地形と東日本大震災の被害から、豊かな自然と災害との関りと、その地で生きる人々の生き方について学び、自分の生き方について考える。</p> <p>①たのはたジオパークガイド</p> <p>豊かな自然の特色を学ぶ</p> <p>②大津波語り部ガイド</p> <p>地元で被災された方々の話を聞く</p> <p>③三陸鉄道震災学習列車(田野畑駅～久慈駅)</p> <p>三陸鉄道で震災と復興への道りを学ぶ</p>	<p>都市機能と防災・文化</p> <p>～都市の役割と防災から洋野町を考える～</p> <p>裁判所において県庁所在地である盛岡市が担う役割について学ぶとともに、都市における防災対策と食文化から、洋野町の未来と自分との関わり方について考える。</p> <p>①避難所・避難場所調査／散策ミッション</p> <p>ミッションをクリアしながら調査</p> <p>②盛岡地方裁判所見学(傍聴)</p> <p>可能であれば実際の裁判の傍聴</p> <p>③わんこそば体験</p> <p>わんこそばを食べる</p>

5. 引 率 学 年 長：平賀 純（全体計画、渉外、会計）  
 2A 担任：田村 沙季（全体指導、学習指導）  
 白滝担任：西川 欣孝（生徒指導、保健安全）

6. 指導分担

全体計画・渉外・会計…平賀	全体指導・学習指導…沙季	生活指導・保健指導…西川
・事前学習シート作成 ・災害等の緊急時の確認 ・関係機関との連携 ・発表シナリオ作成	・振り返り新聞作成指導 ・学級執行部指導 ・班活動指導 ・しおり作成	・公衆道徳ルール指導 ・集団行動指導 ・言語環境指導 ・体調不良時の対応確認

7. 事前・事後学習(予定)

(1)事前学習：計8時間

海洋科の時間	内容
1時間	海洋科学習オリエンテーション・キャリアアップ研修について
1時間	事前学習①田野畑と洋野町の自然～共通点と相違点～
1時間	事前学習②田野畑・洋野・三陸鉄道の津波被害と復興の道のり
2時間	事前学習③洋野町の避難所・避難場所～装備と対策～
1時間	事前学習④盛岡市と洋野町の比較と裁判所のしくみを知る～わんこそばを食べながら～
1時間	振り返り新聞の作成について
1時間	研修のしおり読み合わせ・結団集会

(2)事後学習：計8時間

海洋科の時間	内容
4時間	振り返り新聞作成
3時間	文化祭発表スライド作成 ※東北海洋サミット・全国海洋サミットでも発表する内容 (1)田野畑と洋野町の自然～共通点と相違点～ (2)田野畑・洋野・三陸鉄道の津波被害と復興の道のり (3)洋野町の避難所・避難場所～装備と対策～ (4)盛岡市と洋野町の避難所・避難場所～装備と対策～ ※一つの班で発表時間7分
1時間	発表スライド発表会

(3)海洋科校外学習（キャリアアップ研修）学習時間：計16時間(予定)

- ①事前学習：8時間  
 ②学習当日：12時間 ※学校行事  
 ③事後学習：8時間



8. 服装 6月29日(水) 中野中学校指定ジャージ・半そでハーフパンツ  
 6月30日(木) 中野中学校指定制服  
 ※履きなれた歩きやすい靴

9. 持ち物 ①キャリアアップ研修のしおり ⑥汗拭きタオル  
 ②筆記用具 ⑦雨合羽  
 ③探検バック ⑧感染症対策グッズ(学校で配布)  
 ④水筒又はスクイズボトル ⑨ハンカチちり紙  
 ⑤車酔い止め等の常備薬

※スクールザックに必要なものを入れて行動する。

## 10. 当日の日程

〔6月29日(水)〕※貸し切りバス移動

- ・ 8:15～ 出発集会
- ・ 8:30～ 中野中学校発
- ・ 10:00～11:30 たのはたジオパークガイド
- ・ 11:30～13:00 ホテル羅賀荘へ移動・昼食・休憩(学習の記録記入)
- ・ 13:00～14:00 大津波語り部ガイド
- ・ 14:00～14:50 田野畑駅へ移動  
 ※田野畑駅2階で学習の記録記入・休憩・震災学習列車乗車準備
- ・ 15:03～16:00 三陸鉄道震災学習列車で防災学習 ※田野畑駅～久慈駅
- ・ 16:00～16:30 久慈駅～中野中学校
- ・ 16:30～ 解散集会

〔6月30日(木)〕

- ・ 7:00～ 出発集会
- ・ 7:10～ 学校～八戸駅 ※貸し切りバス移動
- ・ 9:05～ 9:41 八戸駅～盛岡駅 ※新幹線
- ・ 9:45～11:45 避難所・避難場所調査／盛岡市内散策ミッション
- ・ 11:45～12:45 東家大手先店でわんこそば昼食
- ・ 13:10～15:20 盛岡地方裁判所傍聴・見学→盛岡駅へ移動(徒歩)
- ・ 15:20～15:37 盛岡駅で新幹線乗車準備
- ・ 15:37～16:13 盛岡駅～八戸駅 ※新幹線
- ・ 16:13～17:30 八戸駅～中野中学校 ※貸し切りバス移動

## 11. 校外学習先窓口・担当者

### (1)NPO 法人体験村・たのはたネットワーク

- ・岩手県下閉伊郡田野畑村北山 129 - 10 ・TEL0194 - 37 - 1211 ・fax0194 - 33 - 3355
- ・担当者：赤坂 様

### (2)三陸鉄道株式会社旅客営業部

- ・岩手県宮古市宮町一丁目 1 - 80 ・TEL0193 - 71 - 1170 ・fax0193 - 71 - 1170
- ・担当者：山野目 様

### (3)避難所・避難場所調査／散策ミッション

※班ごとにミッションをクリアしながら避難場所・避難所へ行き、災害時の対応や設備について聞き取り調査を行う。

- ・盛岡駅→盛岡市立下橋中学校→東家大手先店
- ・盛岡駅→仁王児童老人福祉センター→東家大手先店
- ・盛岡駅→岩手マッサージセンター→東家大手先店

※全班共通ミッション：必ずアンダーパス・地下道を通る

- ・盛岡市立仁王児童老人福祉センター 所長：坂下明洋（さかしたあきひろ） 様  
岩手県盛岡市名須川町 2 1 番 1 号 TELfax019-654-6187
- ・社会福祉法人岩手県視覚障害者福祉協会（岩手マッサージセンター） 理事：児玉 純 様  
岩手県盛岡市本町通 3-6-20 TEL019-652-7787
- ・盛岡市立下橋中学校 副校長 渡邊 康二 様  
岩手県盛岡市馬場町 1-1 TEL019-623-4337・4386 fax019-623-4338

### (4)盛岡地方裁判所見学（傍聴）

- ・盛岡市内丸 9 - 1 TEL019-622-3350 fax019-652-4088
- ・担当者：盛岡地方裁判所総務課庶務係

### (5)わんこそば体験

- ・東家大手先店
- ・盛岡市内丸 17 - 40 TEL019-623-7540
- ・担当者：中村 様（東家本部 TEL019-622-2252 fax019-654-8166）

### (6)東武トップツアーズ株式会社八戸支店

- ・青森県八戸市廿三日町 38 山徳ビル 2 階 TEL0178 - 43 - 3720 fax0178 - 45 - 8169
- ・担当者：古谷 様

12. 予算 一人 20,000 円

	項目	1人(円)	合計(円)
(1)	三陸鉄道震災学習列車（一般車両）1両 35,300円 ※総合的な学習の時間補助予算から支出		
(2)	貸切バス中型① 6月29日（水）中野中～田野畑方面（往復）120,000円 ※海洋科助成金から支出		
	貸切バス中型① 6月30日（木）中野中～八戸駅（往復）	5238	110000
(3)	新幹線（盛岡～八戸往復）運賃	1690	35490
	新幹線（盛岡～八戸往復）JR料金（普通指定席）	4400	92400
(4)	昼食 6月29日（水）ホテル羅賀荘	1500	31500
	昼食 6月30日（木）東屋大手先店	1980	41580
(5)	旅行会社取扱料金	330	6930
(6)	たのはたジオツアーリズムガイド・震災語り部ガイド 26,400円(税込) ※海洋科助成金から支出		
	合計	15138	317900

13. 学級執行部・班活動

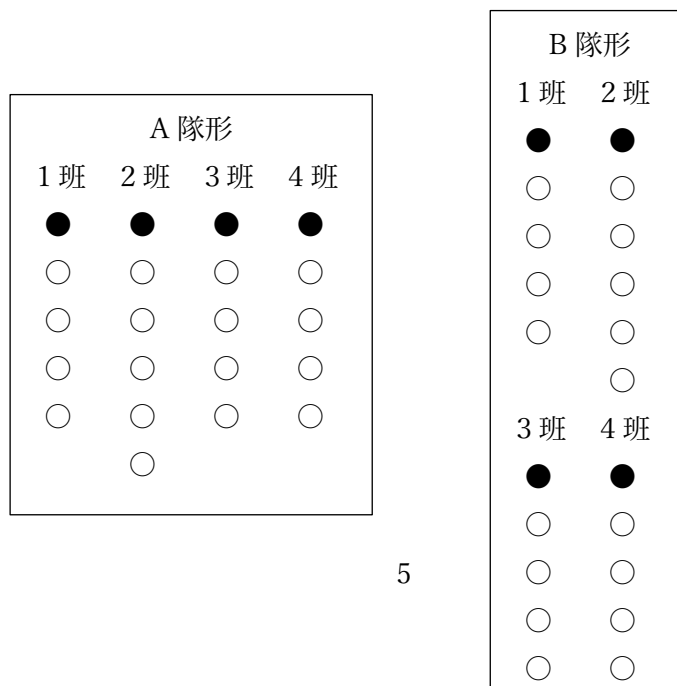
(1)学級執行部

- ①研修目標設定（全体・学習・生活）
- ②活動全体の進捗状況等の確認
- ③集会進行

(2)班活動 ※班長：点呼・整列指示

庶務係	整美係	学習係	生活係
・持ち物確認表作成 ・しおり綴じ	・座席表作成 ・忘れ物ゴミ回収	・訪問時注意事項作成 ・学習シート掲示	・行動の決まり作成 ・自己評価シート作成

(3)整列隊形



### 13. その他

#### (1)新型コロナウイルス感染症感染防止対策について

- ・手指消毒セットを生徒一人ひとりに配布する。
- ・常時マスク着用指導 ※マスク着用時以外は声を発しない。

#### (2)緊急時の避難について

- ・盛岡市のハザードマップを用いて事前指導を行う。
- ・たのはたジオパークガイドの指示に従い、速やかに行動する。

#### (3)新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況に応じ、行程の変更等について検討する。

#### (4)指導及び留意事項

- ①常に学ぶ姿勢を持ち、一つでも多くのことを吸収する。
- ②対応してくださる方々への感謝の気持ちが伝わる言動をとる。
- ③中野中学校の代表であると同時に、集団で行動していることを意識する。
- ④体調が良くない等、異変があればすぐに報告する。
- ⑤マスク・咳エチケット・手指洗いと消毒等、新型コロナ感染防止に最大限努める。
- ⑥災害等の場合は、命を守る行動を最優先に考え行動できるようにする。

文化祭海洋学習成果発表 及び

第11回海洋教育こどもサミット in 気仙沼(オンライン)

について (案)

2 学年長

1. はじめに

例年、中野中2学年は「海洋教育こどもサミット in 気仙沼(11月)」「全国海洋サミット(2月)」「洋野町海洋教育カンファレンス(2月頃)」に、中野中の代表として発表をしている(過去2年はオンラインでの開催)。また、例年10月末に行われる中野中文化祭ステージ発表で、海洋学習の成果発表を学年毎に行っている。

どれも、その年度の海洋学習の成果を発表するものであるが、「海洋教育こどもサミット in 気仙沼(11月)」「全国海洋サミット(2月)」「洋野町海洋教育カンファレンス(2月頃)」は、発表の形式がそれぞれ気仙沼教育委員会・海洋教育パイオニアスクールプログラム・洋野町教育委員会から指定された形での発表となっている。

中野中2年生は年間計4回、海洋学習の成果発表を行うことになるが、その都度発表形式を変えることは、準備時間や生徒の負担を考えると難しいと考えられることから、現在公表されている「海洋教育こどもサミット in 気仙沼(11月)」の形式を基本に、「中野中文化祭」「海洋教育こどもサミット in 気仙沼(11月)」「全国海洋サミット(2月)」「洋野町海洋教育カンファレンス(2月)」での発表を行いたい。

第11回 海洋教育こどもサミット in 気仙沼(オンライン大会)

〔サミットテーマ〕

海と生きる未来を描く  
～未来で「海と生きる」ために必要なことを考える～

〔学びの深め合いテーマ〕

『未来で「海と生きる」ために、必要なことは何だろうか?』

〔学びの深め合いの流れ〕

- (1)サミットに参加する児童生徒全員は、テーマについての考えを事前にワークシートを活用して整理し、サミット当日までに自分なりのキャッチコピーを小パネルに清書しておく。ワークシートと小パネルは、予め参加発表校に送付予定(まだ送付されていない)。
- (2)代表の児童生徒は、自分のキャッチコピーを提示し、テーマについて考えたこととその理由や根拠をお互いに伝えあいながら、グループ内で深堀していく。
- (3)キャッチコピーに書いたことや出し合った考えをもとに、「未来で『海と生きる』ための方向性」についてグループ全員で意見を出し合いながら整理し方向づけ、参加者全員で共有する。

※詳細は別紙要項参照

## 2. ねらい ※令和4年度文化祭海洋科学習発表要項（案）から

- (1) 海洋科の学習を通して高めた、「環境・産業・町作り・人などの様々な事柄に対し「海」を視点とし、自ら課題を発見・設定して課題を追及する力」と、「各教科で身に付けた専門知識や情報（非連続型テキスト）を収集・分析する力」を生かし、学習の成果を発表させる。〔※総合的な学習の時間運営計画 4今年度の重点 (1) 課題追及能力の育成〕
- (2) 調査・体験したことについて、考えをまとめ、学級の代表として発表することで表現力の育成を図る。また、他の級友や学年の発表を聞き、質問・評価し合うことで、発表力や対応力を高める。〔※総合的な学習の時間運営計画 4今年度の重点 (2) 表現力の育成〕
- (3) 【本校で定める総合的な学習の時間の目標】と「中野中学校の付けたい力【表現する力・将来について考える力】」によって身に着けた力（※令和4年度総合的な学習の時間（追Q）全体計画）と、各学年における海洋科の目標（※海洋科教育ストーリーマップ）を意識した学習活動を行い、その成果を発表する機会とする。
- (4) 2学年の発達段階に応じた設定された、発表における目標の達成を目ざし、その力を身につけさせる。（※海洋科ストーリーマップ「各学年の目標」から抜粋）  
【2学年】地域の一員としての自覚と郷土を愛する心を持ち、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の未来について考えたことを、聞く人が分かりやすく、より効果的に伝える方法について考え、発表することができる。（※海洋科ストーリーマップにはなし）

## 3. キャッチコピー作成の大まかな流れ

- (1) 洋野町が、未来に海とともに生きることができる魅力的な町であるために（なるために）必要なことや大切なことについて、2学年海洋科の探求課題及びテーマをもとに学んだことから考えさせ、キャッチコピー考える根拠又は理由とする。
- (2) 洋野町が、未来に海とともに生きることができる魅力的な町であることをアピールする宣伝文句（キャッチコピー）を考える。
- (3) キャッチコピーとその根拠・理由を、一人ひとりが一枚の紙に書く。（四つ切画用紙1枚横向き）

## 4. 文化祭発表の大まかな形式について

- (1) 最初に、2学年の海洋科学習の探求課題、テーマ、学習してきた内容等について、簡単に説明する。
- (2) 洋野町や身近な地域が、海とともに生きることができる魅力的な町であるために、必要なことや大切なこと、「こうなってほしい」という願いがかなえられた、素晴らしい町である（にする）という意味を込めた、キャッチコピーを考えたことを説明する。
- (3) 一人ひとりのキャッチコピーを発表する。  
※一人ひとりがステージで発表。同時にスライドで拡大表示。一人30秒以内。
- (4) 文化祭参観者から、良かったキャッチコピーを挙げてもらう。  
※①アンケート形式+挙手（インタビュー）形式  
※②学級内及び高評価の多かったキャッチコピーを、中野中代表キャッチコピーとして気仙沼サミットで提示する。
- (5) 最後に、職場体験質問用紙の「質問⑥若い世代に期待すること」から、私たちが洋野町の発展のためにすべきことをまとめ、発表する。



## 5. キャッチコピー作成手順

- (1)文化祭、海洋教育こどもサミット in 気仙沼での発表形式について説明し、キャッチコピーの作成に向けた取り組みを開始する。(キャッチコピーの意味の説明含む)
- (2)海洋科校外学習(田野畑・盛岡)で感じたことや学んだことを、振り返り新聞を用いて振り返る。
  - ①東日本大震災から力強く復興に向かう人々と、命を守り大切にすることということ。
  - ②命を守るための備えと街づくり…自助・公助・共助・近助・避難助。
  - ③災害をもたらす自然と、豊かな恵みをもたらす自然との共存。
  - ④伝統文化の継承
- (3)洋野町や身近な地域が抱えている課題とは何かを考え、書き出す。
  - ①海洋科校外学習から  
たのはたジオパークガイド、大津波語り部ガイド、三陸鉄道震災学習列車、
  - ②職場体験学習から  
身近な地域が抱えている課題(産業など)、
  - ③身近な地域の避難所・避難場所訪問、避難所運営講座から  
盛岡市内の避難所との比較
- (4)洋野町や身近な地域が、海とともに生きることができる魅力的な町であるために、必要なことや大切なこと、「こうなってほしい」という願い、等を書き出す。
- (5)必要なことや大切なこと、「こうなってほしい」という願いがかなえられた、素晴らしい町である(にする)という意味を込めた、キャッチコピーの作成に取り掛かる。
  - ①キャッチコピーをつくるためのポイントを紹介する。
- (6)キャッチコピーの作成
  - ①タブレットは使わない。
  - ②キャッチコピーを考えた後、レイアウトやレタリングを考える。
  - ③下書き用紙に作成し、先生の確認後に画用紙に清書する。

## 6. その他

- (1)10月11日(火)~14日(金)までにキャッチコピーを考え、下書きを完成させる。
- (2)10月19日(水)までに画用紙への清書を完成させる。
- (3)班ごとに役割を分担する。10月17日(月)の帰りまでに、原稿を完成させる。
  - ①最初に2学年の海洋科学習の探求課題、テーマ、学習してきた内容等について、簡単に説明する。
  - ②洋野町や身近な地域が、海とともに生きることができる魅力的な町であるために、必要なことや大切なこと、「こうなってほしい」という願いがかなえられた、素晴らしい町である(にする)という意味を込めた、キャッチコピーを考えたことを説明する。
  - ③スライドを作成する。キャッチコピー以外のスライドは、凝ったものにせず数枚に抑える。写真も多くは載せない。
  - ④最後に、職場体験質問用紙の「質問⑥若い世代に期待すること」から、私たちが洋野町の発展のためにすべきことをまとめ、発表する。

## 〔キャッチコピーをつくる POINT10〕

☆キャッチコピーとは？

- ・人の注意をひく広告文、宣伝文（出典：weblio 辞書）
- ・広告のうち商品や作品（あるいはその広告の本文）に惹きつけられるように掲げられるインパクトを持たせたコピー（出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』）

POINT 1：誰に向けた言葉にするかをはっきりさせる。

☆自分に向けられた言葉だと思って、注目するかも!?

洋野町を知らない人／自然豊かな町に住みたい人／災害に強い町に住みたいと思っている人／等

POINT 2：やってみてほしいことをそのまま文字で伝える。

☆してほしい行動をそのまま言葉にしたら、意外とすんなり行動してくれるかも!?

行く／来る／見る／体験／選ぶ／住む／等

POINT 3：必要性や重要性に気が付かせる

☆「大切だ」「重要だ」と好奇心を刺激する言葉を使ったら、興味を持ってもらえるかも!?

安心／豊か／暖か／優しさ／どちら側？／始めよう／等

POINT 4：時間や期間や季節など、限定感を出す

☆限定感に惹かれる人は多いかも!?

夜／夏／最初／最後／災害時／

POINT 5：注目されている町であることを伝える

☆人気がある街であることをアピールするチャンス!?

夢中／行列／待っている／欲しかった／等

POINT 6：心の動きを表現した言葉を使う

☆感情の表現が相手の心を刺激するかも!?

嬉しい／忘れられない／出会い／一生に一度／時が止まる／等

POINT 7：数字やデータ等の情報を示す

☆洋野町を連想しやすいかも!?

TOP10／100％／三大〇〇／100人／5つ／等

POINT 8：付加価値を感じさせる言葉を使う

☆洋野町のお得感は何かな!?

無料／お得／ご招待／キャンペーン／今だけ／等

POINT 9：他とは違う価値を感じさせる言葉を使う

☆他と違う特徴って何かな!?

不動の／いにしえ／誰よりも／どこよりも／ここだけ／等

POINT10：素晴らしさを強調する

☆特別感があったら良さをアピールできるかも!?

これ以上の／最大級／一步前／前例なき／等

〔キャッチコピー作成シート〕

1. 海洋科校外学習（田野畑・盛岡）で感じたことや学んだことを、振り返り新聞を用いて振り返ろう
  
2. 洋野町や身近な地域が抱えている課題とは何かを考え、書き出そう。
  - ①海洋科校外学習から～たのはたジオパークガイド， 大津波語り部ガイド， 三陸鉄道震災学習列車，
  
  - ②職場体験学習から～身近な地域が抱えている課題（産業など），
  
  - ③身近な地域の避難所・避難場所訪問， 避難所運営講座から～盛岡市内の避難所との比較
  
3. 洋野町や身近な地域が，海とともに生きることができる魅力的な町であるために，必要なことや大切なこと，「こうなってほしい」という願い，等を書き出そう。
  
4. 必要なことや大切なこと，「こうなってほしい」という願いがかなえられた，素晴らしい町である（にする）という意味を込めた，キャッチコピーを考え（とその理由や根拠を含む），下書きを書こう。

2年 番 氏名 \_\_\_\_\_

## 文化祭海洋学習成果発表 及び

## 第11回海洋教育こどもサミット in 気仙沼(オンライン)

について

2 学年

## 1. はじめに

例年、中野中2学年は「海洋教育こどもサミット in 気仙沼(11月)」「全国海洋サミット(2月)」「洋野町海洋教育カンファレンス(2月頃)」に、中野中の代表として発表をしている(過去2年はオンラインでの開催)。また、例年10月末に行われる中野中文化祭ステージ発表で、海洋学習の成果発表を学年毎に行っている。

どれも、その年度の海洋学習の成果を発表するものであるが、「海洋教育こどもサミット in 気仙沼(11月)」「全国海洋サミット(2月)」「洋野町海洋教育カンファレンス(2月頃)」は、発表の形式がそれぞれ気仙沼教育委員会・海洋教育パイオニアスクールプログラム・洋野町教育委員会から指定された形での発表となっている。

中野中2年生は年間計4回、海洋学習の成果発表を行うことになるが、その都度発表形式を変えることは、準備時間や生徒の負担を考えると難しいと考えられることから、現在公表されている「海洋教育こどもサミット in 気仙沼(11月)」の形式を基本に、「中野中文化祭」「海洋教育こどもサミット in 気仙沼(11月)」「全国海洋サミット(2月)」「洋野町海洋教育カンファレンス(2月)」での発表を行いたい。

## 第11回 海洋教育こどもサミット in 気仙沼(オンライン大会)

〔サミットテーマ〕

海と生きる未来を描く  
～未来で「海と生きる」ために必要なことを考える～

〔学びの深め合いテーマ〕

『未来で「海と生きる」ために、必要なことは何だろうか?』

〔学びの深め合いの流れ〕

- (1)サミットに参加する児童生徒全員は、テーマについての考えを事前にワークシートを活用して整理し、サミット当日までに自分なりのキャッチコピーを小パネルに清書しておく。ワークシートと小パネルは、予め参加発表校に送付予定(まだ送付されていない)。
- (2)代表の児童生徒は、自分のキャッチコピーを提示し、テーマについて考えたこととその理由や根拠をお互いに伝えあいながら、グループ内で深堀していく。
- (3)キャッチコピーに書いたことや出し合った考えをもとに、「未来で『海と生きる』ための方向性」についてグループ全員で意見を出し合いながら整理し方向づけ、参加者全員で共有する。

※詳細は別紙要項参照

## 2. ねらい

- (1) 各教科で身に着けた力や海洋科の学習を通して高めた力を生かし、学習の成果を発表する。
- (2) 調査・体験したことについて、考えをまとめ、学級の代表として発表することで表現力を高める。また、他の級友や学年の発表を聞き、質問・評価し合うことで、発表力や対応力を高める。
- (3) 各学年における海洋科の目標を意識した学習活動を行い、その成果を発表する機会とする。
- (4) 2学年の発表における目標の達成を目ざし、その力を身につける。

【2学年】地域の一員としての自覚と郷土を愛する心を持ち、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の未来について考えたことを、聞く人が分かりやすく、より効果的に伝える方法について考え、発表する。

## 3. キャッチコピー作成の大まかな流れ

- (1) 洋野町が、未来に海とともに生きることができ魅力的な町であるために（なるために）必要なことや大切なことについて、2学年海洋科の探求課題及びテーマをもとに学んだことから考えさせ、キャッチコピー考える根拠又は理由とする。
- (2) 洋野町が、未来に海とともに生きることができ魅力的な町であることをアピールする宣伝文句（キャッチコピー）を考える。
- (3) キャッチコピーとその根拠・理由を、一人ひとりが一枚の紙に書く。（四つ切画用紙1枚横向き）

## 4. 文化祭発表の大まかな形式について

- (1) 最初に、2学年の海洋科学習の探求課題、テーマ、学習してきた内容等について、簡単に説明する。
- (2) 洋野町や身近な地域が、海とともに生きることができ魅力的な町であるために、必要なことや大切なこと、「こうなってほしい」という願いがかなえられた、素晴らしい町である（にする）という意味を込めた、キャッチコピーを考えたことを説明する。
- (3) 一人ひとりのキャッチコピーを発表する。  
※一人ひとりがステージで発表。同時にスライドで拡大表示。一人30秒以内。
- (4) 文化祭参観者から、良かったキャッチコピーを挙げてもらう。  
※①アンケート形式+挙手（インタビュー）形式  
※②学級内及び高評価の多かったキャッチコピーを、中野中代表キャッチコピーとして気仙沼サミットで提示する。
- (5) 最後に、職場体験質問用紙の「質問⑥若い世代に期待すること」から、私たちが洋野町の発展のためにすべきことをまとめ、発表する。

## 5. キャッチコピー作成手順

- (1)文化祭、海洋教育こどもサミット in 気仙沼での発表形式について説明し、キャッチコピーの作成に向けた取り組みを開始する。(キャッチコピーの意味の説明含む)
- (2)海洋科校外学習(田野畑・盛岡)で感じたことや学んだことを、振り返り新聞を用いて振り返る。
  - ①東日本大震災から力強く復興に向かう人々と、命を守り大切にすることということ。
  - ②命を守るための備えと街づくり…自助・公助・共助・近助・避難助。
  - ③災害をもたらす自然と、豊かな恵みをもたらす自然との共存。
  - ④伝統文化の継承
- (3)洋野町や身近な地域が抱えている課題とは何かを考え、書き出す。
  - ①海洋科校外学習から  
たのはたジオパークガイド、大津波語り部ガイド、三陸鉄道震災学習列車、
  - ②職場体験学習から  
身近な地域が抱えている課題(産業など)、
  - ③身近な地域の避難所・避難場所訪問、避難所運営講座から  
盛岡市内の避難所との比較
- (4)洋野町や身近な地域が、海とともに生きることができる魅力的な町であるために、必要なことや大切なこと、「こうなってほしい」という願い、等を書き出す。
- (5)必要なことや大切なこと、「こうなってほしい」という願いがかなえられた、素晴らしい町である(にする)という意味を込めた、キャッチコピーの作成に取り掛かる。
  - ①キャッチコピーをつくるためのポイントを紹介する。
- (6)キャッチコピーの作成
  - ①タブレットは使わない。
  - ②キャッチコピーを考えた後、レイアウトやレタリングを考える。
  - ③下書き用紙に作成し、先生の確認後に画用紙に清書する。

## 6. その他

- (1)10月11日(火)~14日(金)までにキャッチコピーを考え、下書きを完成させる。
- (2)10月19日(水)までに画用紙への清書を完成させる。
- (3)班ごとに役割を分担する。10月17日(月)の帰りまでに、原稿を完成させる。
  - ①最初に2学年の海洋科学習の探求課題、テーマ、学習してきた内容等について、簡単に説明する。
  - ②洋野町や身近な地域が、海とともに生きることができる魅力的な町であるために、必要なことや大切なこと、「こうなってほしい」という願いがかなえられた、素晴らしい町である(にする)という意味を込めた、キャッチコピーを考えたことを説明する。
  - ③スライドを作成する。キャッチコピー以外のスライドは、凝ったものにせず数枚に抑える。写真も多くは載せない。
  - ④最後に、職場体験質問用紙の「質問⑥若い世代に期待すること」から、私たちが洋野町の発展のためにすべきことをまとめ、発表する。



## 令和4年度 洋野町立中野中学校3学年海洋科学習について

### 1. 3学年海洋科テーマ 「洋野の未来を考えよう～洋野町の発信・将来の創造～」

#### 2. ねらい

- (1) 洋野の良さを生かし、洋野の未来を考え発信することを通して、洋野の魅力について、自分たちの言葉で語ることでできる力を培う。〔海に親しむ・海を利用する〕
- (2) 身近な地域の魅力に触れることで郷土への愛情と、故郷の発展に貢献しようとする人材を育成する。〔海を知る・海を守る〕
- (3) 情報手段を効果的に活用して新たな知識や情報などの創造・発信や問題の解決につなげていく能力を育成する。

#### 3. 内 容

##### (1) テーマ

洋野の魅力を実感し、発信しよう! → 「洋野町 PR ポストカード」作成、配布

- ① 観光・・・洋野の〇〇（行事、芸能、レジャー施設とか）。。
- ② 食・・・洋野の〇〇（特産品）。。
- ③ 環境・・・洋野の〇〇（自然、観光名所とか）。。

「良さ」をどう  
PRするか

##### (2) ポストカード完成後（ゴールは…）

修学旅行や文化祭で配布する、観光協会や役場に置かせてもらう？

##### (3) ポストカード作成・配布までの流れ

- ① ポストカードの内容・構成を考える。
  - ・ 洋野町の何を知ってほしいのか。
  - ・ どんなことが伝わってほしいのか。
  - ・ 興味をもってもらうための工夫をどうするか。
- ② 絵コンテ（下書き）作成
  - ・ どんな写真や絵にどんなキャッチコピーや解説をつけるか。
  - ・ 関連動画やホームページがあればそこにつなぐ工夫（QRコードなど）
- ③ 作成（中間テストをめぐりに完成）
  - ・ タブレットを使って画像編集
  - ・ 著作権には十分に注意する（許諾を得るための電話かけなどもする）
- ④ 印刷

※ただ美しい風景や特産品の写真で終わりではなく、そこに君たち自身の言葉を加えることで、分かりやすく洋野町の情報や魅力をしっかり伝えたい！

# 洋野町立大野中学校

# 海洋教育「ひろの学」 全体計画

## 1 目的

**緑豊かな大地に生き、自然とともに歩んできた洋野町の歴史や文化に目を向け、学ぶことを通して自分たちの生まれ育った地域に喜びと誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる人間を育てる**

## 2 「ひろの学」の3つの視点

### (1) 視点1 地域の豊かさを受けとめる

気候や地形によってもたらされる洋野町の自然の美しさや恵みの豊かさ、地域の特性を生かした地場産業やそこに生きる人々の姿、さらには震災復興への歩みや環境を守り次世代に伝えていくことの大切さなど、体験学習を通して地域の豊かさを知る。

### (2) 視点2 地域づくりへの「思い」を知る

自然からもたらされる産物や作物の豊かさ、心をこめて作られた食物や品物のありがたさ、思いを持ってこの地に生きる人の姿に学ぶことを通して、人としての在り方や自らの生き方に対する考えを深める。

### (3) 視点3 地域の未来について語り合う

産業振興・環境保護・地域コミュニティの再生・伝統文化の継承・持続可能な社会の実現等、地域が置かれている現状や抱えている課題を取り上げ、探究的な学習活動を展開し、大野地区の未来について発信することを通して、次代を担う人材を育てる。

## 3 教科等横断的なカリキュラムの構築

学習指導要領で求められている言語能力、情報活用能力、問題解決能力等の「人として生きていく力」を育てるため、「総合的な学習の時間」を土台として教科等横断的なカリキュラムを構築する。

学年	単元構成における学習内容の連関と系統性
1年	<b>視点1 地域の豊かさを受けとめる</b> ①大野地域と海とのつながりや自然環境の特性について知る ②体験活動を通して大野地域がもつ特質を生かした産業について学ぶ ③学習したことをもとに洋野町大野地域の良さについて発信する。 ④学習したことをまとめて文化祭の場で研究発表を行う。 ⑤年間の活動と自己の成長を振り返る。
2年	<b>視点2 地域づくりへの「思い」を知る</b> ①地域の人々の「思い」が育んだ特色ある産業の価値を捉え直す。 ②他市町村の地域づくりの取り組みと比較して大野の地域づくりを見つめ直す。 ③学習したことをもとに、思いを持ってこの地に生きる人の姿を発信する。 ④学習したことをまとめて文化祭の場で研究発表を行う。 ⑤年間の活動と自己の成長を振り返る。
3年	<b>視点3 地域の未来について語り合う</b> ①都市と地方の生活を比較して、豊かさの本質について考える。 ②社会貢献活動を通して地域コミュニティの再生に向けた取り組みについて学ぶ。 ③これまでの学習を土台として地域づくりへの夢を企画書にまとめる。 ④学習したことをまとめて文化祭の場で研究発表を行う。 ⑤3年間の学習と自己の成長を振り返る。



# 令和4年度 洋野町立大野中学校ひろの学 「大野を知り、世の中に発信する」ストーリーマップ

## 1年「地域の豊かさを受けとめる」

〔実践のねらい〕

洋野町内陸部に位置する大野地区は太古において三陸の海底にあり、現在その平坦な地形を活用し、林業、酪農、畑作などを中心に地域の人々の生活がはぐくまれている。ひろの学を通して、大野地域の産業や沿岸地域との違いを調べたり、実際に体験したりしながら、郷土の特性や大野の良さを改めて知ることをねらいとしている。緑豊かな大地に生き、自然と共に歩んできた洋野町の歴史や文化に目を向け、学ぶことを通して、自分たちの生まれ育った地域に喜びと誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる人間を育てる。

○時数 4月から3月（総合的な学習の時間、特別活動、社会科、国語科、英語科）

○関連 社会科、国語科、英語科

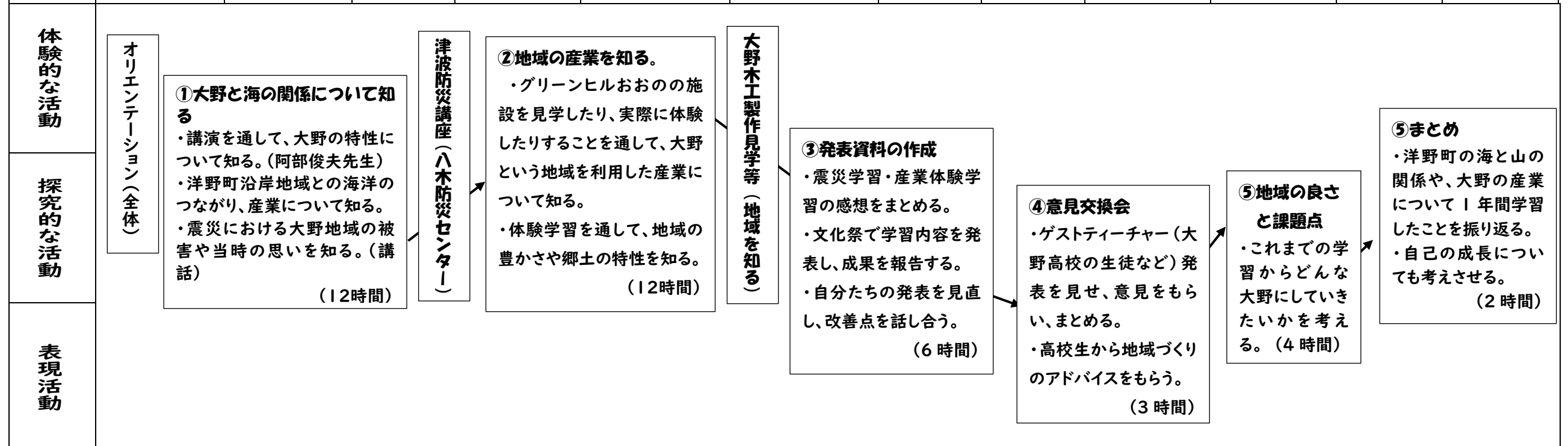
○目標 (1)洋野と海と山の関係から大野の良さに気づき、興味関心を深めることができる。

(2)他者と協働しながら、課題設定や課題解決に向けて主体的・対話的に取り組むことができる。

(3)学習、体験活動や発表を通して自己の伸長につなげることができる。

〔主な連携期間と内容〕	
連携期間	内容
八木防災センター	津波防災
三陸鉄道	震災学習列車
宮古市観光文化交流協会	防災・震災学習
グリーンヒルおおの	体験学習
大野高校	意見交換会
洋野町役場	産業体験

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	紹介式 始業式 入学式 身体測定 交通安全教室 生徒会入会式	授業参観 避難訓練 全国学調 新入生学調 地区通信陸上 中間テスト	激励会 地区中総体 県通信陸上 期末テスト	町民芸術鑑賞 復興海洋学習 県中総体 期末面談 終業式 地区駅伝	ナニヤドヤラ大会 大野まつり 始業式 実力テスト 身体測定	洋野町英語暗唱 大会 地区新人戦 中間テスト	文化祭 町駅伝大会 県新人戦 町文化祭 中間テスト 英検 IBT	生徒会選挙 避難訓練 町音楽会 期末テスト	総合学力調査 期末面談 生徒総会 終業式	子ども議会 始業式 実力テスト 中1英語確認 調査 三送会	期末テスト	実力テスト 修了式 卒業式 離任式







# 令和4年度 洋野町立大野中学校ひろの学「大野を知り、世の中に発信する」ストーリーマップ

## 2年「大野と、それを取りまく地域との比較」 (30時間扱い)

[実践のねらい]

「環境」「職業」などのカテゴリーにおいて、他地域との共通点や違いを発見し、1年生で学んだ大野地区の良さをさらに探究していく。特に、国が指定する三陸ジオパークとしての側面に着目し、世界有数の化石の宝庫である地域との関わりについて理解を深める。また、職場体験学習を通し、職業における他地域との違いや、働く人々の共通した思いを学んでいく。

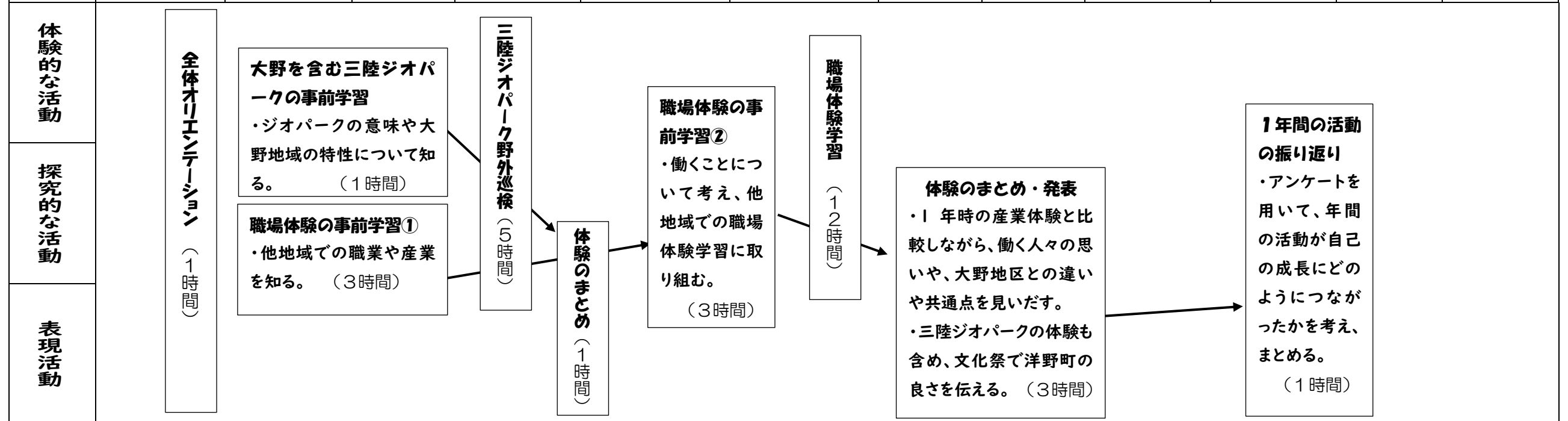
○時数 4月から3月(総合的な学習の時間、特別活動)

○関連 理科、社会科、国語科

- 目標 (1)三陸ジオパークや、職場体験から大野の良さに気づき、興味・関心を深めることができる。  
 (2)他者と協働しながら、課題設定や課題解決に向けて主体的・対話的に取り組むことができる。  
 (3)学習、体験活動や発表を通して自己の伸長につなげることができる。

[主な連携機関と内容]	
連携機関	内容
ひろの天文台長 阿部先生 久慈琥珀博物館	三陸ジオパーク野外巡検
他地域の各職場 (工芸関係、1次産業関係、 3次産業関係など)	職場体験学習

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	紹介式 始業式 入学式 身体測定 交通安全教室 生徒会入会式	授業参観 避難訓練 全国学調 新入生学調 地区通信陸上 中間テスト	激励会 地区中総体 県通信陸上 期末テスト	町民芸術鑑賞 復興海洋学習 県中総体 期末面談 終業式 地区駅伝	ナニヤドヤラ大会 大野まつり 始業式 実力テスト 身体測定	洋野町英語暗唱 大会 地区新人戦 中間テスト	文化祭 町駅伝大会 県新人戦 町文化祭 中間テスト 英検 IBT	生徒会選挙 避難訓練 町音楽会 期末テスト	総合学力調査 期末面談 生徒総会 終業式	子ども議会 始業式 実力テスト 中1英語確認 調査 三送会	期末テスト	実力テスト 修了式 卒業式 離任式



# 令和4年度 洋野町立大野中学校ひろの学 「大野を知り、世の中に発信する」ストーリーマップ

## 3年「地域の未来について考える」

### 〔実践のねらい〕

新しい未来を切り開いていく原動力となる中学生には、都市部にはない地域の魅力の理解を深め、これまで地域のために活躍してきた方の思いに触れ、自分たちの世代で何ができるかを考える機会としたい。地域がおかれている現状や抱えている課題を取り上げ、探究的な学習活動を展開し、大野地区の未来について発信することを通して、次代を担う人材を育てる。

○時数 4月から3月（総合的な学習の時間、特別活動、社会科、国語科、英語科）

○関連 社会科、国語科、英語科

- 目標 (1) 都市と地方の比較をして、地域の豊かさの本質について考える。  
 (2) 地域コミュニティの再生に向けた取り組みについて考える。  
 (3) 地域の方々や専門機関などと連携・協働し町づくりに参画する。  
 (4) 中学生の視点から地域の未来について団体と意見交換する

〔主な連携期間と内容〕	
連携機関	内容
洋野町役場	産業体験
各地区保健所	保育体験
各地区介護施設	介護体験
県立大学生	意見交換

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>学校行事</b>	紹介式・始業式 入学式・身体測定 修学旅行 交通安全教室 生徒会入会式	授業参観 避難訓練 全国学調 地区通信陸上 中間テスト	激励会 地区中総体 県通信陸上 期末テスト	町民芸術鑑賞 県中総体 期末面談 終業式 地区駅伝	ナニヤドヤラ大会 大野まつり 始業式 実力テスト 身体測定	洋野町英語暗唱大会 地区新人戦 中間テスト	文化祭 町駅伝大会 町文化祭 中間テスト 英検 IBT	生徒会選挙 避難訓練 町音楽会 期末テスト	総合学力調査 期末面談 生徒総会 終業式	子ども議会 始業式 実力テスト 三送会	期末テスト	実力テスト 修了式 卒業式 離任式

<b>体験的な活動</b>	<b>オリエンテーション(全体)(2時間)</b>	<b>① 都市と地方の比較</b> ・修学旅行取り組みにおいて、都市と地方の生活を比較して、豊かさの本質について考える。 (6時間)	<b>② 郷土芸能(4時間)</b>	<b>③ 様々な方とふれあい、地域の良さ・課題を体感する</b> ・保育体験・介護体験・町づくりなど地域の中で働いている方との対話などの体験活動を行い、この地域の魅力や課題について探る。(12時間)	<b>④ 県立大生とのワークショップ</b> ・活動を通して感じたことを交流する。 ・県立大生からアドバイスをもらう。 (2時間)	<b>⑤ 実践発表準備+発表</b> ・これまでの学習を活かし、地域がおかれている現状や抱えている課題、未来の大野地区についての提案などまとめたものを発表する (6時間)	<b>⑥ 情報発信に向けての準備</b> ・実践発表の内容をさらに深め、情報発信の準備(例 県立大の先生の講義など) (6時間)	<b>⑦ 情報発信</b> ・自分たちが考える地域の課題や未来づくりの提案など、他団体へ発信する。(例 洋野町役場、SNSでの発信) (6時間)	<b>⑧ まとめ(2時間)</b>	
										<b>探究的な活動</b>

# 海洋教育 ひろの学 学習指導案

日時：令和4年11月10日(木) 5校時  
 生徒：男子10名 女子8名 計18名  
 場所：2年A組教室  
 授業者：旭 紘太

1 単元名 「洋野町と他地域を比較し、大野の未来について考えよう」

2 単元の目標

- ・自分たちの住む地域の産業や携わる人々の思いを理解し、郷土を愛する心を高める。
- ・他地域との比較を通して、大野の魅力を再発見し、大野のこれからについて考えることができる。

3 単元の概要

(1) 年間カリキュラムでの位置づけ

## 令和3年度 洋野町立大野中学校ひろの学 「大野を知り、世の中に発信する」ストーリーマップ<sup>6)</sup>

2年「大野と、それをとりまく地域との比較」(30時間扱い)<sup>4)</sup>

〔実践のねらい〕<sup>4)</sup>

「環境」「職業」などのカテゴリーにおいて、他地域との共通点や違いを発見し、1年生で学んだ大野地区の良さをさらに探究していく。特に、国が指定する三陸ジオパークとしての側面に着目し、世界有数の化石の宝庫である地域との関わりについて理解を深める。また、職場体験学習を通じ、職業における他地域との違いや、働く人々の共通した思いを学んでいく。<sup>4)</sup>

○時数 4月から3月(総合的な学習の時間、特別活動)<sup>4)</sup>

○関連 理科、社会科、国語科<sup>4)</sup>

○目標 (1)三陸ジオパークや、職場体験から大野の良さに気づき、興味・関心を深めることができる。<sup>4)</sup>

(2)他者と協働しながら、課題設定や課題解決に向けて主体的・対話的に取り組むことができる。<sup>4)</sup>

(3)学習、体験活動や発表を通して自己の伸長につなげることができる。<sup>4)</sup>

〔主な連携機関と内容〕 <sup>4)</sup>	
連携機関 <sup>4)</sup>	内容 <sup>4)</sup>
ひろの天文台長 阿部先生 <sup>4)</sup> 久慈琥珀博物館 <sup>4)</sup>	三陸ジオパーク野外巡検 <sup>4)</sup>
他地域の各職場 <sup>4)</sup> (工芸関係、1次産業関係、 3次産業関係など) <sup>4)</sup>	職場体験学習 <sup>4)</sup>

月	4月 <sup>4)</sup>	5月 <sup>4)</sup>	6月 <sup>4)</sup>	7月 <sup>4)</sup>	8月 <sup>4)</sup>	9月 <sup>4)</sup>	10月 <sup>4)</sup>	11月 <sup>4)</sup>	12月 <sup>4)</sup>	1月 <sup>4)</sup>	2月 <sup>4)</sup>	3月 <sup>4)</sup>
学校行事 <sup>7)</sup>	紹介式 <sup>4)</sup> 始業式 <sup>4)</sup> 入学式 <sup>4)</sup> 身体測定 <sup>4)</sup> 交通安全教室 <sup>4)</sup> 生徒会入会式 <sup>4)</sup>	授業参観 <sup>4)</sup> 避難訓練 <sup>4)</sup> 全国学調 <sup>4)</sup> 新入生学調 <sup>4)</sup> 交通安全教室 <sup>4)</sup> 生徒会入会式 <sup>4)</sup>	進研会 <sup>4)</sup> 地区中総体 <sup>4)</sup> 県通信陸上 <sup>4)</sup> 期末テスト <sup>4)</sup>	町民芸術鑑賞 <sup>4)</sup> 復興海洋学習 <sup>4)</sup> 県中総体 <sup>4)</sup> 期末面談 <sup>4)</sup> 終業式 <sup>4)</sup> 地区駅伝 <sup>4)</sup>	ナニヤドヤラ大会 <sup>4)</sup> 大野まつり <sup>4)</sup> 始業式 <sup>4)</sup> 実力テスト <sup>4)</sup> 身体測定 <sup>4)</sup>	洋野町英語暗唱大会 <sup>4)</sup> 地区新人戦 <sup>4)</sup> 中間テスト <sup>4)</sup>	文化祭 <sup>4)</sup> 町駅伝大会 <sup>4)</sup> 県新人戦 <sup>4)</sup> 町文化祭 <sup>4)</sup> 中間テスト <sup>4)</sup> 英検IBT <sup>4)</sup>	生徒会選挙 <sup>4)</sup> 避難訓練 <sup>4)</sup> 町音楽会 <sup>4)</sup> 期末テスト <sup>4)</sup>	総合学力調査 <sup>4)</sup> 期末面談 <sup>4)</sup> 生徒総会 <sup>4)</sup> 終業式 <sup>4)</sup>	子ども議会 <sup>4)</sup> 始業式 <sup>4)</sup> 実力テスト <sup>4)</sup> 中1英語確認調査 <sup>4)</sup> 三送会 <sup>4)</sup>	期末テスト <sup>4)</sup>	実力テスト <sup>4)</sup> 修了式 <sup>4)</sup> 卒業式 <sup>4)</sup> 離任式 <sup>4)</sup>
体験的な活動 <sup>4)</sup>	全体オリエンテーション(1回) <sup>4)</sup>											
探究的な活動 <sup>4)</sup>	大野を含む三陸ジオパークの事前学習 <sup>4)</sup> ・ジオパークの意味や大野地域の特性について知る。(1時間) <sup>4)</sup> 職場体験の事前学習 <sup>4)</sup> ・他地域での職業や産業を知る。(3時間) <sup>4)</sup> 三陸ジオパーク野外巡検(8時間) <sup>4)</sup> 体験のまとめ(1時間) <sup>4)</sup> 職場体験の事前学習 <sup>4)</sup> ・働くことについて考え、他地域での職場体験学習に取り組む。(3時間) <sup>4)</sup> 職場体験学習(12時間) <sup>4)</sup> 体験のまとめ・発表 <sup>4)</sup> ・1年時の産業体験と比較しながら、働く人々の思いや、大野地区との違いや共通点を見いだす。 <sup>4)</sup> ・三陸ジオパークの体験も含め、文化祭で洋野町の良さを伝える。(3時間) <sup>4)</sup>											
表現活動 <sup>4)</sup>	1年間の活動の振り返り <sup>4)</sup> ・アンケートを用いて、年間の活動が自己の成長にどのようなつながりがあったかを考え、まとめる。(1時間) <sup>4)</sup>											

(2) 生徒の実態

本学級の生徒は「大野と、それを取り巻く地域との比較」というテーマのもと、大野の魅力を再発見する学習を進めている。これまで、洋野町の地形や歴史、大野の産業についてゲストティーチャーを招いて洋野町という町の歴史と、大野の一人一芸の里ができるまでを学んだ。また葛巻町へ地域学習に行き、地域比較を行った。指導を通して、生徒は地域の魅力や地域への想いを伝える力が課題としてあげられる。

### (3) 指導観

本単元は、生徒の実態をふまえつつ、次の3点に重点的を置いた指導を行う。

① 表現活動を繰り返し行う中で、より良い伝え方を考え、改善点を指摘し合う活動をする。

地域学習で学んだことを発表する際に、『繰り返し取り組み、ほかの人からたくさんのフィードバックをもらうことが大切である。』ということ理解させ、より良い発表を目指す意欲を高めておく。また、様々な人の発表を見る中で課題点を見つけたり、修正案を出したりする課題解決能力を養っていく。

② 視点を変えた話し合いを通して考えを深めさせる。

「洋野町の課題を直さないままだとどうなる？」という良さを見つけることとは異なる視点からの課題を追求することによって、多面的・多角的な思考力、豊かな表現力を身に付けさせていく。

③ 課題から良さを再発見し、洋野町の魅力を伝える意欲を高める。

交流する時間を通して、「洋野町の課題」が明確になる一方、「洋野町に残る良さ」も同時に見えてくる。「良いものがあるのになぜディストピアになっていくのか」という課題を解決するために、「洋野町のユートピア化」を目指し、洋野町の良さや魅力を考え、それを内外に発信することができる力を身につけさせていく。

### (4) 研究主題との関連

#### ■研究主題

「生徒の資質・能力の向上につながる授業改善」

#### ■本時における生徒の資質・能力向上のための授業工夫について

- ・話し合いを通して個人の考えを多面的、多角的に捉えながら、自分たちで洋野町の課題をより具体的に想像させる。(主体的・対話的な学び)。
- ・本時の活動の見通しをもたせる(主体的な学び)。

## 4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考力・判断力・表現力等	ウ 学びに向かう力・人間性等
洋野町の特色や強みに気づき、地域の持つ特性や、周りの地域との関係性について理解することができる。	学習課題に取り組む中で気づいたことや発見したことを通して洋野町の未来を踏まえて表現することができる。	洋野町に携わっている人々の思いやそれらを取り巻く環境等について知り、自分たちにできることを考え、広めようと行動している。

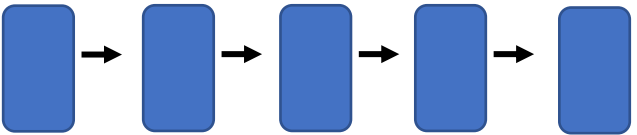
5 指導と評価の計画（全 10 時間）

時数	学 習 活 動	○指導上の留意点 △教科との関連 □評価
1	○文化祭での発表原稿を見直そう ・文化祭で発表した内容をカテゴリーごとに分け、班ごとに良かった点、改善点を考えてもらう。	○発表の機会を全員で振り返り、発表者以外の人たちも自分事で考えられるようにする。 □文化祭を通して、人により良く伝えるための課題を見つけ、解決策を考えることができる（イ）。
4 (本時 3/4)	○洋野町の「悪い未来」の想像から洋野町で生きる未来を考えよう。 ・話し合いを通して「大野ディストピアストーリー」を作成する。 ・課題から見えてくる「洋野町に残る良さ」について交流する。	○話し合いを通して、「課題」から見えてくる「良さ」に気づき、洋野町をさらに良くしようとする意欲を育てる。 □洋野町の海や山からなる特徴や特性に気づき、課題解決のために主体性を高め、活動に参加することができる。（ア）（ウ）
2	○未来で『海と生きる』とはどんな生き方か考えよう。 ・海と生きるための働き方や生き方、未来のために今できる取り組みを考えて発表する準備をする。	○前時に洋野町を取り巻く課題を考えたことを踏まえて解決する手立てを考えさせる。 □将来も『海と生きる』ために、他地域学習から得たヒントや、学びを洋野町に活かすために自分たちにできることを考えている。（ウ）
2	○『海と生きる』ために必要なことを交流しよう。 ・他の人が海と生きるためにどんなことを考えているのか共有し、学習を深める。	○他の生徒と交流する中で新たな発見や気づきを生み出し、自分の発表や次の表現活動につなげる。 □他者から得たアドバイスをもとに、より発表するうえで強調したいことを大切にして表現活動を行うことができる。（イ）
1	○海洋サミット in 東北で自分たちの学習を通して考えた「洋野町の未来」について発信しよう。 ・大野中学校が考える『洋野町の未来』を他地域に発信し、他地域の発表から学びをさらに深める。	○他地域の生徒が考える自地域の未来から学べることを常に意識させながらサミットに参加させる。 □洋野町に住み人達の想いやそれを取り巻く環境を理解し、他地域に向けて洋野町を発信し、広めようとしている。（イ）（ウ）

6 本時の目標

班ごとに発表した大野ディストピアストーリーを、もっとディストピアにしてみよう。

7 本時の展開案 (4 / 10)

生徒の学習内容 ○発問 ・主な生徒の反応	◇指導上の留意点 ■評価規準<観点> 【方法】
<p>1 前時の振り返りと学習の見直しをもつ。 ○洋野町の課題はどんなものがあつたでしょうか？ ・お年寄りが多い。・人が少ない ・建物がない。 ○班ごとに文章にしたものを読み合つて、ストーリーを一本化してみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>班ごとに発表した大野ディストピアストーリーを、もっとディストピアにしてみよう。</b></p> </div> <p>2 班ごとにディストピアストーリーを読み合い、意見交換をする。</p> <p>3 各班でつくつたストーリーをクラスに公表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ディストピアストーリー (○班)</p>  </div> <p>4 クラス全体で、もっとディストピアにできないか話し合いを深める。</p> <p>5 振り返りを記入し、発表する。 ○今日の振り返りを書きましよう。 ・個人で考えていたものがグループやクラスでどんどん明確になつてよかつた。</p>	<p>◇洋野町の課題を見つけ、ストーリーとしてつなげていくことで自地域の将来を自分事としてとらえさせていくことを確認する。</p> <p>◇班員との話し合いを通して、自分の考えを深めたり広げたりする。 ・グループで意見交換をした後、班員のストーリーを合わせて、一つにする。</p> <p>◇各班の発表を聴きながら、良いところ、気付いたことをメモして、伝える。 ■班が考えたストーリーを見ながら自分のグループとの違いや、ストーリーがつながりそうなところに気づくことができる。 &lt;思考・判断・表現&gt; 【記述・発言】</p> <p>◇各班のストーリーを全体で見ながら、クラスで一つのストーリーを作る。 ・全体で振り返りを交流し、今日分かつたこと、気付いたことを共有する。 ◇班員との交流や全体で共有して今日新しく気づいたことやわかつたことを振り返らせ、次時の授業への意欲を持たせる。</p>



1. ねらい

- (1) 東日本大震災の被害について学んだり、復興の様子や地域振興の状況について調べたりする。
- (2) 海とともに生きることについて、築き上げてきた知恵を体験や講演を通して学ぶ。

2. 日時

令和 4 年 9 月 2 9 日 (木)

3. 学習内容

田老町震災学習、震災列車、田野畑村塩づくり体験

4. 参加生徒

大野中学校 1 学年生徒 4 2 名

5. 引率

引率教員 1 学年職員 津田由香、赤穂直美、向折戸翔、坂本夕貴、泥濘美紀 (5 名)

6. 服装、持ち物

- (1) 服装・・・学校指定ジャージ
- (2) 持ち物・・・ザック、筆記用具、総合ファイル、水筒、タオル、帽子、雨具、マスク  
(\* 昼食は羅賀荘でとるため、弁当の必要はありません)

【9 月 2 9 日 (木)】

- 7 : 5 0 登校  
8 : 0 0 学校出発 (岩手県北バス 1 台)  
9 : 4 5 道の駅たろう着  
1 0 : 0 0 学ぶ防災  
1 1 : 1 5 道の駅たろう発  
1 1 : 4 5 田野畑村「ホテル羅賀荘」着  
～羅賀荘で昼食～  
1 2 : 4 5 羅賀荘発  
1 3 : 0 0 田野畑村机浜番屋群着  
1 3 : 0 0 ～塩作り体験&番屋見学  
1 4 : 1 5 田野畑机浜発  
1 4 : 3 0 田の畑駅着  
1 5 : 0 3 震災列車田野畑駅出発  
1 6 : 0 0 久慈駅着  
1 6 : 1 0 久慈駅発 (バスへ)  
1 6 : 4 0 大野中学校着  
1 7 : 0 0 下校

8. 交通手段 岩手県北バス

9. その他

- (1) 学習内容とねらいをしっかりと理解する。
- (2) 安全な体験ができるよう、指示をしっかりと聞いて行動する
- (3) 朝の検温、マスク着用など、コロナ対策を行う。

「ひろの学」葛巻体験学習 実施計画

R4. 9. 26

洋野町立大野中学校第2学年

1 ねらい

葛巻町を訪問し、その特色と町づくりの取り組みについて学び、自分たちの暮らす大野地区との共通点や違いを考える。

2 日 時

令和4年9月29日(木) 8:00~15:30(小雨決行)

3 学習内容

- (1) 葛巻高原牧場での、育成牛のお世話体験
- (2) 葛巻町のクリーンエネルギーの取り組みについての講話
- (3) 葛巻ワイン工場の見学

4 参加生徒

大野中学校2学年生徒(男子20人 女子17人 合計37人)

5 引 率

2学年職員 筒井久美、旭 紘太、伊藤 瞭、門前柊馬、佐々木千穂子(5名)

6 服装・持ち物

- (1) 服 装…学校指定ジャージ(半袖・ハーフパンツを中に着る) ※作業のしやすい格好
- (2) 持ち物…ザック(サブバック可)・水筒・タオル・帽子・筆記用具・しおり・雨具・マスク

7 当日の日程(※運動着で普通登校)

- 7:50 登校・出発式
- 8:00 学校出発
- 9:40 くずまき高原牧場 プラトー到着、説明
- 9:50~ 体験学習(育成牛のお世話)
- 11:00~ 環境学習(もく木ドーム)
- 12:00~ 昼食(プラトー・カレーセット)
- 12:30~ 休憩(乳製品試食・動物とのふれあい)
- 13:00~ 移動
- 13:45~ ワイン工場の見学・行程見学
- 14:30 ワイン工場発
- 15:30 大野中着

8 交通手段 スクールバスによる移動・・・帯島SB

9 その他

- (1) 学習内容とねらいをしっかりと理解する。
- (2) 安全な体験ができるよう、指示をしっかりと聞き行動する。
- (3) 雨天の場合は、雨具を着て可能な範囲で体験活動を行う。
- (4) 朝の検温や三密を避けるなど、コロナ対策をしっかりとる。

## 令和4年度 第2学年 職業体験実施要項

### 1 ねらい

- (1) 私たちの生活する大野地区の自然の豊かさや地域の産業について学ばせる。
- (2) 職業体験を通して、大野地区の自然と産業の関わりや働く人々の思いを学ばせる。
- (3) あいさつの仕方や人との接し方、マナー等を学び、コミュニケーション能力を高める。

2 日時 令和4年9月1日(木) 9:00～15:00

- 3 学習内容 (1) 大野地区内の職業の体験を通し、働くことの大変さと意義を学ぶ。  
 (2) 働く人たちとのふれあいを通して礼儀やマナーを身につける。

4 場所 大野地区内職業体験場所…別紙参照

5 参加生徒 洋野町立大野中学校2学年生徒(男子20人 女子17人 合計37人)

### 6 服装・持ち物

- (1) 服装…大野中学校指定ジャージ(半袖・ハーフパンツを中に着る)
- (2) 持ち物…ザック・弁当・水筒・タオル・筆記用具・DL・ファイル・指定された持ち物

### 7 当日の日程 ※普通登校

8:15 食堂集合・出発式	15:00 体験先 SB 出発・帰校
8:40 学校出発 SB で移動	15:30～体験のまとめ
9:00～15:00	17:00 下校

### 8 交通手段 スクールバス2台

スクールバス経路 往路

① 8:40 学校発 →8:45 奥山製材所前 →8:47 大内田光子様宅前 →8:55 向田保育所前 →9:05 上野イシエ様宅前 →9:15 林郷保育所前 →9:20 間澤林業前 →9:25 木村ツヤ子様宅 →9:30 帯島保育所前	② 8:40 学校発 →8:45 奥正商店前(くじひら) →8:50 大野図書館前 →8:52 久慈平荘前 →8:57 デザインセンター前 →9:00 畜産公社前 →9:05 ミナミ食品前 →9:20 下重農園前 →9:30 なごみ工業
---	---

復路

① 14:40 帯島保育所前 →14:45 木村ツヤ子様宅 →14:50 間澤林業前 →14:55 林郷保育所前 →15:05 上野イシエ様宅前 →15:15 向田保育所前 →15:23 大内田光子様宅前 →15:25 奥山製材所前 →15:30 学校	② 14:40 なごみ工業 →14:50 下重農園前 →15:05 ミナミ食品前 →15:10 畜産公社前 →15:13 デザインセンター前 →15:18 久慈平荘前 →15:20 大野図書館前 →15:25 奥正商店前(くじひら) →15:30 学校
---	---

## 10 指導上の留意事項

- (1) 学習内容のねらいをしっかりと理解させ、自分勝手な行動をしないように指導する。
- (2) あいさつや礼儀など、マナー指導を徹底する。
- (3) 指示内容を守ること、勝手に人のものを触らないこと、指示された場所以外に立ち入らないことなどを、事前指導でしっかりと指導する。

1 ねらい

大野のまちを実際に巡り、地域や施設の方々と触れ合う中で、町内の福祉施設を再確認するとともに、隠れた福祉的資源に気づかせる。

2 日 時

令和4年8月24日（水） 9：00～12：00

3 学習内容

- (1) 町内福祉施設の訪問
- (2) 町民の方々へのインタビュー調査

4 場 所

- (1) 大野地域包括支援センター
- (2) 大寿会 居宅介護支援事業所
- (3) 大寿会 小規模多機能ホームくじひら
- (4) 洋野町立大野こども園
- (5) 町内商店（衣料品店：大西、バイク店：北中央ホンダ等）
- (6) 物産館

5 参加生徒

大野中学校3学年生徒(計50人)

Aグループ（A組1・2班）

Bグループ（A組3・4班）

Cグループ（A組5班・B組1班）

Dグループ（B組2・3班）

Eグループ（B組4・5班）

6 引 率

引率教員 3学年教職員 5名

大道 志保      高橋      廉      畑 中 光 則      山 下 三四郎  
岩 谷 あゆみ

7 講 師

岩手県立大学 社会福祉学部社会福祉学科 学科長

宮城 好郎 教授

および大学生 数名

大寿会 特別養護老人ホーム久慈平荘 副施設長

野田 大介 さん

8 服装・持ち物

- (1) 服 装…学校指定運動着 Tシャツ、短パン

(2) 持ち物…ザック・水筒・タオル・マスク・筆記用具・ファイル・雨具(かっぱ、傘)

## 9 当日の日程

8:35 朝の会のあと、食堂集合・最終確認

8:50 グループごとに学校を出発(徒歩移動)

9:00 見学先到着

A・Bグループ

(包括支援センター・居宅介護支援事業所→くじひら荘→まちの人→商店)

C・Dグループ

(こども園→包括支援センター・居宅介護支援事業所→物産館→まちの人)

Eグループ

(くじひら荘→こども園→商店、物産館)

11:40 見学終了

12:00 学校着

食堂でミーティング

## 10 その他

(1) 学習内容とねらいをしっかりと理解する。

(2) 安全な体験ができるよう、指示をしっかりと聞き行動する。

(3) 雨天の場合は、雨具を着て可能な範囲で体験活動を行う。

(4) 朝の検温や三密を避けるなど、コロナ対策をしっかりとる。



 日本 THE NIPPON  
財団 FOUNDATION

海洋教育センター  
CENTER FOR OCEAN LITERACY AND EDUCATION



 笹川平和財団

◎ 海洋政策研究所